東方學報　京都第九九册（二〇二四）：七七−二一二

隋唐石刻資料選譯注（一）

「隋唐石刻資料の研究」班
藤井　律之・倉本　尙德・池平　紀子
成田健太郎・佐野　誠子

目　次

（一）□靜墓誌（石刻拓本資料 ZUI0009X）開皇三年（五八三）　八一頁
（二）龍藏寺碑（石刻拓本資料 ZUI0018X）開皇六年（五八六）　九二頁
（三）南宮令宋君像碑（石刻拓本資料 ZUI0038X 隋詔州縣各立僧尼二寺碑記）　開皇十一年（五九一）　一五三頁
（四）曹子建碑（石刻拓本資料 ZUI0045X）開皇十三年（五九三）　一九五頁
（五）王婆羅造像記（石刻拓本資料 ZUI0034X 隋銘題記）　開皇十七年（五九七）　二一〇頁

・二〇二三年度本研究班の班員は以下のとおり。そのうち冒頭に列擧したのは、今回の譯注稿作成者である。各譯注擔當者の原稿をまとめ、班長の倉本が最終的に書式を統一し整形したが、必ずしも完全には統一せず、各擔當者の書式を殘している部分もあるので御了承いただきたい。

倉本尙德（班長）、池田恭哉、池平紀子、石松日奈子、稲本泰生、于恆超、打本和音、大知聖子、大西磨希子、岡田和一郎、小野木聰、梶山智史、河上麻由子、北村一仁、古勝隆一、吳皞、佐藤智水、佐野誠子、高井龍、田熊敬之、陳錦清、戸次顯彰、永田知之、成田健太郎、野原將揮、藤井律之、船山徹、古松崇志、道坂昭廣、宮宅潔、向井佑介、村田みお、李瀾、梁爽

・オブザーバーまたは短期參加者は以下のとおり

會田大輔、蘆刈健人、何哲涵、郭珮君、曲仕鈺、吳辛格、張航、堀井裕之、安岡素子、李奐

凡例

一、各石刻について、最初に題名と京都大學人文科學研究所所藏石刻拓本資料データベース（http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/index.html）の管理番號、釋文・譯注の作成擔當者名を示す。その次に【立碑時期】【原石尺寸】【原石所在地】などの基本情報を提示し、その後で（釋文篇）として、釋文を収錄する著錄の略稱と釋文・校勘を提示する。次に（譯注篇）として、句讀を施し段落分けをした原文、語注、訓讀、現代語譯、主要著錄の跋文、さらに必要に應じて碑の概要、參考論文などを提示する。

一、掲載する拓本畫像で説明のないものは、すべて京都大學人文科學研究所藏拓本である。それ以外は典據を示した。

一、釋文は京都大學人文科學研究所所藏の拓本を實見し、さらに研究所藏以外の複數の拓影・著錄を比較・參照し、總合的に判斷して作成した。

一、釋文について、基本的には康熙字典で用いられる正字を用い、異體字についても正字に改める。ただし頻出する「万」「弥」「与」「号」「並」「礼」「无」「陁」については、そのまま表記する。

一、字形類似による誤字、書き分けの意識が薄い「扌」（てへん）と「木」（きへん）、「巾」（はばへん）と「忄」（りっしんべん）、「艹」（くさかんむり）と「竹」（たけかんむり）などは、特筆すべき場合を除き、正しい表記に改め校記しない。

一、文字の校勘について、拓本の文字が明瞭に判讀でき、疑問の餘地のないものについては、他の著錄に異讀があった場合でも煩を避け注記しない。校勘において、他の著錄で釋讀していない場合、「□」の記號を用いていなくとも「□」として表す。

一、語注の引用文について、『大正新脩大藏經』（「大正」と略）から引用する場合、必要に應じてこの書掲載の文字校勘を示す。

一、記號は左記のとおり。

[空]　殘畫・著錄等により「空」と文字を推定。他の文字の場合も同様。

□　一字と確認できる判讀できない文字。

、　文字が存在する可能性があるが、缺損等により字數を確定できないことを示す。

／　改行箇所。校勘においては異讀文字との區切りを示す。

△　文章中の意圖的な空格。

（　）　異稱・語句の解説。

〔　〕　本文理解のために譯者が補った譯文。

前言

倉本尚德

本稿は、「隋唐石刻資料の研究」班による研究の成果である。京都大學人文科學研究所藏の石刻拓本は約一萬點を數える。この貴重な資料を研究に活用するため、かつて日比野丈夫氏は「中國金石資料の研究」（一九六八～一九七〇年）という共同研究班を組織し、カード作成や寫眞撮影を中心に整理を行った。漢代の石刻については、永田英正氏を班長とする「漢代出土文字資料の研究」班の成果

報告として『漢代石刻集成』（同朋舎出版、一九九四年）が出版された。また、井波陵一・冨谷至の兩名を班長として「三國時代の出土文字資料」班が組織され、その成果として『魏晉石刻資料選注』（人文科學研究所、二〇〇四年）が出版された。また、主要な拓本については、「京都大學人文科學研究所所藏石刻拓本資料」というウェブページ（http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/）が作成され、拓本のデジタル畫像化とフリーアクセスが實現された。さらに、「拓本文字データベース」（http://coe21.zinbun.kyoto-u.ac.jp/djvuchar）も公開され、世界中から利用されている。さらにその後も「北朝石刻資料の研究」班が組織され、『東方學報』に「北朝石刻資料選注」としてその成果が掲載された。

本研究班は、これら先行の研究班を基本的に繼承し、研究所所藏の隋唐石刻拓本から適當なものを選んで研究對象とし、拓本を目の前にしながらその釋讀を班員共同で行うものである。先行の研究班と異なる本研究班の特徴としては、異なる拓本を比較し諸著録の文字校勘を行うこと、訓讀だけでなく現代語譯も行うこと、墓誌や碑文だけでなく、寺碑や造像記などの佛敎石刻資料も多くとりあげることである。

隋唐時代に關して言えば、これまで大量の墓誌が出土するなど、石刻は歴史研究に不可缺な基本資料である。また、佛敎關係の寺碑・塔銘・造像記も多數存在し、そこには非常に貴重な記事も見られる。本研究所所藏拓本は、近年の新出資料を含まず、よく知られたものが多い。ただし刻文内容については十分な檢討がなされていないものも多く、綿密な解讀を行うことで新知見の獲得が期待される。

今回とりあげた資料は、すべて隋代のもので、舊北齊王朝の領域に屬するものである。これらの資料からは、隋王朝がいかにして舊北齊王朝の人材を取り込んでいくかという事情をうかがい知ることができる。とりわけ佛敎關係のものは北周の廢佛をうけて隋文帝による地域における佛敎復興事業の具體相を述べた重要な資料である。

ともに全文の現代日本語譯は本稿が初である。以下、それぞれの石刻について概要と注目すべき點を簡單に紹介する。詳細についてはそれぞれの石刻の譯注を參照いただきたい。

（一）□靜墓誌は、その祖先を後漢の太尉橋玄の子孫であると自稱するが、おそらく假託であり、實際は匈奴の別種である稽胡の喬姓であると『北朝胡姓考』には述べられている。墓主の叔父は舊北齊王朝に仕えた將軍であるが、墓主は仕官していなかった。墓誌には、墓主が隋初に七十を過ぎた高齢であったため、州刺史を板授されるという恩惠に預かったことを記している。舊北齊王朝の人士に對し、隋初に板授が行われたことを示す貴重な事例である。

（二）龍藏寺碑は、書道界において「隋碑第一」と言われ有名であるが、碑文の内容については十分に檢討されているとは言えない資料である。この碑は『周書』に立傳されている王傑の子、恆州刺史鄂國公王孝僊（碑文では「王孝[亻雩]」）が、（三）の南宮令宋君像碑に見られる、各州縣に僧尼二寺を建立せよとの敕命を奉じて州内の士庶一萬人（碑陰題額に「合州道俗邑義一萬人」とある。）とともに行った、龍藏寺の建立事業を記念して立てたものである。内容について從來注目されてきたのは、碑文末尾に「齊開府長兼行參軍九門張公禮之□」とあることで、すなわち王孝僊が隋に仕えず舊北齊王朝に對して忠義を表明する人士に撰文を依賴したことを示している。

この碑文の撰者は、鳩摩羅什譯『大智度論』『維摩詰所説經』、菩

提流支譯『金剛般若波羅蜜經論』の用語を多用しており、空の思想に關する造詣が深かったと考えられる。ここに在俗知識人の佛教理解の一端をうかがうことができる。

また、碑陰や碑側には、この事業に參與した官吏や僧侶が名を連ねており、撰者と同じく舊北齊の官名も見られる。新任の州刺史が舊北齊に仕えた有力者をとりこもうとする意圖をうかがうことのできる貴重な歷史資料と言えよう。

（三）南宮令宋君像碑は、隋の文帝が各州縣に僧尼二寺を建立するよう命令した詔勅をうけて、南宮縣令の宋景が縣丞の齊相や縣尉の張服・張標、縣の屬僚、隋に新設された鄉正、さらには寺主や上坐の肩書を有する尼僧らとともに尼寺を建立したことを記している。州刺史にも言及があるが、造寺に直接參與したとは記されていない。龍藏寺碑が州刺史主導の造寺を述べたものであるのに對し、こちらは縣令主導による尼寺の建立事業を記したものであり、比較對照が可能である。本碑は本文の冒頭と韻文の冒頭で老子や莊子を引いて道教に對する佛教の優位を强調しており、北周の廢佛から立ち直り、佛教が復興したことを宣揚している。道教に對して佛教の優位性を主張する文言は、（五）の王婆羅造像記にも見られる。ちなみに明の萬曆年間に『南宮縣志』を編集した邢侗は、本碑を「文章篆隷、足稱三絕」と高く評價している。

（四）曹子建（曹植）碑は、書法、造形、內容のいずれの面についても非常に價値のある資料である。まず書法についてみれば、隷書・楷書・篆書を混ぜて使用し、さらに一つの文字の中にもそれらの書法を混在させるという、いわゆる雜體書の特徵が顯著に見られる。

また造形については、碑額の部分に龕を造り、龕內部に佛像のようなものが未完成であるが彫られている。碑文によれば、これは曹植の像であると考えられる。碑文では、曹植の像について、佛や轉輪聖王の身體的特徵を表現する三十二相の語が使用されている。

次に銘文內容について述べれば、北齊の孝昭帝時代に行われた、前王朝の後裔を封ずる「二王三恪」の制定に應じて孝昭帝に謁見した、という貴重な記錄を有する。すなわち、『北齊書』孝昭帝紀によれば、皇建元年（五六〇）に、二王三恪について議論せよという詔が下された。そして同書の魏收傳によれば、議においては、魏の舊帝室元氏・晉の司馬氏を二王とし、それに三國魏の曹氏を加えて三恪とするという魏收の意見が採用されたという。この碑によれば、翌年の皇建二年、曹氏の後裔である曹永洛が孝昭帝に謁見し、確かに曹氏の子孫であると認められ、廟を再建し、先王としての祭祀を行い、時節ごとに拜謁することが敕令によって許可されたという。この碑が隋代に立てられたことの意味についても考える必要があろう。

（五）王婆羅造像記は、缺損部分が多く文意の把握が困難であるが、王婆羅が北周の廢佛により破壞された佛像の修復事業を興した縣令を讃えた文章であると推測される。開皇十三年に□平という人物が縣令として赴任し、北周の廢佛によって破壞された石窟の佛像を見て修復事業を興した。しかし未完成のうちに開皇十七年に亡くなってしまった。その後、縣令の息子が父の事業を繼承した。そして縣平正の王婆羅がこの功績の忘れ去られるのを恐れて刻んだのが當該造像記であると考えられる。この造像記は南響堂山石窟に現存する。

最後に、これらの石刻文の釋文・譯注作成にあたり、所外の複數の拓本畫像を比較參照したが、この點に關して、岐阜女子大學特任

教授伊藤滋先生、淑德大學書學文化センターの小川博章先生、臺灣中央研究院歴史語言研究所の林聖智先生より多大なご支援を賜った。ここに厚く御禮申し上げる次第である。

□靜墓誌（石刻資料 ZUI0009X）

擔當　藤井律之

【卒葬時期】開皇三年（五八三）五月二十五日卒、十月十九日葬。

【原石尺寸】縦四二・三、横四五・五糎（『隋代墓誌銘彙考』による。）

【字　數】全二〇行、滿行一九字。

【原石所在地】山西襄垣縣出土。原石所在地および出土時期は不明。今佚。

【拓　影】

趙萬里編『漢魏南北朝墓誌集釋』卷八

王其禕・周曉薇編著『隋代墓誌銘彙考』北京：線裝書局、二〇〇七年、六九－七一頁。

孫蘭風・胡海帆主編『隋唐五代墓誌匯篇』北京大學卷・第一册、三頁。

北京圖書館金石組編『北京圖書館藏中國歴代石刻拓本匯編』第九册、一二頁。

※蓋の原石・拓本ともに佚。

（釋文篇）

【釋文收錄書　略稱】

隋遺＝韓理洲輯校『全隋文補遺』西安：三秦出版社、二〇〇四年、八九－九〇頁。

彙考＝『隋代墓誌銘彙考』（前出）

【釋文】

01 君諱靜字迴樂南陽荊州人也蓋黃帝之苗冑周
02 靈王之裔孫太尉玄之枝子因官命氏類田常之
03 先封穆昭王父同孔丘之得姓高祖寵籍甚風雲
04 不就徒勞之職經不釋卷有慕譙國之侯魏平文
05 初起家拜南陽太守涼州刺史曾祖歸習爵太原
06 太守祖嵩征虜將軍朔州刺史父黨解褐殿中將
07 軍蓑安令叔寧踵武思文爰脩舊德志存弓馬撫
08 劍長哥起家拜漳武太守水德告終齊遷魏鼎始
09 祖文宣應期受命乃心動舊詮序[1]庶官又授驃騎
10 大將軍開府儀同三師定州諸軍事[2]涇鄭三州刺
11 史君杖志丘垣保神崇德栖心風月不事王侯△
12 皇帝養老尊賢有踰三代爰△詔所司省方巡撫
13 以君禮及懸車年當二膳授揚州刺史未及期頤
14 之年奄離辰巳之歲春秋八十有六開皇三年五
15 月廿五日薨於上黨郡卿義里其年十月丙寅朔
16 十九日甲申合葬於潞州城東南五里昔輕輪不
17 轉乃樹縢[3]公之壙碑上金生方識曹侯之墓乃爲
18 銘曰△電遶旋樞黃精誕世裂土開壇稟靈蒼帝
19 其一王祖滄[4]霞輕擧伊洛太尉神感圖形麟閣其二乃

20　祖乃父趨步飛纓馬[5]斯表德日照金生其三

【校勘】

1　「序」／「厚」隋遺・彙考。
2　「涇鄭三州刺史」隋遺・彙考。「涇」字上、當有「定」字。
3　「滕」／「滕」隋遺・彙考。當作「滕」。
4　「滄」／「滄」隋遺・彙考。
5　「馬」彙考／「焉」隋遺。

（譯注篇）

【原文】

君諱靜、字迴樂、南陽荊州人也①。蓋黃帝之苗胄、周靈王之裔孫、太尉玄之枝子②。因官命氏、類田常之先封③。穆昭王父、同孔丘之得姓④。

高祖寵、籍甚風雲、不就徒勞之職⑤。經不釋卷、有慕譙國之侯⑥。魏平文初、起家拜南陽太守、涼州刺史⑦。曾祖歸、習爵太原太守⑧。祖嵩、征虜將軍、朔州刺史。父黨、解褐殿中將軍、萇安令⑨。

叔寧、踵武思文、爰脩舊德⑩、志存弓馬、撫劍長哥⑪、起家拜漳武太守⑫。水德告終、齊遷魏鼎⑬。始祖文宣、應期受命⑭、乃心動舊、詮序庶官⑮、又授驃騎大將軍、開府儀同三師、定州諸軍事、涇鄭三州刺史⑯。

君杖志丘垣、保神崇德⑰、栖心風月、不事王侯⑱。△皇帝養老尊賢、有踰三代⑲。爰△詔所司、省方巡撫⑳。以君禮及懸車、年當二膳、授揚州刺史㉑。未及期頤之年、奄離辰巳之歲、春秋八十有六㉒。開皇三年五月廿五日薨於上黨郡卿義里。其年十月丙寅朔十九日甲申合葬於潞州城東南五里㉓。

昔輕輪不轉、乃樹滕公之墳㉔。碑上金生、方識曹侯之墓㉕。乃爲銘曰、

電遶旋樞、黃精誕世㉖。裂土開壃、稟靈蒼帝㉗。其一
王祖滄霞、輕擧伊洛㉘。太尉神感、圖形麟閣㉙。其二
乃祖乃父、趨步飛纓㉚。馬斯表德、日照金生㉛。其三

【語注】

（1）**君諱靜、字迴樂、南陽荊州人也**＝この墓誌は、郡が廢止されて州縣制へと移行する直前のものである。『隋書』卷三〇　地理志中「**南陽郡舊置荊州**。開皇初、改爲鄧州。統縣八、戶七萬七千五百二十」。『隋書』卷一　高祖本紀上「（開皇三年十一月）甲午、**罷天下諸郡**」。

（2）**蓋黃帝之苗胄、周靈王之裔孫、太尉玄之枝子。**

『漢魏南北朝墓誌集釋』は、太尉玄を橋玄と解し、□靜の姓を橋と推測する。『蔡中郎集』卷一　故太尉橋公廟碑「**橋氏之先、出自黃帝**。帝葬于橋山、子孫之在不十二姓者、咸以爲氏」。『新唐書』卷七五下　宰相世系表五下「**喬氏出自姬姓、本橋氏也**。漢太尉玄六世孫勤、後魏平原內史、從孝武入關、居同州、生朗、朗生達、後周文帝命橋氏去「木」、義取高遠也。世居太原」。ただ、□靜の祖先が北魏の平文帝に仕えていたことを考えれば、橋玄の子孫とは信じがたく、おそらく胡族であったと思われる。『晉書』匈奴傳には、匈奴屠各種のうちの四姓として喬氏がみえる。『晉書』卷九七　匈奴傳「北狄以部落爲類、其入居塞者有屠各種・鮮支種・寇頭種・烏譚種・赤勒種・捍蛭種・黑狼種・赤沙種・鬱鞞種・萎莎種・禿童種・勃蔑種・羌渠種・賀賴種・鍾跂種・大樓種・雍屈種・眞樹種・力羯種、凡十九種、皆有部落、不相雜錯。屠各最豪貴、故得爲單于、統領諸種。其國號有

左賢王・右賢王・左奕蠡王・右奕蠡王・左於陸王・右於陸王・左漸尙王・右漸尙王・左朔方王・右朔方王・左獨鹿王・右獨鹿王・左顯祿王・右顯祿王・左安樂王・右安樂王、凡十六等、皆用單于親子弟也。其左賢王最貴、唯太子得居之。其四姓、有呼延氏・卜氏・蘭氏・喬氏」。

また、『周書』には、匈奴の別種とされる稽胡の帥として、喬姓のものが見えることを姚微元『北朝胡姓考』が指摘している。『周書』卷四九　異域傳・稽胡「稽胡一曰步落稽、蓋**匈奴**別種、劉元海五部之苗裔也。（中略）天和二年、延州總管宇文盛率衆城銀州、稽胡白郁久同・喬是羅等欲邀襲盛軍、盛竝討斬之。又破其別帥喬三勿同等。五年、開府劉雄出綏州、巡檢北邊、川路稽胡帥喬白郎・喬素勿同等度河逆戰、雄復破之」。

・**苗冑**＝成陽靈臺碑（『隸釋』卷一）「案經考典、河洛祕奠、漢感赤龍、堯之**苗冑**」。周皆墓誌（『新出魏晉南北朝墓誌疏證』一九三）「公諱皆、字子偕、齊州歴城人也。周公之**苗冑**、周瑜之末孫」。

・**裔孫**＝『風俗通義』卷一　皇霸　六國「楚之先、出自帝顓頊。其**裔孫**曰陸終、娶于鬼方氏、是謂女潰」。

・**枝子**＝庶子のこと。『韓非子』說疑「故曰、內寵竝后、外寵貳政、**枝子**配適、大臣擬主、亂之道也」。

（3）

因官命氏、類田常之先封

・**因官命氏**＝祖先の任命された官職にちなんで氏とすること。『通典』卷一七　選擧典　雜議論中「唐虞三載考績、三考黜陟幽明。兩漢用人、亦久居其職、所以**因官命氏**、有倉・庾之姓」。『漢魏南北朝墓誌彙編』魏故尙書寇使君墓誌「六典周建、十子衞叔、**因官命氏**、高明敦睦」。『晉書』卷一　宣帝紀「及周、以夏官爲司馬。其後程伯休父、周宣王時、以世官克平徐方、**錫以官族、因而爲氏**」。

・**類田常之先封**＝齊の田氏は、祖先の采邑が田にあったことから、田を氏としたとされる。『史記』卷四六　田敬仲完世家「完卒、謚爲敬仲。仲生穉孟夷。敬仲之如齊、以陳字爲田氏」（集解。徐廣曰「應劭云**始食菜地於田、由是改姓田氏**」）。

（4）

穆昭王父、同孔丘之得姓

・**穆昭**＝昭穆に同じ。『禮記』祭統「夫祭有**昭穆**、**昭穆**者、所以別父子、遠近、長幼、親疏之序而無亂也」。

・**王父**＝祖父のこと。『爾雅』釋親「**父之考爲王父**、父之妣爲王母」。『春秋公羊傳』成公十五年「爲人後者爲其子、則其稱仲何。**孫以王父字爲氏也**」。『晉書』九七　四夷傳・吐谷渾「又曰「禮云**公孫之子得以王父字爲氏**、吾祖始自昌黎光宅於此、今以吐谷渾爲氏、尊祖之義也」。

・**同孔丘之得姓**＝孔子の姓は、宋の公族であった孔父嘉の字である孔父にちなむ。

『史記』卷四七　孔子世家「孔子生魯昌平鄉陬邑。其先宋人也、曰孔防叔」（索隱。『家語』「孔子、宋微子之後。宋襄公生弗父何、以讓弟厲公。弗父何生宋父周、周生世子勝、勝生正考父、**考父生孔父嘉**、**五世親盡**、**別爲公族**、**姓孔氏**。孔父生子木金父、金父生睪夷。睪夷生防叔、畏華氏之逼而奔魯、故孔氏爲魯人也」）。

（5）

高祖寵、籍甚風雲、不就徒勞之職

・**籍甚**＝はなはだしいこと。『漢書』卷四三　陸賈傳「賈以

此游漢廷公卿閒、名聲**籍甚**。及誅呂氏、立孝文、賈頗有力」。

・**風雲**＝遠大な志。沈約「齊故安陸昭王碑文」（『文選』巻五九）「氣蘊**風雲**、身負日月」（李善注。『論衡』曰、谷子雲・唐子高章奏百上、筆有餘力。然則賢者有風雲之智、故吐文萬牒）。

・**徒勞之職**＝州郡の下僚を「徒勞」と稱した例がみえる。『魏書』巻五三　李孝伯傳「州辟主簿、到官月餘、乃歎曰「梁叔敬有云、**州郡之職、徒勞人耳**。道之不行、身之憂也」」。『隋書』巻七五　儒林傳・劉炫「隱顯人閒、沈浮世俗、數忝**徒勞**之職、久執城旦之書」。

（6）**經不釋卷、有慕譙國之侯**

・**經不釋卷**＝「不釋卷」とは、讀んでいる書物を手放さないほど勉强熱心であること。『三國志』巻二　文帝紀・裴松之注所引『典論』「上雅好詩書文籍、雖在軍旅、手**不釋卷**、每每定省從容、常言人少好學則思專、長則善忘」。『太平御覽』巻六一一　學部・勤學「『晉中興書』曰、孫盛字安國、爲祕書監。好學、自少及長、**常手不釋卷**」。

・**譙國之侯**＝不明。さきに擧げた『典論』と關連があるとすれば、沛國譙縣出身の曹操を指すか。『三國志』巻一　武帝紀「太祖武皇帝、沛國**譙**人也、姓曹、諱操、字孟德、漢相國參之後」。

（7）**魏平文初、起家拜南陽太守、涼州刺史**

・**平文**＝北魏の平文帝（在位三一六～三二一）のこと。

（8）**曾祖歸、習爵太原太守**

・**習爵**＝爵位を繼承すること。「習」は襲に同じ。『尙書』大禹謨「詢謀僉同、鬼神其依。龜筮協從、卜不習吉」。注「習、因也」。疏「正義曰、表記云、卜筮不相襲。鄭云、襲、因也。然則習與襲同」。

（9）**祖嵩、征虜將軍、朔州刺史。父黨、解褐殿中將軍、萇安令**

・**解褐**＝庶民の服である褐衣を脱いで仕官すること。『宋書』巻六〇　荀伯子傳「**解褐**爲駙馬都尉、奉朝請、員外散騎侍郎」。

・**萇安令**＝「萇安」は長安に同じ。［北魏］正光四年（五二三）魏故鎭遠將軍前軍將軍贈冠軍將軍正平太守元君（元仙）之墓誌銘（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「大宗明元皇帝之曾孫、使持節侍中都督秦雍涇梁益五州諸軍事衞大將軍雍州刺史內都大官開府儀同三司**萇安**鎭都大將樂安宣王之孫、使持節侍中都督秦雍涇梁益五州諸軍事衞大將軍開府儀同三司**萇安**鎭都大將內都大官使持節侍中都督冀定幽相四州諸軍事開儀同三司定州刺史樂安簡王之第四子也」。

（10）**叔寧、踵武思文、爰脩舊德**

・**踵武思文**＝「踵武」とは跡を繼ぐこと。ただ、ここでは「跡」と解すべき「武」を「文」の對として用いている。『楚辭』離騷「忽奔走以先後兮、及前王之**踵武**」。王逸注「**踵、繼也。武、跡也**」。『詩經』周頌・思文「**思文**后稷、克配彼天」。

踵武思文と似た表現として、［北魏］熙平元年（五一六）魏故直寢奉車都尉汶山侯吐谷渾璣墓誌（『漢魏南北朝墓誌彙編』）に、「而君處武懷文、博暢群籍、志錄經史、考合統理之明、雜襲殊暉、莫不施其所能」とある。

・**爰脩舊德**＝『春秋左氏傳』成公十三年「吾與女同好棄惡。**復脩舊德**。以追念前勳」。

（11）**志存弓馬、撫劍長哥**

・**志存弓馬**＝『後漢書』列傳六一　皇甫嵩傳「嵩少有文武志介、好詩書、**習弓馬**」。

・**撫劍長哥**＝「哥」は歌に同じ。『史記』巻三四　燕召公世家「召公卒、而民人思召公之政、懷棠樹不敢伐、**哥**詠之、作甘棠之詩」。剣と歌の組み合わせとして、『戰國策』齊策四・齊人有馮諼者「居有頃、倚柱彈其**劍**、**歌**曰長鋏歸來乎。食無魚」、『史記』巻七五　孟嘗君列傳「先生又嘗彈**劍而歌**曰、長鋏歸來乎、無以爲家。孟嘗君不悅」がある。

（12）**起家拜漳武太守**

・**漳武太守**＝漳武は章武郡のことか。『魏書』巻一〇六上　地形志二「瀛州。太和十一年分定州河閒・高陽、冀州章武・浮陽置、治趙都軍城。（中略）**章武郡**。晉置章武國、後改。領縣五。戶三萬八千七百五十四、口一十六萬二千八百七十」。

（13）**水德告終、齊遷魏鼎**

・**水德告終**＝水德は北魏に配當された五行の德。『魏書』一〇七上　律曆志上「以**皇魏運水德**、爲甲子元」。

・**齊遷魏鼎**＝『北史』巻八　齊本紀下・論「文宣因纍世之資、膺樂推之會、地居當璧、**遂遷魏鼎**」。

（14）**始祖文宣、應期受命**

・**始祖文宣**＝「文宣」とは、北齊の初代皇帝である文宣帝（在位五五〇～五五九）のこと。

・**應期受命**＝『三國志』巻六二　胡綜傳「**應期受命**、發跡南土、將恢大繇、革我區夏」。

（15）**乃心勳舊、詮序庶官**

・**乃心勳舊**＝「乃心」とは心に思い浮かべること。『三國志』巻一　武帝紀・裴松之注所引褒賞令「奉命東征、屯次鄉里、北望貴土、**乃心**陵墓」。『晉書』巻三五　陳騫傳「帝以其**勳舊**耆老、禮之甚重」。

・**詮序庶官**＝「詮」は「銓」と同じ。功績や才能に序列をつけて官職を與えること。『梁書』巻一六　王亮傳「及即位、纍遷太子中庶子、尙書吏部郎、**詮序**著稱、遷侍中」。『宋書』巻二　武帝紀中「府州久勤將吏、依勞**銓序**」。

（16）**又授驃騎大將軍、開府儀同三師、定州諸軍事、涇鄭三州刺史**

『全隋文補遺』、『隋代墓誌銘彙考』は、「開府儀同三師」を「開府儀同三司」の誤りとするが、北魏末および北齊において「開府儀同三師」が置かれており、改める必要はない。また、「涇鄭三州刺史」は脫字があり、正確には「定涇鄭三州刺史」。ちなみに、この官職を授けられた該當者は見當たらない。『魏書』巻七五　爾朱世隆傳「世隆尋讓太傅、改授太保、又固辭、前廢帝特置**儀同三師**之官、次上公之下、以世隆爲之」。『北齊』武平七年（五七六）王諱潤（高潤）墓誌（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「頃之、改授**開府儀同三師**、增邑二千戶。尋變三師爲三司、仍爲開府、加授都督定瀛幽南北營安平東燕八州諸軍事、刺史如故」。

（17）**君杖志丘垣、保神崇德**

・**杖志丘垣**＝「杖志」、「丘垣」とも不明。ただ、「丘垣」を丘園とすれば、隱棲を志向したと解し得る。『隋書』巻七七　隱逸傳「士謙等忘懷纓冕、**畢志丘園**、隱不違親、貞不絕俗」。

・**保神崇德**＝『莊子』外篇　天地「形體保神、各有儀則、謂之性。性修反德、德至同於初」。『論語』顔淵「子張問崇德、辨惑。子曰、主忠信、徙義、崇德也」。

(18) **栖心風月、不事王侯**

・**栖心風月**＝『魏書』卷九一　術藝傳・張淵「於是乎夜對山水、栖心高鏡」。『新出魏晉南北朝墓誌疏證』一〇九　獨孤藏墓誌「寄情文酒、留神風月」。

・**不事王侯**＝『周易』蠱「上九。不事王侯、高尚其事」。

(19) **皇帝養老尊賢、有踰三代**

・**養老尊賢**＝『孟子』告子下「入其疆、土地辟、田野治、養老尊賢、俊傑在位、則有慶、慶以地」。

・**有踰三代**＝『論語』衞靈公「斯民也、三代之所以直道而行也」。

(20) **爰詔所司、省方巡撫**

・**省方巡撫**＝『周易』觀「觀。先王以省方、觀民設教」。『晉書』卷四六　劉頌傳「咸寧中、詔頌與散騎郎白褒巡撫荊揚、以奉使稱旨、轉黄門郎」。

(21) **以君禮及懸車、年當二膳、授楊州刺史**

・**禮及懸車**＝懸車は七十歳となって致仕した後、馬車を懸けて再度使わないことを示す。『白虎通』卷四　致仕「臣七十懸車致仕者、臣以執事趨走爲職、七十陽道極、耳目不聰明、跂踦之屬、是以退去、避賢者、所以長廉恥也。懸車、示不用也。致仕者、致其事於君」。

・**年當二膳**＝七十歳のものには、本膳以外にもうひとつ膳を備えることを言う。『禮記』內則「五十異粻、六十宿肉、七十二膳、八十常珍、九十飲食不違寢、膳飲從於游可也」。

・**授揚州刺史**＝揚州はこの當時まだ隋の版圖に入っていないが、隋では、老人を禮遇する目的で地方官を板授（版授）する場合があった。『隋書』卷七二　孝義　楊慶傳「楊慶字伯悅、河閒人也。祖玄、父剛、並以至孝知名。慶美姿儀、性辯慧。年十六、齊國子博士徐遵明見而異之。及長、頗涉書記。年二十五、郡察孝廉、以侍養不行。其母有疾、不解襟帶者七旬。及居母憂、哀毀骨立、負土成墳。齊文宣帝表其門閭、賜帛三十匹、緜十屯、粟五十石。高祖受禪、屢加褒賞、擢授儀同三司、版授平陽太守。年八十五、終於家」。

(22) **未及期頤之年、奄離辰巳之歲、春秋八十有六**

・**未及期頤之年**＝「期頤」とは百歲のこと。『禮記』曲禮上「百年曰期、頤」。

・**奄離辰巳之歲**＝『周易』離「象曰、日昃之離、何可久也」。『藝文類聚』卷一六　儲宮部・公主・魏溫子昇常山公主碑「銘曰。龍轡莫援。日車遂往。奄離形神。忽歸丘壤」。「辰巳之歲」とは、賢人が亡くなる歲のこと。後漢の鄭玄が、建安五年（庚辰）に、孔子が今年は辰年、來年は巳年であると告げる夢を見て、自身の死期を悟った故事にちなむ。『後漢書』列傳二五　鄭玄傳「五年春、夢孔子告之曰、起、起、今年歲在辰、來年歲在巳（李賢注。北齊劉晝高才不遇傳論玄曰、辰爲龍、巳爲蛇、歲至龍蛇賢人嗟、玄以讖合之、蓋謂此也）。既寤、以讖合之、知命當終、有頃寢疾」。

なお、□靜が沒した開皇三年は癸卯。［隋］羊烈墓誌

（『新出魏晉南北朝墓誌疏證』一四〇）「歳次辰巳、日昃之離、厭是天行、奄從物化。開皇六年二月壬午朔十六日丁酉、薨於沙丘里舍、春秋七十有四」。

(23) **開皇三年五月廿五日薨於上黨郡卿義里。其年十月丙寅朔十九日甲申合葬於潞州城東南五里**＝當時の上黨郡は潞州に同じ。『隋書』巻三〇　地理志中「**上黨郡**後周置潞州。統縣十、戶十二萬五千五十七」。

(24) **昔輕輪不轉、乃樹膝公之墳**

「膝」は「滕」の誤り。滕公は前漢の夏侯嬰のこと。夏侯嬰が沒した際、馬車を牽く馬が鳴いて止まった場所が墓所となったことを指す。『太平御覽』巻五五二　禮儀部三一　槨「『博物志』曰、**漢滕公薨**、公卿送至東都門。**四馬悲鳴**、**掊地不行**。于蹄下得石槨、有銘曰、「佳城郁郁、三千年見白日、**吁嗟滕公居此室**」。『博物志』のこの條については、ヴァリアントがあるが、輕輪、すなわち馬車（四馬）がみえるものとして『太平御覽』に引用されたものを擧げておく。

(25) **碑上金生、方識曹侯之墓**

・**碑上金生**＝石碑から金が生じること。『宋書』巻三一　五行志二・金不從革「晉懷帝永嘉元年、**項縣有魏豫州刺史賈逵石碑**、**生金可采**。此金不從革而爲變也」。『北堂書鈔』巻一〇二　藝文部・碑二九「王隱『晉書』述『石瑞紀』云、永嘉初、陳國項縣**賈逵石碑中生金**」。『太平御覽』巻八一〇　珍寶部九・金中「王隱『晉書』曰、永嘉初、陳國項縣**賈逵石碑中生金**。人盜鑿取賣、賣已復生。此江東之瑞也」。［北周］庾信「周隴右總管長史贈太子少保豆盧永恩碑一首」（『文苑英華』巻九二五）「**刺史賈逵之碑**、旣**生金**粟。將軍衛青之墓、方留石麟」。［隋］大業三年（六〇七）楊氏妻李叔蘭墓誌（『新出魏晉南北朝墓誌疏證』一九四）「一代賢姬、千年貞節。**石泐金生**、流芳永哲」。

・**曹侯之墓**＝「曹侯」については未詳。「碑上金生」の出典から考えれば、本來は「賈逵（賈侯）」とすべきであろう。『三國志』巻一　武帝紀・裴松之注「意遂更欲爲國家討賊立功、欲望封侯作征西將軍、然後題墓道言『漢故征西將軍**曹侯之墓**』、此其志也」。

(26) **電遶旋樞、黃精誕世**

・**電遶旋樞**＝黃帝の母が、電光が北斗の樞星を繞ったことに感じて黃帝を懷妊したことを指す。『史記』巻一　五帝本紀　黃帝「正義。案、黃帝有熊國君、乃少典國君之次子、號曰有熊氏、又曰縉雲氏、又曰帝鴻氏、亦曰帝軒氏。母曰附寶、之祁野、**見大電繞北斗樞星**、**感而懷孕**、**二十四月而生黃帝於壽丘**」。

・**黃精誕世**＝黃精は黃帝のこと。『太平御覽』巻七九　皇王部四　黃帝軒轅氏「『孝經鉤命決』曰、附寶出、降大靈、生帝軒」。注「附寶、帝軒母也。電、**黃精軒轅氣也**。**軒**、**黃帝名**」。［北魏］孝昌二年（五二六）魏故尙書寇使君（寇治）墓誌（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「**君誕世**鴻躋、篤秀延光、懷瑜握瑾、陸離於崑崿」。

(27) **裂土開壇、稟靈蒼帝**

・**裂土開壇**＝封邑として領地が與えられること。『商君書』賞刑「湯與桀戰於鳴條之野、武王與紂戰於牧野之中、大破九軍、卒**裂土**封諸侯、士卒坐陳者里有書社」。陸機

「漢高祖功臣頌」（『文選』巻四七）「王信韓孽、宅土開疆。我圖爾才、越遷晉陽」。

・**稟靈蒼帝**＝蒼帝は、周王朝が木徳であることを指す。五行相生で解すれば、周王朝は木徳となる。北齊（木）↑北魏（水）↑晉（金）↑魏（土）↑漢（火）↑周（木）

『藝文類聚』巻一八　人部二　賢婦人「晉湛方生上貞女解曰、…、師心率己、蹈茲四德。抑可謂稟靈山嶽、自然天知者矣」。『漢書』巻二一下　律暦志下「書經牧誓武王伐商紂。水生木、故爲木德。天下號曰周室」。

(28) **王祖飡霞、輕擧伊洛**

・**王祖飡霞**＝「王祖」とは周の靈王の太子で、仙人となった王子喬のこと。王子喬にちなんで「橋（喬）」を姓としたと解すれば、前段の「穆昭王父、同孔丘之得姓」と合致する。湛方生「七歡」（『藝文類聚』巻五七）「有巖棲先生者、學道養生、離親絕俗。漱清泉、蔭茂木、慕赤松之清塵、乃餐霞而絕穀」。

・**輕擧伊洛**＝王子喬が伊水洛水のあたりを周遊したことを指す。『楚辭』遠遊「悲時俗之迫阨兮、願輕擧而遠遊」。『列仙傳』巻上「王子喬者、周靈王太子晉也。好吹笙、作鳳凰鳴、遊伊洛之閒」。

(29) **太尉神感、圖形麟閣**

・**太尉神感**＝具體的にどの事件を指すのかは未詳。『晉書』巻三四　杜預傳「臣聞上古之政、因循自然、虛己委誠、而信順之道應、神感心通、而天下之理得」。

・**圖形麟閣**＝麟閣こと麒麟閣は前漢の長安にあった宮殿のひとつで、功臣の肖像畫が描かれた。ただ、描かれたのは霍光ら前漢の功臣であり、「太尉」を橋玄とすると矛盾する。［北齊］武平元年（五七〇）齊故左僕射暴公（暴誕）墓銘（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「後漢膺符、泛以恩明作守。皆名書虎觀、形圖麟閣、非藉耆舊之談、詎假歌謠之說」。

(30) **乃祖乃父、趨步飛纓**

・**乃祖乃父**＝祖先のこと。『尙書』盤庚上「古我先王曁乃祖乃父胥及逸勤、予敢動用非罰」。

・**趨步飛纓**＝「趨步」とは小走りで進退すること。『後漢書』虞延傳　第二三「永平初、有新野功曹鄧衍、以外戚小侯每豫朝會、而容姿趨步、有出於衆」。「飛纓」とは、衣や冠のひもがひらひらするほど忙しいさま。謝朓「永明樂」第九「生蔑苧蘿性、身與嘉惠隆。飛纓入華殿、屣步出重宮」。［北齊］武平七年（五七六）齊故豫州刺史李公（李雲）銘（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「飛纓入宦、正色當朝、德音穆穆、令範昭昭」。

(31) **馬斯表德、日照金生**

・**馬斯表德**＝「斯」は「嘶」に同じ。注（24）を參照。

・**日照金生**＝注（25）を參照。［北魏］建義元年（五二八）故司空城局參軍陸君（陸紹）墓誌銘（『漢魏南北朝墓誌彙編』）「幽塵寂寞、昏昏綿綿、日照孤幃、日映空筵」。

【訓讀】

君は諱靜、字迴樂、南陽荊州の人なり。蓋し黃帝の苗冑、周靈王の裔孫、太尉玄の枝子なり。官に因りて氏に命ずるは、田常の先封に類す。穆昭王父、孔丘の姓を得たるに同じ。

高祖の寵、籍甚風雲、徒勞の職に就かず。經（つね）に巻を釋かず、譙國

の侯を慕う有り。魏の平文の初め、起家して南陽太守、涼州刺史を拜す。曾祖歸、爵を習(つ)ぎ太原太守たり。祖嵩、征虜將軍、朔州刺史たり。父黨、殿中將軍に解褐し、長安令たり。

　叔寧、武を踵(つ)ぎ文を思い、爰に舊德を脩め、志は弓馬に存し、劍を撫でて長哥し、起家して漳武太守を拜す。水德終わりを告げ、齊魏の鼎を遷す。始祖文宣、期に應じて命を受け、勳舊に乃心し、庶官に詮序し、又た驃騎大將軍、開府儀同三師、定州諸軍事、涇鄭三州刺史を授かる。

　君志を丘垣に杖つき、神を保ち德を崇め、心を風月に栖まわせ、王侯に事えず。△皇帝老を養い賢を尊ぶこと、三代を踰ゆる有り。爰に△所司に詔し、方を省て巡撫せしむ。君禮懸車に及び、年二膳に當たるを以て、揚州刺史を授かる。未だ期頤の年に及ばざるに、奄かに辰巳の歳に離る、春秋八十有六。開皇三年五月廿五日上黨郡卿義里に薨ず。其の年十月丙寅朔十九日甲申潞州城の東南五里に合葬す。

　昔輕輪轉ぜず、乃ち滕公の墳を樹つ。碑上に金生じ、方めて曹侯の墓なるを識らん。乃ち銘を爲して曰く、

電逵りて樞を旋り、黄精世に誕(う)まる。土を裂き壇を開き、靈を蒼帝に稟く。其の一

王祖霞を飡(く)らい、伊洛に輕舉す。太尉神感し、形を麟閣に圖(えが)かる。其の二

乃祖乃父、趨歩して纓を飛ばす。馬斯(いなな)きて德を表し、日金の生ずるを照らす。其の三

【現代語譯】

　君の諱は靜、字は迴樂、荊州南陽郡の人である。思うに黄帝の苗裔、周の靈王の末裔の子孫、太尉玄の庶子〔の子孫〕であろう。〔祖先の〕官職にちなんで氏を名付けるのは、田常が以前の封邑〔によって氏を決めたこと〕に類する。昭穆や祖父によ〔って姓とす〕るのは、孔丘が〔孔という〕姓を得たのと同じである。

　高祖の寵は、はなはだ大きな志を抱き、徒勞の職には就かなかった。つねに〔手から〕巻子を離さず、譙國の侯を慕った。魏の平文帝の初め、起家して南陽太守、涼州刺史を拜命した。曾祖の歸は、爵を繼いで太原太守となった。祖の嵩は、征虜將軍、朔州刺史であった。父の黨は、褐衣を脱いで〔仕官して〕殿中將軍、長安令となった。

　叔父の寧は、武を受け繼いで文を思い、ここに舊德を脩め、武事を志し、劍を撫でては高らかに歌い、起家して漳武太守を拜命した。水德〔を受けた魏〕が終わりを告げ、齊が魏の帝位を繼承した。始祖である文宣帝は、時のめぐりに應じて天命を授けられ、勳功を立てた舊臣のことを心に思い浮かべ、多くの官人を審査して官職に任命し、〔その結果〕また驃騎大將軍、開府儀同三司、定州諸軍事、定涇鄭三州刺史を授かった。

　君は丘園〔での隱棲〕の志をたよりとし、精神を保って德を高め、心を風月に寄せて、王侯に仕えなかった。〔隋の〕皇帝は老人を保養し賢人を尊ぶこと、〔夏殷周の〕三代にも勝った。ここに擔當の役人に詔し、地方を視察し各地を巡って慰撫させた。君は禮のうえでは馬車を懸け〔て官職より引退す〕るのに及び、年齢においては二膳〔を供せられる〕〔七十歳となった〕ことによって、揚州刺史を授かった。まだ期頤（百歳）に達していないのに、にわかに辰巳の歳にこの世を去った。八十六歳であった。開皇三年五月廿五日上黨郡の卿義里にて薨(みまか)った。その年の十月丙寅朔十九日甲

申の日に潞州城の東南五里に合葬した。

かつて〔馬車の〕車輪が進まなくなって、そこで〔その場所に〕滕公の墓を立てた。碑〔が朽ちてそ〕の上に金屬が生じて、はじめて曹侯の墓であることを識るであろう。そこで銘を作って言う。

電光がほとばしって北斗の天樞をめぐり、黄精（黄帝）が世に生まれた。封邑として土地を與えられて、靈を蒼帝より授かった。その一。

王氏の祖先〔である王子喬〕は霞を喰らい、伊水・洛水にて天に昇っ〔て仙人となっ〕た。太尉は神靈と感應し、その姿が麒麟閣に描かれた。その二。

あなたの祖先たちは、朝廷にて小走りし官の衣冠を身につけ忙しく働いた。馬がいないて〔故人の〕德を示し、太陽が〔墓碑から〕金が生じているのを照らしている。その三。

【主要著錄跋文】

『漢魏南北朝墓誌集釋』

□靜墓誌（開皇三年十月十九日　三六四）

誌高42・3釐米、廣45・5釐米、二十行、行十九字、分書。出襄垣。誌稱「葬於潞州城東南五里」。考元和郡縣圖志十五「周建德七年於襄垣縣置潞州、開皇十年自襄垣縣移於壺關」。誌作於開皇初、則石出襄垣明矣。誌失其蓋、無由確知其姓氏。以誌稱「太尉玄之枝子」。考之、漢時名玄官太尉者、僅橋玄一人。蔡邕喬公廟碑「喬氏之先、出自黄帝」。唐書宰相世系表「喬氏出自姬姓」。與誌稱「黄帝之苗冑、周靈王之裔孫」無不合。然誌又云「因官命氏、類田常之先封、穆昭王父、同孔丘之得姓」、未知何據。又似與喬氏無涉也。誌出里井不學者手、欲託之於華冑、而又腹笥寒儉、致有向壁虚造之失。隋唐閒碑刻類此者正不乏。固無足異矣。

『隋唐五代墓誌滙編』北京大學卷　第一卷

隋開皇三年（公元五八三年）十月十九日葬。安徽蕪湖出土。曾歸羅振玉。拓片長42釐米、寬44釐米。隸書。此拓係邵章・邵鋭舊藏本。

『北京圖書館藏中國歴代石刻拓本滙編』九冊

□靜墓誌　誌六〇八八

隋開皇三年（五八三）十月十九日葬於安徽蕪湖縣。羅振玉舊藏。誌石長42釐米、寬44釐米。隸書。

『隋代墓誌銘彙考』〇一七

卒葬時間　開皇三年（公元五八三）五月二十五日卒、十月十九日葬。

行款書體　誌文二〇行、滿行一九字、隸書有方界格。

形制紋飾　誌石長四二點三、寬四五點五釐米。

出土時地　山西襄垣縣出土。

存佚狀況　曾歸羅振玉、今佚。

主要著錄　校碑隨筆卷四頁一八。漢魏南北朝墓誌集釋卷八頁七九下、圖三六四。北京圖書館藏中國歴代石刻拓本彙編九冊一一頁。隋唐五代墓誌彙編北京大學卷一冊三頁。石刻題跋索引一五三頁。碑帖鑒定二〇九頁。

誌文　（略）

附錄

校碑隨筆　卷四頁一八。王靜墓誌銘

隸書兼篆、二十行、行十九字、石不明所在（開皇三年十月）。

未見著錄。

漢魏南北朝墓誌集釋　卷八頁七九下。□靜墓誌（開皇三年十月十九日）。

（略）

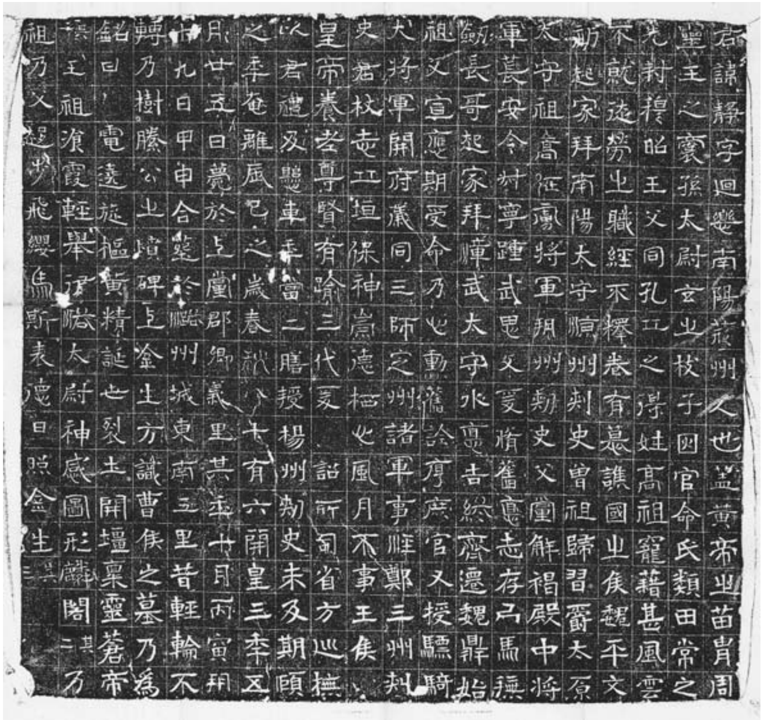
附考

其諱案。誌文『習爵』當爲『襲爵』之訛、『開府儀同三司』之『司』原訛作『師』、『涇鄭三州刺史』前疑脫『定』字、『滕公』原誤作『滕公』。『魏平文初』、『平文』爲北魏先祖（魏天興初尊爲太祖）平文帝拓跋鬱律廟號、公元三七七至三八一年（晉孝武帝太元二年至六年）在位。『校碑隨筆』以誌主爲王姓、不知何據。『漢魏南北朝墓誌集釋』定爲喬姓、或近於實。葉國良『石學蠡探』復認爲：『誌云「周靈王之裔孫」者、謂系出所傳周靈王太子僊人王子喬』。

圖版と釋文の收錄狀況について整理しておく。

書名	拓本	釋文	案語
『山右冢墓遺文補遺』		△	
『北京圖書館藏中國歷代石刻拓本滙編』九冊	○		○
『隋唐五代墓誌滙編』北京大學卷　第一卷	○		○
『隋代墓誌銘彙考』〇一七	○	○	○
『校碑隨筆』卷四			○
『漢魏南北朝墓誌集釋』卷八	○		○
『全隋文補遺』卷二		○	
『魯迅輯校石刻手稿』三函		△	

これらの他、『古誌彙目』、『崇雅堂碑錄補』、『石刻題跋索引』一五三頁、『石刻名彙』卷三、『蒿里遺文目錄』二、『北朝隋代墓誌所在總合目錄』一一三一にも見えるが、圖版・釋文・考證はない。



□靜墓誌

龍藏寺碑（石刻拓本資料 ZUI0018X）

擔當　倉本尚德

【立碑時期】開皇六年十二月五日（五八七年一月十九日）
【原石尺寸】高さ二一五、幅九〇、厚さ二九糎
【字　數】碑陽三〇行、滿行五〇字
【原石所在地】河北省正定縣隆興寺（現存）

【原石寫眞】（一部のみ）
・常盤大定・關野貞『支那文化史蹟』第八輯、法藏館、一九四〇年、圖版九二（二）碑陽上部
・藝術新聞社編「龍藏寺碑」『中國碑刻紀行――一千年の石刻書道史をたどる（季刊墨スペシャル一四）』藝術新聞社、一九九三年、一二二・一二三頁。
・河北省正定縣文物保管所編著『正定隆興寺』文物出版社、二〇〇〇年、二三〇・二三一頁、碑陽全體・碑首
・高澤浩一「書の旅――龍藏寺碑を訪ねて」『墨』二六三、二〇二〇年三・四月號、一〇二～一〇七頁、碑陽の一部

【拓影】（一部のみ）
①人文科學研究所　石刻拓本資料 ZUI0018X・碑陽のみ。碑陰・碑側も別函に有り。
②上海圖書館藏、黃雲・唐翰題舊藏明拓（現存最古拓。帖、碑陽のみ）
・《歷代碑帖法書選》編輯組編『隋龍藏寺碑』文物出版社、一九八四年
・飯島太千雄監製『龍藏寺碑』西東書房、一九八六年
・上海圖書館編『龍藏寺碑（翰墨瑰寶――上海圖書館藏珍本碑帖叢刊）』上海古籍出版社、二〇〇六年
③端方舊藏明中期拓（後代の拓本で補った部分が多い。）
・『宋拓龍藏寺碑』有正書局、一九〇八年
④書道博物館藏、黃易舊藏明末清初拓（帖、碑陽のみ。民國二十五年文明書局影印本）
・『書苑』五卷第一號「特輯　龍藏寺碑號」三省堂、一九四一年。他に碑陰陽側の整幅拓、碑陰（額も含む）帖あり。
・伏見冲敬解說『隋龍藏寺碑』（書跡名品叢刊）二玄社、一九六二年。碑陰陽側の整幅拓あり、ただし碑陰額なし。
・上海書畫出版社編『中國碑帖名品［三十八］龍藏寺碑』上海書畫出版社、二〇一一年
　碑陽額・碑陽・碑陰帖・黃易舊藏明末清初拓
　碑陰額・碑側帖・伏盧舊藏清嘉慶（一七九六～一八二〇）・道光（一八二一～一八五〇）拓
　整幅碑拓・朵雲軒所藏同治（一八六二～一八七四）・光緒（一八七五～一九〇八）拓

龍藏寺碑諸拓本の年代鑑定については、以下を參照。ただし、①と④を比較すると字形が異なったり、①よりも④の方が字形がはっきり確認できる文字もあり、注意が必要。
張彥生『善本碑帖錄』中華書局、一九八四年
方若原著・王壯弘增補『增補校碑隨筆（修訂本）』上海書店出版社、二〇〇八年
王壯弘『崇善樓筆記』上海書店出版社、二〇〇八年
仲威「隋代碑刻善拓過眼錄之二」『書法』二〇一四年第七期

（釋文篇）

【釋文收錄書　略稱】（一部のみ）

萃　＝王昶『金石萃編』（『石刻史料新編』新文豊出版公司、第一輯、第一～四冊）

薤　＝都穆『金薤琳琅』（『石刻史料新編』第一輯、第一〇冊）

常　＝沈濤『常山貞石志』（『石刻史料新編』第一輯、第一八冊）

全隋＝『全上古三代秦漢三國六朝文』「全隋文」巻二二「張公禮・龍藏寺碑」（舊拓により作成）

書苑＝『書苑』第五巻第一号「龍藏寺碑特輯」、一九四一年

名品＝伏見冲敬解說『隋龍藏寺碑』（書跡名品叢刊）二玄社、一九六二年

大成＝藤原楚水『註解名蹟碑帖大成』上下、省心書房、一九七六年

魯　＝北京魯迅博物館・上海魯迅紀念館編『魯迅輯校石刻手稿』上海書畫出版社、一九八七年

河北＝石永士・玉素芳・袈淑蘭『河北金石輯錄』河北人民出版社、一九九三年

瓌寶＝上海圖書館編『龍藏寺碑』（翰墨瓌寶――上海圖書館藏珍本碑帖叢刊）上海古籍出版社、二〇〇六年

春秋＝劉友恒・梁曉麗「隋龍藏寺碑瑣談」『文物春秋』二〇〇八年第六期

書畫＝上海書畫出版社編『中國碑帖名品［三十八］龍藏寺碑』上海書畫出版社、二〇一一年

鑒印＝鑒印編著『隋龍藏寺碑』（中國名碑名帖研究）浙江人民美術出版社、二〇一二年

※萃・常・魯は缺損の多い拓本に依據しているため今回校勘に用いない。また、拓本で文字がはっきりと確認できるものは、煩を避け一部の書に異讀があっても校勘にあげることはしない。

【釋文】

［碑陽額］

恆州刺史鄂／國公爲國勸／造龍藏寺碑（楷書）

［碑陽］

1 竊以空王之道離諸名相大人之法非有去來斯故將喩師子明自在如無畏取譬金剛信畢竟而不毀是知涅槃路遠解脫源深

2 隔愛慾之長河開生死之大海無船求度既似龜毛無翅願飛還同兔角故以五通八解名教攸生二諦三乘法門斯起撿麤攝細

3 良資汲引之風挽滿陷深雅得脩行之致若論乾闥之城皆妄芭蕉之樹盡空應化詎眞權假寧實釋迦文非①說法之佛②須菩提豈

4 證果之人然則習因之指安歸求道之趣奚向如幻如夢誰其受苦如影如嚮誰其得福是故維摩詰具諸佛智燈王③之坐斯來舍

5 利弗盡其神通天女之花不去故知業行有優劣福報有輕重若至凡夫之与聖人天堂之与地獄詳其是非④得失安⑤可同日而論

6 哉往者四魔毀聖六師謗法拔髮翹足變象吞蔴李園之內結其惡黨竹林之下亡其善聚護戒比丘翻同雹草持律□□忽⑥等霜

7 蓮慧殿仙宮寂寥安在珠臺銀閣荒涼無處離離綴彩寧勞周客含奏曲詎假殷人我△大隋乘御金輪冕旒玉⑦藻⑧上應天⑨命下

8 順民心飛行而建鴻名揖讓而升大寶匪結農軒之陣誰徇湯武之師稱臣妾者遍於十方弗遇蚩尤之亂執⑩玉帛者盡於万國無

9 陷防風之禍斯乃天啓至聖大造區域垂衣化俗負扆字民昧旦紫宮終朝青殿道高羲燧德盛虞唐五福咸⑪臻衆旣畢集低玭⑫出⑬

10 月搖蓮含風沈璧觀書龍負握河之紀功成治定神奉益地之圖於是東
曁西漸南徂北邁隆禮言洽至樂云和感天地而動鬼神

11 辯尊卑而明貴賤而尙勞己亡倦求衣靡息豈非攸攸黔首垢障未除
擾〻蒼生蓋纏仍擁所以金編寶字玉牒綸言滿封盈函雲

12 飛雨散慈愛之旨形於翰墨哀愍之情發於衿抱日月所照咸頼陶甄陰
陽所生皆蒙鞠養故能津濟率土救護溥天協奬愚迷扶

13 導聾瞽澍茲法雨使潤道牙燒此戒香令薰佛慧脩第壹之果建最勝之
幢拯既滅之文匡以墜之典忍辱之鎧滿於清⑭都微妙之

14 臺充於赤縣豈直道安羅什有寄弘通故亦迦葉目連聖僧斯在龍藏寺
者其地蓋近於燕南昔伯珪取其謠言□⑮京易水毋⑯恤往

15 而得寶窺代常山世祖南旋至高邑而踐祚靈王北出登望臺而臨海靑
山歛霧涤⑰水揚波路款晉而適秦途通□⑱而指衞相如⑲之

16 落矩步非遙平原之樓規行詎遠尋泒⑳避世彼亦河㉑人幽閑博敞良爲福
地太師上柱國大威公之世子使持節左㉒武衞將軍㉓上開

17 府儀同三司恆州諸軍事恆州刺史鄂國公金城王孝儁世業重於金張
器識逾於許郭軍府号爲飛將朝廷稱爲虎㉔臣領袖諸□㉕

18 冠冕羣儁探賾索隱應變知機著義尙訓御之勳立勳功事勞之績廊廟
推其偉器柱石揖其大材自馳傳莅蕃建旗作牧㉖招懷散㉗

19 逸躅復逃亡遠視廣聽賈琮之按冀部賞善戮惡徐邈之處涼州異軫齊
奔古今一致下車未幾善政斯歸瞻彼伽藍㉘事㉙因㉚草創□㉛

20 奉△敕勸奬州內士庶壹萬人等共廣福田公爰啓至誠虔心徙石施逾
奉蓋檀等布金竭黑水之銅罄赤岸之玉結瑠璃之寶網

21 飾纓珞之珍臺於是靈刹霞舒寶坊雲構峥嶸膠葛穹隆譎詭九重壹柱
之殿三休七寶之宮彫梁刻桷之奇圖雲畫藻之異白㉜銀

22 成地有類悉覺之談黃金鏤楯非闕句踐之獻其內閑房靜室陰牖陽窓
圓井垂蓮方踈度日曜明瑠於朱戶殖芳卉於紫墀地㉝映

23 金沙似遊安養之國薝隱天樹疑入歡喜之園夜漏將竭聽鳴鍾於寺內
曉相既分見承露於雲表不求床坐來會之衆何憂自㉞然

24 飲食持鉢之侶奚念粤以開皇六年歲次鶉火莊嚴粗就庶使△皇隋寶
祚与天長而地久種覺花臺將神護而鬼衞乃爲詞曰

25 多羅祕藏毗尼覺道斯文不滅憑於大造誰薰種智誰壞煩惱猗歟我△
皇實弘三寶慧燈翻照法炬還明菩提果殖救護心生香

26 樓並構貝塔俱營充遍世界弥滿國城憬彼大林當途向術於穆州后仁
風遐拂金粟施僧珠纓奉佛結瑤葺宇構瓊起室鳳甍槃

27 日虹梁入雲電飛窓戶雷驚橑棼綺籠金鏤縹壁椒薰綈錦亂色丹素成
文髣髴雪宮依稀㉟月殿明室結幌㊱幽堂啓扇臥㊲虎未窺跧

28 龍㊳誰見帶風蕭瑟含烟蔥蒨西臨天井北拒吾臺川谷苞異山林育材蕪
秦說反樂毅奔來鄒魯媿俗汝潁慙能惟此大城環異㊴所

29 踐踈鍾響度層磐露泫八聖四禪五通七辯戒香恆馥法輪常轉△△△
開皇六年十二月五日題寫

30 齊開府長兼行參軍九門張公禮㊵之□

【校勘】

（1）「非」全隋・鑒印／「非」書苑・名品・大成・書畫／「□」薙・河北・瓌寶・春秋。※拓本では確認できず。

（2）「說法之佛」／「說法之佛」鑒印／「說□之□」諸本。語注(15)參照。

（3）「王」書畫／「王」鑒印／「□」薙・全隋・書苑・名品・大成・河北・瓌寶・春秋。※拓本では確認できず。

（4）「非」薙・全隋・鑒印／「非」書苑・名品・大成／「□」書畫・河北・瓌寶・春秋。上海圖書館藏拓では「非」の上端部のみ確認可。

(5)「安」薤・全隋・鑒印／「安」書苑・書畫「□」名品・大成・河北・壞寶・春秋。※拓本では確認できず。

(6)「忽」書苑・書畫・鑒印／「忽」名品・大成／「□」薤・全隋・河北・壞寶・春秋。※上海圖書館藏拓では確認できず、書道博物館拓で確認可。

(7)「玉」薤・全隋・鑒印／「玉」書苑・名品・大成・書畫／「□」薤・河北・壞寶・春秋。※拓本では確認できず。

(8)「藻」全隋／「藻」書苑・書畫・名品／「璪」鑒印／「□」薤・大成・河北・壞寶・春秋。※拓本では確認できず。

(9)「天」薤・書畫・鑒印／「天」大成・壞寶・春秋／「帝」全隋・河北／「帝」書苑・名品。※拓の殘畫は「天」に近い。

(10)「執」薤・全隋・河北・鑒印／「執」書苑・名品・大成・壞寶・春秋・書畫。※拓本では確認できず。

(11)「唐五福咸」薤・全隋／「唐五福咸」書苑・名品・大成・壞寶・書畫／「唐百福弁」鑒印／「唐□□□」河北／「唐□□」春秋。※拓本では確認できず。

(12)「茾」河北・壞寶・書苑・鑒印／「茾」名品／「茆」薤・大成・書畫。／「□」春秋。

(13)「出」薤・全隋・河北・大成／「出」名品・壞寶・春秋・書畫／「偃」鑒印／「□」書苑。※拓本では確認できず。鑒印は諸拓本の殘存字畫から「偃」の可能性が高いとする。

(14)「於清」／「於清」書畫／「于清」全隋・鑒印／「於□」書苑・大成／「於□」名品／「於京」河北／「于□」春秋／「□□」薤・壞寶。※「於」は拓本では確認できず。書道博物館拓本では清の右下の「月」の殘畫がかろうじて確認できる。

(15)「□」諸本／「築」書畫・鑒印。

(16)「毋」薤・全隋・河北／「母」書苑・名品・大成・壞寶・春秋・書畫。・鑒印。※碑の字形は「母」だが、文意より「毋」に改める。「毋恤」は春秋趙簡子の太子。後の趙襄子。

(17)「淥」薤・書苑・名品・大成・河北・壞寶／「淥」春秋／「綠」全隋・書畫・鑒印。

(18)「□」諸本／「魯」鑒印。

(19)「相如」／「揩捫」全隋／「相好」書苑／「相好」名品／「相□」大成／「村奴」鑒印。「□□」薤・河北・壞寶・春秋・書畫／※木偏と女偏は拓本で確認可。ここは藺相如を指すと考えられる。

(20)「泒」書畫・鑒印／「派」書苑・名品・大成・河北・壞寶・春秋。※泒水は古河名。山西より東流し天津に至り海に注ぐ。

(21)「河」諸本。※「河」は「何」に通ず。

(22)「左」薤・全隋・書苑・名品・大成・河北・鑒印／「左」壞寶・春秋・書畫。※拓本では確認できず。

(23)「軍」全隋・書苑・名品・大成・河北・鑒印／「軍」春秋・書畫／「□」壞寶。※「冖」（わかんむり）は拓で確認可。

(24)「虎」薤・全隋・河北・大成・鑒印／「虎」書苑・名品・壞寶・春秋・書畫。

(25)「□」薤・全隋・書苑・河北・壞寶・春秋・書畫／「僚」名品／「僚」大成／「軍」鑒印。

(26)「作牧」全隋／「作牧」書苑・「作牧」名品・書畫／「□□」大成・河北・壞寶・春秋。※拓本では「牧」の右下部分のみ確認可。

(27)「散」壞寶／「歎」薤・河北／「歎」大成・書畫／「縱」名品／「隱」鑒印／「□」全隋・書苑・春秋。※上海圖書館藏拓では

字畫の左上部分が殘存。「歎逸」では意味が通じない。

(28)「藍」薤・春秋／「籃」全隋・名品・大成・河北・瓌寶・書畫・鑒印。※拓本の字形は「籃」だが、凡例に従い「藍」と改める。

(29)「事」全隋・鑒印／「事」書畫／「非」薤・書苑・大成・河北／「非」名品・春秋。／「□」瓌寶。※拓本の殘畫の字形からではどちらとも決め難い。文意からは「事」の方がよい。

(30)「因」薤・大成・河北・鑒印／「因」書苑・名品・春秋・書畫／「□」全隋・瓌寶。

(31)「□」全隋・書苑・名品・書畫／「毎」薤・河北／「毎」大成・瓌寶・春秋。※拓本では確認できず。「毎」では文意が通らない。

(32)「白」薤・全隋・大成・河北・鑒印／「白」書苑・名品・瓌寶・春秋・書畫。※拓本では確認できず。

(33)「地」薤・全隋・大成・河北・鑒印／「地」・書苑・名品・瓌寶・春秋・書畫。※拓本では確認できず。

(34)「自」／「默」鑒印／「□」諸本。文意より補う。語注參照。

(35)「稀」全隋・書苑・名品・大成・河北・春秋・書畫・鑒印／「悕」薤・瓌寶。※拓本の字形は「悕」だが、文意により「稀」に改める。

(36)「幌」薤・全隋・書苑・名品・大成・鑒印／「愰」河北・瓌寶・春秋・書畫。碑の字形は「愰」だが、文意により「幌」に改める。

(37)「臥」全隋・鑒印／「臥」書苑・名品・書畫／「□」薤・大成・河北・瓌寶・春秋。

(38)「龍」薤・全隋・瓌寶・春秋・書畫／「尨」書苑・名品・大成・鑒印／「□」河北。碑の字形は「尨」に近い。「龍」の異體字。

(39)「瓌異」薤・全隋・大成／「瓌異」春秋・書畫／「瓌異」河北／「瓌異」書苑・名品／「瓌□」瓌寶。※拓本では確認できず。

(40)「禮」諸本／「⿰忄豊」薤。

［碑陰］

1

1 冠軍將軍都督錄事參軍敬楷
2 前員外散騎侍郎開國伯功曹參軍崔旻
3 都督前滎陽縣令倉曹參軍鄭世隆
4 伏波將軍戶曹參軍楊遠
5 洛州主簿[41]戶曹參軍元德明
6 前城睾[42]郡丞兵曹參軍崔充禮
7
8 前北豫州刑獄參軍法曹參軍祖士廓
9 士曹參軍崔宰
10 行參軍長孫世
11 行參軍楊砏[43]
12 行參軍梁直
13 行參軍傅君長
14 行參軍楊懷詰
15 鄂國公府長史皇甫祥
16 鄂國公府司馬侯鑾
17 翊軍將軍眞定縣令張仲
18 冠軍將軍帥[44]都督九門縣令李康
19 安化縣開國侯石邑縣令任誼
20 帥都督義鄉縣開國男井陘縣令曹明
21 前內侍開府儀同三司銀青光祿大夫靈
22 壽縣令潘士逸
23 征東將軍蒲吾縣令王緖
24 翊軍將軍都督行唐縣令宋璨
25 都督滋陽縣令元靜
26 州都張元質
27 州都裴衡
28 前祕書侍郎平棘縣令涇陽
29 縣開國伯州主薄賈羅侯
30 州主薄房道儒

2

州光初主薄房峻[45]
州光初主薄許芬
州西曹書佐閻公約
州西曹書佐栗[46]子建[47]
大都督祭酒楊騰
前奉朝請祭酒胡士則
恆州前士曹從事省事李亮
眞定縣主薄省事趙琰
前給事眞定縣丞王賢族
彌寇將軍眞定縣尉王亮
幷州前行參軍眞定縣尉邸[48]學
掃寇將軍九門縣丞蔣羅
伏波將軍九門縣尉富昶
九門縣尉呂儉
前恆州典籤錄事維那佫素
井陘縣尉賈子政

3

明威將軍前□□[49]司馬廣陽令邑正盧延
前常山郡正維那石建業
前常山郡主薄維那石子紹
維　那　賈　小　盆
維　那　石　元　空
維　那　張　伽　兒
維　那　石　文　遷
州前市令前恆山郡錄事維那劉雅
前常山六州府右箱司馬戶曹參軍姚鸞
盪邊將軍恆州十二州帥都督劉多羅
前常山六州倉曹參軍維那獨孤猛
前度支令史恆山郡錄事牛軌
蕩邊將軍儀同府司馬維那趙元卿
儀同府法曹參軍維那潘善護
前常山郡功曹維那石洪林
前散騎常侍維那竹奉伯
兵曹佐維那郄[50]瑜
恆州倉督維那郄楷
前眞定縣平正維那封孝瑜
明威將軍西水縣令都督焦貴遷
冠軍將軍前鋒大都督豪州
刺史東興縣男呼延霻

4

前州倉曹佐監寺使張秤
前汾州統府錄事監寺使魏讓
前定州總管府學生監寺使段深
前定州總管府學生監寺使佫婁
前恆州行參軍維那石文舉
前恆郡兼主薄維那石紹軌
前六州倉曹參軍維那樂元
前六州外兵維那獨孤永和
維那石洪兒　維那檀惠顏
維那石顯應　維那賈蓋宗
維那王景貴　維那王遵貴
維那竹盆　維那王望兒
維那石子暉　維那閻仲遵
維那石子約　維那王市吉
維那賈榮伯　維那左輔
維那馬祀[51]　維那白暉賓

營寺居士郄希邕

5

眞定縣
維那
維那
維那
維那
維那
石邑縣
維那
維那
維那
維那
維那
邢陘縣
維那
維那
維那
維那
維那
蒲吾縣
維那
維那
維那
維那
維那
零壽縣
□□□田世敖
、、傅大
維那
維那
維那
維那
維那

6

行唐縣
維那
維那
維那
維那
維那
滋陽縣
維那
維那
維那
維那
維那
九門縣
□□□靳僧林
維那
維那
維那
維那
維那

［碑陰碑額］

1 翊軍將軍恆州長史游愔
2 翊軍將軍恆州司馬趙穆
3 平等沙門曇令　驃騎大將軍開府儀同三司五郡守京并二省尚書左右
4 正定沙門玄宗　承三州刺史前常山六州領民都督内丘縣散伯叱李顯和
5 斷事沙門智超　驃騎將軍開府儀同三司領恆州左十七府兵
6 前知事上坐僧恍　東燕縣開國侯高子玉
7 知事上坐法朗　上儀同三司邵州蒲源(52)縣開國伯副領右十八開府李平
8 前知事上坐道圓　上儀同三司恆州右十七開府安德縣開國公石元
9 寺主惠瑩　使持節驃騎將軍儀同三司恆州左十七開府永
10 寺主明建　固公劉達虔
11 儀同三司恆州右十七開府副懷仁縣開國伯曹明
12
13 合州道俗邑義一万人等

［碑左側］

1 都維那比丘玄詣　都維那比丘道運　都維那比丘道寧
2 都維那比丘惠暢　都維那比丘靜脫　都維那比丘眞觀
3 都維那(53)比丘僧□　都維那比丘僧哲
4 都維那比丘惠畠
5 都維那比丘道長
6 都維那比丘道軌　都維那比丘曇響
7 都維那比丘靜成(54)　都維那比丘惠昂
8 都維那比丘圓美　都維那比丘智蕭

(41)「簿」拓本では「薄」。以下、「等」「箱」も同様に、碑ではそれぞれ「䓁」と「葙」のようにくさかんむりで刻まれている。
(42)「峯」書畫／「罣」書苑・河北。
(43)「砏」河北・書畫／「砎」書苑
(44)「帥」／「師」書苑・河北・書畫、他の「帥」も同様。
(45)「峻」書苑・書畫／「嶮」河北。
(46)「栗」書苑・書畫／「粟」河北。
(47)「建」書苑／「逮」河北・書畫。
(48)「邸」／「鄒」書苑・河北・書畫。
(49)「前□□」／「前□」書苑／「□□」河北・書畫。三文字目の□は州か。
(50)「郄」書苑・書畫／「郗」河北。次行の「郄」も同様。
(51)「祀」河北・書畫／「禮」書苑。
(52)「源」『隋書』巻三〇・地理志中・絳郡では「蒲原縣」。今の山西省運城市垣曲縣。
(53)「都維那」／「□□□」書畫。この行の七文字は人爲的に削られている。かろうじていくつかの文字は判讀できる。
(54)「靜成」／「□□」書畫。この行の七文字も同じく削られている。

（譯注篇）

【原文】

［碑陽額］

恆州刺史鄂國公爲國勸造龍藏寺碑

［碑陽］

竊以空王之道、離諸名相[1]、大人之法、非有去來[2]。斯故將喩師子、明自在如無畏[3]、取譬金剛、信畢竟而不毀[4]。是知涅槃路遠、解脫源深[5]、隔愛慾之長河、閒生死之大海[6]。無船求度、既似龜毛[7]、無翅願飛、還同兔角[8]。故以五通・八解、名教攸生[9]、二諦・三乘、法門斯起[10]。撿麤攝細、良資汲引之風[11]、挽滿陷深、雅得脩行之致[12]。

若論乾闥之城皆妄、芭蕉之樹盡空[13]、應化詎眞、權假寧實[14]。釋迦文非說法之佛、須菩提豈證果之人[15]。然則習因之指安歸、求道之趣奚向[16]。如幻如夢、誰其受苦、如影如響、誰其得福[17]。是故維摩詰具諸佛智、燈王之坐斯來[18]、舍利弗盡其神通、天女之花不去[19]。故知業行有優劣、福報有輕重。若至凡夫之與聖人、天堂之與地獄、詳其是非得失、安可同日而論哉[20]。

往者四魔毀聖、六師謗法[21]、拔髮翹足、變象呑痲[22]。李園之內、結其惡黨[23]、竹林之下、亡其善聚[24]。護戒比丘、翻同雹草[25]、持律□□、忽等霜蓮[26]。慧殿仙宮、寂寥安在[27]、珠臺銀閣、荒涼無處[28]。離離綴彩、寧勞周客[29]、含含奏曲、詎假殷人[30]。

我△大隋乘御金輪、冕旒玉藻[31]、上應天命、下順民心[32]、飛行而建鴻名、揖讓而升大寶[33]。匪結農・軒之陣、誰侚湯・武之師[34]。稱臣妾者、遍於十方、弗遇蚩尤之亂[35]。執玉帛者、盡於万國、無陷防風之禍[36]。

斯乃天啓至聖、大造區域[37]、垂衣化俗、負扆字民[38]。昧旦紫宮、終朝青殿[39]。道高羲・燧、德盛虞・唐[40]。五福咸臻、衆貺畢集[41]。低玒出月、搖蓂含風[42]。沈璧觀書、龍負握河之紀[43]、功成治定、神奉㿽地之圖[44]。

於是東曁西漸、南徂北邁[45]、隆禮言洽、至樂云和[46]。感天地而動鬼神[47]、辯尊卑而明貴賤[48]。而尚勞己亡倦、求衣靡息[49]。豈非攸攸黔首、垢障未除[50]、擾々蒼生、蓋纏仍擁[51]。所以金編寶字、玉牒綸言[52]、滿封盈函、雲飛雨散[53]。慈愛之旨、形於翰墨[54]、哀愍之情、發於衿抱[55]。日月所照、咸賴陶甄[56]、陰陽所生、皆蒙鞠養[57]。故能津濟率土、救護溥天[58]、協獎愚迷、扶導聾瞽[59]。澍茲法雨、使潤道牙[60]、燒此戒香、令薰佛慧[61]。脩第壹之果、建最勝之幢[62]、拯既滅之文、匡以墜之典[63]。忍辱之鎧、滿於淸都[64]、微妙之臺、充於赤縣[65]。豈直道安・羅什、有寄弘通[66]、故亦迦葉・目連、聖僧斯在[67]。

龍藏寺者、其地蓋近於燕南[68]。昔伯珪取其謠言、□京易水[69]、毋恤往而得寶、窺代常山[70]。世祖南旋、至高邑而踐祚[71]、靈王北出、登望臺而臨海[72]。青山斂霧、淥水揚波[73]、路款晉而適秦、途通□而指衞[74]。相如之落、矩步非遙[75]、平原之樓、規行詎遠[76]。尋泒避世、彼亦河人[77]、幽閑博敞、良爲福地[78]。

太師・上柱國・大威公之世子[79]、使持節左武衞將軍・上開府儀同三司・恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城王孝儁[80]、世業重於金・張[81]、器識逾於許・郭[82]。軍府号爲飛將、朝廷稱爲虎臣[83]。領袖諸□、冠冕羣儁[84]、探賾索隱、應變知機[85]。著義尚訓御之勲、立勳功事勞之績[86]。廊廟推其偉器、柱石揖其大材[87]。自馳傳莅蕃、建旟作牧[88]、招懷散逸、蠲復逃亡[89]。遠視廣聽、賈琮之按冀部[90]、賞善戮惡、徐邈之處涼州[91]。異軫齊奔、古今一致[92]。下車未幾、善政斯歸[93]。

瞻彼伽藍、事因草創[94]、□奉△敕勸獎州內士庶壹萬人等、共廣福田[95]。公爰啓至誠、虔心徙石[96]、施逾奉蓋、檀等布金[97]。竭黑水之銅、罄赤岸之玉[98]、結瑠璃之寶網、飾纓珞之珍臺[99]。於是靈刹霞舒、寶坊雲構[100]、崢嶸膠葛、穹隆譎詭[101]。九重壹柱之殿、三休七寶之宮、彫梁刻桷之奇、圖雲畫藻之異。白銀成地、有類悉覺之談。黃金鏤楯、非關句踐之獻。

其內閑房靜室、陰牖陽窓、圓井垂蓮、方䟽度日[108]。曜明璫於朱戶、殖芳卉於紫墀[109]。地映金沙、似遊安養之國[110]、蘙隱天樹、疑入歡喜之園[111]。不求床坐、來夜漏將竭、聽鳴鍾於寺內[112]、曉相既分、見承露於雲表[113]。來會之衆何憂[114]。自然飮食、持鉢之侶奚念[115]。粤以開皇六年歲次鶉火[116]、莊

嚴粗就。庶使△皇隋寶祚、與天長而地久[117]、種覺花臺、將神護而鬼衞[118]。

乃爲詞曰、

多羅祕藏、毗尼覺道[119]、斯文不滅、憑於大造[120]。誰薫種智、誰壞煩惱[121]。猗歟我△皇、實弘三寶[122]。慧燈翻照、法炬還明[123]、菩提果殖、救護心生[124]。香樓並構、貝塔倶營[125]、充遍世界、弥滿國城[126]。憬彼大林、當途向術[127]。於穆州后、仁風遐拂[128]。金粟施僧、珠纓奉佛[129]、結瑤葺宇、構瓊起室[130]。鳳甍槩日、虹梁入雲[131]、電飛窓戸、雷驚橑棼[132]。綺籠金鏤、縹壁椒薫[133]、綈錦亂色、丹素成文[134]。髣髴雪宮、依稀月殿[135]、明室結幌、幽堂啓扇[136]。臥虎未窺、跧龍誰見[137]、帶風蕭瑟、含烟葱蒨[138]。西臨天井、北拒吾臺[139]、川谷苞異、山林育材[140]。蕪秦説反、樂毅奔來[141]、鄒・魯媿俗、汝・潁慙能[142]。惟此大城、瓌異所踐[143]、踈鍾響度、層磐露泫[144]。八聖、四禪、五通、七辯[145]、戒香恆馥、法輪常轉[146]。△△△開皇六年十二月五日題寫。

齊開府長兼行參軍九門張公禮之□[147]

【語注】

（1）**空王之道、離諸名相**

・**空王**＝［後秦］鳩摩羅什譯『妙法蓮華經』卷四　授學無學人記品「爾時會中新發意菩薩八千人、咸作是念、『我等尚不聞諸大菩薩得如是記、有何因縁而諸聲聞得如是決』。爾時世尊知諸菩薩心之所念、而告之曰、『諸善男子。我與阿難等、於**空王佛**所、同時發阿耨多羅三藐三菩提心。阿難常樂多聞、我常勤精進、是故我已得成阿耨多羅三藐三菩提、而阿難護持我法、亦護將來諸佛法藏、教化成就諸菩薩衆、其本願如是、故獲斯記』」（大正九・二九下～三〇上）。［隋］吉藏『法華義疏』卷九「**空王佛**者、畢竟空是諸**空中之王**、故『智度論』云『性空、菩薩所行。畢竟空、是佛所行』、釋迦・阿難同以畢竟空爲本、故言倶於**空王佛**所發菩提心。釋迦發心已後、懃習畢竟空、故自成佛。阿難多聞故以爲侍者、師及弟子同起畢竟空、記與不記何所疑耶」（大正三四・五八三中）。

・**離諸名相**＝鳩摩羅什譯『大智度論』卷八四「今菩薩知一切法名相等空、則離世閒顚倒、亦知名相空、亦**離名相**空。如是離有離無、處中道、能度衆生。佛意、菩薩行是中道般若、得一切種智」（大正二五・六四八下）。［南朝宋］求那跋陀羅譯『楞伽阿跋多羅寶經』一切佛語心品「云何成自性。謂**離名相**・事相・妄想、聖智所得、及自覺聖智趣所行境界、是名成自性如來藏心」（大正一六・四八七下）。

（2）**大人之法、非有去來**

・**大人之法**＝『周易』乾卦「九二。見龍在田、利見**大人**」。［西晉］竺法護譯『正法華經』卷八　御福事品「如能仁世尊、釋師子**大人**、坐於佛樹下、而演師子吼」（大正九・一一六下）。［三國吳］支謙譯『菩薩本緣經』卷二　月光王品「汝等當知、我今以此不堅之身易彼堅身、不堅之財貿易堅財、不堅之命貿易堅命。如我先時常爲汝說**大人之法**、今正是時、亦常勸汝向於正法、閉塞諸惡、開諸善門、於菩提中種諸善根、薄諸煩惱、漸解家繫、如我所得、如是功德、汝亦當得」（大正三・六四上）。鳩摩羅什譯『十住毘婆沙論』卷一三　分別二地業道品「菩薩何故作如是方便。菩薩爲得大心、而作是念、『**大人**樂大利益故、不存小利』。是故我今當求**大人之法**、隨而修學。應如是勤加精進、爲大利益、所謂諸禪定神通、滅苦解脫等」（大正二

六・九四下）。

・**非有去來**＝［梁］僧伽婆羅譯『文殊師利所說般若波羅蜜經』「般若波羅蜜畢竟空故。畢竟空中無一無二無三無四、**無有去來**、不可思議」（大正八・七三五下）。［北涼］曇無讖譯『大方等無想經』卷五　大雲初分增長健度「世尊。如來法身、不名食身、其義云何。法身無像、不可覩見、云何而得敎化衆生。如來常於諸經中說、如鳥飛空、無有足跡。如來法身亦復如是、**無有去來**、無轉、無說、不可破壞」（大正一二・一一〇三上中）。

（3）**斯故將喩師子、明自在如無畏**

・**將喩師子**＝『大智度論』卷七「**佛**爲人中**師子**、佛所坐處若床若地、皆名**師子**座。譬如今者國王坐處、亦名**師子**座」（大正二五・一一一中）。

・**自在如無畏**＝［後秦］佛陀耶舍・竺佛念譯『長阿含經』卷一六　倮形梵志經「所謂師子者、是如來・至眞・等正覺、如來於大衆中廣說法時、**自在無畏**、故號**師子**」（大正一・一〇四中）。『王篇』卷三　女部　如「而也」。

（4）**取譬金剛、信畢竟而不毀**

・**金剛**＝曇無讖譯『大般涅槃經』卷一六　梵行品「云何爲知。知諸如來定不畢竟入於涅槃、知**如來身金剛無壞**、非是煩惱所成就身、又非臭穢腐敗之身、亦復能知一切衆生悉有佛性、是名爲知」（大正一二・四六二上中）。

・**信**＝『春秋左氏傳』定公八年傳「王孫賈趨進曰、盟以信禮也」。杜預注「信猶明也」。『呂氏春秋』禁塞「上稱三皇・五帝之業、以愉其意。下稱五伯名士之謀、以**信**其事」。高誘注「**信**、明也」。

・**畢竟而不毀**＝曇無讖譯『大方等大集經』卷二五　寶髻菩薩品「菩薩摩訶薩具十二慧。一者、知過去無礙。二者、知未來無礙。三者、知現在無礙。四者、知有爲無礙。五者、知無爲無礙。六者、知一切世作無礙。七者、知出世無礙。八者、知辯才無礙。九者、知實無礙。十者、知世諦無礙。十一者、知第一義諦無礙。十二者、知諸衆生利鈍無礙、是名爲慧。難破能破、難觀能觀、難解能解、譬如**金剛不可沮壞**、是名出世之慧、**畢竟**慧、一切衆生眞解心慧」（大正一三・一七六上中）。

（5）**是知涅槃路遠、解脫源深**

・**涅槃路**＝［南朝宋］求那跋陀羅譯『過去現在因果經』卷三「爾時如來、心自思惟、『八正聖道、是三世諸佛之所履行、趣**般涅槃路**。我今已踐、智慧通達、無所罣礙』」（大正三・六四二中）。

（6）**隔愛慾之長河、閒生死之大海**

・**愛慾之長河**＝竺法護譯『修行道地經』卷四　空品「譬如合集草木桄、山川江河漂之壞、**愛欲之河**急如是、意念于寂則向空」（大正一五・二〇五下）。

・**生死之大海**＝曇無讖譯『佛所行讚』卷三「衆生悉漂沒**生死之大海**、爲脩智慧舟、云何欲令沒」（大正四・二六中）。曇無讖譯『大般涅槃經』卷九　如來性品「譬如有人、不遇風王、久住大海、作是思惟、『我等今者必在此死』。如是念時、忽遇利風、隨順渡海、復作是言、『快哉、是風、未曾有也。令我等輩、安隱得過大海之難』。衆生如是、久處愚癡**生死大海**、困苦窮悴、未遇如是大涅槃風、則應生念『我等必定墮於地獄、畜生、餓鬼』。是諸衆生思惟

是時、忽遇大乘大涅槃風、隨順吹向、入於阿耨多羅三藐三菩提、方知眞實、生奇特想」（大正一二・四二一上）。

（7）**無船求度、既似龜毛**

・**無船求度**＝『大智度論』卷一三「復次、譬如無足欲行、**無翅欲飛**、**無船**欲[*1]**渡**、是不可得。若無戒欲得[*2]好果、亦復如是」（大正二五・一五三中）。

＊1「欲」＝「**求**」宮（宮內廳）・宋（思溪藏）・石（石山寺）。

＊2「得」＝「求」宮・宋・石。

・**龜毛**＝『大智度論』卷一「說一切有道人輩言、『神人、一切種、一切時、一切法門中求不可得、譬如**兔角・龜毛**常無。復次十八界、十二入、五衆實有、而此中無人』。更有佛法中方廣道人言、『一切法不生不滅、空無所有、譬如**兔角・龜毛**常無』」（大正二五・六一上中）。『大智度論』卷一二「名有二種、有實、有不實。不實名、如有一草名朱利（朱利、秦言賊也）、草亦不盜不劫、實非賊而名爲賊。又如**兔角**、**龜毛**、亦但有名而無實。疊雖不如**兔角・龜毛**無、然因緣會故有、因緣散故無」（大正二五・一四七中）。『成實論』卷二 一切有無品「論者言、『有人說一切法有、或說一切法無』。問曰、『何因緣故說有。何因緣故言無』。答曰、『有者、佛說十二入名爲一切、是一切有。地等諸陀羅驃、數等諸求那、擧下等諸業、總相・別相・和合等法、及波居帝本性等、及世閒事中**兔角・龜毛**・蛇足・鹽香・風色等、是名無』」（大正三二・二五六上）。［南齊］祖沖之『述異記』（『太平御覽』卷九〇七）「殷紂之時、**大龜生毛**、**兔生角**、兵甲中興之兆也」。

（8）**無翅願飛、還同兔角**

・**無翅欲飛**＝注（7）「無船求度」注參照。

・**兔角**＝注（7）「龜毛」參照。

（9）**故以五通・八解、名教攸生**

・**五通**＝五神通。鳩摩羅什譯『摩訶般若波羅蜜經』卷二三 三次品「我本行菩薩道、修六波羅蜜、離諸欲、離惡不善法、有覺有觀、離生喜樂、入初禪乃至入第四禪。於是諸禪及支不取相、不念有是禪、不受禪味、不得是禪、無染清淨行四禪、我於是諸禪不受果報。依四禪住、起**五神通**――**身通**、**天耳**、**知他人心**、**宿命通**、**天眼**」（大正八・三八四上）。鳩摩羅什譯『維摩詰所說經』佛道品「**八解**之浴池、定水湛然滿、布以七淨華、浴此無垢人。象馬**五通**馳、大乘以爲車、調御以一心、遊於八正路」（大正一四・五四九下）。

・**八解**＝八解脫・八背捨。『長阿含經』卷九 十上經「云何八證法。謂**八解脫**。色觀色、一解脫。內有（「有」＝「無」宋）色想觀外色、二解脫。淨解脫、三解脫。度色想、滅瞋恚想、住空處、四解脫。度空處、住識處、五解脫。度識處、住不用處、六解脫。度不用處、住有想無想處、七解脫。度有想無想處、住想知滅、八解脫」（大正一・五六上）、［北涼］浮陀跋摩共道泰等譯『阿毘曇毘婆沙論』卷四三 使犍度十門品「**八解脫**。觀色是色、是初解脫。內無色想觀外色、是第二解脫。淨解脫身作證得成就、是第三解脫。過一切色想滅有對想、無種種想思惟、入無邊空處、是第四解脫。過一切空處、入無邊識處、是第五解脫。過一切識處、入無所有處、是第六解脫。過一切無所有處、入非想非非想處、是第七解脫。過一切非想非非想處、入

滅受想身作證得成就、是第八解脱」（大正二八・三二七中下）。編者未詳『注維摩詰經』卷七 佛道品「【經】**八解**之浴池。【注】〔竺道〕生曰、八、以擬八方也。**解脱**者、除垢懷也。故有浴池義焉」（大正三八・三九四上）。

・**名教**＝『肇論』慧達序「歴代古今、凡著名僧傳及傳所不載者、釋僧叡等三千餘僧、淸信檀越謝靈運等八百許人、至能辯正方言、節文階級、善覈**名教**、精搜義理」（大正四五・一五〇上中）。

⑽ **二諦・三乘、法門斯起**

・**二諦**＝究極の眞理である眞諦（第一義諦）と、世俗における眞理である俗諦（世諦）。曇無讖譯『大般涅槃經』聖行品「善男子、有善方便、隨順衆生、說有**二諦**。善男子、若隨言說則有二種。一者世法、二者出世法。善男子、如出世人之所知者、名**第一義諦**。世人知者、名爲**世諦**。善男子、五陰和合、稱言某甲、凡夫衆生隨其所稱、是名**世諦**。解陰無有某甲名字、離陰亦無某甲名字、出世之人如其性相、而能知之、名**第一義諦**。復次善男子、或復有法有名有實、或復有法有名無實。善男子、有名無實者卽是**世諦**。有名有實者是**第一義諦**。善男子、如我、衆生、壽命、知見、養育、丈夫、作者、受者、熱時之炎、乾闥婆城、龜毛兔角、旋火之輪、諸陰界入、是名**世諦**。苦集滅道名**第一義諦**」（大正一二・四四三上）。〔梁〕昭明太子「令旨解二諦義」（『廣弘明集』卷二一）「**二諦**理實深玄。自非虛懷、無以通其弘遠。明道之方、其由非一。舉要論之、不出境智。或時以境明義、或時以智顯行。至於**二諦**、卽是就境明義。若迷其方、三有不絶。若達其致、萬纍斯遣。所言**二諦**者、一是**眞諦**、二名**俗諦**。**眞諦**亦名**第一義諦**。**俗諦**亦名**世諦**。**眞諦・俗諦**以定體立名。**第一義諦・世諦**以褒貶立目。若以次第言說、應云一**眞諦**、二**俗諦**。一與二合、數則爲三。非直數過於二、亦名有前後。於義非便。眞旣不因俗而有、俗亦不由眞而生。正可得言一眞一俗。眞者是實義。卽是平等更無異法。能爲雜閒。俗者卽是集義。此法得生、浮僞起作。第一義者、就無生境中別立美名。言此法最勝最妙、無能及者。世者以隔別爲義。生滅流動、無有住相。『涅槃經』言。出世人所知名**第一義諦**。世人所知名爲**世諦**。此卽文證褒貶之理」（大正五二・二四七下）。

・**三乘**＝聲聞乘・辟支佛乘（緣覺乘）・大乘（菩薩乘）。『妙法蓮華經』譬喩品「舍利弗。若有衆生內有智性、從佛世尊聞法信受、慇懃精進、欲速出三界、自求涅槃、是名**聲聞乘**、如彼諸子爲求羊車出於火宅。若有衆生從佛世尊聞法信受、慇懃精進、求自然慧、樂獨善寂、深知諸法因緣、是名**辟支佛乘**、如彼諸子爲求鹿車出於火宅。若有衆生從佛世尊聞法信受、勤修精進、求一切智、佛智、自然智、無師智、如來知見、力、無所畏、愍念、安樂無量衆生、利益天人、度脫一切、是名**大乘**。菩薩求此乘故、名爲摩訶薩、如彼諸子爲求牛車、出於火宅」（大正九・一三中）。

⑾ **撿麤攝細、良資汲引之風**

・**撿**＝檢。〔後漢〕仲長統『昌言』「人之性、有山峙淵停者、患在不通。嚴剛貶絶者、患在傷士。廣大闊蕩者、患在無**檢**」。

・**撿麤攝細**＝「**麤**」の碑字形は「麁」。『大智度論』卷一四

「復次、戒爲**撿麁**、禪爲**攝細**。復次、戒攝身口、禪止亂心。如人上屋、非梯不昇、不得戒梯、禪亦不立。復次、破戒之人、結使風强、散亂其心。其心散亂、則禪不可得。持戒之人、煩惱風軟、心不大散、禪定易得」（大正二五・一六三中）。

・**汲引**＝『漢書』卷三六　劉向傳「昔孔子與顏淵・子貢更相稱譽、不爲朋黨。禹・稷與皐陶傳相**汲引**、不爲比周。何則。忠於爲國、無邪心也」。『鳩摩羅什法師大義』卷一「或言、得無生法忍菩薩有二。一者得五神通。二者六神通。……具六神通者、所作已辦、自利已足。如阿羅漢・辟支佛、無復異也。此身盡已、更不受生。但以本願大悲力故、應化之身相續不絕、度衆生已、自然成佛。所度既畢、自然而滅。先是實滅、以**汲引**衆生故、變化其身、令復示其都滅」（大正四五・一二四上）。［南齊］沈約「齊竟陵王發講疏（幷頌）」（『廣弘明集』卷一九）「大矣哉妙覺之爲妙也。無相非色、空不可極、而立言垂訓、以**汲引**爲方」（大正五二・二三二中）。［唐］彥悰『唐護法沙門法琳別傳』卷中　貞觀十一年正月太宗詔「老君垂範、義在於淸虛、釋迦貽訓、理存於因果。論其敎也、**汲引**之迹殊途、求其宗也、弘益之風齊致」（大正五〇・二〇三下）。

⑿ 挽滿陷深、雅得脩行之致

・**挽滿**＝『後漢書』列傳二四　梁冀傳「性嗜酒、能**挽滿**、彈棊、格五、六博、蹴鞠、意錢之戲」。李賢注「**挽滿**、猶引强也」。『大智度論』卷一四「復次、持戒之法、譬如人射、先得平地、地平然後心安、心安然後**挽滿**、**挽滿**然後**陷深**。戒爲平地、定意爲弓、**挽滿**爲精進、箭爲智慧、賊是無明。若能如是展力精進、必至大道、以度衆生」（大正二五・一六三上）。

・**陷深**＝陷は「突き刺す」の意味。『韓非子』難一「吾楯之堅、物莫能**陷**也」。前引『大智度論』も參照。

⒀ **若論乾闥之城皆妄、芭蕉之樹盡空**

・**乾闥之城皆妄**＝『大智度論』卷六「「如**揵闥婆城**」者、日初出時、見城門・樓櫓・宮殿・行人出入、日轉高轉滅、此城但可眼見而無有實、是名**揵闥婆城**」（大正二五・一〇三中）。『大智度論』卷六「復次、一切聲聞法中、無**揵闥婆城**喩、有種種餘無常喩──『色如聚沫、受如泡、想如野馬、行如芭蕉、識如幻』、及『幻網經』中空譬喩。以是**揵闥婆城**喩異故、此中說。問曰、『聲聞法中以城喩身、此中何以說**揵闥婆城**喩』。答曰、『聲聞法中城喩衆緣實有、但城是假名。**揵闥婆城**衆緣亦無、如旋火輪、但惑人目。聲聞法中爲破吾我故、以城爲喩。此中菩薩利根深入諸法空中故、以**揵闥婆城**爲喩。以是故說「如**揵闥婆城**」』」（大正二五・一〇三中）。

・**芭蕉之樹盡空**＝［前秦］曇摩難提譯『增壹阿含經』卷二七邪聚品「多耆奢白佛言、『色者無牢、亦不堅固、不可覩見、幻僞不眞。痛者無牢、亦不堅固、亦如水上泡、幻僞不眞。想者無牢、亦不堅固、幻僞不眞、亦如野馬。行亦無牢、亦不堅固、亦如**芭蕉之樹**、而無有實。識者無牢、亦不堅固、幻僞不眞』。重白佛言、『此五盛陰無牢、亦不堅固、幻僞不眞』」（大正二・七〇一中）。『成實論』卷一二滅法心品「又『水沫經』中佛說、若人見水聚沫、諦觀察之知非眞實。比丘亦爾、若正觀色陰、卽知虛誑無牢無堅

敗壞之相。觀受如泡、想如野馬、行如**芭蕉**、識如幻、亦復如是。此中五喩**皆示空義**」（大正三二・三三三中下）。

（14）**應化詎眞、權假寧實**

・**應化詎眞**＝［東魏］菩提流支譯『金剛仙論』卷三「『**應化非眞佛**』者、正釋經中『無有定法如來得三菩提』也、明釋迦如來從感故有八相成道。言『佛』者、是**應化**佛。『**非眞佛**』者、非是法・報二種眞佛也。『亦非說法者』、此釋經中『無有定法如來可說』也。上云、應佛不證菩提、此句云應佛既不證菩提亦不說也」（大正二五・八一九中）。

・**權假寧實**＝［梁］法雲『法華經義記』卷二「權者是**權假**暫時之謂、非是久長之義」。但此方便智及權智受名不同、今言方便智者此是當體受名、則明聖人智有善巧之能也。**權智**者此從境得名。何以知之。正明前境權、借昔三乘等境、須臾轉成一乘、是故**權假不實**、然智照此**權假**之境、今擧境目智、故名爲權也。又此方便智及權智、義勢之中互得相成、若擧權境卽得顯聖有善巧之能、若擧善巧之智、卽顯成**權假**之境也」（大正三三・五九二中下）。

（15）**釋迦文非說法之佛、須菩提豈證果之人**

・**釋迦文非說法之佛**＝［北魏］菩提流支譯『金剛般若波羅蜜經論』卷上「論曰、以是義故、**釋迦牟尼佛非佛**、**亦非說法**。此義云何。偈言、『應化非眞佛、亦非說法者、說法不二取、無說離言相』。此義云何。佛有三種。一者法身佛。二者報佛。三者化佛。又釋迦牟尼名爲佛者、此是化佛、此佛不證阿耨多羅三藐三菩提、亦不說法。如經「無有定法如來得阿耨多羅三藐三菩提、亦無有定法如來可說」。若爾、何故經言『何以故。如來所說法、皆不可取、不可說』如是等。有人謗言、如來一向不說法。爲遮此故、偈言『應化非眞佛、亦**非說法者**』故。『說法不二取、無說離言相』者、聽者不取法、不取非法故。說者亦不二說、法非法故。何以故。彼法非法非非法、依何義說。依眞如義說。非法者、一切法無體相故。非非法者、彼眞如無我相實有故。何故唯言說、不言證。有言說者卽成證義故。若不證者、則不能說。如經『何以故。一切聖人皆以無爲法得名』。此句明何義。彼法是說因故。何以故。一切聖人依眞如法清淨得名、以無爲法得名故。以此義故、彼聖人說彼無爲法。復以何義。如彼聖人所證法、不可如是說、何況如是取。何以故。彼法遠離言語相、非可說事故。何故不但言佛、乃說一切聖人。以一切聖人依眞如清淨得名故、如是具足清淨、如分清淨故」（大正二五・七八四中下）。

・**須菩提豈證果之人**＝『金剛般若波羅蜜經論』卷上「彼於證時、離取我等煩惱、是故**無如是心我能得果**。何故尊者**須菩提**、自歎身得受記、以自身**證果**。爲於彼義中生信心故」（大正二五・七八五下）。『金剛仙論』卷四「『於意云何。須陀洹能作是念、我得須陀洹果不』者、如來問『須菩提、於汝意云何、須陀洹等既得無我之解、斷身見・戒取、疑證聖果時、猶能作念分別我能得須陀洹果不』。故須菩提答言『不』也、卽釋云、『何以故不也、以實無有法名須陀洹』、明須陀洹等於證果時得無我之解、於假名衆生及五陰法、泯然一空、無所分別、乃至六塵亦空。於此衆生五陰內法中、不見一法定實可名須陀洹等、於六塵境界中亦不見一法是可取故、**不作是念『我得須陀洹等果也』**」（大正二五・八二三中）。

(16) **然則習因之指安歸、求道之趣奚向**

・**習因**＝『金剛仙論』卷九「然此經教音聲之性、證法中無念念生滅、無有習因增長之義、體是無記、非爲善法故。受持經敎不能發生三慧之善、不生三慧善故無有因義、既無因義則不證菩提。那得道言一切善法得阿耨三菩提也。故千須彌七寶布施勝福譬喩以答此疑、明此般若一偈經教從證法中來、非是無記而能詮於法身。若依經修行因緣、能顯性證果、得大菩提、勝於三千須彌珍寶布施之福不可算數故」(大正二五・八六〇上中)。

・**求道**＝『摩訶般若波羅蜜經』卷一六　大如品「佛說求道者有三種。阿羅漢道、辟支佛道、佛道。是三種爲無分別。如須菩提說、獨有一菩薩摩訶薩求佛道」(大正八・三三七下)。

(17) **如幻如夢、誰其受苦、如影如響、誰其得福**

・**如幻如夢**＝『摩訶般若波羅蜜經』卷八　幻聽品「諸天子語須菩提、『是衆生如幻、聽法者亦如幻、衆生如化、聽法者亦如化耶』。『如是、如是、諸天子。衆生如幻、聽法者亦如幻、衆生如化、聽法者亦如化。諸天子。我如幻如夢、衆生乃至知者、見者亦如幻如夢。諸天子。色如幻如夢、受想行識如幻如夢、眼乃至意觸因緣生受如幻如夢。內空乃至無法有法空、檀那波羅蜜乃至般若波羅蜜、如幻如夢。諸天子。四念處乃至十八不共法如幻如夢、須陀洹果如幻如夢、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支佛道、如幻如夢。諸天子。佛道如幻如夢』。爾時諸天子問須菩提『汝說佛道如幻如夢、汝說涅槃亦復如幻如夢耶』。須菩提語諸天子、『我說佛道如幻如夢、我說涅槃亦如幻如夢。若當有法勝於涅槃者、我說亦復如幻如夢。何以故。諸天子、是幻夢・涅槃不二不別』」(大正八・二七六上中)。

・**如影如響**＝『摩訶般若波羅蜜經』卷一二　無作品「爾時釋提桓因問須菩提、『云何菩薩摩訶薩行般若波羅蜜、知見諸法如夢、如焰、如影、如響、如幻、如化。諸菩薩摩訶薩如所知見故、不念夢、不念是夢、不念用夢、不念我夢、焰、影、響、幻、化亦如是』」(大正八・三〇九下)。

(18) **是故維摩詰具諸佛智、燈王之坐斯來。**

・**燈王之坐**＝『維摩詰所說經』不思議品「爾時、長者維摩詰問文殊師利『仁者遊於無量千萬億阿僧祇國、何等佛土有好上妙功德成就師子之座』。文殊師利言『居士。東方度三十六恆河沙國、有世界名須彌相、其佛號須彌燈王、今現在。彼佛身長八萬四千由旬、其師子座高八萬四千由旬、嚴飾第一。於是長者維摩詰現神通力、卽時彼佛遣三萬二千師子座、高廣嚴淨、來入維摩詰室、諸菩薩、大弟子、釋、梵、四天王等、昔所未見。其室廣博、悉皆包容三萬二千師子座、無所妨礙。於毘耶離城及閻浮提、四天下、亦不迫迮、悉見如故』」(大正一四・五四六上中)。

(19) **舍利弗盡其神通、天女之花不去**

・**天女之花不去**＝『維摩詰所說經』觀衆生品「時維摩詰室有一天女、見諸大人聞所說法、便現其身、卽以天華散諸菩薩・大弟子上。華至諸菩薩、卽皆墮落、至大弟子、便著不墮。一切弟子神力去華、不能令去。爾時天女問舍利弗、『何故去華』。答曰、『此華不如法、是以去之』。天曰、『勿謂此華爲不如法。所以者何。是華無所分別、仁者自生分別想耳。若於佛法出家、有所分別、爲不如法。若無

所分別、是則如法。觀諸菩薩華不著者、已斷一切分別想故』」（大正一四・五四七下～五四八上）。

⒇ **詳其是非得失、安可同日而論哉**

・**安可同日而論哉**＝『史記』巻六九　蘇秦列傳「夫破人之與破於人也、臣人之與臣於人也、**豈可同日而論哉**」。

㉑ **往者四魔毀聖、六師謗法**

ここでは道士が佛教を誹謗し、北周の武帝が廢佛政策を實行したことを、四魔や六師外道という隱喩を使い表現している。

・**四魔**＝『大智度論』巻五六「如經說**魔有四種**。**一者**、**煩惱魔**、**二者**、**五衆魔**、**三者**、**死魔**、**四者**、**自在天子魔**。此中以般若力故、**四魔**不能得便。得諸法實相、煩惱斷、則壞煩惱魔、天魔亦不能得其便。入無餘涅槃故、則壞五衆魔及死魔。云何爲得便。魔及魔民來恐怖菩薩、如經中說、魔作龍身、種種異形可畏之象、夜來恐怖行者。或現上妙五欲、壞亂菩薩。或轉世閒人心、令作大供養、行者貪著供養故、則失道德。或轉人心令輕惱菩薩、或罵、或打、或傷、或害、行者遭苦、或生瞋恚憂愁。如是等、魔隨前人意所趣向、因而壞之、是名得便。如〈魔品〉中廣說」（大正二五・四五八下）。『大智度論』巻六三「魔有四種。五衆魔、煩惱魔、死魔、自在天子魔。**四魔**中多煩惱魔、自在天子魔故、令不信般若。自貪著法、憎嫉他法、愚癡顚倒故、能破般若波羅蜜。有人言、初因緣、煩惱魔。後第四、自在天子魔。是二種魔所使、故名爲魔所使」（大正二五・五〇三下～五〇四上）。

・**毀聖**＝［三國吳］康僧會譯『六度集經』巻一　布施度無極章「商人覩其所得白珠、光耀絕衆、貪爲尤惡、**毀聖**殘仁、共排仙歎、投之于井。菩薩仁德、感神動祇、天神接承、令不毀・傷」（大正三・三下）。『大智度論』巻二四「佛天眼淨、過諸天人眼、見衆生死時・生時、端正、醜陋、若大、若小、若墮惡道、若墮善道、如是業因緣受報。是諸衆生惡身業成就、惡口業成就、惡意業成就、**謗毀聖人**、邪見、邪見業成就。是因緣故、身壞死時入惡道、生地獄中」（大正二五・二三六上）。（傳）僧肇『金剛般若波羅蜜經注』「【經】何以故。若人言如來有所說法、卽爲謗佛、不能解我所說故。【注】謬傳**毀聖**、名爲謗佛」（新續二四・四〇三中／卍續（新文豐）三八・四三二上）。

・**六師**＝六師外道。釋迦とほぼ同時代に釋迦と異なる教義を說いた六人の思想家。

①プーラナ カッサパ（Pāli: Pūraṇa Kassapa, 漢譯：富蘭那迦葉）。善惡の業報を信じない道德否定論者。

②マッカリ ゴーサーラ（Pāli: Makkhali Gosāla, 漢譯：末伽利拘賖梨子）。衆生の苦樂に因緣はなく自然であるとする。

③サンジャヤ ベーラッティプッタ（Pāli: Sañjaya Belaṭṭhiputta, 漢譯：刪闍夜毘羅眂子）。形而上學的問題について確定的な解答を避けた懷疑論者。

④アジタ ケーサカンバラ（Pāli: Ajita Kesakambala, 漢譯：阿耆多翅舍欽婆羅）。地水火風の四元素のみが實在であると說き輪廻業報を否定する唯物論者。

⑤パクダ カッチャーヤナ（Pāli: Pakudha Kaccāyana, 漢譯：迦羅鳩駄迦旃延）。地・水・火・風・苦・樂・生命の七

要素から構成されると說く。

⑥ニガンタ ナータプッタ（Pāli: Nigaṇṭha Nātaputta, 漢譯：尼犍陀若提子）。ジャイナ敎の開祖。

法顯譯『大般涅槃經』卷下「須跋陀羅卽問佛言、『今者世閒沙門婆羅門**外道六師**、**富蘭那迦葉**、**末伽利拘賒梨子**、**刪闍夜毘羅眡子**、**阿耆多翅舍欽婆羅**、**迦羅鳩馱迦旃延**、**尼犍陀若提子**等、各各自說、是一切智、以餘學者、名爲邪見、言其所行、是解脫道、說他行者、是生死因』」（大正一四・二〇三下～二〇四上）。『維摩詰所說經』弟子品「**富蘭那迦葉**、**末伽梨拘賒梨子**、**刪闍夜毘羅胝子**、**阿耆多翅舍欽婆羅**、**迦羅鳩馱迦旃延**、**尼犍陀若提子**等、是汝之師、因其出家、彼師所墮、汝亦隨墮、乃可取食」（大正一四・五四〇中下）。この箇所の注釋である『注維摩詰經』卷三（大正三八・三五〇下～三五一上）には、この六師外道の說明有り。

・**謗法**＝誹謗正法。堅意菩薩造、［北涼］道泰等譯『入大乘論』卷下 順修諸行品「若有衆生**誹謗正法**、如『般若經』及『法花』中廣說其**謗法**過逆罪。若能受持信解大乘、乃至五無閒等皆悉消盡」（大正三二・四九上中）。

（22）**拔髮翅足、變象呑麻**

・**拔髮**＝『大智度論』卷一「外道出家人法、五熱中一腳立、**拔髮**等、尼犍子輩以爲妙慧、餘人說此爲癡法。如是等種種外道出家、白衣婆羅門法、各各自以爲好、餘皆妄語」（大正二五・六一上）。

・**翅足**＝『大智度論』卷七「有外道輩、或常**翅足**求道、或常立、或荷足。如是狂狷、心沒邪海、形不安隱。以是故、佛敎弟子結加趺直身坐」（大正二五・一一一中）。［後秦］竺佛念譯『出曜經』卷一三 沙門品「無欲如梵者、思惟斷欲、猶如梵志晝夜精勤、勞形苦體、曝露屍骸、日夜**翅足**、仰事日月、願生梵天、受彼天福、爲梵豪尊、便於此閒、專精一意、思惟斷欲、修淸淨行。是故說『無欲如梵』也」（大正四・六七八上）。

・**變象**＝『淮南子』氾論訓「天下之怪物、聖人之所獨見。利害之反覆、知者之所獨明達也。同異嫌疑者、世俗之所眩惑也。夫見不可布於海內、聞不可明於百姓、是故因鬼神禨祥而爲之立禁、總形推類而爲之**變象**」。［唐］道宣『續高僧傳』卷一〇 淨願傳「會文帝造塔、敕遣送舍利于潭州之麓山寺。初至州治、度湘西岸。將及山所、忽有奇鳥。數萬爲群、五色相翻。飛浮水上、行次向船。似相迎引。及至舍利、還飛向前。往還迅速。衆莫不怪。及登岸上、鳥便行望。相從飛空、同至塔所。識者以爲山神眷屬之**變象**故也」（大正五〇・五〇四下）。

・**呑麻**＝『大智度論』卷三八「諸外道等信著苦行、若佛不六年苦行、則人不信、言『是王子串樂、不能苦行』、以是故佛六年苦行。有外道苦行者、或三月、半歲、一歲、無能六年日**食**一**麻**一米者。諸外道謂此爲苦行之極、是人若言無道、眞無道也。於是信受、皆入正道」（大正二五・三四一中）。

（23）**李園之內、結其惡黨**

・**李園**＝［梁］任昉『述異記』「房陵定山有朱仲**李園**三十六所」。［西晉］潘岳「閒居賦」（『文選』卷一六）「周文弱枝之棗、房陵朱仲之**李**、靡不畢殖」。ここでは老子の姓が

李であることと關連付けていると考えられ、惡黨とは道教徒を指すか。

・**惡黨**＝『魏書』卷一八　廣陽王元建傳附元深傳「今六鎭俱叛、二部高車、亦同惡黨、以疲兵討之、不必制敵」。［北魏］慧覺等譯『賢愚經』卷二　降六師品「國有六師富蘭那等、先素出世、邪見倒說、誑惑民庶。迷冥之徒信服邪敎、衆類廣布、惡黨遍滿」（大正四・三六〇下）。［北齊］那連提黎耶舍譯、［隋］僧就合『大方等大集經』月藏分法滅盡品「彼旃陀羅王、謫罰惡比丘、毀壞三世佛、二種淨法身、煩惱瘡深重、難得值諸佛。諸天皆捨離、彼旃陀羅王、如是國土壞、法眼當散滅。諸天捨離故、如是國土壞、三種精氣滅、毀滅天宮殿、白法善朋少、黑法惡黨增、於彼濁惡世、無有明智人」（大正一三・三七六中）。

(24) **竹林之下、亡其善聚**

・**竹林**＝竹林精舍と竹林の七賢をかけた表現か。［東晉］瞿曇僧伽提婆譯『中阿含經』卷二七法品　七車經「一時、佛遊王舍城、在竹林精舍、與大比丘衆共受夏坐、尊者滿慈子亦於生地受夏坐。是時、生地諸比丘受夏坐訖、過三月已、補治衣竟、攝衣持鉢、從生地出、向王舍城、展轉進前、至王舍城、住王舍城竹林精舍」（大正一・四二九下～四三〇上）。［南朝宋］劉義慶『世說新語』品藻「謝遏諸人共道竹林優劣、謝公云、『先輩初不臧貶七賢』」。

・**善聚**＝『出曜經』卷二〇　恚品「不與愚者集、以類相從、善入善聚、惡入惡友、善者聞惡、見則避之、惡者聞善、便欲毀蔑、諸佛賢聖及諸得道者、歎說不鬬諍之德、是故說、不與愚者集」（大正四・七一五上）。

(25) **護戒比丘、翻同雹草**

・**護戒比丘**＝［東晉］佛陀跋陀羅譯『達摩多羅禪經』卷下修行觀入「譬如犛牛護尾、一毛著樹、守樹而死、不令毛斷。比丘護戒、亦復如是、一微之戒、守死不犯、妙相嚴身、衆好具足、猶如秋月停照虛空」（大正一五・三二二上）。

・**雹草**＝『大智度論』卷四三「以無相相破善法、無相亦自破。所以者何。無相、善法所攝故。譬如雹墮害穀、雹自消滅」（大正二五・三七二上）。曇無讖譯『大般涅槃經』卷一壽命品「若有異學憎嫉大乘、勢能摧滅如雹摧草。護持戒行威儀具足、善能隨順一切世間」（大正五〇・三六八中）。吉藏『法華玄論』卷二「問。若心有所依既稱有所縛、情無所寄、還復染無、其猶逃峰趣壑、俱不免於患難。故下經云、『若有若無見、具足六十二』。答。誠如所問。前爲借無以出有、有病既息、無亦不留。『釋論』云、『如霜雹草死、草死而雹消』。若能遠離二邊、乃稱妙悟也」（大正三四・三八一下）。吉藏『中觀論疏』卷二本「師（＝大朗法師）又云、凡有所說皆爲息病。病息則語盡如雹摧草、草死而雹消」（大正四二・二七中）。

(26) **持律□□、忽等霜蓮**

・**持律□□**＝□□は「沙門」などの語が想定される。『出三藏記集』卷一一　關中近出尼二種壇文夏坐雜十二事幷雜事共卷前中後三記「初受十戒時、索二女師、當使持律沙門授戒、乃付女師、令敎道之」（大正五五・八二上）。

・**霜蓮**＝『大智度論』卷一三「破戒之人、如霜蓮花、人不喜見」（大正二五・一五四中）。

(27) **慧殿・仙宮、寂寥安在**

・**慧殿**＝曇無讖譯『大般涅槃經』卷八 如來性品「精進勇健者、若處於山頂、平地及曠野、常見諸凡夫。昇**大智慧殿**、無上微妙臺、旣自除憂患、亦見衆生憂。如來悉斷無量煩惱、住智慧山、見諸衆生常在無量億煩惱中。迦葉菩薩復白佛言、『世尊。如偈所說、是義不然。何以故。入涅槃者無憂、無喜、云何得昇**智慧臺殿**。復當云何住在山頂而見衆生』。佛言、『善男子、**智慧殿**者、卽名涅槃』」（大正一二・四一五下）。『廣弘明集』卷一九 發般若經題「豈能宣金口於**慧殿**。散甘露於香城」（大正五二・二三九中）。

・**仙宮**＝［南朝宋～梁］江淹「雜體詩 顏特進侍宴」（『文選』卷三一）「列漢構**仙宮**、開天制寶殿」。呂向注「言宮殿高大、上至天漢」。

・**寂寥**＝『楚辭』九嘆 惜賢「聲嗷嗷以**寂寥**兮、顧僕夫之憔悴」。王逸注「**寂寥**、空無人民之貌也」。

(28) **珠臺・銀閣、荒涼無處**

・**珠臺**＝『十住毘婆沙論』卷一〇 四十不共法品「若欲於青琉璃莖、眞珊瑚葉、黃金爲鬚、如意**珠臺**、無量圍繞如日初出、是寶蓮花遍於空中、蹈上而去」（大正二六・七二上）。［參考］［唐］窺基『阿彌陀經疏』「次明第二德水澄瀾。『無量壽論』云、水莊嚴也。文有七。一、池瑩七珍。二、水含八德。三、下塡寶礫。四、上匝玉階。五、**珠臺**際天。六、鮮華吐褥。七、結成極樂。……次釋第五**珠臺**際天也。『無量壽論』云、謂地莊嚴。卽色相圓淨、謂七寶臺閣光明淨也。準『觀經』、處處皆有衆寶樓閣、何獨地上」（大正三七・三二九下）。

・**銀閣**＝［南齊］虞羲「廬山香鑪峰寺景法師行狀」（『廣弘明集』卷二三）「又夢受請而行至香鑪峰石門頂、見**銀閣**・金樓・丹泉・碧樹、峥嶸刻削、希世而有」（大正五二・二六九下）。［北周］武帝「大周二教鍾銘」（『廣弘明集』卷二八）「**銀閣**應供、延法侶而尋聲、金闕降眞、候仙冠而聽響」（大正五二・三三〇上）。

(29) **離離綴彩、寧勞周客**

ここは、寺院が北周武帝の廢佛により荒廢したさまを喩える。殷が周に滅ぼされた後、殷の微子や箕子が周に客禮によって待遇され、琴で曲を奏したことに借りて喩えたものと考えられる。

・**離離**＝『毛詩』國風 王 黍離 序「閔宗周也。周大夫行役、至于宗周、過故宗廟宮室、盡爲禾黍、閔周室之顚覆、彷徨不忍去而作是詩也」。同經文「彼黍**離離**、彼稷之苗、行邁靡靡、中心搖搖。知我者、謂我心憂、不知我者、謂我何求。悠悠蒼天、此何人哉」。

・**綴彩**＝綴采。［梁］劉勰『文心雕龍』誄碑「自後漢以來、碑碣雲起、才鋒所斷、莫高蔡邕。觀楊賜之碑、骨鯁訓典、陳・郭二文、詞無擇言、周乎衆碑、莫非淸允。其敍事也該而要、其**綴采**也雅而澤。淸詞轉而不窮、巧義出而卓立。察其爲才、自然而至」。

・**周客**＝ここでは周に客禮の待遇を受けた殷の微子や箕子を指すか。『毛詩』周頌・有客序「有**客**、微子來見祖廟也」、孔穎達正義「有**客**詩者、微子來見於祖廟之樂歌也。謂周公攝政二年殺武庚、命微子代爲殷後、乃來朝而見於周之祖廟。詩人因其來見、述其美德而爲此歌焉。經之所陳、皆說微子之美、雖因見廟而歌、其意不美在廟、故經無廟

事。爲周太平之歌、而述微子之美者、言王者所封得人、卽爲王者之美、故歌之也」。『尙書』微子之命「作賓于王家、與國咸休、永世無窮」、孔傳「爲時王**賓客**、與時皆美、長世無竟」。『史記』宋微氏世家「於是武王乃封**箕子**於朝鮮而不臣也。其後箕子朝周、過故殷虛、感宮室毀壞、生禾黍、**箕子**傷之、欲哭則不可、欲泣爲其近婦人、乃作麥秀之詩以歌詠之。其詩曰、『麥秀漸漸兮、禾黍油油。彼狡僮兮、不與我好兮』。所謂狡童者、紂也。殷民聞之、皆爲流涕」。

(30) **含含奏曲、詎假殷人**

・**含含**＝范曄『後漢書』列傳七三　逸民　梁鴻傳「惟季春兮華阜、麥**含含**兮方秀」。（『東觀漢記』では「含含」ではなく「含金」。劉珍等撰、吳樹平校注『東觀漢記校注』中華書局、二〇〇八年、八六五頁參照。）

・**奏曲**＝『莊子』漁父「孔子絃歌鼓琴、**奏曲**未半。有漁父者、下船而來」。［後漢］蔡邕『女訓』（『太平御覽』卷五七七）「舅姑若命之鼓琴、必正坐操琴而**奏曲**。若問曲名、則捨琴興、對曰某曲」。

・**殷人**＝ここも周客と同じく微子や箕子を指すか。［後漢］桓譚『新論』琴道「古者聖賢玩琴以養心。夫遭遇異時、窮則獨善其身而不失其操、故謂之操。操似鴻雁之音。達則兼善天下、無不通暢、故謂之暢。……微子操、微子傷**殷**之將亡、終不可奈何、見鴻鵠高飛、援琴作操、其聲淸以淳」。［北周］庾信「周大將軍義興公蕭公墓誌銘」（『庾子山集』卷一五）「若**殷人**受氏、乃承微子之封、梁運應圖、實啓延陵之國」。『禮記』郊特牲「有虞氏之祭也、尙用氣。血、腥、爓祭、用氣也。**殷人**尙聲、臭味未成、滌蕩其聲。樂三闋、然後出迎牲。聲音之號、所以詔告於天地之間也」。

(31) **乘御金輪、冕旒玉藻**

・**乘御**＝［南朝宋］慧嚴等修治『大般涅槃經』（南本）卷三一迦葉菩薩品「譬如大王有三種馬。一者、調、壯、大力。二者、不調、齒壯、大力。三者、不調、羸老、無力。王若**乘御***、當先何者」（大正一二・八〇七上）。*「御」：曇無讖譯（北本）では「者」。［梁］僧旻・寶唱等集『經律異相』卷四七　馬第三　婆羅醯馬王爲轉輪王寶「馬王名婆羅醯。宮殿住在大海洲內明月山、有八千馬以爲眷屬。若轉輪聖王出世、取最小者以爲馬寶、給王**乘御**。出『增一阿含經』」（大正五三・二四七中）。この典據は『增壹阿含經』ではなく『十誦律』。

・**金輪**＝佛陀耶舍共竺佛念譯『長阿含經』卷三　遊行經「阿難。時善見王有八萬四千象、金銀校飾、絡用寶珠、齊象王爲第一。八萬四千馬、金銀校飾、絡用寶珠、力馬王爲第一。八萬四千車、師子革絡、四寶莊嚴、**金輪**寶爲第一。……阿難。時善見王八萬四千象、乘齊象上、淸旦出拘尸城、案行天下、周遍四海、須臾之間、還入城食。八萬四千馬、乘力馬寶、淸旦出遊、案行天下、周遍四海、須臾之間、還入城食。八萬四千車、乘**金輪**車、駕力馬寶、淸旦出遊、案行天下、周遍四海、須臾之間、還入城食」（大正一・二三上中）。『經律異相』卷二四　轉輪聖王諸國王部第一　大王致輪之初「轉輪聖王所以致**金輪**者、帝釋常敕四天王、一月六日案行天下、伺人善惡。四天王及大

子使者、見有大國王以十善四等治天下、憂勤人物、心踰慈父、以是事白天帝釋。帝釋聞之、慶其能爾、便敕毘首羯摩、賜其**金輪**、卽出持付毘沙門天王。毘沙門天王持付飛行夜叉。飛行夜叉持來與大國王。毘沙門天王敕此夜叉、『汝常爲王持此金輪、當王頂上、畢其壽命、不得中捨』。是夜叉常爲持之、進止來去、隨聖王意、盡其壽命、然後還付毘沙門天王。毘沙門天王還付毘首羯摩。毘首羯摩還內著寶藏中（出『雜譬喩經』第六卷。）。道種堅德乘**金輪**、王四天下。性種性王乘銀輪、王三天下。習種性王乘銅輪、王二天下。以上十善得王、乘鐵輪、王一天下。出『仁王波若經』」（大正五三・一二九上）。

・**冕旒**＝［西晉］崔豹『古今注』「牛亭問曰『**冕旒**以繁露、何也』。答曰、『綴珠垂下、重如繁露也』」。梁武帝「淨業賦幷序」（『廣弘明集』卷二九）「負扆臨朝、**冕旒**四海。昧旦乾乾、夕愓若厲。朽索御六馬。方此非譬」（大正五二・三三六上）。

・**玉藻**＝『禮記』玉藻「天子**玉藻**、十有二旒、前後邃延、龍卷以祭」。鄭玄注「祭先王之服也。雜采曰**藻**。天子以五采藻爲**旒**、**旒**十有二。前後邃延者、言皆出**冕**、前後而垂也、天子齊肩。延、冕上覆也、玄表纁裏。龍卷、畫龍於衣、字或作『袞』」。孔穎達疏「天子**玉藻**者、**藻**、謂雜采之絲繩、以貫於玉、以**玉**飾**藻**、故云**玉藻**也」。陸雲『陸士龍集』卷七　紆思「靖永言以聽命、欽靈誶而肅邁。振華冕之**玉藻**、樹象軒之高蓋」。

（32）**上應天命、下順民心**

・**上應天命**＝『論語』季氏「孔子曰、君子有三畏。畏**天命**、畏大人、畏聖人之言。小人不知**天命**而不畏也。狎大人、侮聖人之言」、皇侃義疏「作不善、降百缺、從吉逆凶、是**天之命**、故君子畏之、不敢逆之也」。『周易』革「天地革而四時成、湯・武革命、**順乎天而應乎人**、革之時大矣哉」。『漢書』卷一〇〇上　敍傳「雖其遭遇異時、禪代不同、至于**應天順民**、其揆一也」、顏師古注「言堯・舜以文德相禪、湯・武以征伐代興、各**上應天命**、**下順人心**」。『文士傳』（『三國志』卷一九　陳思王曹植傳　裴松之注引）「廣聞、知臣莫若於君、知子莫若於父。至於君不論明闇、父不問賢愚、而能常知其臣子者何。蓋由相知非一事一物、相盡非一旦一夕。況明公加之以聖哲、習之以人子。今發明達之命、吐永安之言、可謂**上應天命**、**下合人心**、得之於須臾、垂之於萬世者也」。

・**下順民心**＝『管子』牧民　士經「下令於流水之原者、令**順民心**也。使民於不爭之官者、使各爲其所長也」。前注も參照。

（33）**飛行而建鴻名、揖讓而升大寶**

・**飛行**＝［三國吳］支謙譯『太子瑞應本起經』卷上「菩薩承事定光、至于泥曰。奉戒護法、壽終卽生第一天上、爲四天王。畢天之壽、下生人間、作轉輪聖王**飛行**皇帝、七寶自至。一、金輪寶、二、神珠寶、三、紺馬寶朱髦鬣、四、白象寶朱髦尾、五、玉女寶、六、賢鑒寶、七、聖導寶。八萬四千歲、壽終卽上生第二忉利天上、爲天帝釋。壽盡又昇第七梵天、爲梵天王。如是上作天帝、下爲聖主、各三十六反、周而復始。及其變化、隨時而現、或爲聖帝、或作儒林之宗、國師道士、在所現化、不可稱記」（大正

三・四七三中）。

・**鴻名**＝『史記』卷一一七　司馬相如列傳「前聖之所以永保**鴻名**而常爲稱首者用此、宜命掌故悉奏其義而覽焉」。

・**揖讓**＝『韓非子』八說「古者人寡而相親、物多而輕利易讓、故有**揖讓**而傳天下者……當大爭之世而循**揖讓**之軌、非聖人之治也」。『孔叢子』居衞「今天下諸侯方欲力爭、競招英雄以自輔翼、此乃得士則昌、失士則亡之秋也。伋於此時、不自高、人將下吾、不自貴、人將賤吾。舜・禹**揖讓**、湯・武用師、非故相詭、乃各時也」。

・**大寶**＝『周易』繫辭下「聖人之**大寶**曰位」、韓康伯注「夫无用則无所寶、有用則有所寶也。无用而常足者、莫妙乎道。有用而弘道者、莫大乎位」。

（34）**匪結農・軒之陣、誰佝湯・武之師**

・**結農・軒之陣**＝『越絶書』卷一一　越絶外傳記寶劍「楚王曰『夫劍、鐵耳、固能有精神若此乎』。風胡子對曰、『時各有使然。**軒轅**・**神農**、赫胥之時、以石爲兵、斷樹木、爲宮室、死而龍臧』。沈約「南齊皇太子禮佛願疏」（『廣弘明集』卷二八）「惟願藉此功德、奉資皇帝陛下、壽與南山共久、年將北極俱長、道懋**農**・**軒**、德高堯・舜」（大正五二・三二三中）。『史記』卷一　五帝本紀　黃帝「**軒轅**之時、**神農**氏世衰。諸侯相侵伐、暴虐百姓、而**神農**氏弗能征。於是**軒轅**乃習用干戈、以征不享、諸侯咸來賓從。而**蚩尤**最爲暴、莫能伐。炎帝欲侵陵諸侯、諸侯咸歸**軒轅**。**軒轅**乃修德振兵、治五氣、蓺五種、撫萬民、度四方、教熊羆貔貅貙虎、以與炎帝戰於坂泉之野。三戰、然後得其志。**蚩尤作亂**、不用帝命。於是黃帝乃徵師諸侯、與**蚩尤**戰於涿鹿之野、遂禽殺蚩尤。而諸侯咸尊**軒轅**爲天子、代**神農**氏、是爲黃帝。天下有不順者、黃帝從而征之、平者去之、披山通道、未嘗寧居」。

・**佝湯・武之師**＝佝は徇に通ず。『尙書』泰誓中「惟戊午、王次于河朔、群后以師畢會。王乃**徇師**而誓曰、『嗚呼。西土有衆、咸聽朕言。我聞吉人爲善、惟日不足。凶人爲不善、亦惟日不足。今商王受力行無度、播棄犂老。昵比罪人』。陸德明『經典釋文』引『字詁』「徇、巡也」。『鹽鐵論』地廣「大夫曰、『**湯・武之伐**、非好用兵也、周宣王辟國千里、非貪侵也。所以除寇賊而安百姓也。故無功之師、君子不行、無用之地、聖王不貪。先帝擧**湯・武之師**、定三垂之難、一面而制敵、匈奴遁逃、因河山以爲防、故去砂石鹹鹵不食之地、故割斗辟之縣、棄造陽之地以與胡、省曲塞、據河險、守要害、以寬徭役、保士民。由此觀之、聖主用心、非務廣地以勞衆而已矣』」。『三國志』卷四二　譙周傳「夫民疲勞則騷擾之兆生、上慢下暴則瓦解之形起。諺曰、『射幸數跌、不如審發』。是故智者不爲小利移目、不爲意似改步、時可而後動、數合而後擧、故**湯・武之師**不再戰而克、誠重民勞而度時審也」。『魏書』卷三三　屈遵傳「魏帝神武命世、寬仁善納、御衆百萬、號令若一、此**湯武之師**。吾欲歸命、爾等勉之、勿遇嘉運而爲禍先」。

（35）**稱臣妾者、遍於十方、弗遇蚩尤之亂**

・**臣妾**＝『周易』遯「畜**臣妾**吉、不可大事也」。『漢書』卷二四上　食貨志上「王莽因漢承平之業、匈奴稱藩、百蠻賓服、舟車所通、盡爲**臣妾**」。

・**蚩尤之亂**＝前掲「結農・軒之陣」注引『史記』卷一　五帝本紀參照。［前漢］楊雄『法言』淵騫「秦將白起不仁、奚用爲也。長平之戰、四十萬人死、蚩尤之亂、不過於此矣。原野猒人之肉、川谷流人之血、將不仁、奚用爲」。

(36)　**執玉帛者、盡於万國、無陷防風之禍**

・**執玉帛者、盡於万國**＝『春秋左氏傳』哀公七年「季康子欲伐邾。乃饗大夫以謀之。子服景伯曰、『小所以事大、信也。大所以保小、仁也。背大國不信、伐小國不仁。民保於城、城保於德。失二德者、危將焉保』。孟孫曰、『二三子以爲何如。惡賢而逆之』。對曰、『禹合諸侯於塗山、執玉帛者萬國。今其存者、無數十焉。唯大不字小、小不事大也。知必危、何故不言。魯德如邾、而以衆加之、可乎』。不樂而出」。

・**防風之禍**＝『國語』魯語下「吳伐越、墮會稽、獲骨焉、節專車。吳子使來好聘、且問之仲尼、曰『無以吾命』。賓發幣于大夫、及仲尼、仲尼爵之。既徹俎而宴、客執骨而問曰、『敢問骨何爲大』。仲尼曰、『丘聞之。昔禹致群神于會稽之山、防風氏後至、禹殺而戮之、其骨節專車。此爲大矣』」、韋昭注「防風、汪芒氏君之名也、違命後至、故禹殺之。陳尸爲戮也」。

(37)　**斯乃天啓至聖、大造區域**

・**天啓**＝『春秋左氏傳』閔公元年「卜偃曰、『畢萬之後必大。萬、盈數也。魏、大名也。以是始賞、天啓之矣』」。『國語』鄭語「夫荊子熊嚴生子四人。伯霜・仲雪・叔熊・季紃。叔熊逃難于濮而蠻、季紃是立、薳氏將起之、禍又不克。是天啓之心也。（韋昭注「啓、開也。天開季紃、故叔熊不得立」。）又甚聰明和協、蓋其先王。臣聞之、天之所啓、十世不替。夫其子孫必光啓土、不可偪也」。

・**至聖**＝『禮記』中庸「唯天下至聖、爲能聰明睿知、足以有臨也」。

・**大造**＝『春秋左氏傳』成公十三年「文公恐懼、綏靜諸侯、秦師克還無害、則是我有大造於西也」、杜預注「造、成也。言晉有成功於秦」。［南朝宋］傅亮「修復前漢諸陵敎」（『藝文類聚』卷四〇）「漢高撥亂反政、大造區宇、道拯橫流、功高百代」。

・**區域**＝蔡邕「文烈侯楊公碑」（『蔡中郎文集』卷五）「勛假皇天、澤充區域、疆土建封、申增戶邑、人臣之極位、兼而有之」。

(38)　**垂衣化俗、負扆字民**

・**垂衣**＝『周易』繫辭下「黃帝・堯・舜垂衣裳而天下治、蓋取諸乾坤」。王充『論衡』自然「垂衣裳者、垂拱無爲也」。『北齊書』卷四　文宣帝紀・武定八年五月册命「然則皇王統曆、深視高居、拱默垂衣、寄成師相、此則夏伯、殷尹竭其股肱、周成・漢昭無爲而治」。

・**負扆**＝『淮南子』氾論訓「周公繼文王之業、履天子之籍、聽天下之政、平夷狄之亂、誅管蔡之罪、負扆而朝諸侯」、高誘注「負、背也。扆、戶牖之閒。言南面也」。

・**字民**＝『春秋左氏傳』昭公十一年「其僚無子使字敬叔」、杜預注「字、養也」。『逸周書』本典解「今朕不知明德所則、政教所行、字民之道、禮樂所生」。［梁］陸倕「新刻漏銘」（『文選』卷五六）「寧可以軌物字民、作範垂訓者乎」。

(39)　**昧旦紫宮、終朝青殿**

・**昧旦**＝『毛詩』鄭風　女曰雞鳴「女曰雞鳴、士曰**昧旦**。子興視夜、明星有爛」。『春秋左氏傳』昭公三年「**昧旦**丕顯。後世猶怠」、杜預注「**昧旦**、早起也」。

・**紫宮**＝[西晉] 左思「詠史之五」（『文選』卷二一）「列宅**紫宮**裏、飛宇若雲浮」、李周翰注「**紫宮**、天子所居處」。

・**終朝**＝『毛詩』小雅　采綠「**終朝**采綠、不盈一匊」、毛傳「自旦及食時爲**終朝**」。

・**靑殿**＝『晉書』卷八六　張駿傳「又於姑臧城南築城、起謙光殿、畫以五色、飾以金玉、窮盡珍巧。殿之四面各起一殿、東曰宜陽**靑殿**、以春三月居之、章服器物皆依方色」。

(40)　**道高羲・燧、德盛虞・唐**

・**羲**＝伏羲（包犧）。『周易』繫辭下「古者**包犧氏**之王天下也、仰則觀象於天、俯則觀法於地、觀鳥獸之文與地之宜、近取諸身、遠取諸物、於是始作八卦、以通神明之德、以類萬物之情」。『白虎通』號「三皇者何謂也。謂伏羲・神農・燧人也」。『白虎通』號「古之時、未有三綱六紀、民人但知其母、不知其父、能覆前而不能覆後、臥之詓詓、行之吁吁、飢卽求食、飽卽棄餘、茹毛飲血而衣皮葦。于是伏羲仰觀象于天、俯察法于地、因夫婦、正五行、始定人道、畫八卦以治下、下伏而化之、故謂之**伏羲**也」。

・**燧**＝燧人氏。『韓非子』五蠹「有聖人作、鑽燧取火、以化腥臊、而民悅之、使王天下、號之曰**燧人氏**」。『白虎通』號「謂之燧人何。鑽木燧取火、敎民熟食、養人利性、避臭去毒、謂之**燧人**也」。『春秋命歷（曆）序』（『路史』前紀卷五、『繹史』卷三）「**伏羲・燧人**始名物蟲鳥獸」。

・**虞・唐**＝『宋書』卷二〇　樂志二　食擧樂東西箱歌十二篇「叡哲欽明、配蹤**虞・唐**。封建厥福、駿發其祥」。

・**虞**＝虞舜。『史記』卷一　五帝本紀　舜「**虞**舜者」、裴駰集解「謚法曰、『仁聖盛明曰舜』」、司馬貞索隱「**虞**、國名、在河東大陽縣。舜、謚也」。

・**唐**＝唐堯。『史記』卷一　五帝本紀　堯「帝堯者、放勳。其仁如天、其知如神。就之如日、望之如雲。富而不驕、貴而不舒。黃收純衣、彤車乘白馬。能明馴德、以親九族。九族旣睦、便章百姓。百姓昭明、合和萬國」、張守節正義「徐廣云『號**陶唐**』。『帝王紀』云、『堯都平陽、於『詩』爲**唐國**』」。

(41)　**五福咸臻、衆貺畢集**

・**五福**＝『尙書』洪範「**五福**一曰壽、二曰富、三曰康寧、四曰攸好德、五曰考終命」。[後漢] 桓譚『新論』「**五福**。壽、富、貴、安樂、子孫衆多」。『六度集經』卷三　布施度無極「自王布施之後、國豐民富相率以道、民無殺者、盜人財物、婬人婦女、兩舌、惡口、妄言、綺語、嫉妬、恚、癡、兇愚之心、寂而消滅、皆信佛、信法、信沙門、信爲善有福、作惡有殃。擧國和樂、鞭杖不行、仇敵稱臣、戰器朽于藏、牢獄無繫囚、人民稱善、我生遇哉。天龍鬼神無不助喜、祐護其國、毒害消竭、五穀豐熟、家有餘財、王內獨喜、卽得**五福**。一者長壽、二者顏華日更好色、三者德動八方上下、四者無病氣力日增、五者四境安隱心常歡喜」（大正三・一一下）。

・**衆貺**＝『國語』晉語「終君之重愛、受君之重**貺**」、韋昭注「**貺**、賜也」。

(42)　**低茚出月、搖蓮含風**

・**〓**＝蓂莢（めいきょう）の實。蓂莢は聖王である堯の時に生じた瑞草。［梁］顧野王『玉篇』卷一三　艸部第一六二「〓、巨凶切、蓂莢實也」。『白虎通』封禪「日曆得其分度、則蓂莢生於階間。蓂莢、樹名也。月一日生一莢、十五日畢、至十六日去莢、故莢階生、似日月也」。［西晉］皇甫謐『帝王世紀』（『太平御覽』卷八〇）「又有草夾階而生、隨月生死。王者以是占日月之數、惟盛德之君應和而生、故堯有之、名蓂莢、一名歷莢」。『宋書』卷二七　符瑞志上「在帝位七十年、景星出翼、鳳皇在庭、朱草生、嘉禾秀、甘露潤、醴泉出、日月如合璧、五星如連珠。厨中自生肉、其薄如箑、搖動則風生、食物寒而不臭、名曰箑脯。又有草夾階而生、月朔始生一莢、月半而生十五莢、十六日以後、日落一莢、及晦而盡、月小則一莢焦而不落、名曰蓂莢、一曰曆莢」。［東晉］葛洪『抱朴子』對俗「唐堯觀蓂莢以知月」。

・**出月**＝謝靈運「江妃賦」（『初學記』卷一九）「出月隱山、落日映嶼」。

・**萐**＝萐莆（しょうほ）。聖王である堯・舜の時に厨房に生じた瑞草。『白虎通』封禪「孝道至、則萐莆生庖厨。萐莆者、樹名也。其葉大於門扇、不搖自扇、於飲食清涼、助供養也」。『説文解字』艸部　萐「萐莆者、瑞草也。堯時生於庖厨、扇暑而涼」。『孫氏瑞應圖』（『太平御覽』卷八七三）「萐莆、王者不徵滋味、庖厨不踰深盛、則生於厨。一名倚扇、一名實閭、一名倚萐。生如蓮、枝多葉少、根如絲。轉而風生、主於飲食清涼、驅殺蟲蠅、舜時生於厨、又堯時冬死夏生、又舜時生於厨及階左」。『宋書』卷二九　符瑞志下「萐甫、一名倚扇、狀如蓬、大枝葉小、根根如絲、轉而成風、殺蠅。堯時生於厨」。

・**含風**＝［南朝宋］謝惠連「秋懷」（『文選』卷二三）「蕭瑟含風蟬、寥唳度雲雁」。［梁］沈約「和劉雍州繪博山香鑪」（『初學記』卷二五）「巖閒有佚女、垂袂似含風」。［梁］虞羲「見江邊竹詩」（『藝文類聚』卷八九）「含風自颯颯、負雪亦猗猗」。

（43）**沈璧觀書、龍負握河之紀**

・**沈璧觀書、龍負握河之紀**＝顏延之「赭白馬賦」（『文選』卷一四）李善注引『尙書中候』「帝堯卽政七十載、修壇河洛、仲月辛日、禮備至于日稷、榮光出河、龍馬銜甲、赤文綠色、臨壇吐甲圖」。『後漢書』方術傳序「至乃河洛之文、龜龍之圖」、李賢注引『尙書中候』「堯沈璧於洛、玄龜負書、背中赤文朱字、止壇。舜禮壇於河畔、沈璧、禮畢、至於下昃、黄龍負卷舒圖、出水壇畔」。『帝王世紀』（『初學記』卷九）「堯率諸侯群臣、沈璧於洛河、受圖書。今『尙書中候握河紀』之篇是也」。『魏書』卷九　肅宗孝明帝紀・孝昌元年十二月壬午詔「爾乃還蹕嵩宇、歆至廟庭、沈璧河洛、告成泰岱、豈不盛歟」。

・**觀書**＝『春秋左氏傳』昭公二年「晉侯使韓宣子來聘、且告爲政、而來見、禮也。觀書於大史氏、見『易』象與魯『春秋』」。『周易』繫辭上「河出圖、洛出書、聖人則之」。

・**龍負**＝『論語』子罕「子曰、『鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫』」、皇侃疏「聖人王、則有龍馬及神龜負應王之圖書從河而出、爲瑞也。如龍圖授伏羲、龜書畀姒也」。孔安國注「河圖、八卦是也」、皇侃疏「八卦、則易乾坤等八方

之封也。龍負之出授伏羲也」。『孫氏瑞圖』（『路史』巻四三）「帝堯卽位、坐河渚、神龍赤色負圖而至、備載山澤河海之形、國土之分域」。

・握河＝皇甫謐『帝王世紀』（『初學記』巻九）「堯率諸侯群臣、沉璧於河、受圖書、今『尚書中候握河紀』之篇是也」。［南齊］王融「三月三日曲水詩序」（『文選』巻四六）「方握河沈璧、封山紀石、邁三五而不追、踐八九之遙跡」。

（44）**功成治定、神奉益地之圖**

・**功成治定**＝『史記』巻二四　樂書「王者功成作樂、治定制禮」、裴駰集解「鄭玄曰、功成治定同時耳、功主于王業、治主于敎民」。『續漢書』祭祀志上「建武三十年二月、群臣上言、卽位三十年、宜封禪泰山」。劉昭注『東觀書』載太尉趙憙上言曰、『自古帝王、毎世之隆、未嘗不封禪。陛下聖德洋溢、順天行誅、撥亂中興、作民父母、修復宗廟、救萬姓命、黎庶賴福、海內淸平。功成治定、群司禮官咸以爲宜登封告成、爲民報德』」。

・**神奉益地之圖**＝西王母が舜の德を慕い『益地圖』を舜に獻上した故事をふまえた表現。『尚書帝驗期』（『玉海』巻一四）「西王母於太荒之國得益地圖、慕舜德、遠來獻之」。『雒書靈准聽』（『藝文類聚』巻一一）「有人方面、日衡重華、握石椎、懷神珠、舜受終、鳳皇儀、黄龍感、朱草生、蓂莢孳。西王母授益地圖」。

（45）**東曁西漸、南徂北邁**＝『尚書』禹貢「東漸于海、西被于流沙、朔・南曁聲敎、訖于四海。禹錫玄圭、告厥成功」。『後漢書』列傳五〇下　蔡邕傳贊「斥言金商、南徂北徙」。

（46）**隆禮言洽、至樂云和**

・**隆禮**＝『禮記』經解「是故隆禮、由禮、謂之有方之士。不隆禮、不由禮、謂之無方之民」、鄭玄注「隆禮、謂盛行禮也」、孔穎達疏「隆、盛也……若君子能隆盛行禮、則可謂有道之士也、反此、則爲無知之民」。『荀子』議兵「隆禮貴義者其國治、簡禮賤義者其國亂」。

・**至樂**＝『莊子』天運「夫至樂者、先應之以人事、順之以天理、行之以五德、應之以自然、然後調理四時、太和萬物」。『呂氏春秋』制樂「欲觀至樂、必於至治」、高誘注「至樂、至和之樂。至治、至德之治」。『大戴禮記』王言「孔子曰、至禮不讓而天下治、至賞不費而天下之士說、至樂無聲而天下之民和」。

（47）**感天地而動鬼神**＝『毛詩』國風　關雎序「治世之音、安以樂、其政和。亂世之音、怨以怒、其政乖。亡國之音、哀以思、其民困。故正得失、動天地、感鬼神、莫近於詩」。『漢書』巻二二　禮樂志二「鳥獸且猶感應、而況於人乎。況於鬼神乎。故樂者、聖人之所以感天地、通神明、安萬民、成性類者也」。［後漢］侯瑾「箏賦」（『藝文類聚』巻四四）「若乃上感天地、下動鬼神、享祀宗祖、酬酢嘉賓、移風易俗、混同人倫、莫有尚于箏者矣」。［梁］慧皎『高僧傳』巻一三　經師篇論「夫篇章之作、蓋欲申暢懷抱、褒述情志。詠歌之作、欲使言味流靡、辭韻相屬。故詩序云、情動於中、而形於言。言之不足、故詠歌之也。然東國之歌也、則結詠以成詠。西方之贊也、則作偈以和聲。雖復歌讚爲殊、而竝以協諧鍾律、符靡宮商、方乃奥妙。故奏歌於金石、則謂之以爲樂。設讚於管絃、則稱之以爲唄。夫聖人制樂、其德四焉。感天地、通神明、安萬民、成性

類。如聽唄、亦其利有五。身體不疲、不忘所憶、心不懈倦、音聲不壞、諸天歡喜」（大正五〇・四一四下～四一五上）。

(48) **辯尊卑而明貴賤**＝『周易』繫辭上「天尊地卑、乾坤定矣。卑高以陳、貴賤位矣」。『大戴禮記』盛德「義者、所以等貴賤、明尊卑。貴賤有序、民尊上敬長矣」。『漢書』卷五六 董仲舒傳「臣聞制度文采玄黃之飾、所以明尊卑、異貴賤、而勸有德也」。

(49) **勞己亡倦、求衣靡息**

・**勞己**＝［梁］徐陵「丹陽上庸路碑」（『藝文類聚』卷六四）「我大梁之受天明命、勞己濟民、有道稱皇、無爲曰帝」。

・**亡倦**＝『論語』子路「子路問政。子曰、『先之、勞之』。『請益』。曰、『無倦』」。

・**求衣**＝『漢書』卷五一 鄒陽傳「始孝文皇帝據關入立、寒心銷志、不明求衣」。顏師古注「臣瓚曰、『文帝入關而立、以天下多難、故乃寒心戰慄、未明而起』」。

(50) **攸攸黔首、垢障未除**

・**攸攸**＝悠悠。『史記』卷四七 孔子世家「悠悠者天下皆是也、而誰以易之」。裴駰集解「孔安國曰、『悠悠者、周流之貌也。言當今天下治亂同、空舍此適彼、故曰「誰以易之」』」。

・**黔首**＝『禮記』祭義「明命鬼神、以爲黔首則」。鄭玄注「黔首、謂民也」。孔穎達疏「黔首、謂萬民也。黔謂黑也。凡人以黑巾覆頭、故謂之黔首」。『史記』卷六 秦始皇本紀「二十六年……更民名曰黔首」。

・**垢障**＝竺法護譯『普曜經』優陀耶品「悉達在家時、擣若干雜香、香熏其衣服、清淨無垢障」（大正三・五三五中）。吉迦夜共曇曜譯『付法藏因緣傳』卷一「我何薄祐垢障深厚、諸聖涅槃不一覩見」（大正五〇・三〇一上）。

(51) **擾擾蒼生、蓋纏仍擁**

・**擾擾蒼生**＝康僧會譯『六度集經』卷一 布施度無極章「海邊有國、其國枯旱、黎庶飢饉、更相吞噉。魚爲流淚曰、『衆生擾擾、其苦痛哉』」（大正三・二上）。

・**蓋纏**＝『注維摩詰經』卷一 佛國品「【經】悉已清淨、永離蓋纏。【注】什曰、離蓋纏有三種、一者持戒清淨、蓋纏不起。二者世俗道斷、斷而未盡、當其不起、亦名爲離。此中得無生法忍、滅盡離也。肇曰、蓋、五蓋。纏、十纏、亦有無量纏。身口意三業悉淨、則蓋纏不能累也」（大正三八・三二九上）。『大智度論』卷七三「菩薩摩訶薩不與五蓋俱、婬欲・瞋恚・睡眠・掉悔・疑」（大正二五・五七〇下）。『大智度論』卷七「纏者、十纏。瞋纏、覆罪纏、睡纏、眠纏、戲纏、掉纏、無慚纏、無愧纏、慳纏、嫉纏」（大正二五・一一〇上）。

(52) **金編寶字、玉牒綸言**

・**金編**＝沈約「華山館爲國家營功德詩」（『藝文類聚』卷七八）「沐芳禱靈嶽、稽首恭上玄。帝昔祈萬壽、臣今請億年。丹方緘洞府、河清時一傳。錦書飛雲字、玉簡黃金編」。『舊唐書』卷二三 禮儀志三「又議玉策曰、『封禪之祭、嚴配作主、皆奠玉策、肅奉虔誠。今玉策四枚、各長一尺三寸、廣一寸五分、厚五分。每策五簡、俱以金編』」。

・**玉牒**＝『史記』卷一二 孝武本紀「封泰山下東方、如郊祠泰一之禮。封廣丈二尺、高九尺、其下則有玉牒書、書祕。

禮畢、天子獨與侍中奉車子侯上泰山、亦有封。其事皆禁」。

・**綸言**＝『禮記』緇衣「王言如絲、其出如綸、王言如綸、其出如綍」。

(53) **雲飛雨散**

・**雲飛雨散**＝楊雄「甘泉賦幷序」（『文選』卷七）「雲飛揚兮雨滂沛、于胥德兮麗萬世」。李善注「言恩澤之多、若雲行雨施、君臣皆有聖德、故華麗至於萬世也」。

(54) **慈愛之旨、形於翰墨**

・**慈愛**＝『國語』楚語上「明慈愛以導之仁、明昭利以導之文」。『後漢書』列傳六　寇榮傳「臣聞天地之於萬物也好生、帝王之於萬人也慈愛」。支謙譯『菩薩本緣經』一切持王子品第三之餘「大王慈愛之心、今日安在」。

・**翰墨**＝［後漢］張衡「歸田賦」（『文選』卷一五）「揮翰墨以奮藻、陳三皇之軌模」。『莊子』大宗師「聞諸副墨之子」。成玄英疏「墨、翰墨也。翰墨、文字也。理能生教、故謂文字爲副貳也。夫魚必因筌而得、理亦因教而明、故聞之翰墨、以明先因文字得解故也」。

(55) **哀慇之情、發於衿抱**

・**衿抱**＝『世說新語』輕詆「謝太傅謂子姪曰、『中郎始是獨有千載』。車騎曰、『中郎衿抱未虛、復那得獨有』」。

(56) **日月所照、咸頼陶甄**

・**日月所照**＝『禮記』中庸「唯天下至聖、爲能聰明叡知、足以有臨也。……是以聲名洋溢乎中國、施及蠻貊。舟車所至、人力所通、天之所覆、地之所載、日月所照、霜露所隊、凡有血氣者、莫不尊親、故曰配天」。『史記』卷一五帝本紀「動靜之物、大小之神、日月所照、莫不砥屬」。

・**陶甄**＝［西晉］張華「女史箴」（『文選』卷五六）「茫茫造化、二儀既分。散氣流形、既陶既甄」、李善注「如淳曰、陶人作瓦器謂之甄」。『晉書』卷二二　樂志上「弘濟區夏、陶甄萬方」。

(57) **陰陽所生、皆蒙鞠養**

・**陰陽所生**＝『大戴禮記』曾子天圓「介蟲介而後生、鱗蟲鱗而後生、介鱗之蟲、陰氣之所生也」。［北周］盧辯注「言陰陽所生者、擧其多也」。［清］孔廣森注「動物皆天之所生、天氣又自分陰分陽、毛羽外見故陽、介鱗水伏故陰也」。

・**鞠養**＝『後漢書』列傳二九　劉般傳「早失母、同産弟原鄉侯平尙幼、紆親自鞠養、常與共臥起飲食」。

(58) **津濟率土、救護溥天**

・**津濟**＝［梁］蕭綱「大法頌」（『廣弘明集』卷二〇）「九有傾心、十方草靡、如憑津濟、咸賴歸依」（大正五二・二四〇下）。

・**率土**＝『毛詩』小雅　北山「率土之濱、莫非王臣」。

・**救護**＝『後漢書』列傳三七　班超傳「如不蒙救護、超後有一旦之變、冀幸超家得蒙趙母、衞姬先請之貸」。『妙法蓮華經』化城喩品「世尊甚希有、難可得値遇、具無量功德、能救護一切」（大正九・二三中）。

・**溥天**＝『毛詩』小雅　北山「溥天之下、莫非王土」。

(59) **協奬愚迷、扶導聾瞽**

・**愚迷**＝［西晉］法炬・法立譯『法句譬喩經』道行品「譬如寄客起則離散、愚迷縛著、計爲己有、憂悲苦惱、不識根本、沈溺生死、未央休息。唯有慧者、不貪恩愛、覺苦捨

習、勤修經戒、滅除識想、生死得盡」（大正四・五九八上）。

・**聾瞽**＝康僧會「『法鏡經』序」（『出三藏記集』卷六）「懷道宣德、闓導**聾瞽**」（大正五五・四六中）。

(60) **澍茲法雨、使潤道牙**

・**澍茲法雨**＝曇無讖譯『大般涅槃經』壽命品「爾時世尊・一切種智・無上調御、告純陀曰、『善哉、善哉。我今爲汝除斷貧窮、無上**法雨**雨汝身田、令生**法芽**＊。汝今於我、欲求壽命・色力・安・辯、我當施汝常命・色力・安・無礙辯。何以故。純陀、施食有二、果報無差。何等爲二。一者受已、得阿耨多羅三藐三菩提。二者受已、入於涅槃。我今受汝最後供養、令汝具足檀波羅蜜』」（大正一二・三七二上）。＊「芽」＝「**牙**」宋。（傳）康僧鎧譯『無量壽經』卷上「**澍法雨**、演法施、常以法音覺諸世間、光明普照無量佛土」（大正一二・二六六上）。

・**道牙**＝竺道生『法華經疏』卷一「化去其穢、生其**道牙**爲田」（新續二七・六中／卍續一五〇・八一〇上）。

(61) **燒此戒香、令薰佛慧**

・**戒香**＝［東晉］僧伽提婆譯『增壹阿含經』卷一三　地主品「木蜜及栴檀、優鉢及諸香、亦諸種種香、**戒香**最爲勝」（大正二・六一三下）。

(62) **脩第壹之果、建最勝之幢**

・**第壹之果**＝『大智度論』卷三「『若無八正道、是中無**第一果**、第二、第三、第四果。若有八正道、是中有**第一果**、第二、第三、第四果。須跋陀、是我法中有八正道、是中有**第一道果**、第二、第三、第四道果。餘外道法皆空、無道、無果、無沙門、無婆羅門。如是我大衆中、實作師子吼』。須跋陀梵志聞是法、得阿羅漢道」（大正二五・八一上）。

・**最勝之幢**＝曇無讖譯『金光明經』四天王品「善男子、汝已能坐金剛座處、轉於無上諸佛所讚十二種行甚深法輪、能擊無上最大法鼓、能吹無上極妙法螺、能竪無上**最勝法幢**、能然無上極明法炬、能雨無上甘露法雨、能斷無量煩惱怨結、能令無量百千萬億那由他衆、度於無涯可畏大海、解脱生死無際輪轉、値遇無量百千萬億那由他佛」（大正一六・三四三上）。

(63) **拯既滅之文、匡以墜之典**

・**以墜**＝已墜。［南齊］王儉「褚淵碑文一首幷序」（『文選』卷五八）「康國祚於綴旒、拯王維於**已墜**」。

(64) **忍辱之鎧、滿於淸都**

・**忍辱之鎧**＝『妙法蓮華經』勸持品「我等敬信佛、當著**忍辱鎧**、爲說是經故、忍此諸難事」（大正九・三六下）。

・**淸都**＝左思「魏都賦」（『文選』卷六）「蓋比物以錯辭、述**淸都**之閑麗」。

(65) **微妙之臺、充於赤縣**

・**微妙之臺**＝曇無讖譯『大般涅槃經』如來性品第四之五「精進勇健者、若處於山頂、平地及曠野、常見諸凡夫。昇大智慧殿、無上**微妙臺**、既自除憂患、亦見衆生憂」（大正一二・四一五下）。

・**赤縣**＝『史記』卷七四　孟子荀卿列傳「以爲儒者所謂中國者、於天下乃八十一分居其一分耳。中國名曰**赤縣**神州。**赤縣**神州內自有九州、禹之序九州是也、不得爲州數。中國外如**赤縣**神州者九、乃所謂九州也」。

(66) **豈直道安・羅什、有寄弘通**＝『高僧傳』卷一四　法鏡傳「自

摩騰・法蘭發軫西域、安侯・支讖荷錫東都、雖跡標出沒、行實深淺。咸作舟梁、大爲利益。固宜油素傳美、鉛槧定辭、照示後昆、揄揚往秀。而道安・羅什閒表秦書、佛澄・道進雜聞趙冊。晉史見捨、恨局當時。宋典所存、頗因其會」（大正五〇・四二二中）。

(67) **迦葉・目連、聖僧斯在**＝［參考］『續高僧傳』卷二九　興福篇論「昔如來在、躬治院門、大集僧務、非聖不履。迦葉之營五寺、恆預蹋泥。目連之任月直、常供掃地」（大正五〇・六九九中）。

(68) **其地蓋近於燕南**・**燕南**＝『隋書』卷一　文帝紀上・大象二年十二月周帝詔「假黃鉞、使持節、大丞相、都督內外諸軍事、上柱國、大冢宰、隋國公、應百代之期、當千齡之運、家隆臺鼎之盛、門有翊贊之勤。心同伊尹、必致堯舜、情類孔丘、憲章文武。爰初入仕、風流映世、公卿仰其軌物、搢紳謂爲師表。入處禁闈、出居藩政、芳猷茂績、問望彌遠。往平東夏、人情未安。燕南・趙北、實爲天府、擁節杖旄、任當連率。柔之以德、導之以禮、畏之若神、仰之若日、芳風美迹、歌頌獨存」。

(69) **昔伯珪取其謠言、□京易水**＝伯珪は公孫瓚の字。印鑒は以下に掲げる典故から「□」を「築」と推測する。後漢末、公孫瓚が童謠の言を信じ、防衛據點として高丘を易水のほとりに築き、守りを固めたことを指す。『三國志』卷八　公孫瓚傳「公孫瓚、字伯珪、遼西令支人也。……袁紹又遣麴義及虞子和、將兵與輔合擊瓚。瓚軍數敗、乃走還易京固守。爲圍塹十重、於塹裏築京、皆高五六丈、爲樓其上。中塹爲京、特高十丈、自居焉、積穀三百萬斛」、裴松之注引『英雄記』「先是有童謠曰、『燕南垂、趙北際、中央不合大如礪、惟有此中可避世』。瓚以易當之、乃築京固守」。

(70) **毋恤往而得寶、窺代常山**＝趙簡子（趙鞅）は自分の後繼者を子供たちから選ぶにあたり、子供たちに對して、常山に寶の符を隱しておいたので見つけた者に褒美を與えると言った。その結果、ただ毋恤だけが符を見つけたと報告し、趙簡子が述べてみよと言うと、毋恤は常山の高みから代國を見下ろしてみて、代を占領可能であると答えた。これにより趙簡子は彼が賢者であると知り、彼を太子に選んだ、という故事。『史記』卷四三　趙世家「異日、姑布子卿見簡子、簡子遍召諸子相之。子卿曰、『無爲將軍者』。簡子曰、『趙氏其滅乎』。子卿曰、『吾嘗見一子於路、殆君之子也』。簡子召子毋卹。毋卹至、則子卿起曰、『此眞將軍矣』。簡子曰、『此其母賤、翟婢也、奚道貴哉』。子卿曰、『天所授、雖賤必貴』。自是之後、簡子盡召諸子與語、毋卹最賢。簡子乃告諸子曰、『吾藏寶符於常山上、先得者賞』。諸子馳之常山上、求無所得。毋卹還、曰、『已得符矣』。簡子曰、『奏之』。毋卹曰、『從常山上臨代、代可取也』。簡子於是知毋卹果賢、乃廢太子伯魯、而以毋卹爲太子」。

(71) **世祖南旋、至高邑而踐祚**＝『後漢書』光武帝紀上　建武元年條「光武從薊還、過范陽、命收葬吏士。……。行至鄗。光武先在長安時、同舍生彊華自關中奉赤伏符、曰、『劉秀發兵捕不道、四夷雲集龍鬬野、四七之際火爲主』。群

臣因復奏曰、『受命之符、人應爲大、萬里合信、不議同情、周之白魚、曷足比焉。今上無天子、海內淆亂、符瑞之應、昭然著聞、宜荅天神、以塞群望』。光武於是命有司設壇場於鄗南千秋亭五成陌。六月己未、卽皇帝位。燔燎告天……於是建元爲建武、大赦天下、改鄗爲高邑」。

・**踐祚**＝**踐阼**。『史記』卷一三〇　太史公自序「漢旣初興、繼嗣不明、迎王踐祚、天下歸心」。

(72)　**靈王北出、登望臺而臨海**＝『史記』卷四三　趙世家「〔武靈王〕十七年、王出九門、爲野臺、以望齊・中山之境」、裴駰集解「徐廣曰、野、一作望」、張守節正義「『括地志』云、『野臺、一名義臺、在定州新樂縣西南六十三里』」。『郡國志』（『太平御覽』卷一七八）「恆州野望臺、趙武靈王以登高望、亦曰寒臺」。

(73)　**靑山斂霧、渌水揚波**

・**靑山**＝『管子』地員「靑山十六施、百一十二尺而至于泉」。〔南齊〕謝朓「高齋視事」（『謝宣城集』卷三）「餘雪映靑山、寒霧開白日」。

・**斂霧**＝〔梁〕庾肩吾『書品』論「峰嶨閒起、瓊山慙其斂霧、漪瀾遞振、碧海愧其下風」。

・**渌水**＝張衡「東京賦」（『文選』卷三）「於東則洪池淸蘌、渌水澹澹」。

・**揚波**＝『楚辭』九歌　少司命「與女遊兮九河、衝風至兮水揚波。與女沐兮咸池、晞女髮兮陽之阿」。張衡「西京賦」（『文選』卷二）「長風激於別隯、起洪濤而揚波」。

(74)　**路款晉而適秦、途通□而指衞**

・□＝書畫は「趙」、鑒印は「魯」と推測する。

・**款**＝張衡「西京賦」（『文選』卷二）「掩長楊而聯五柞、繞黃山而款牛首」、薛綜注「款、至也」。

・**路款・途通**＝沈約「郊居賦」（『梁書』卷一三　沈約傳）「路縈吳而款越、塗被海而通閩」。

(75)　**相如之落、矩步非遙**

・**相如**＝上の□の木偏と下の□の女偏は拓影で確認可能。書苑は「相好」とする。鑒印は「村奴」とするが、いずれも意味が通じない。ここは「相如」であり、戰國時代の趙の名臣である藺相如を指すと考えられる。『魏書』卷一〇六上　地形志二上　定州　中山郡「新市縣。（二漢、晉屬。有藺相如冢）」。

・**矩步**＝『後漢書』列傳一四　馬瑗傳「〔朱〕勃字叔陽、年十二能誦詩・書。常候援兄況。勃衣方領、能矩步」。李賢注「矩步者、回旋皆中規矩」。『後漢書』列傳三六　郭鎭傳「汝南有陳伯敬者、行必矩步、坐必端膝。目有所見、不食其肉」。『後漢書』列傳九六上　儒林列傳「建武五年、乃修起太學、稽式古典、籩豆干戚之容、備之於列、服方領習矩步者、委它乎其中」。

(76)　**平原之樓、規行詎遠**

・**平原之樓**＝『史記』卷七六　平原君虞卿列傳「平原君家樓臨民家。民家有躄者、槃散行汲。平原君美人居樓上、臨見、大笑之」。

・**規行**＝〔西晉〕陸機「長安有狹邪行」（『文選』卷二八）「守一不足矜、歧路良可遵。規行無曠迹、矩步豈逮人。投足緒已爾、四時不必循。將遂殊塗軌」。〔西晉〕潘尼「釋奠頌」（『晉書』卷五五　潘尼傳）「二學儒官搢紳先生之徒、垂

纓佩玉**規行矩歩**者、皆端委而陪于堂下、以待執事之命」。

（77）**尋泒避世、彼亦河人**

・**尋泒避世**＝泒は泒水あるいは泒山。「泒」は誤って「派」と記される場合がしばしばある。『說文解字』第一一篇上「**泒**。水。起鴈門葰人戍夫山、東北入海。從水、瓜聲」。『太平寰宇記』巻四九　河東道十　代州　繁時縣「泰戲山、一名武夫山、亦名平山、亦曰戍夫山、今曰**派山**、在縣東南九十里」。上記『說文解字』によれば泒水の源は鴈門と言っているので「尋泒避世」というのはあるいは以下の五臺山に入り世を避けた人たちのことか。『太平御覽』巻四五「『水經注』云、『五臺山有五巒巍然、故曰五臺。晉永嘉三年、鴈門郡人五百餘家避亂入此山、見山中人爲先驅、因而不返、遂棲巖野。往還之士稀有望見。其村居者、至詣尋訪、莫知所在、故俗人以爲仙者之都矣。中臺之山、山頂方三里、西北阪有一泉水不流、謂之太華泉、蓋五臺之層秀』」。※この箇所、現行本『水經注』には見られない。

・**避世**＝『莊子』刻意「釣魚閒處、無爲而已矣。此江海之士、**避世**之人、閒暇者之所好也」。『史記』巻一二七　日者列傳「褚先生曰、『……從古以來、賢者**避世**、有居止舞澤者、有居民閒閉口不言、有隱居卜筮閒以全身者』」。

・**彼亦河人**＝河は何に通ず。こちらと比較して相手は取るに足りないことを表す。邢澍『金石文字辨異』「漢吴仲山碑『奈河奈河』。『隸釋』云『河爲何』。案『詩』『景員維河』、箋『「河」作「何」』。『河』與『何』古同用。『廣雅』『河、何也』」。『毛詩』小雅・巧言「**彼何人斯**、居河之麋」、鄭玄箋「何人者、斥讒人也。賤而惡之、故曰何人」。『莊子』大宗師「子貢反、以告孔子、曰、『**彼何人者邪**。脩行無有、而外其形骸、臨尸而歌、顏色不變。無以命之。**彼何人者邪**』。孔子曰、『彼遊方之外者也、而丘遊方之內者也』」。［隋］大業十二年（六一六）段濟墓誌（『全隋文補遺』三四七頁）「玄成丞相之子、世爲臺輔、仲宣王公之孫、早標令譽。以今方古、**彼亦何人**」。

（78）**幽閑博敞、良爲福地**

・**幽閑**＝幽閒。『荀子』王制「無**幽閒**隱僻之國、莫不趨使而安樂之」、楊倞注「幽、深也。閒、隔也。言無有深隔之國、不爲王者趨使而安樂政敎也」。曹魏・應璩「與曹昭伯牋」（『太平御覽』巻九四七）「昔陳司空爲邑宰、所在**幽閑**、獨坐愁思、幸賴遊蟻以娛其意」。

・**博敞**＝［後漢］王延壽「魯靈光殿賦幷序」（『文選』巻一一）「迢嶢倜儻、豐麗**博敞**」。張載注「**博**、廣也。**敞**、高平也」、呂延濟注「**博**、廣博也。**敞**、寬也」。

・**福地**＝［前漢］『遁甲開山圖』（『初學記』巻八）「「驪山西有阜、名風涼原、雍州之**福地**」。［南齊］王融「三月三日曲水詩」序（『文選』巻四六）「芳林園者、**福地**奧區之湊、丹陵・若水之舊」。曇無讖譯『大般涅槃經』巻一　壽命品「爾時娑羅雙樹吉祥**福地**、縱廣三十二由旬、大衆充滿、閒無空缺」（大正一二・三七一中）。

（79）**太師・上柱國・大威公**＝王孝僊の父である王傑を指す。『周書』巻二九に立傳。

・**太師**＝正一品。『唐六典』巻一　三師「後魏**太師**・太傅・太保尊號曰『三師』、後周又爲『三公』。隋氏又爲『三

師』、皇朝因之」。
・上柱國＝從一品。『隋書』巻二八　百官志下「高祖又採後周之制、置上柱國・柱國・上大將軍・大將軍・上開府儀同三司・開府儀同三司・上儀同三司・儀同三司・大都督・帥都督・都督、總十一等、以酬勤勞。……上柱國・嗣王・郡王、無主簿・錄事參軍・東西閤祭酒・長兼行參軍等員、而加參軍事爲五人、行參軍爲十二人」。
・大威公＝『周書』巻二九　王傑傳「大象元年、薨、時年六十五。贈河・鄯・鄧・延・洮・宕・翼七州諸軍事・河州刺史、追封鄂國公。諡曰威」。

（80）使持節・左武衛將軍・上開府儀同三司・恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城王孝僁

・左武衛將軍＝從三品。『隋書』巻二八　百官志下「左右衛・左右武衛・左右武候、各大將軍、一人。將軍、二人。竝有長史、司馬、錄事、功・倉・兵・騎等曹參軍、法曹・鎧曹行參軍、各一人。行參軍左右衛・左右武候各六人、左右武衛各八人。等員」。
・上開府儀同三司＝從三品。前掲「上柱國」注の引用文も參照。
・恆州諸軍事＝『隋書』巻二八　百官志下「舊有兵處、則刺史帶諸軍事以統之」
・鄂國公＝從一品。父からの襲爵。『隋書』巻二八　百官志下「國王、郡王、國公、郡公、縣公、侯、伯、子、男、凡九等」。
・金城＝『周書』巻二九　王傑傳「王傑、金城直城人也」。直城縣の治所は陝西省石泉縣東北池河東岸（史爲樂主編『中國歷史地名大辭典增訂本』下巻、中國社會科學出版社、二〇一七年）。

（81）世業重於金・張

・世業＝『漢書』巻一〇〇上　敍傳上「方今雄桀帶州城者、皆無七國世業之資」。
・金・張＝金日磾・張安世。前者は『漢書』巻六八、後者は『漢書』巻五九に立傳。『漢書』巻七七　蓋寛饒傳「上無許・史之屬、下無金・張之託」、顏師古注引應劭曰「金、金日磾也。張、張安世也」。

（82）器識逾於許・郭

・器識＝［東晉］袁宏「三國名臣序贊」（『文選』巻四七）「郎中溫雅、器識純素。貞而不諒、通而能固」。『高僧傳』巻五　道安傳「安在樊沔十五載、毎歳常再講『放光波若』、未嘗廢闕。晉孝武皇帝、承風欽德、遣使通問、幷有詔曰『安法師器識倫通、風韻標朗、居道訓俗、徽績兼著』」（大正五〇・三五二下）。
・許・郭＝許劭・郭泰（郭林宗）。［梁］劉峻（劉孝標）「廣絕交論」（『文選』巻五五）「遒文麗藻、方駕曹・王、英跱俊邁、聯衡許・郭」。張銑注「謂與許劭・郭林宗齊衡也」。

（83）軍府号爲飛將、朝廷稱爲虎臣

・飛將＝飛將軍（前漢時代、匈奴の李廣に對する呼稱）の略稱。『史記』巻一〇九　李將軍列傳「廣居右北平、匈奴聞之、號曰『漢之飛將軍』、避之數歲、不敢入右北平」。
・虎臣＝『毛詩』大雅　常武「王奮厥武、如震如怒。進厥虎臣、闞如虓虎、鋪敦淮濆、仍執醜虜」。毛亨傳「虎之自怒虓然。濆、厓。仍、就。虜、服也」。鄭玄箋「進、前

也。敦當作屯。醜、衆也。王奮揚其威武、而震雷其聲、而勃怒其色。前其虎臣之將、闞然如虎之怒、陳屯其兵於淮水大防之上以臨敵、就執其衆之降服者也」。『後漢書』列傳三七　班勇傳「孝明皇帝深惟廟策、乃命虎臣、出征西域、故匈奴遠遁、邊境得安」。

(84) **領袖諸□、冠冕群儁**

・**領袖**＝任昉「爲蕭揚州作薦士表」（『文選』卷三八）「故以暉映先達、**領袖**後進」、呂向注「**領袖**、可爲人之儀則」。

・**群儁**＝群俊。『後漢書』列傳三〇上　班固傳上「竊見幕府新開、廣延**群俊**、四方之士、顚倒衣裳」。

(85) **探賾索隱、應變知機**

・**探賾索隱**＝『周易』繫辭上「備物致用、立成器以爲天下利、莫大乎聖人。**探賾索隱**、鉤深致遠、以定天下之吉凶、成天下之亹亹者、莫大乎蓍龜」。孔穎達疏「**探**謂窺探求取、**賾**謂幽深難見。卜筮則能闚探幽昧之理、故云**探賾**也。**索**謂求索、**隱**謂隱藏」。

・**應變**＝『荀子』非相「不先慮、不早謀、發之而當、成文而類、居錯遷徙、**應變**不窮、是聖人之辯者也」。袁宏『三國名臣序贊』（『文選』卷四七）「英英文若、靈鑒洞照。**應變知**微、**探賾**賞要」。

・**知機**＝知幾。『周易』繫辭下「**知幾**其神乎。君子上交不諂、下交不瀆、其**知幾**乎。**幾**者、動之微、吉之先見者也」。『素問』離合眞邪論「故曰、**知機**道者不可挂以髮、不**知機**者扣之不發」。王冰注「**機**者動之微、言貴知其微也」。

(86) **著義尙訓御之懃、立勳功事勞之績**

・**訓御**＝『國語』楚語上「史不失書、矇不失誦、以**訓御**之、於是乎作懿戒、以自儆也」。

・**勳功**＝『周禮』夏官　司勳「王**功**曰**勳**」。鄭玄注「輔成王業若周公」。張華「雅樂正旦大會行禮詩」（『宋書』卷二〇樂志）「烈烈景皇、克明克聰、靜封略、定**勳功**」。

(87) **廊廟推其偉器、柱石揖其大材。**

・**廊廟**＝朝廷をさす。『國語』越語下「謀之**廊廟**、失之中原、其可乎。王姑勿許也」。『後漢書』列傳一九　申屠剛傳「**廊廟**之計、既不豫定、動軍發衆、又不深料」。李賢注「**廊**、殿下屋也。**廟**、太廟也。國事必先謀於**廊廟**之所也」。

・**偉器**＝大器。大事に堪える人才。『後漢書』列傳五八　郭太傳「林宗見而謂曰『卿有絶人之才、足成**偉器**』」。

・**柱石**＝國家の重臣。『漢書』卷六八　霍光傳「將軍爲國**柱石**、審此人不可、何不建白太后、更選賢而立之」。

・**大材**＝『漢書』卷一二　平帝紀　詔「對諸有臧及內惡未發而薦擧者、皆勿案驗。令士厲精鄉進、不以小疵妨**大材**」。

(88) **馳傳莅蕃、建旗作牧**

・**馳傳**＝『史記』卷七五　孟嘗君列傳「秦昭王後悔出孟嘗君、求之、已去、卽使人**馳傳**逐之」。『漢書』卷一四　諸侯王表第二「詐謀既成、遂據南面之尊、分遣五威之吏、**馳傳**天下、班行符命」。『隋書』卷六五　吐萬緒傳「晉王廣之在藩也、頗見親遇、及爲太子、引爲左虞候率。煬帝嗣位、漢王諒時鎭并州、帝恐其爲變、拜緒晉・絳二州刺史、**馳傳**之官。緒未出關、諒已遣兵據蒲坂、斷河橋、緒不得進」。

・**莅蕃**＝［南齊］「僧巖法師辭青州刺史劉善明擧其秀才書（并劉善明答）」（『弘明集』卷一二）「僕忝**莅**梓**蕃**、庶在明仄、

觀貢帝庭、必盡才懿」（大正五二・七五下）。

・建旗作牧＝［北周］庾信「柱國楚國公岐州刺史慕容公神道碑」（『庾子山集注』卷一四）「［武成］二年、授同州刺史。衿帶關輔、脣齒秦晉。編户殷積、邸閣儲峙。藩籬是任、親賢勿居。公建旗作牧、褰帷行部、六條斯擧、百城咸勸。三年、授公大司寇」。

・建旟＝『周禮』春官 司常「及國之大閲、贊司馬頒旗物。王建大常、諸侯建旂、孤卿建旜、大夫・士建物、師都建旗、州里建旟」。『隋書』卷一〇 禮儀志五 輿輦「公及一品象輅、黃質、以象飾諸末。建旟、畫以鳥隼。受册告廟、升壇上任、親迎及葬則乘之」。

・作牧＝『周禮』春官 大宗伯「七命賜國、八命作牧」。

(89) **招懷散逸、鐲復逃亡**

・招懷＝『史記』卷一二〇 汲鄭列傳「是時、漢方征匈奴、招懷四夷」。

・散逸＝蔡邕「文先生李子材銘」（『蔡中郎集』卷六）「自戰國及漢、名臣繼踵、枝冑散逸、其遷于宛、尙矣」。

・鐲復＝『後漢書』列傳二一 賈琮傳「琮卽移書告示、各使安其資業、招撫荒散、鐲復傜役」。

(90) **遠視廣聽、賈琮之按冀部**＝『後漢書』列傳二一 賈琮傳「時黃巾新破、兵凶之後、郡縣重斂、因緣生姦。詔書沙汰刺史、二千石、更選淸能吏、乃以琮爲冀州刺史。舊典、傳車驂駕、垂赤帷裳、迎於州界。及琮之部、升車言『刺史當遠視廣聽、糾察美惡、何有反垂帷裳以自掩塞乎』。乃命御者褰之。百城聞風、自然竦震。其諸臧過者、望風解印綬去、唯癭陶長濟陰董昭、觀津長梁國黃就當官待琮、於是州界翕然」。

(91) **賞善黜惡、徐邈之處涼州**＝『三國志』卷二七 徐邈傳「明帝以涼州絕遠、南接蜀寇、以邈爲涼州刺史、使持節領護羌校尉。至、値諸葛亮出祁山、隴右三郡反、邈輒遣參軍及金城太守等擊南安賊、破之。河右少雨、常苦乏穀、邈上脩武威・酒泉鹽池以收虜穀、又廣開水田、募貧民佃之、家家豐足、倉庫盈溢。乃支度州界軍用之餘、以市金帛犬馬、通供中國之費。以漸收斂民閒私仗、藏之府庫。然後率以仁義、立學明訓、禁厚葬、斷淫祀、進善黜惡、風化大行、百姓歸心焉。西域流通、荒戎入貢、皆邈勳也。討叛羌柯吾有功、封都亭侯、邑三百戸、加建威將軍。邈與羌・胡從事、不問小過。若犯大罪、先告部帥、使知、應死者乃斬以徇、是以信服畏威。賞賜皆散與將士、無入家者、妻子衣食不充。天子聞而嘉之、隨時供給其家。彈邪繩枉、州界肅清」。

・賞善黜惡＝『毛詩』小雅 瞻彼洛矣序「『瞻彼洛矣』、刺幽王也。思古明王能爵命諸侯、賞善罰惡焉」。

(92) **異軫齊奔、古今一致**

・異軫＝沈約「郊居賦」（『梁書』卷一三）「悲異軫而同歸、歡殊方而竝失」。

・一致＝『周易』繫辭下「天下同歸而殊塗、一致而百慮」。

(93) **下車未幾、善政斯歸**

・善政＝『尙書』大禹謨「德惟善政。政在養民」。

(94) **瞻彼伽藍、事因草創**

・伽藍＝伽藍。［唐］慧苑『新譯大方廣佛花嚴經音義』卷下（慧琳『一切經音義』卷二一）「僧伽藍（具云僧伽羅摩（skt.

saṃghārāma)。言僧者衆也。伽羅摩者園也。或云衆所樂住處也)」(大正五四・四三九中)。

・**草創**＝『漢書』巻二一上　律暦志上「漢興、方綱紀大基、庶事草創、襲秦正朔」。

(95) **奉敕勸奬州內士庶壹萬人等、共廣福田**

・**勸奬**＝『北齊書』巻二四　杜弼傳「弼云、『聖人設教、本由勸奬、故懼以將來、理望各遂其性』」。

・**福田**＝曇無讖譯『優婆塞戒經』巻四　雜品「善男子、如人種穀、終不生芃、施於塔・像、亦復如是、以福田故、得種種果」(大正二四・一〇五四中)。[唐] 法琳『辯正論』巻三「陳高宗孝宣皇帝……式樹福田、造崇皇寺」(大正五二・五〇三中下)。

(96) **公爰啓至誠、虔心徙石**

・**啓至誠**＝『孟子』離婁「是故誠者、天之道也。思誠者、人之道也。至誠而不動者、未之有也。不誠未有能動者也」。『隋書』巻二　文帝紀・開皇九年夏四月壬戌詔「朕君臨區宇、於茲九載、開直言之路、披不諱之心、形於顏色、勞於興寢。自頃逞藝論功、昌言乃眾、推誠切諫、其事甚踈。公卿士庶、非所望也、各啓至誠、匡茲不逮。見善必進、有才必舉、無或噤默、退有後言。頒告天下、咸悉此意」。[三國吳] 康僧會譯『六度集經』巻二　布施度無極章・薩和檀王經「文殊師利在虛空中、坐七寶蓮華上、現身色相、讚言、『善哉。今汝布施、至誠如是』。王與夫人踊躍歡喜、即前作禮」(大正三・七下)。

・**虔心**＝[後漢] 趙曄『吳越春秋』闔閭內傳「今大王虔心思士、欲興兵戈以誅暴楚、以霸天下而威諸侯」。曇無讖譯『佛所行讚』巻二　車匿還品「車匿持此珠、還歸父王所、持珠禮王足、以表我虔心」(大正四・一一上)。

・**徙石**＝『魏書』巻九九　張寔傳附張駿傳「駿築南城、起謙光殿於其中、窮珍極巧、……。其奢僭如此、民以勞怨。駿議治石田、參軍索孚諫曰、『凡爲治者、動不逆天機、作不破地德。昔后稷之播百穀、不墾磐石。禹決江河、不逆流勢。今欲徙石爲田、運土殖穀、計所損用、畝盈百石、所收不過三石而已、竊所未安』」。竺法護譯『力士移山經』「唯然大聖。我之福力莫能踰者、庶幾欲徙石光益於世、著名垂勳、銘譽來裔、使王路平直、荒域歸伏」(大正二・八五八上)。

(97) **施逾奉蓋、檀等布金**

・**施逾奉蓋**＝寶積という長者子が五百人の長者子とともに七寶の蓋をそれぞれ佛に布施し供養すると、それらが合わさり三千大千世界を覆う一蓋となったという說話。『維摩詰所說經』佛國品「爾時毘耶離城有長者子、名曰寶積、與五百長者子、倶持七寶蓋來詣佛所、頭面禮足、各以其蓋共供養佛。佛之威神、令諸寶蓋合成一蓋、遍覆三千大千世界、而此世界廣長之相悉於中現」(大正一四・五三七中)。

・**檀等布金**＝須達長者が黃金を地にしきつめ祇陀太子の園を買い取り、精舍を建て、祇樹給孤獨園(祇園精舍)と名づけたことを指す。[東晉] 法顯『高僧法顯傳』「祇洹精舍大院各有二門。一門東向、一門北向。此園即須達長者布金錢買地處。精舍當中央。佛住此處最久」(大正五一・八六〇下)。他に曇無讖譯『大般涅槃經』師子吼菩薩品第

十一之三（大正一二・五四一上中）、『賢愚經』卷一〇　須達起精舍品（大正四・四一九中〜四二一中）など。

(98) **竭黑水之銅、磬赤岸之玉**

・**黑水之銅**＝『穆天子傳』（『太平御覽』卷五一）「天子升子采石之山、於是取采石鑄以成器于黑水之山」。『山海經』海內西經「流沙出鍾山西行又南行崑崙之墟、西南入海黑水之山」。『水經注』卷一　河水「張華敍東方朔『神異經』曰、『崑崙有銅柱焉、其高入天、所謂天柱也。圍三千里、圓周如削』」。

・**赤岸之玉**＝張衡「思玄賦」（『文選』卷一五）「瞰瑤谿之赤岸兮」。左思「吳都賦」（『文選』卷五）「其琛賂則琨瑤之阜、銅鍇之垠、火齊之寶、駭雞之珍」。劉逵注「琨瑤、皆美石也」。

(99) **結瑠璃之寶網、飾纓珞之珍臺**

・**結瑠璃之寶網**＝〔東晉〕佛馱跋陀羅譯『大方廣佛華嚴經』卷一七　金剛幢菩薩十迴向品「菩薩摩訶薩施種種蓋、所謂尊重人蓋、種種妙寶而莊嚴之、於無量無邊嚴飾蓋中最爲第一、衆寶爲竿、金網羅覆、雜寶瓔珞周匝垂下、懸衆寶鈴、淨瑠璃珠微動相扣、出和雅音、白淨寶網而絞絡之、百千清淨衆雜寶網羅覆其上」（大正九・五〇五下）。

・**飾纓珞之珍臺**＝「纓珞」は「瓔珞」と同じ。『摩訶般若波羅蜜經』卷一　序品「是諸天花乃至天樹葉香以散佛上、所散寶花於此三千大千國土上、在虛空中化成大臺。是花臺邊垂諸瓔珞、雜色花蓋五色繽紛、是諸花蓋瓔珞遍滿三千大千世界」（大正八・二一八上）。

(100) **靈刹霞舒、寶坊雲構**

・**靈刹**＝「南燕天子慕容德書」（『廣弘明集』卷二八）僧朗答「且領民戶、興造靈刹、所崇像福、冥報有歸」（大正五二・三二二下）。

・**霞舒**＝〔東魏〕武定元年（五四三）「李贊邑等邑義五百餘人造像碑」（顏娟英主編『北朝佛敎石刻拓片百品』中央研究院歷史語言研究所、二〇〇八年、No.四四）「堂廡霞舒、階墀綺合」。

・**寶坊**＝曇無讖譯『大方等大集經』卷一　瓔珞品「爾時、世尊至寶坊中昇師子座、聲聞菩薩各各次第坐於寶座」（大正一三・二中）。

・**雲構**＝『史記』卷六　秦始皇本紀「幷一天下、號爲始皇。阿房雲構、金狄成行」。

(101) **崢嶸膠葛、穹隆譎詭**

・**崢嶸**＝班固「西京賦」（『文選』卷二）「於是靈草冬榮、神木叢生、巖峻崷崒、金石崢嶸」、李善注引『方言』郭璞注「崢嶸、高峻也」。

・**膠葛**＝〔前漢〕司馬相如「上林賦」（『漢書』卷五七上、『文選』卷八）「置酒乎顥天之臺、張樂乎膠葛之宇」。顏師古注「郭璞曰、言曠遠深貌也」。左思「吳都賦」（『文選』卷五）「東西膠葛、南北崢嶸」。李善注「膠葛、長遠之貌」。張銑注「崢嶸、峻嶮貌」。『晉書』卷一三〇　赫連勃勃載記「溫宮膠葛、涼殿崢嶸、絡以隨珠、綷以金鏡」。

・**穹隆**＝〔梁〕陸倕「石闕銘」（『文選』卷五六）「鬱崛重軒、穹隆反宇」、李周翰注「鬱崛・穹隆、壯大貌」。

・**譎詭**＝〔戰國楚〕宋玉「高唐賦」（『文選』卷一九）「狀似走獸、或象飛禽、譎詭奇偉、不可究陳」。

(102) **九重壹柱之殿、三休七寶之宮**

・**九重壹柱之殿**＝『韓詩外傳』卷八「齊景公使人於楚、楚王與之上**九重之臺**」。「南荊賦」（［西晉］張華『博物志』卷四）「江陵有臺甚大而有**一柱**、衆木皆拱之」。［唐］餘知古『渚宮故事』（『天中記』卷一四）「劉宋臨川王義慶在鎭、于羅公洲立觀、甚大而惟**一柱**」。［梁］劉孝綽「江津寄劉之遴詩」（『藝文類聚』卷二九）「與子如黃鵠、將別復徘徊、經過**一柱觀**、出入**三休臺**」。［梁］徐陵「與王僧辯書」（『文苑英華』卷六七七）「鼓聲聞**一柱**之臺、烽火照**三休**之殿」。『比丘尼傳』卷四　淨秀尼傳「彭城寺慧令法師六月十九日夢見**一柱殿**嚴麗非常、謂是兜率天宮」（大正五〇・九四五下）。

・**三休**＝［前漢］賈誼『新書』退讓「翟王使使至楚、楚王欲誇之、故饗客於章華之臺上。上者**三休**、而乃至其上」。

・**七寶之宮**＝『無量壽經』卷上「其佛國土自然**七寶**、金・銀・琉璃・珊瑚・琥珀・車璖・瑪瑙、合成爲地」（大正一二・二七〇上）。曇無讖譯『金光明經』堅牢地神品「若有衆生、乃至聞是『金光明經』一句之義、人中命終隨意往生三十三天。地神、若有衆生爲欲供養是經典故莊嚴屋宅、乃至張懸一幡一蓋及以一衣、欲界六天已有自然**七寶宮殿**、是人命終卽往生彼。地神、於諸**七寶宮殿**之中、各各自然有七天女共相娯樂、日夜常受不可思議微妙快樂」（大正一六・三四六上）。『出三藏記集』卷一二　法苑雜緣原始集目錄・雜圖像下卷「佛牙幷齊文宣王造**七寶臺**金藏記第十二」（大正五五・九二下）。

（103）**彫梁刻桷之奇、圖雲畫藻之異**

・**彫梁**＝［北魏］溫子昇「閶闔門上梁祝文」（『藝文類聚』卷六三）「**雕梁**乃架。綺翼斯飛」。

・**刻桷**＝『楚辭』招魂「仰觀**刻桷**、畫龍蛇些」。

・**圖雲**＝蕭綱「大法頌」（『廣弘明集』卷二）「建職樹司、**圖雲**祥火」（大正五二・二四〇中）。

・**畫藻**＝［唐］玄應『一切經音義』卷二二　瑜伽師地論卷四「藻飾。祖老反。水草之有文者、**畫藻**菜（＝采）於衣、以爲服章也」（徐時儀校注『一切經音義三種校本合刊』上海古籍出版社、二〇〇八年、上卷、四五九頁）。

（104）**白銀成地、有類悉覺之談**

・**白銀成地**＝『大智度論』卷三二「佛告目連、『汝所見甚少。過汝所見、東方有國純以黃金爲地、彼佛弟子、皆是阿羅漢、六通無礙。復過是、東方有國純以**白銀爲地**、彼佛弟子皆學辟支佛道。復過是、東方有國純以七寶爲地、其地常有無量光明、彼佛所化弟子純諸菩薩、皆得陀羅尼、諸三昧門、住阿毘跋致地。目連、當知彼諸佛者、皆是我身。如是等東方恆河沙等無量世界、有莊嚴者、不莊嚴者、皆是我身而作佛事。如東方、南西北方、四維、上下、亦復如是』」（大正二五・三〇二中下）。

・**悉覺**＝ここでは佛を指す。『金剛仙論』卷六「『悉覺』者、以一切種智了了覺也」（大正二五・八四三上）。

（105）**黃金鏤楯、非關句踐之獻**＝［後漢］袁康・吳平『越絕書』越絕內經九術「昔者、越王**句踐**問大夫種曰、『吾欲伐吳、奈何能有功乎』。大夫種對曰、『伐吳有九術』。王曰、『何謂九術』。對曰、『一曰、尊天地、事鬼神。二曰、重財幣、以遺其君。三曰、貴糴粟稿、以空其邦。四曰、遺之好美、以爲勞其志。五曰、遺之巧匠、使起宮室高臺、盡其財、

疲其力。六曰、遺其諛臣、使之易伐。七曰、彊其諫臣、使之自殺。八曰、邦家富而備器。九曰、堅厲甲兵、以承其弊。故曰、九者勿患、戒口勿傳、以取天下不難、況於吴乎」。越王曰、「善」。於是作爲策楯、嬰以白璧、鏤以黃金、類龍蛇而行者」。

(106) **閑房靜室**＝［隋］闍那崛多等譯『起世經』最勝品「若曠野空處、山林樹下、閑房靜室、窟穴崖龕、塚間露地、離諸村落、以草木等、結爲菴舍。汝等比丘、應於是處修習禪定、勿墮放逸、致令後悔。是我敎示汝諸比丘」（大正一・三六五上）。

・**閑房**＝［前漢］司馬相如「美人賦」（『古文苑』巻三）「時日西夕、玄陰晦冥、流風慘冽、素雪飄零。閑房寂謐、不聞人聲」。『出曜經』巻九　戒品「世尊卽將目連詣耆闍崛山、時大迦葉獨坐閑房、無有瞻病之人、如來卽往詣大迦葉窟」（大正四・六五七中）。

・**靜室**＝吉川忠夫「靜室考」『東方學報』京都五九、一九八七年參照。『大智度論』巻三八「譬如太子將登王位、先於靜室七日齋潔、然後登正殿受王位。補處菩薩亦如是、兜率天上如齋處、於彼末後受天樂、壽終來下、末後受人樂、便成阿毘三佛」（大正二五・三四一下〜三四二上）。

(107) **陰牖陽窓**＝［後漢］劉楨「魯都賦」（『建安七子集』巻七）「陽牕含輝、陰牖納光」。

(108) **圓井垂蓮、方疎度日**

・**圓井・方疎**＝［西晉］張協「七命」（『文選』巻三五）「錯以瑤英、鏤以金華。方疏含秀、圓井吐葩。重殿疊起、交綺對幌」、呂向注「疏、窓也」。

・**度日**＝［梁］簡文帝（蕭綱）「入溆浦詩」（『藝文類聚』巻九）「泛水入迴塘、空枝度日光、竹垂懸掃浪、梟疑遠避檣」。

(109) **曜明璫於朱戶、殖芳卉於紫墀**

・**明璫**＝曹植「洛神賦」（『文選』巻三九）「無微情以效愛兮、獻江南之明璫。雖潛處於太陰、長寄心於君王」。李善注「服虔『通俗文』曰、耳珠曰璫」。

・**朱戶**＝朱門。『韓詩外傳』巻八「傳曰、諸侯之有德、天子錫之。一錫車馬、再錫衣服、三錫虎賁、四錫樂器、五錫納陛、六錫朱戶、七錫弓矢、八錫鈇鉞、九錫秬鬯、謂之九錫也」。

・**芳卉**＝［西晉］潘岳「登虎牢山賦」（『藝文類聚』巻七）「爾乃仰蔭嘉木、俯藉芳卉、青煙鬱其相望棟宇懔以鱗萃」。

・**紫墀**＝墀には宮殿の前の階段という意味と、色塗りの地面という意味がある。ここでは門と對になるものとして前者を採用した。［三國魏〜西晉］傅玄『傅子』（『太平御覽』巻一八四）「漢武世、王侯觀殿重階、金樞紫墀」。『南齊書』樂志　北郊樂歌辭・昭夏之樂「詔禮崇營、敬饗玄時。靈正丹帷、月肅紫墀」。

(110) **地映金沙、似遊安養之國**

・**金沙**＝左思「蜀都賦」（『文選』巻四）「金沙銀礫、符采彪炳、暉麗灼爍」。劉逵注「永昌有水、出金、如糠在沙中」。鳩摩羅什譯『阿彌陀經』「極樂國土有七寶池、八功德水充滿其中、池底純以金沙布地」（大正一二・三四六下〜三四七上）。

・**安養之國**＝竺法護譯『文殊師利佛土嚴淨經』「國土嚴淨、猶如西方安養之國、功勳嚴淨等無有異、其壽命等亦無差

別」（大正一一・八九五下）。竺法護譯『正法華經』藥王菩薩品「若有女人、於五濁世最後末俗、聞是經法能奉行者、於是壽終生安養國、見無量壽佛」（大正九・一二六下）。

（111）**薝隱天樹、疑入歡喜之園**

・**薝**＝Skt. Campaka 薝蔔・瞻匐。［北魏］吉迦夜・曇曜譯『付法藏因縁傳』卷四「時婆羅門俱以二子付於尊者、度令出家、皆得羅漢。卽便使之採**薝蔔**花。荅言、『大師、此樹高峻、我不能及』。尊者語言、『汝等是天、豈無神足』。時二沙彌卽昇虛空、採花奉獻」（大正五〇・三一二下）。玄應『一切經音義』卷二一「大菩薩藏經卷三「瞻博花。舊言旃簸迦、或作詹波花、亦作瞻匐、又作占婆花、皆方夏之差耳。此云金色花、『大論』云黄花樹也。樹形高大、花亦甚香、其氣逐風彌遠也」（前掲徐時儀校注『一切經音義三種校本合刊』四三四頁）。

・**天樹**＝『妙法蓮華經』序品「諸佛子等、爲供舍利、嚴飾塔廟、國界自然、殊特妙好、如**天樹**王、其華開敷。佛放一光、我及衆會、見此國界、種種殊妙。諸佛神力、智慧希有、放一淨光、照無量國。我等見此、得未曾有」（大正九・三中下）。［梁］法雲『法華經義記』卷二「言『如**天樹**王其華開敷』、故如波利質多羅樹」（大正三三・五八六上）。『大智度論』卷一三「**天樹**自然生、花鬘及瓔珞、丹葩如燈照、衆色相間錯。……明珠天耳璫、寶渠曜手足、隨心所好愛、亦從**天樹**出。……波隸質姤樹、**天上樹**中王、在彼**歡喜園**、一切無有比」（大正二五・一五九上）。

・**歡喜之園**＝Skt. Nandana 歡樂園・喜林苑　忉利天にある帝釋宮の四園（衆車（駕御・畫樂）・麤澁・雜林（照明・雜）・歡喜）の一。喜見城の外面北方に在り。『經律異相』卷一天地部「忉利天、居須彌山頂、有三十三天宮。王名釋提桓因。……三十三天。金城銀門、銀城金門、如是七寶、互爲城門。樓閣臺觀周匝圍繞。園林浴池寶花間雜。寶樹行列、華果繁茂。香風四起、悅可人心。異類奇鳥、無數和鳴。……復有雜園・**大歡喜園**。中間有樹、名晝度。園七由旬、高百由旬。枝葉四布五十由旬。其香逆風百由旬內。忉利殿南又有一樹、名波質拘耆羅。高四千里、枝葉分布二千里。風吹花香、逆風行聞二千里。當樹花時、諸天共坐樹下、以爲歡樂。經遊天一百二十日。帝釋有三十二大臣、故言三十三天也。各有宮、皆在城內。遊戲園中、必經七日。麁澁者、入此園時、身體麁澁。晝者入此園時、身體自然、種種畫色以相悅樂。雜者、常以月八日・十四日・十五日、放諸婇女、與諸天子雜遊。獨與舍脂共在一處、名爲雜。大喜者、入此園時、心大歡喜（出『長阿含經』第二十卷、又出『樓炭』『大智論』『華嚴』『涅槃』）」（大正五三・一下～二上）。また前注『大智度論』卷一三引文參照。

（112）**夜漏將竭、聽鳴鍾於寺內**

・**夜漏**＝『周禮』春官　雞人「大祭祀、夜呼旦以嘂百官」、鄭玄注「**夜漏**未盡、鷄鳴時也、呼旦以警起百官、使夙興」。

・**鳴鍾**＝鳴鐘。『說苑』善說「建天下之**鳴鍾**而撞之以挺、豈能發其聲乎哉」。『過去現在因果經』卷二「至二月八日、諸餘國王幷及仙人婆羅門等、皆悉雲集。懸繒幡蓋、燒香散花、**鳴鍾**擊鼓、作諸伎樂」（大正三・六二九上）。

（113）**曉相既分、見承露於雲表**

・**承露**＝承露盤。『史記』卷一二 孝武本紀「其後則又作栢梁・銅柱・**承露**僊人掌之屬矣」。裴駰集解「蘇林曰、仙人以手**掌**擎盤、**承**甘露也」。司馬貞索隱「『三輔故事』云、建章宮**承露盤**高三十丈、大七圍、以銅爲之、上有仙人掌**承露**、和玉屑飮之」。

(114) **不求床坐、來會之衆何憂**＝『維摩詰所說經』不思議品「爾時舍利弗見此室中無有**床座**、作是念、『斯諸菩薩、大弟子衆、當於何坐』。長者維摩詰知其意、語舍利弗言、『云何仁者、爲法來耶、**求床座耶**』。舍利弗言、『我爲法來、**非爲床座**』。維摩詰言『唯、舍利弗、夫求法者、不貪軀命、何況**床座**』。……於是長者維摩詰現神通力、卽時彼佛遣三萬二千師子座、高廣嚴淨、來入維摩詰室、諸菩薩・大弟子・釋・梵・四天王等、昔所未見。其室廣博、悉皆包容三萬二千師子座、無所妨礙」（大正一四・五四六上中）。

(115) **自然飮食、持鉢之侶奚念**＝「自」は文意からの推測。鑒印は「默」とするが、「默然飮食」は大正新脩大藏經に用例が見當たらず、文脈的にも不適當である。（傳）支謙譯『阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經』卷上「阿彌陀佛及諸菩薩、阿羅漢欲食時、卽自然七寶机、劫波育罽疊以爲座。佛及菩薩皆坐前悉有自然七寶、鉢中有百味飮食。飮食者亦不類世閒、亦非天上。此百味飮食、八方・上下衆**自然飮食**中精味、甚香美無比」（大正一二・三〇七上）。[南朝宋] 求那跋陀羅譯『樹提伽經』「王問提伽、『卿家乃爾。速作調度、吾欲將領二十萬衆到卿家看望』。樹提伽答言、『願王相隨至臣之家、臣有自然床席不須人布、**自然飮食**不須人作、自然擎來、不須喚呼、自然擎去、不須反顧』」（大正一四・八二五中）。

(116) **歲次鶉火**＝午の歲を指す。開皇六年の干支は丙午。『左傳』昭公八年「**歲在鶉火**、是以卒滅」。『晉書』卷一一 天文志上「自柳九度至張十六度爲**鶉火**、於辰在午、周之分野、屬三河」。

(117) **皇隋寶祚、與天長而地久**

・**寶祚**＝『宋書』卷九四 恩倖序「民忘宋德、雖非一塗、**寶祚**夙傾、實由於此」。

・**與天長而地久**＝『老子』第七章「**天長地久**、天地所以能長且久者、以其不自生、故能長生」。

(118) **種覺花臺、將神護而鬼衞**

・**種覺**＝求那跋陀羅譯『相續解脫地波羅蜜了義經』「細微煩惱爾焰障斷、得無礙無障爾焰一切**種覺**故、第十一地名佛地」（大正一六・七一五中）。[梁] 王僧孺「懺悔禮佛文」（『廣弘明集』卷一五）「俱向道場、同登**種覺**」（大正五二・二〇七中）。[梁] 蕭綱「大法頌幷序」（『廣弘明集』卷二〇）「以爲『般若經』者、方等大法。……**種覺**可生、允茲佛母。群典弗逮、是號經王」（大正五二・二四〇下～二四一上）。

・**花臺**＝『大智度論』卷四〇「是人過六十八億劫作佛、是人見十方諸菩薩持七寶華來供養、變成七寶**花臺**。因見是已、其心淸淨、得無生法忍」（大正二五・三五六中）。[梁] 朱超「對雨詩」（『藝文類聚』卷二）「當夏苦炎埃、習靜對**花臺**。落照依山盡、浮涼帶雨來」。

(119) **多羅祕藏、毗尼覺道**

・**多羅**＝修多羅（Skt. sūtra）、經。[南齊] 僧伽跋陀羅譯『善

見律毘婆沙』序品「問曰、何謂三藏。答曰、**毘尼**藏、**修多羅**藏、阿毘曇藏、是名三藏」（大正二四・六七五下）。
・**毗尼**＝毘奈耶（Skt. vinaya）、律。前引『善見律毘婆沙』參照。
・**覺道**＝『注維摩詰經』卷一　佛國品「【經】**覺道**成。【注】「肇曰、大**覺**之**道**、寂滅無相、至味和神、諭若甘露。於菩提樹、先降外魔、然後成甘露寂滅大**覺**之**道**、結習內魔、於茲永盡矣」（大正三八・三三三上）。

（120）**斯文不滅、憑於大造**
・**斯文**＝『論語』子罕「天之將喪**斯文**也、後死者不得與於**斯文**也」。
・**大造**＝既出。注（37）參照。

（121）**誰薰種智、誰壞煩惱**
・**種智**＝一切種智。『大智度論』卷二七「佛盡知諸法總相別相故、名爲一切**種智**」（大正二五・二五九上）。『摩訶般若波羅蜜經』卷二一　三慧品「一相故名一切**種智**、所謂一切法寂滅相。復次諸法行類相貌、名字顯示說佛如實知、以是故名一切**種智**」（大正八・三七五下）。

（122）**猗歟我△皇、實弘三寶**
・**猗歟**＝猗與。『毛詩』周頌　潛「**猗與**漆沮、潛有多魚」。鄭玄箋「**猗與**、歎美之言也」。班固「東都賦・明堂詩」（『文選』卷一）「**猗歟**緝熙、允懷多福」。呂延濟注「**猗歟**、歎美也」。

（123）**慧燈翻照、法炬還明**
・**慧燈**＝佛駄跋陀羅『大方廣佛華嚴經』入法界品「譬如一燈然百千燈、無所損減。菩提心燈亦復如是、悉然三世諸佛**慧燈**、無所損減」（大正九・七七八中）。
・**法炬**＝［三國呉］支謙譯『菩薩本緣經』月光王品「汝如惡風吹滅**法炬**、是大惡象欲拔法樹、成死惡人無有道理」（大正三・六三下）。『續高僧傳』卷一七・曇崇傳「大象之初、皇隋肇命、**法炬**還炤、卽預百二十僧、敕住興善」（大正五〇・五六八中）。

（124）**菩提果殖、救護心生**
・**菩提果**＝曇無讖譯『優婆塞戒經』尸波羅蜜品「若能修忍、三昧、智慧、勤行精進、樂於多聞、當知是人則能增長尸波羅蜜、莊嚴菩提、證**菩提果**」（大正二四・一〇六六上）。
・**救護心生**＝［北魏］勒那摩提譯『究竟一乘寶性論』一切衆生有如來藏品「是菩薩如是自身正修行、教化衆生令置彼處、得大慈悲心、於顚倒衆生**生救護心**、不著寂滅涅槃、善作彼方便、現前世間門、爲衆生故、現前涅槃門」（大正三一・八三五上）。

（125）**香樓並構、貝塔俱營**
・**香樓**＝［梁］武帝「遊鍾山大愛敬寺詩」（『古詩紀』卷七五）「長途弘翠微、**香樓**閒紫煙、慧居超七淨、梵住踰八禪」。
・**貝塔**＝［陳］江總「庚寅年二月十二日遊虎丘山精舍」（『廣弘明集』卷三〇）「**貝塔**涵流動、花臺編嶺芬、蒙籠出檐桂、散縵繞窓雲」（大正五二・三五七上中）。

（126）**充遍世界、弥滿國城**
・**充遍世界**＝『妙法蓮華經』見寶塔品「爾時佛前有七寶塔、高五百由旬、縱廣二百五十由旬、從地踊出、住在空中、種種寶物而莊校之。……四面皆出多摩羅跋栴檀之香、**充遍世界**」（大正九・三二中）。

・**弥滿**＝『後漢書』列傳一一　任光傳「使騎各持炬火、**彌滿**澤中、光炎燭天地、擧城莫不震驚惶怖、其夜卽降」。佛馱跋陀羅『大方廣佛華嚴經』金剛幢菩薩十迴向品「衆生數等無量佛刹、諸妙寶蓋**彌滿**其中」（大正九・五四一上）。

（127）**憬彼大林、當途向術**

・**憬**＝『毛詩』魯頌　駉之什「**憬彼**淮夷、來獻其琛」、陸德明『經典釋文』「『說文』作『廣』、音獷、云『闊也。一曰廣大也』」。大成は「遠い貌」、書畫は「覺悟」の意味を採用し、鑒印も「人们觉醒于竹林寺院」と譯す。ここでは『經典釋文』の解釋を採用し龍藏寺が廣大であることを述べているとした。

・**大林**＝Skt. Mahāvana　大林精舍。『高僧法顯傳』「毘舍離城北**大林**重閣精舍。佛住處及阿難半身塔」（大正五一・八六一下）。［後梁］宣帝（蕭詧）「遊七山寺賦」（『廣弘明集』卷二九）「擬**大林**之精舍、等重閣之講堂」（大正五二・三三八中）。

・**當途向術**＝左思「蜀都賦」（『文選』卷四）「比屋連甍、千廡萬室。亦有甲第、**當衢向術**」、劉良注「**術**、道也」、呂延濟注「甲第、第一宅也。言第一宅皆向道爲之。當、向也。衢、道也」。鑒印は「當权的官僚向往佛教艺术」と譯す。大成も「當途は樞要の地位を占めたる人。向レ術の術はみちで佛敎、上記の迦蘭陀長者が佛に歸依せし如く有力の人で佛に歸依せるものができたとの意」と解する。名品も同樣の解釋をする。「吳都賦」典據に基づき、龍藏寺が街道に面していることを述べていると解した。

（128）**於穆州后、仁風遐拂**

・**於穆**＝『毛詩』周頌　維天之命「維天之命、**於穆**不已」。『漢書』卷六二　司馬遷傳「漢興已來、至明天子、獲符瑞、封禪、改正朔、易服色、受命於穆淸、澤流罔極、海外殊俗重譯款塞、請來獻見者、不可勝道」。顏師古注「**於**、歎辭也。**穆**、美也。言天子有美德而政化淸也」。

・**州后**＝ここの后は長官または將軍に對する尊稱。州后は州の長官である州刺史、ここでは恆州刺史王孝僊を指す。［後漢］李翕「西狹頌」（『隸釋』卷四）「漢武都太守漢湯阿湯李君。……赫赫明**后**、柔嘉維則」。

・**仁風**＝班固「典引」（『後漢書』列傳三〇下　班固傳）「神靈日燭、光被六幽、**仁風**翔乎海表、威靈行於鬼區、慝亡迴而不泯、微胡瑣而不頣」。

（129）**金粟施僧、珠纓奉佛**

・**金粟施僧**＝［三國吳］康僧會譯『六度集經』卷三　布施度無極章「昔有梵志、名曰維藍、榮尊位高、爲飛行皇帝、財難籌算、體好布施。名女上色、服飾光世、以施與人。金鉢盛銀粟、銀鉢盛**金粟**、澡甕盥槃四寶交錯。金銀食鼎、中有百味。……。自名女以下至于寶車、事事各有千八十四枚、以施與人。維藍慈惠、八方上下天龍善神無不助喜。如維藍惠、以濟凡庶、畢其壽命無日疲懈、不如一日飯一淸信具戒之女、其福倍彼不可籌算。……凡人猶瓦石、具戒高行者、若明月珠也。瓦石滿四天下、猶不如眞珠一矣。又如維藍布施之多、逮于具戒衆多之施、不如飯溝港一。溝港百、不如頻來一。頻來百、不如不還一。不還百、不如飯應眞一人。又如維藍前施及飯諸賢聖、不如孝事其親。孝者盡其心無外私。百世孝親、不如飯一辟支佛。辟支佛

百。不如飯一佛。佛百、不如立一刹、守三自歸、歸佛歸法歸比丘僧。盡仁不殺、守清不盜、執貞不犯他妻、奉信不欺、孝順不醉、持五戒、月六齋、其福巍巍、勝維藍布施萬種名物、及飯賢聖、甚爲難算矣」（大正三・一二上中）。［參考］義淨『大唐西域求法高僧傳』卷二　荊州無行禪師「無行禪師者、荊州江陵人也。與智弘爲伴、東風汎舶、一月到室利佛逝國。國王厚禮、特異常倫。布金華、散**金粟**、四事供養、五體呈心、見從大唐天子處來、倍加欽上」（大正五一・九上中）。

・**珠纓奉佛**＝［西晉］石崇「王明君詞」（『文選』卷二七）「哀鬱傷五內、泣淚濕**珠纓**」。『妙法蓮華經』觀世音菩薩普門品「無盡意菩薩白佛言、『世尊、我今當供養觀世音菩薩』。卽解頸衆**寶珠瓔珞**、價直百千兩金、而以與之、作是言、『仁者受此法施珍寶瓔珞』。時觀世音菩薩不肯受之。無盡意復白觀世音菩薩言、『仁者愍我等故、受此瓔珞』。爾時佛告觀世音菩薩、『當愍此無盡意菩薩及四衆・天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人非人等故、受是瓔珞』。卽時觀世音菩薩愍諸四衆、及於天・龍・人非人等、受其**瓔珞**、分作二分、一分**奉**釋迦牟尼**佛**、一分奉多寶佛塔」（大正九・五七中下）。那連提耶舍譯・僧就合『大方等大集經』日藏分・星宿品「爾時戒依止菩薩摩訶薩、卽於坐處得法順忍、從坐而起頭面作禮繞佛三匝、卽脫身上無價寶衣**眞珠瓔珞供養如來**」（大正一三・二七三上）。

（130）**結瑤葺宇、構瓊起室**＝左思「吳都賦」（『文選』卷五）「彫欒鏤楶、青瑣丹楹。圖以雲氣、畫以仙靈。雖茲宅之夸麗、曾未足以少寧。思比屋於傾宮、畢**結瑤**而**構瓊**」。劉良注「『汲郡地中古文册書』曰、『桀築傾宮、飾**瑤**臺、紂作**瓊**室、立玉門』。言其夸麗」。

（131）**鳳甍槩日、虹梁入雲**

・**虹梁**＝班固「西都賦」（『文選』卷一）「因瓌材而究奇、抗應龍之**虹梁**、列**棼橑**以布翼、荷棟桴而高驤」。李善注「應龍**虹梁**、梁形似龍而曲如虹也。……『說文』曰、『棼、複屋棟也、扶云切。又曰『橑、椽也』」。

（132）**電飛窓戶、雷驚橑棼。**

・**窓戶**＝［梁］何遜「嘲劉諮議孝綽」（『玉臺新詠』卷五）「房櫳滅夜火、**窻戶**映朝光」。

・**橑棼**＝棼橑。押韻のため倒置。「虹梁」注の引用文參照。

（133）**綺籠金鏤、縹壁椒薰**

・**綺籠**＝綺麗な格子窓。［梁］蕭暐「奉和詩」（『藝文類聚』卷三）「杏梁照初月、蓮池引夕風。清暉洞澡井、流香入**綺籠**。鵲聲時徙樹、螢光乍滅空」。

・**縹壁**＝［後漢］劉梁「七擧」（『藝文類聚』卷五七）「丹楹・**縹壁**・紫柱・虹梁」。

・**椒**＝『毛詩』唐風　椒聊「**椒**聊之實、蕃衍盈升」。陸璣疏「**椒**樹似茱萸、有鍼刺、莖葉堅而滑澤」。『世說新語』汰侈「石〔崇〕以椒爲泥、王〔愷〕以赤石脂泥壁」。

（134）**綈錦亂色、丹素成文**

・**綈錦**＝張衡「西京賦」（『文選』卷二）「木衣**綈錦**、土被朱紫」、薛綜注「言皆采畫如錦繡之文章也」。李善注「『說文』云、『**綈**、厚繒也』」。

（135）**髣髴雪宮、依稀月殿**

・**髣髴**＝『楚辭』遠遊「時**髣髴**以遙見兮」。朱熹集注「髣髴、見不定也」。

・**雪宮**＝戰國齊の離宮。『孟子』梁惠王下「齊宣王見孟子於**雪宮**」。趙岐注「**雪宮**、離宮之名也。宮中有苑囿臺池之飾、禽獸之饒」。

・**依稀**＝謝靈運「行田登海口盤嶼山詩」（『古詩紀』卷五七）「**依稀**采菱歌、**彷彿**含嚬容」。

・**月殿**＝月宮。［梁］蕭綱「玄圃園講頌」序（『廣弘明集』卷二〇）「風生**月殿**、日照槐煙」（大正五二・二四二中）。

（136）**明室結幌、幽堂啓扇**

・**明室**・**幽道**＝［西晉］張協「七命」（『文選』卷三五）「重殿疊起、交綺對幌、**幽堂**晝密、**明室**夜朗」。劉良注「晝密謂深也。夜朗謂高敞」。

（137）**臥虎未窺、跧龍誰見**

・**臥虎**＝『南史』卷一八　蕭思話傳附蕭惠開傳「惠開素有大志、至蜀欲廣樹經略。善於敍述、聞其言者皆以爲大功可立。才疏意廣、竟無成功。嚴用威刑、蜀人號曰「**臥虎**」。明識過人、嘗供三千沙門、一閱其名、退無所失」。

・**臥虎跧龍**＝［參考］［南宋］范成大「小峨眉詩」「**龍跧虎臥**起且伏、旁睨沫水沱江朝」。

（138）**帶風蕭瑟、含煙葱蒨**

・**蕭瑟**＝王粲「登樓賦」（『文選』卷一一）「風**蕭瑟**而竝興兮、天慘慘而無色」。

・**葱蒨**＝**蔥倩**。［南朝宋］謝靈運「山居賦」（『宋書』卷六七　謝靈運傳）「當嚴勁而**蔥倩**、承和煦而芬腴」。

（139）**川谷苞異、山林育材**

・**育材**＝『毛詩』小雅　菁菁者莪序「菁菁者莪、樂育材也。君子能長**育**人**材**、則天下喜樂之矣」。

（140）**西臨天井、北拒吾臺**

・**天井**＝天井關。『後漢書』章帝紀・元和二年三月條「乙未、幸東阿、北登太行山、至天井關」、李賢注「在今澤州晉城縣南、今太行山上、關南有天井泉三所也」。『水經注』卷九　沁水「『地理志』曰、「高都縣有天井關」。蔡邕曰『太行山上有**天井**、關在井北、遂因名焉』。故劉歆『遂初賦』曰、『馳太行之嶮峻、入**天井**之高關』。太元十五年、晉征虜將軍朱序破慕容永于太行、遣軍至白水、去長子一百六十里。白水又東、天井溪水會焉。水出天井關、北流注白水、世謂之北流泉」。

・**吾臺**＝五臺山か。大成は恆山の一峰とする。

（141）**蘇秦說反、樂毅奔來**

・**蘇秦說反**＝燕・趙・韓・魏・齊・楚の六國に遊說して合縱して秦に抗した。趙に歸ると趙の蕭侯は武安君に封じた。『史記』卷六九　蘇秦列傳參照。

・**樂毅奔來**＝樂毅は戰國燕の人。趙・楚・韓・魏・燕の五國の兵を率い齊を討伐し七十餘りの城を降した。燕は彼を昌國に封じたが、後にうとまれ、趙に出奔した。趙は彼を觀津の地に封じた。『史記』卷八〇　樂毅列傳參照。

（142）**鄒・魯媿俗、汝・潁慙能**

・**鄒**・**魯**＝孟子のいた鄒と孔子の故鄉である魯。［梁］元帝（蕭繹）「示吏民詩」（『藝文類聚』卷五〇）「方令江・漢士、變爲**鄒**・**魯**俗」。

・**汝**・**潁**＝汝南と潁川。『三國志』卷一四　魏書　郭嘉傳

「汝・潁固多奇士」。

（143）**惟此大城、瓌異所踐**

・**瓌異**＝『魏書』巻四上　太武帝紀「世祖太武皇帝、諱燾、太宗明元皇帝之長子也、母曰杜貴嬪。天賜五年生於東宮、體貌瓌異、太祖奇而悅之」。

（144）**疏鍾嚮度、層磐露泫**

・**疏鍾**＝［陳］徐孝克「仰同令君攝山栖霞寺山房夜坐六韻」（『廣弘明集』巻三〇）「戒檀青石路、靈相紫金峰。影進歸依鴿、餮迎守護龍。晨朝宣寶偈、寒夜斂疏鍾。鷄蘭靜含握、仁智獨從容。五禪清慮表、七覺蕩心封。願言於此處、携手屢相逢」（大正五二・三五六下）。

・**嚮度**＝響度。［梁］費昶「華光省中夜聽城外擣衣詩」（『藝文類聚』巻六七）「浮聲繞雀臺、飄響度龍闕」。

・**層磐**＝層盤。佛塔の頂部にある承露盤のこと。［三國魏］何晏「景福殿賦」（『文選』巻一一）「爾乃建淩雲之層盤、浚虞淵之靈沼」、李善注「淩雲、層盤名也。爲之以承甘露也」。

・**露泫**＝謝靈運「從斤竹澗越嶺溪行一首」（『文選』巻二二）「巖下雲方合、花上露猶泫」。［梁］元帝（蕭繹）「歸來寺碑」（『藝文類聚』巻七六）「鈴隨風振、盤依露泫。丹桂無枝、朱楊自翦」。

（145）**八聖、四禪、五通、七辯**

・**八聖**＝八聖道（八正道）。佛道修行の基本となる八種の實踐德目。鳩摩羅什譯『摩訶般若波羅蜜經』巻五　廣乘品「菩薩摩訶薩摩訶衍、所謂八聖道分。何等八。正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定、是名菩薩摩訶薩摩訶衍、以不可得故」（大正八・二五四下）。

・**四禪**＝『摩訶般若波羅蜜經』巻二〇　攝五品「佛言、菩薩入初禪・第二・第三・第四禪、不貪聲聞・辟支佛地。作是念、『我當住禪那波羅蜜中、度一切衆生生死』」（大正八・三六五下）。

・**五通**＝五神通。『摩訶般若波羅蜜經』巻二三　三次品「我於是諸禪不受果報。依四禪住、起五神通、身通・天耳・知他人心・宿命通・天眼通」（大正八・三八四上）。康僧會譯『六度集經』巻八　明度無極章「池邊樹下有聖梵志、內外無垢、獲五通之明」（大正三・四四下）。

・**七辯**＝七無礙辯。『摩訶般若波羅蜜經』巻八　幻聽品「從諸佛所聽受法教、乃至薩婆若初不斷絕、未曾離三昧時。當得捷疾辯・利辯・不盡辯・不可斷辯・隨應辯・義辯・一切世間最上辯」（大正八・二七六下）。僧肇『注維摩詰經』巻一　佛國品「【經】念・定・總持・辯才不斷。【注】肇曰、念、正念。定、正定。總持、謂持善不失、持惡不生、無所漏忘、謂之持。持有二種、有心相應持、不相應持。辯才、七辯也。此四是大士之要用、故常不斷」（大正三八・三二九上）。

（146）**戒香恆馥、法輪常轉**

・**戒香**＝曇無讖譯『大般涅槃經』梵行品「願諸衆生戒香具足。願諸衆生持無礙戒、香氣芬馥、充滿十方」（大正一二・四五五中）。

・**法輪常轉**＝［梁］慧皎『高僧傳』巻一一　智稱傳「還京憩安樂寺、法輪常轉、講大本三十餘遍」（大正五〇・四〇二中）。

(147) **齊開府長兼行參軍九門張公禮之□**＝この人物は隋代になっても北齊の官を名乘っていることから從來注目されてきた（後揭「主要著錄跋文」參照）。闕字は「撰」を表す語が入るとする說が有力である。

【訓讀】

恆州刺史鄂國公 國の爲に龍藏寺碑を勸造す。

竊かに以みるに空王の道、諸もろの名相を離れ、大人の法、去來有るに非ず。斯の故に喩を師子に將りて、自在にして無畏なるを明かし、譬を金剛に取りて、畢竟にして毀たれざるを信らかにす。是に知る、涅槃の路遠く、解脫の源深く、愛慾の長河を隔て、生死の大海を閒つを。船無くして度るを求むるは、旣に龜毛に似、翅無くして飛ぶを願うは、還た兎角に同じ。故に以て五通・八解、名敎の生ずる攸、二諦・三乘、法門斯に起こる。麤を撿し細を攝すれば、良とに汲引の風に資し、滿を挽き深きを陷せば、雅しく脩行の致を得。

若し乾闥の城皆な妄、芭蕉の樹盡く空たりと論ぜば、應化詎ぞ眞ならん、權假寧ぞ實ならん。釋迦文は法を說くの佛に非ず、須菩提豈に果を證するの人ならんや。然らば則ち因を習するの指、安にか歸せん、道を求むるの趣、奚にか向かわん。幻の如く夢の如し、誰か其の苦を受けん、影の如く嚮きの如し、誰か其れ福を得ん。是の故に維摩詰は諸佛の智を具せば、燈王の坐斯ち來たり、舍利弗は其の神通を盡くすも、天女の花去らず。故に知る、業行に優劣有り、福報に輕重有るを。凡夫と聖人、天堂と地獄に至るが若きは、其の是非得失を詳らかにすれば、安ぞ同日にして論ずべけんや。往きには四魔 聖を毀り、六師 法を謗り、髮を拔き足を翹げ、象を變じ麻を呑む。李園の內、其れ惡黨を結び、竹林の下、其れ善聚を亡ぼせり。護戒の比丘、翻って雹草に同じく、持律の□□、忽ち霜蓮に等し。慧殿・仙宮、寂寥として安にか在らん、珠臺・銀閣、荒涼として處無し。離離たる綴彩、寧ぞ周客を勞せん、含含たる奏曲、詎ぞ殷人を假らん。

我が大隋、乘御するは金輪、冕旒は玉藻たり。上は天命に應じ、下は民心に順い、飛行し鴻名を建て、揖讓し大寶に升る。農・軒の陣を結ぶに匪ずんば、誰か湯・武の師に徇ぜん。臣妾と稱する者、十方に遍く、蚩尤の亂に遇わず。玉帛を執る者、万國を盡くし、防風の禍に陷る無し。

斯に乃ち天は至聖を啓き、區域に大造あり、衣を垂れ俗を化し、扆を負い民を字う。紫宮に昧旦、青殿に終朝たり。道は羲・燧より高く、德は虞・唐より盛んなり。五福咸く臻り、衆貺畢く集まる。低茚月を出で、搖蓂風を含む。璧を沈めて書を觀、龍は握河の紀を負い、功成り治定まり、神は谿地の圖を奉ず。

是に於いて東に曁び西に漸み、南に徂き北に邁き、隆禮言に洽らぎ、至樂云に和らぐ。天地を感かし鬼神を動かし、尊卑を辯じて貴賤を明らかにす。而して尙お己を勞して倦む亡く、衣を求めて息む靡し。豈に攸攸たる黔首、垢障未だ除かれず、擾〻たる蒼生、蓋纏仍お擁せるに非ざらんや。所以に金編寶字、玉牒綸言、封に滿ち函に盈ち、雲のごとく飛び雨のごとく散ず。慈愛の旨、翰墨に形われ、哀愍の情、衿抱より發す。日月の照らす所、咸な陶甄を賴り、陰陽の生ずる所、皆な鞠養を蒙る。故に能く率土を津濟し、溥天を救護し、愚迷を協獎し、聾瞽を扶導す。茲の法雨を澍ぎ、道牙を潤わしめ、此の戒香を燒きて、佛慧を薰ぜしむ。第壹の果を脩し、最勝の幢を建て、旣に滅するの文を拯い、以に墜つるの典を匡す。忍辱の

鎧、清都に滿ち、微妙の臺、赤縣に充てり。豈に直に道安・羅什、弘通に寄あるのみならんや、故より亦た迦葉・目連、聖僧斯に在り。

龍藏寺は、其の地蓋し燕南に近し。昔し伯珪其の謠言を取り、京を易水に□、毋恤往きて寶を得、代を常山に窺えり。世祖は南に旋り、高邑に至りて踐祚し、靈王北に出で、望臺に登りて海を臨めり。青山霧を斂め、渌水波を揚ぐ、路は晉に款りて秦に適き、途は□に通じて衞を指す。相如の落、矩歩遙かに非ず、平原の樓、規行詎ぞ遠からん。泒を尋ね世を避く、彼も亦た河（何）人ならん、幽閑博敞にして、良とに福地爲り。

太師・上柱國・大威公の世子、使持節左武衞將軍・上開府儀同三司・恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城王孝儁、世業は金・張より重く、器識は許・郭を逾えたり。軍府号して飛將と爲し、朝廷稱して虎臣と爲す。諸□に領袖たり、群儁に冠冕たり。賾を探り隱を索め、變に應じ機を知る。義尙訓御の勲を著わし、勳功事勞の績を立つ。廊廟其の偉器を推し、柱石其の大材を揖む。傳を馳せて蕃に莅み、旟を建て牧と作りて自り、散逸を招懷し、逃亡を蠲復す。遠く視て廣く聽くこと、賈琮の冀部を按ずるがごとく、善を賞し惡を戮すること、徐邈の涼州に處るがごとし、軫を異にし齊しく奔ること、古今一致す。車を下り未だ幾ばくならずして、善政斯に歸す。

彼の伽藍を瞻るに、事草創に因り、□……敕を奉じ、州內の士庶壹萬人等を勸奬し、共に福田を廣くす。公爰に至誠を啓き、虔心もて石を徙し、施は蓋を奉ずるを逾え、檀は金を布くに等し。黑水の銅を竭し、赤岸の玉を罄し、瑠璃の寶網を結び、纓珞の珍臺を飾る。是に於いて靈刹霞のごとく舒び、寶坊雲のごとく構え、崢嶸膠葛、穹隆譎詭たり。九重壹柱の殿、三休七寶の宮、梁に彫り桷に刻せるの奇、雲を圖き藻を畫けるの異をなす。白銀地を成せるは、悉覺の談に類するあり、黃金鏤楯、句踐の獻に鬬せず。

其の內の閑房・靜室、陰牖・陽窓、圓井は蓮を垂れ、方疎は日を度す。明瑠を朱戶に曜かし、芳卉を紫墀に殖う。地は金沙に映じ、安養の國に遊ぶに似、薝は天樹を隱し、歡喜園に入るを疑う。夜漏將に竭きんとし、鳴鍾を寺內に聽き、曉相既に分たれ、承露を雲表に見る。床坐を求めざるも、來會の衆何ぞ憂えん。自然飲食、持鉢の侶奚ぞ念わん。粵に開皇六年歲は鶉火に次るを以て、莊嚴粗ぼ就れり。庶わくは△皇隋の寶祚、天と長えに地と久しく、種覺花臺、神護り鬼衞らしめんことを。乃ち詞を爲りて曰く、

多羅の祕藏、毗尼の覺道、斯文の滅せざるは、大造に憑る。誰か種智を薰じ、誰か煩惱を壞らん。猗歟我が皇、實とに三寶を弘む。慧燈翻り照らし、法炬還た明るく、菩提の果殖えられ、救護の心生ず。香樓並びに構え、貝塔倶に營み、世界に充遍し、國城に弥滿す。憬たる彼の大林、途に當たり術に向かう。於穆州后、仁風遐かに拂う。金粟もて僧に施し、珠纓もて佛に奉じ、瑤を結びて宇を葺き、瓊を構え室を起こす。鳳甍日を翳ぎ、虹梁雲に入り、電は窓戶に飛び、雷は檫棼を驚かす。綺籠には金もて鏤み、縹壁には椒薰り、綈錦色を亂し、丹素文を成す。雪宮に髣髴たり、月殿に依稀たり、明室幌を結び、幽堂扇を啓けり。臥虎未だ窺わず、跧龍誰か見る、風を帶び蕭瑟たり、煙を含みて葱蒨たり。西は天井に臨み、北は吾臺に拒り、川谷異を苞み、山林材を育くむ。蘇秦說きて反り、樂毅奔り來る。鄒・魯俗を媿じ、汝・潁能を慙ず。惟れ此の大城、瓌異の踐む所、踈鍾響き度り、層磐露泫る。八聖、四禪、五通、七辯、戒香恆に馥り、法輪常に轉ぜんことを。△△△開皇六年十二月五日題寫す。齊開府長兼行參軍九門張公禮之□

【現代語譯】

恆州刺史鄂國公（王孝僊）が國の爲に龍藏寺碑を勸進し造立する。

いささか卑見を述べてみると、空の王たる佛の道はあらゆる名や形を離れ、偉大な聖人である佛の教えはなくなったり生じたりすることがない。これゆえ佛を獅子にたとえ、佛が自由自在で畏れがないことを明らかにし、佛を金剛にたとえ、究極で壞れることがないことを明らかにしている。ここで、涅槃の道が遙か遠くであり、解脱の源が奥深く、〔そこへ到達するまでには〕愛欲の長い河に隔てられ、輪廻の大きな海で遮られていることがわかる。船なくしてそれらを渡ろうとするのは、龜の毛のように不可能なことであり、羽なくして〔涅槃・解脱の境地へと〕飛びゆきたいと願うのも兎の角のように不可能なことである。それゆえに、五神通（修行により獲得される五つの超人的能力）・八解脱（八種の禪定）は正しい教えが生まれるよりどころであり、二諦（世俗の眞理と出世間・最高の眞理）・三乘（聲聞・緣覺・菩薩という三種の衆生を悟りに導く教え）は佛の教えがここから起こるのである。〔戒によって〕粗野〔な言行〕を制御し、〔禪定によって〕微細〔な心の働き〕をおさめとるのは、まことに衆生救濟の風敎に裨益するものであり、弓を目一杯ひきしぼるようにたゆまず努力し、〔賊を〕射抜くように迷いの根源を打ち破ることで、正しく修行の極致を得ることができるのである。

もし、「乾闥婆の城はみな虚妄であり、芭蕉の樹はみな空である」と述べるなら、佛の應化身はどうして眞實であろうか、佛の假の姿はどうして眞實であろうか。釋迦は說法の佛ではない、須菩提がどうして悟りを證した者であろうか。このように言えるのであれば、善因を修習する旨趣はどこに歸すのであろうか。悟りへの道を求める歸趣はどこに向かうのか。〔それらは〕幻や夢のごとくであり、誰がその苦を受けようか。影や響きのようであり、誰が福を得ようか。〔佛の教えというのは〕以上のとおりであるので、維摩詰は諸佛の智慧を具えており須彌燈王の獅子座が飛來し、舍利弗はその神通力を力の限り使ったが、天女の散じた花が體から離れなかった。これによって、修行には優劣が有り、福德果報には輕重があることがわかる。凡夫と聖人、天と地獄という兩者については、その是非得失をはっきりさせれば、どうして兩者を同じ土俵で論ずることができようか。

先頃には、〔北周の武帝が廢佛を行い〕四種の魔が佛を中傷し、六師外道が佛法を誹謗し、髮を拔いて足を擧げ、異形に姿を變え、〔一日に一粒〕胡麻の實だけを食べてすごす〔という外道のふるまいをした〕。桃李の果樹園の中で彼ら惡人たちが結託し、竹林のもとには善人たちがいなくなった。戒律を護る比丘たちは一擧に雹の被害にあった草のようになり、戒律をたもつ□□（□□＝沙門？）は、たちまち霜の被害にあった蓮華のように〔戒律を護持することができなく〕なった。智慧の宮殿・神仙の宮殿〔である寺院〕は無人でひっそりとし、いずこにあるであろうか。珠玉で造られた臺や銀の閣は荒れ果てて無くなってしまった。〔寺院が荒廢し〕麥の穗が實を垂れているさまを語るのに周の客人を煩わせる必要がどうしてあろうか。〔寺院が荒廢し〕麥の穗が實を結んでいることを語る曲を奏でるのに殷人の力を借りる必要がどうしてあろうか。

わが大隋〔皇帝〕は、〔轉輪聖王として〕金輪の車に乘り、五色の紐で玉を通した垂れ飾りの冕冠を被り、上は天命に應じ、下は人民の心に從い、〔轉輪聖王＝飛行皇帝として〕飛行して大きな名聲をうちたて、禪讓をうけて帝位に登った。神農・軒轅の戰陣を構え

るのでなければ、誰が殷の湯王・周の武王の〔ような神聖な〕軍に號令できようか。臣從する者があらゆる方向に現れ、蚩尤のような暴虐者の反亂はおきなかった。玉と束帛を携え獻上してくる國が數え切れないほどであり、防風氏の〔ように期日に遲れ誅殺される〕災禍に陥る者はなかった。

そこで天は至高の聖人である文帝を開導し、〔文帝は〕治下の領域に大いなる功績を成し遂げ、衣裳を垂らして無爲により風俗を教化し、ついたてを背にして南面し、人民を養っておられる。皇宮にてまだ日の明けないうちに早起きし、宮中にて終日お休みになられることがない。その道は伏羲・燧人氏より崇高で、その德は虞舜・唐堯より盛んである。五福がみな到來し、多くの幸いがことごとく集まった。〔實をみのらせ日ごとに〕垂れる〔瑞草の〕蓂莢は月下にその姿を現し、〔聖王が世に出た時に厨房に生じる瑞草である〕ひとりでに搖れ動く萐莆は〔飲食を清涼にする〕風を帶びた。璧玉を洛水に沈め〔祭祀を行い、洛水から現れた龜の甲羅に記された〕洛書を閱覽し、龍は『握河紀』を背負い〔黃河から出現した〕。功業が成し遂げられ統治が安定し、神（西王母）は『益地圖』（版圖擴大を記した書）を獻上した。

そこで帝は東西南北の四方へ領土を擴大し、盛んに行われる禮によって人々は打ち解け、極上の音樂によって人々は睦まじくなった。このことが天地を動かし、鬼神を感じ入らせ、尊卑をはっきりさせ貴賤を明確にした。それでもなお帝は自ら勤め勵んで倦くことなく、未明に起床して休まれることがない。あてどなく彷徨う人民たちの煩惱の障りがいまだ除去されておらず、亂れて落ち着くことのない衆生がいまだなお煩惱に覆われていることは否定のしようがない。これゆえに黃金で編まれ玉簡に記された帝の命令書は多くみちあふれ、雲の飛ぶように早く傳送され、雨のように各地に散布された。帝の慈愛の思し召しはその文章に形となって表現され、人民を哀れみ傷む恩情はまごころより發せられた。日月が照らすすべての土地〔に生きるもの〕はみなその教化から利益を得、陰陽が生み出したものはすべてその養育を受けた。よって帝は、よくあまねく國土を救濟し、天下を救い護り、愚かで迷っている者を助け奬導し、無知蒙昧の者を助け導いた。佛法の雨を降らし、佛道の芽を潤わせ、戒の香を焚き、佛の智慧を薰じさせた。第一の果を修行し、最も優れた法幢を建て、滅びてしまった文を救い、破壞された典籍を正しい姿に復興した。忍辱の鎧（佛の教え）は清淨な都に滿ちあふれ、靈妙なる臺（寺院）は中國に滿ちあふれた。〔このようなすばらしい功績は〕どうしてただ單に道安や鳩摩羅什〔といった中國の高僧〕が佛法の流布に寄與したということにとどまるであろうか、迦葉や目連のような聖僧もいまこの隋朝には存在するのである。

龍藏寺は、燕南の近くに位置する。その昔、伯珪（後漢末の群雄である公孫瓚の字）は童謠の言葉に從って高い丘を易水のほとりに築き、趙の毋恤（春秋の晉の政治家である趙鞅の子）は常山に行き寶符を得、常山の高みから代の國を俯瞰した。後漢の光武帝は南へと歸路につき、高邑に到着すると皇帝に卽位し、趙の武靈王は北へと出て、望臺に登り海を見下ろした。青々とした山は霧をたたえ、澄みきった川は波を立てている。道は晉の地を經て秦の地にまで至り、□を經て衞へと通じている。藺相如の居處は禮にのっとりゆっくり歩いても遠くはないところにあり、平原君の家の樓閣も禮儀正しく歩いてもどうして遠くであろうか。泒水〔の源〕を尋ね求め〔山に入り〕俗世を避ける、そのような者がいったいどれほどの者といえようか。〔この地は〕ひっそりとしずかで平坦で開けており、まことに福德

のある地である。

太師・上柱國・大威公の世子、使持節・左武衛將軍・上開府儀同三司・恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城の人である王孝儒（王孝僊）は、その祖先から受け繼いできた功業は金日磾・張安世よりも重く、その高い見識は許劭・郭泰を超えていた。軍府は彼を飛將とし、朝廷は彼を虎臣と稱した。多くの□の中で特に優れており、多くの俊英たちの中でも頂點に立っていた。世界の多樣な現象の中から隱された事理を尋ね求め、現象世界の變化に應じ、そのからくりを知るのである。正義を尊び訓導する勤勉さでその名を高め、國家の職務に從事し立派な功績を打ち立てた。朝廷はその偉才を推薦し、重臣たちはその優れた才に對し位を讓った。驛傳車馬を馳せて〔州刺史として〕任地にのぞみ、旗（はた）を建てて州刺史となってからは、流散した者を招いて懷柔し、逃亡した者には賦稅勞役を免除した。遠くまで見通し、廣汎に意見を聽くこと、賈琮が冀州刺史として任に就いた時のようであり、善を褒賞し惡を根絶すること、徐邈が涼州刺史として任に就いた時のようであった。道が異なっていても同じところに行き着くことは、今も昔も同一である。任地に着いて間もないうちに、ここに善政が行われた。

その寺院についてふりかえってみると、寺院を創建するということで、□……敕命を奉じて州內の士人や庶民一萬人に呼びかけ寄付を募り、ともに〔福德をもたらす因となる〕寺院の建立をおこなった。公はこの上ない眞心をあらわし、敬虔な心で石を運搬し〔土地を整備し〕、その布施は〔長者子の寶積たちが〕佛に傘蓋を奉納供養した功德をこえており、〔須達長者が〕黃金を地に敷きつめ〔て祇園精舍を建て〕たことに竝ぶほどである。黑水の銅や赤岸の玉を能う限り用い、瑠璃でできた寶網を結び、瓔珞を垂らした類い稀な高殿を裝飾する。ここで幽玄な寺院は霞がかかるように廣がり、寶玉で飾られた寺坊は雲に入るほど高く聳え立った。そのさまは高峻で遠大、壯大で變化に富んでいた。九重の高さを誇り一本の柱で構築された宮殿、三回休んでようやく登りつくように高く七寶で飾られた宮殿は、梁や垂木をすばらしく彫刻し、雲や草の紋樣をすばらしく描く。地面が白銀となっているのは、佛が語ったことに似ており、黃金で欄楯を鏤るのは、越王句踐の奉獻したものとは關わりがない（それをはるかに凌駕している）。

寺院內の閑靜な僧房・屋室には、北側・南側に窓があり、圓天井には下向きに花開いた蓮が描かれ、四角い窓には日光がうつっている。珠玉の飾りが朱色の大門に耀き、かぐわしい草花を朱塗りの階段に生い茂らせる。地面は金をちりばめた砂が輝き、あたかも極樂淨土に遊ぶようである。瞻匐の花は天樹を覆い隱し、まるで〔忉利天の〕歡喜園に入ったかのようである。夜の刻がまさに終わりを告げようとする時、寺內で鐘の音を聽き、朝になると、〔塔の上の〕承露盤が高く雲の上にあるのを見る。法會の座席を求めなくとも、法會に參ずる僧衆たちはどうして席がないことを心配する必要があろうか。ひとりでに飲食がもたらされるのであり、鉢を持った僧侶たちがどうして飲食の心配をしようか。ここに開皇六年、歲星が鶉火にやどる年、龍藏寺の莊嚴がほぼ完成した。願わくは隋王朝の皇統が天地とともに末永く續き、佛陀のおわします蓮花の臺を神鬼が守護くださいますように。そこで詞をつくっていう、

スートラ（經）という祕された妙法の藏、ヴィナヤ（律）という覺りへの道、これら佛典が消滅しなかったのは、〔隋の文帝の〕大いなる功績による。誰が一切種智を薰じて、誰が煩惱を破壞するであろうか。ああ素晴らしき我が皇帝こそがまことに三寶を廣めるの

である。智慧の燈明が改めて照り輝き、佛法の炬火も再び明るくなった。菩提の果報が植えられ、〔衆生を〕救濟守護しようとする心が生じた。芳香をはなつ佛殿樓閣があちこちに建てられ、佛塔もおしなべて造立され、世界にそれらが充滿し、國城に滿ちあふれる。かの廣大な大林精舍（龍藏寺を指す）は街道に面している。ああ素晴らしき州の長官（王孝僊）はその仁德による風教がはるか遠くまで及んでいる。黃金の粟を僧衆に布施し、珠玉をひもでつなげた瓔珞を佛に奉獻し、美玉をちりばめ寺院の房屋を建て、美玉を用いて屋室を構築した。鳳凰の形をした屋根の頂上部分は日の光をふさぎ、虹のように弧を描いた梁が高く雲の中に入り、稻光は窓や戶口に飛び入り、雷鳴は複屋の軒の垂木を震わせる。美しい格子窓には金を彫りつけ、薄い藍色の壁には花椒（サンショウの一種）が薫り、厚絹や錦が色とりどりであり、紅白の顏料が模樣をつくっている。〔龍藏寺の完成した樣子は〕まるで雪宮のようであり、また月宮のように素晴らしい。表の部屋はとばりをあげ、奧の部屋は扉を開く。臥した虎もいまだ見られず、伏した龍の姿を見ることもない〔凶暴な動物の姿は見えず、ひっそりしている〕。風がひゅうひゅうと吹き拔け、霞がかかって木々が青々と茂っている。西は天井闕を臨み、北は五臺山に至る。溪谷は優れた人材を包藏し、山林は優れた人材を育くむ。蘇秦は六國を遊說して〔秦へ連合して對抗することを說き趙に〕歸り、樂毅は〔功をあげた後に燕において疎まれ、趙へ〕逃げ來たった。〔以上のようにこの地は大變優れた人材に富み、〕〔孟子や孔子のいた〕鄒や魯の人々でさえも自分たちの風俗に恥じ入り、汝南や潁川〔といった多士多才の人材を輩出する地域〕の人々でさえも自らの才能を恥じ入るのである。

　まさしくこの大城は、傑出した人材が足を踏みいれる土地であり、まばらに鐘の音が響き渡り、承露盤からは甘露がしたたる。〔願わくは〕八聖道・四禪・五神通・七辯〔がここにおいて成就され〕、戒の香が常にかぐわしく、佛の教えが常に說かれますように。開皇六年十二月五日書寫した。

　北齊王朝の開府長兼行參軍、九門縣の張公禮〔が撰した〕。

【主要著錄跋文】

①歐陽脩（一〇〇七～一〇七二）『集古錄跋尾』卷五

隋龍藏寺碑　開皇六年元第十七。

右齊開府・長兼行參軍・九門張公禮撰、不著書人名氏、字畫遒勁、有歐（歐陽詢）・虞（虞世南）之體。隋開皇六年建、在今鎭州。碑云、「太師・上柱國・大威公之世子、左威衞將軍・上開府儀同三司・使持節恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城王孝僊奉敕勸獎州人一萬、共造此寺」。其述孝僊云「世業重於金（金日磾）・張（張安世）、器識逾於許（許劭）・郭（郭泰）」。然北齊・周・隋諸史不見其父子名氏、不詳何人也。右集本。

又別本。開皇六年

右隋龍藏寺碑。齊張公禮撰。龍藏寺已廢、此碑今在常山府署之門。書字頗佳、第不見其人姓名爾。碑以隋開皇六年立。後題張公禮猶稱齊。按周武帝建德六年（五七七）虜齊幼主高常、齊遂滅、後四年、隋建開皇之號、至六年、齊滅蓋十年矣。公禮尚稱齊官、何也。嘉祐八年（一〇六三）九月二十九日書。右眞蹟。

②歐陽棐『集古錄目』卷四（陳思『寶刻叢編』卷六所引）

齊開府參軍張公禮撰。不著書人名氏。隋大威公世子恆州刺史鄂國公

金城王孝僊按碑作僊奉勑率州民萬人、共立此寺碑。首題曰「鄂國公爲國勸造龍藏寺碑」。以開皇六年立。寺今廢、碑在眞定府門下。

③趙明誠（一〇八一～一一二九）『金石錄』卷三

第四百七十六　隋龍藏寺碑　張公禮撰。開皇六年十二月。

④都穆（一四五九～一五二五）『金薤琳琅』卷八「隋龍藏寺碑」

右「隋龍藏寺碑」、齊張公禮撰、而不著書人名氏。『集古錄』謂、「寺已廢、碑在常山府署之門」。常山卽今之眞定。予近以使事過之、聞府治東二里龍興寺有古銅佛一軀、崇七十二尺、閣之覆者、崇百有三十尺、與太守同年李君往遊其閒、見殿前一古碑、其趺已沒土中、讀之乃公僼（案他本皆作「公禮」、此作「公僼」疑誤文）。蓋寺在隋名「龍藏」、歐公謂、「寺廢。寺碑在常山府署」。蓋未嘗親歷其地、故誤書耳。

⑤顧炎武（一六一三～一六八二）『金石文字記』卷二「龍藏寺碑」

張公禮撰　正書　開皇六年十二月

今在眞定府龍興寺大殿內。其後爲天寧閣、九閒五層、高一百三十尺、中有銅觀世音像、高七十二尺、四十二臂、各有所執之物。俗謂之大佛寺也。碑爲隋開皇六年恆州刺史・鄂同公・金城王孝僊立、而其末乃云「齊開府長兼行參軍・九門張公禮撰」。齊亡入周、周亡入隋、而猶書齊官。蓋君子之能不降其志、而其時之人亦不以爲非也。其書「踐阼」爲「踐祚」、「何人」爲「河人」、「伽藍」爲「伽籃」、「懷」爲「壞」、「五臺」爲「吾臺」、則理之不可通者、疑爲後人模刻之誤。又宋歐陽公『集古錄』云、「龍藏寺已廢、此碑今在常山府署之門」。此嘉祐八年所書、而龍興寺乃乾德元年（九六三）建。據文忠集錄之日、碑尙不在龍興。此其徙置之由、已不可問。『金薤琳琅』曰、「寺在隋名龍藏、歐公謂寺廢、（與碑在常山府署、蓋未嘗親歷其地、故誤書耳）」。惟其大書齊官、則必非後人之所加也。余考顏之推仕歷周・隋、而其作『家訓』猶謂梁爲本朝、蓋同此意。其時南北分疆、興亡迭代、爲之臣者、雖不獲一節以終、而心之所主、見于稱名之際者、固較然不易如此。然則今人之不及古者、又豈獨書法之陋・文字之訛而已哉。

（下略）

⑥朱彝尊（一六二九～一七〇九）『曝書亭金石文字跋尾』卷三「眞定府龍藏寺隋碑跋」

眞定府治東龍興寺、隋龍藏寺故址也。寺剏於于開皇六年、恆州刺史・鄂國公・金城王孝僊立石、齊開府長兼行參軍・九門張公禮撰文。恆州齊亡後入於周、周又亡、入於隋。而公禮仍書齊官、君子不忘其故國、于稱名見之矣。流傳宋太祖曾幸其地。寺重建於乾德元年、龍興之額所由更也。然歐陽子著『集古錄』稱、「龍藏寺已廢、遺碑在常山府署之門」、則嘉祐閒碑猶在寺外也。今入門有殿、殿北閣五層、廣九楹、崇十有三丈、中奉觀世音像、高七丈三尺、臂四十有二、土人目爲大佛寺。碑亦具存。而終南山釋道宣撰『神州寺塔錄』鋪敍佛像、顧不及焉、何哉。若夫隋之碑存於今者寡矣、裝界而藏諸也可。

⑦錢大昕（一七二八～一八〇四）『潛研堂金石文跋尾』卷三「龍藏寺碑」

右恆州刺史鄂國公爲國勸造龍藏寺碑。張公禮撰。都太僕『金薤琳琅』具錄其文。以豫所藏拓本校之、則都氏之訛者五六字、都氏所有而今磨滅者十餘字。公禮此文、徵引內典富贍不滅頭陀寺碑、在當時必以文學名、而史家傳文苑者不及焉。士之韞才藝者、莫不欲身後名、

而往往泯滅無稱、如公禮者、何可勝數。乃知古人搜討金石之文、其於表微闡幽、不爲無助也。其云、「太師・上柱國・大威公之世子、使持節・左武衞將軍・上開府儀同三司・恆州諸軍事・恆州刺史・鄂國公・金城王孝儔」、歐陽永叔・趙子函以爲、齊・周・隋諸史皆無之。以予攷之、蓋王傑之子孝僊也。『周書』、「傑、金城直城人。宣帝卽位、拜上柱國、追封鄂國公、謚曰威。子孝僊、大象末位至開府儀同大將軍」。碑書「僊」爲「儔」、蓋字體之偶異。傳不云襲鄂國公、則史之闕也。其仕隋爲恆州刺史、在『周書』固不當載。而『北史』亦未增入、此爲缺漏矣。文稱「勸奬州内士庶壹万人等」、又稱「九重壹柱之殿」、皆以「壹」代「一」字。按『禮記』「節以壹惠」、鄭注、「壹讀爲一」。正義云、「上壹是齊壹、下一是數之一二也。經文爲大壹之字、鄭恐是均同之理、故讀爲小一、取一箇善名爲謚耳」。讀此碑、知「壹」之代「一」、隋時已然、故唐初撰正義者、有「大壹」「小一」之語耳。銘詞云、「鄒・魯媿俗、汝・潁慙能」、與「臺」・「材」・「來」協韻。蓋才能之「能」古讀奴來反、隋時古音猶存也。

碑陰

右龍藏寺碑陰及左右兩側題名、字畫完好、歐・趙諸家俱未之見。壬午歲、予奉使過眞定、宿龍興寺、秉燭訪斯刻、見碑陰・兩側皆有題字、乃募工搨而藏之。題銜有云、「前城睾郡丞」者、『隋書』地理志「滎陽縣、舊置滎陽郡、後齊改曰成皐郡。開皇初郡廢」。「城睾」卽「成皐」也。又有云、「恆州前士曹從事省事」、云「眞定縣主簿省事」者、考百官志、州縣吏無「省事」之名、不知何職也。下二列「眞定」、「石邑」、「邢陘」、「蒲吾」、「零壽」、「行唐」、「滋陽」、「九門」諸縣、維那姓名或不具、以俟續刻也。書「井陘」爲「邢陘」者、按『廣韻』「邢」字下注「邢邢、地名」。卽「井陘」也。其書「靈壽」爲「零壽」、則他書所未有也。

⑧王昶（一七二五〜一八〇七）『金石萃編』卷三八「龍藏寺碑」

按『畿輔通志』載正定府隆興寺云、「在府治東。一名龍興寺、又名大佛寺。隋開皇六年建。初爲龍藏寺。創建之日、天降異香、恆州刺史鄂國公王孝僊有碑記。大殿内有張公禮龍藏寺碑」。王孝僊事卽在張公禮碑内、志蓋誤分爲二碑也。碑稱「太師・上柱國・大威公・太師」之銜、史所略。謚曰威、不知何以碑加「大」字、所未詳也。史不詳敍孝僊官位、但云、「大象末、位至開府儀同大將軍」。据碑則入隋數年歷官開府儀同三司・恆州刺史、襲封鄂國公也。恆州始置于周建德六年、領常山郡。隋初廢郡而州存。大業初、州廢、復立郡。此碑立于開皇六年、其時州尚存、故孝僊爲此州刺史也。恆州今謂之正定府。碑在龍藏寺、今謂之龍興寺。蓋孝僊官刺史時所立也。碑陰列諸縣維那曰「眞定」、曰「石邑」、曰「邢陘」、曰「蒲吾」、曰「零壽」、曰「行唐」、曰「滋陽」、曰「九門」、皆恆州屬邑也。『隋書』地理志「石邑本舊名、後齊改曰井陘。開皇六年復改石邑」。「邢陘」卽井陘、亦開皇六年復石邑、分置。「蒲吾」、本舊縣、開皇十六年廢入井陘。此時縣尚存。「零壽」、卽靈壽。『說文』「霝、雨零也。『詩』曰「霝雨其濛」、又「零」、餘雨也。是「霝」・「零」同義、加「巫」爲「靈」、其義始別。碑則借「霝」爲「靈」、而又通「零」爲「霝」也。「九門」亦開皇六年復置。碑所列者、半皆新置也。文云、「龍藏寺者、其地蓋近於燕南。世祖南旋、至高邑而踐祚、靈王北出、登望臺而臨海」。燕・趙南北接壤、恆州在戰國屬趙地。趙之北境卽燕之南境。世祖謂漢光武。『後漢書』光武本紀、「建武元年、光武從薊還行至鄗、命有司設壇場於鄗南千秋亭五成陌、卽皇帝位」。『太平

寰宇記』「高邑縣。戰國時趙房子邑之地、漢以爲鄗縣。『漢書』地理志、房子縣屬常山郡。光武卽位、更名『高邑』。開皇三年改屬趙州」。是高邑舊屬恆州。碑記其郡之故蹟也。「靈王登臺」、乃九門縣事。『寰宇記』「九門縣。望風臺。趙武靈王築、以望齊及中山、亦曰寒臺是也」。登以望齊、故云「登望臺而臨海」也。文中但記建寺之宏麗、而無一語及佛像、則四十二臂之觀世音像非其舊矣。碑書「響」作「嚮」、「箠」作「蓙」、「悠〻」作「攸〻」、「纏」作「緾」、「翰」作「翰」、「轇轕」作「醪葛」、「譎詭」作「譎詭」、「簷」作「詹」、皆別體也。文稱「勸獎州內士庶壹萬人等」碑陰所刻有官位姓名者八十人。自「眞定縣」以下、各列五行、只「維那」二字而無姓名。惟「零壽縣」增多二行。有「田世敖」字、「傳□」字。「敖」疑卽「敖」字。結銜有云「師都督」者、『隋書』百官志有大都督・帥都督・都督等官。又云「苑川十二馬牧、每牧置大都督及尉各一人。帥都督二人。蓋司牧之官、是「帥」字、非「師」字也。姓名有「栗子逯」者、栗姓見『風俗通』燕將栗復之後。有「佫素」者、「佫」本「佫」字。『廣韻』云「姓也」。『集韻』云「佫或佫」。「郄瑜」之「郄」、似卽「郄」字。此碑在寺之殿隅、歷經寺僧守護、寺又聳峙大道、恭遇高宗純皇帝西巡、鑾輅所經、敬謹修葺、以備臨幸、御製碑刻、焜燿叢林。祖曾預扈行、及往來滇・陝、過此寺者、凡十餘次。每停驂周覽、必摩挲拂拭、故詳識如右。

⑨沈濤（一八〇〇～一八五四）
『常山貞石志』卷三・龍藏寺碑

右碑張公禮撰。不著書人姓名。有碑陰、碑左側、及額。嘉定錢辛楣少詹、謂右側有字。予親至碑下、諦視之、實無、錢氏之言誤。「王孝僊」卽『後周書』及『北史』王傑子孝僊。「僊」蓋「僊」字之別體。此碑撰於隋代而公禮猶稱齊官、當是入隋不仕者。亭林顧氏以顏黃門『家訓』稱梁爲本朝例之、非也。碑書「箠」作「蓙」、「纏」作「緾」、「翰」作「翰」、「譎」作「譎」、皆別體字。若「踐阼」作「踐祚」、「何人」作「河人」、「五臺」作「吾臺」同聲相假、猶存古意。顧氏乃疑後人摹刻之誤、其亦少見多怪矣。

右碑陰題名凡八列。有二列刻額上。第一列題本寺僧名、凡八衆。其餘共九十九人、有官位者、七十餘人。

列銜有云「驃騎大將軍・開府儀同三司・內邱縣散伯」者、攷隋開皇官制、有驃騎將軍、無「大」字、而齊制有之。又百官志、後齊五等爵、有稱散郡縣者、次于開國者一等、散縣伯從三品、後周及隋無散爵。

有云「前城皐郡丞兵曹參軍」、攷「城皐」卽「成皐」。『隋〔書〕』地理志、滎陽郡、後齊改曰成皐郡、開皇初廢。

有云「北豫州刑獄參軍」者、攷隋制州府屬無刑獄參軍、後齊有之。又『隋〔書〕』地理志、滎陽郡汜水、舊曰成皐、東魏置北豫州、後周置滎州。開皇初曰鄭州。

有云「明威將軍前□司馬廣陽令」者、攷『隋〔書〕』地理志、無廣陽縣、而『魏書』地形志有之。屬燕郡。然則此數人者、皆齊官、而非隋官矣。

有云「驃騎將軍・開府儀同三司・恆州左十七府兵・□東燕縣開國侯」者、「上儀同三司・邵州蒲源縣開國伯・副領右十八開府」者、「上儀同三司、恆州右十七開府・安德縣開國公」者、「使持節驃騎將軍儀同三司恆州左十七開府・永固公」者、「儀同三司・恆州右十七開府副・懷仁縣開國伯」者、攷恆州置自後周。驃騎將軍等官、周隋皆有、惟後周建德四年、改開府儀同三司爲開府儀同大將軍、儀同三

司爲儀同大將軍、則此數人爲隋初官無疑。

案府兵之法、創自西魏、隋唐皆因之、史不詳隋初府兵之制。隋志左右衞、各統親衞、置開府府、置開府一人。據此列銜則隋初外州府兵、亦以開府領之、如左右衞之制矣。東燕之改匡城、在開皇十八年蒲源之省入垣縣、在大業初、皆在立碑以後、惟永固縣名、隋志不載。『魏書』地形志、屬代郡。北齊薛孤延賜爵永固縣侯、後周王勇封永固縣伯、皆見史傳。此碑列銜云云、則隋初尙有此縣。當亦大業後廢耳。

有云「安化縣開國侯井陘令」者、「征東將軍・蒲吾縣令」者。「蒲吾」卽隋之房山、見『元和郡縣志』『隋志』大業初、廢蒲吾、入井陘、在此碑之後。

惟志稱開皇十一年置安化縣、而立碑時、已有開國侯之封。則史志之誤顯然。

又有云「大都督」、「都督」、「陁都督」者、皆見『隋〔書〕』百官志、「陁」卽「帥」字、非「師」字也。

又有云「參軍」、「行參軍」者、亦見隋志、「行」非正授之謂、志又有「兼行參軍」、「長兼行參軍」之職。『文獻通攷』云、「除拜則爲參軍事、府板則爲行參軍」。殆不盡然。至省事・令史諸職、其秩甚微、大率歷代皆置、史率略而弗詳。不得泥于百官志之文、遽疑齊有而隋無也。

其姓名可知者、惟「九門縣縣令李康」。『集古錄』有「隋李康清德頌」跋云「李康、隴西狄道人。碑首題大隋冠軍將軍・大中帥都督恆州・九門縣令隴西李君清德頌、開皇十一年二月十二日建」。『寶刻叢編』引歐陽棐『集古錄目』云、「康字和□、隋爲冠軍將軍・大中帥都督恆州・九門縣令、縣民純老生等爲頌德」當卽此人。又「伏波將軍・戶曹參軍楊遠」。攷『隋書』外戚・獨孤陁傳有「大理丞楊遠、同左僕射高熲等雜治猫鬼獄」。未知是一人否。餘俱無攷。

又有「監寺使」之名。『隋〔書〕』百官志、「煬帝改郡縣佛寺爲道場、道觀爲元壇。各置監・丞」。據此則開皇時已有監寺使。史志之不足徵如此。「佫」姓見『廣韻』十九鐸云「出纂文」。「郤瑜」之「郤」、王氏『萃編』云、似卽「郄」字。其他如「滎陽」之爲「熒陽」、「井陘」之爲「邢陘」、皆通假字。至「靈壽」之爲「零壽」、案『荀子』彊國篇、「其在趙者、剡然有苓」、注「苓」與「靈」同。蓋靈壽之名縣本此。是「零」字實古於「靈」。六朝唐碑、以「零壽」爲「靈壽」者、不一而足。錢氏謂他書未見、何也。

【その他著錄】

趙崡（子函）『石墨鐫華』
孫承澤『庚子銷夏記』
王澍『虛舟題跋』
朱士端『宜祿堂金石記』
黃彭年『輔畿金石略』
楊守敬『激素飛淸閣平碑記』
羅振玉『雪堂金石文字跋尾』丙三・十九下（石三・三八）

【碑主等關連史料】

・王孝僔＝王孝僊。王傑の子。
・『周書』卷二九　王傑傳

王傑、金城直城人也、本名文達。高祖萬國、魏伏波將軍・燕州刺史。父巢、龍驤將軍・楡中鎭將。傑少有壯志、每以功名自許。善騎射、有膂力。魏孝武初、起家子都督。後從西遷、賜爵都昌縣子。太祖奇其才、擢授揚烈將軍・羽林監、尋加都督。太祖嘗謂諸將曰、

「王文達萬人敵也、但恐勇決太過耳」。復潼關、破沙苑、爭河橋、戰邙山、皆以勇敢聞。親待日隆、賞賜加於倫等。於是賜姓宇文氏。除岐州刺史、加撫軍將軍・銀靑光祿大夫、進爵爲公、邑八百戶。纍遷大都督、車騎大將軍、儀同三司、侍中、驃騎大將軍、開府儀同三司。

魏恭帝元年、從于謹圍江陵。時柵內有人善用長矟、戰士將登者、多爲所斃。謹令傑射之、應弦而倒。登者乃得入、餘衆繼進、遂拔之。謹喜曰、「濟我大事者、在公此箭也」。孝閔帝踐阼、進爵張掖郡公、增邑一千戶、出爲河州刺史。三年、朝廷以傑勳望俱重、故授以本州。保定三年、進位大將軍。三年、詔傑與隨公楊忠自（漢）〔漠〕北伐齊、至幷州而還。天和三年、除宜州刺史、增邑通前三千六百戶。六年、從齊公憲東禦齊將斛律明月、進位柱國。建德初、除涇州總管。

傑少從軍旅、雖不習吏事、所歷州府、咸以忠恕爲心、以是頗爲百姓所慕。宣帝卽位、拜上柱國。大象元年、薨、時年六十五。贈河鄯鄧延洮宕翼七州諸軍事・河州刺史、追封鄂國公。謚曰威。子孝僊、大象末、位至開府儀同大將軍。

・『隋書』巻三〇　地理志中　冀州　恆山郡

恆山郡　後周置恆州。統縣八、戶十七萬七千五百七十一。

眞定　舊置常山郡、開皇初郡廢。十六年分置常山縣。大業初置恆山郡、省常山入焉。滋陽開皇六年置。十六年又置王亭縣、大業初省入焉。有大茂山、歲山。行唐　石邑　舊縣、後齊改曰井陘、開皇六年改焉。十六年析置鹿泉縣、大業初併入。有封龍山、抱犢山。九門　後齊廢、開皇六年復。大業初、又併新市縣入焉。有許春壘。井陘　後齊廢石邑、以置井陘。開皇六年復石邑縣、分置井陘。十六年於井陘置井州、及置葦澤縣。大業初廢州、幷廢葦澤縣及蒲吾縣入焉。房山　開皇十六年置。靈壽後周置蒲吾郡、開皇初郡廢。

・『隋書』巻二七　百官志中

後齊制官、多循後魏、置太師・太傅・太保、是爲三師、擬古上公、非勳德崇者不居。次有大司馬・大將軍、是爲二大、竝典司武事。次置太尉・司徒・司空、是爲三公。三師・二大・三公府、三門、當中開黃閤、設內屏。各置長史。司馬、諮議參軍、從事中郎、掾屬、主簿、錄事・功曹、記室・戶曹・金曹（倉曹の誤り）・中兵・外兵・騎兵・長流・城局・刑獄等參軍事、東西閤祭酒及參軍事、法・墨・田・水・鎧・集・士等曹**行參軍**、兼左戶・右戶行參軍、**長兼行參軍**、參軍、督護等員。

・『隋書』巻二八　百官志下

郡縣佛寺、改爲道場、道觀改爲玄壇、各置**監・丞**。

【參考文獻】（史學關連のみ）

姬育・楊東建「新朝氣象與舊臣情結――《龍藏寺碑》撰人遺民心態考述」『中國書法』二〇一八年第一〇期

孫雲渤「《龍藏寺碑》史地叢考」『中國書法』二〇一七年第四期

伊藤新一「隆興寺と龍藏寺碑」『武藏野女子大學紀要』二一、一九八六年

劉光喜「補史、新證與書史重構――《龍藏寺碑》的學術視野觀照」『中國書法』二〇一七年第四期

汪慶正「隋龍藏寺碑」『文物』一九六二年第一一期

郭開興「正定文物勘辨兩則」『文物春秋』一九九六年第二期

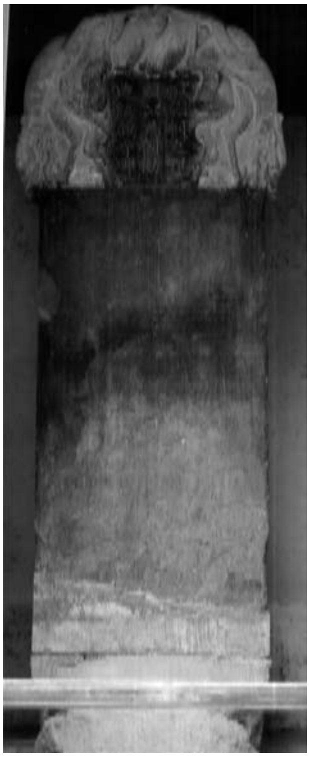
吳占良「隋《龍藏寺碑》考釋」『中國書法』二〇一七年第四期

張永波・于坪蘭「試論正定隆興寺隋舍利塔到戒壇的演變」『文物春秋』二〇一一年第四期

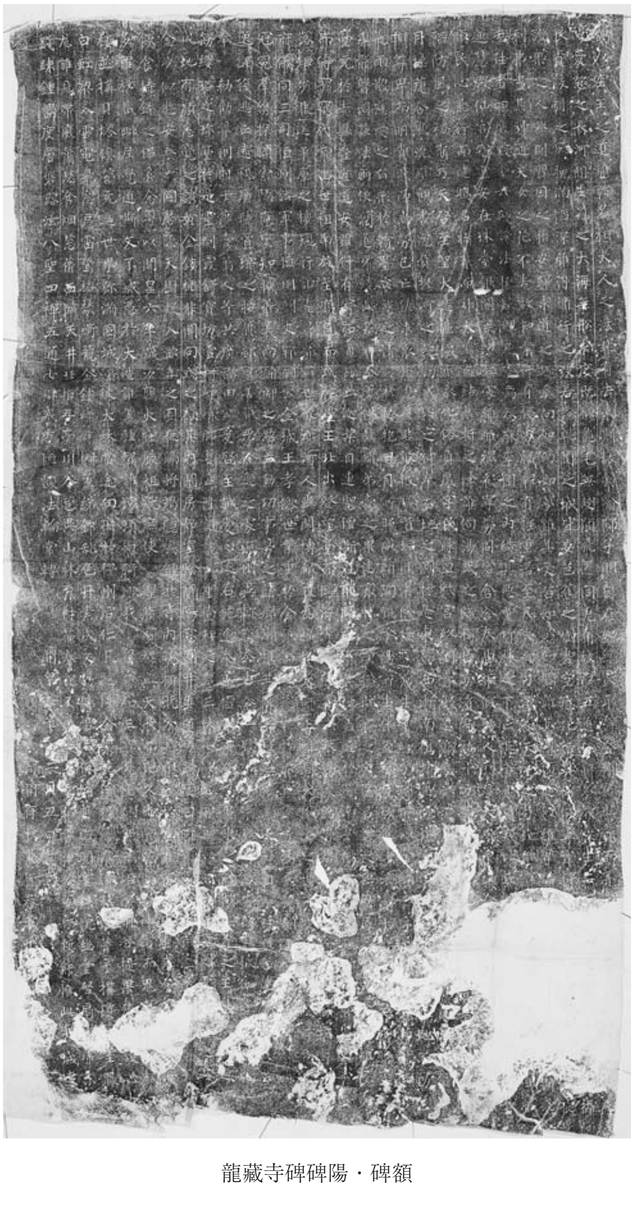
劉子陽「隋《龍藏寺碑》「張公禮之」考」『中國書法』二〇一七年第一〇期

顔尚文「隋「龍藏寺碑」考――定州地區與國家佛教政策關係之背景」『第二屆國際唐代學術會議論文集』下、文津出版社、一九九三年

龍藏寺碑碑陰上半部（倉本尚徳撮影）

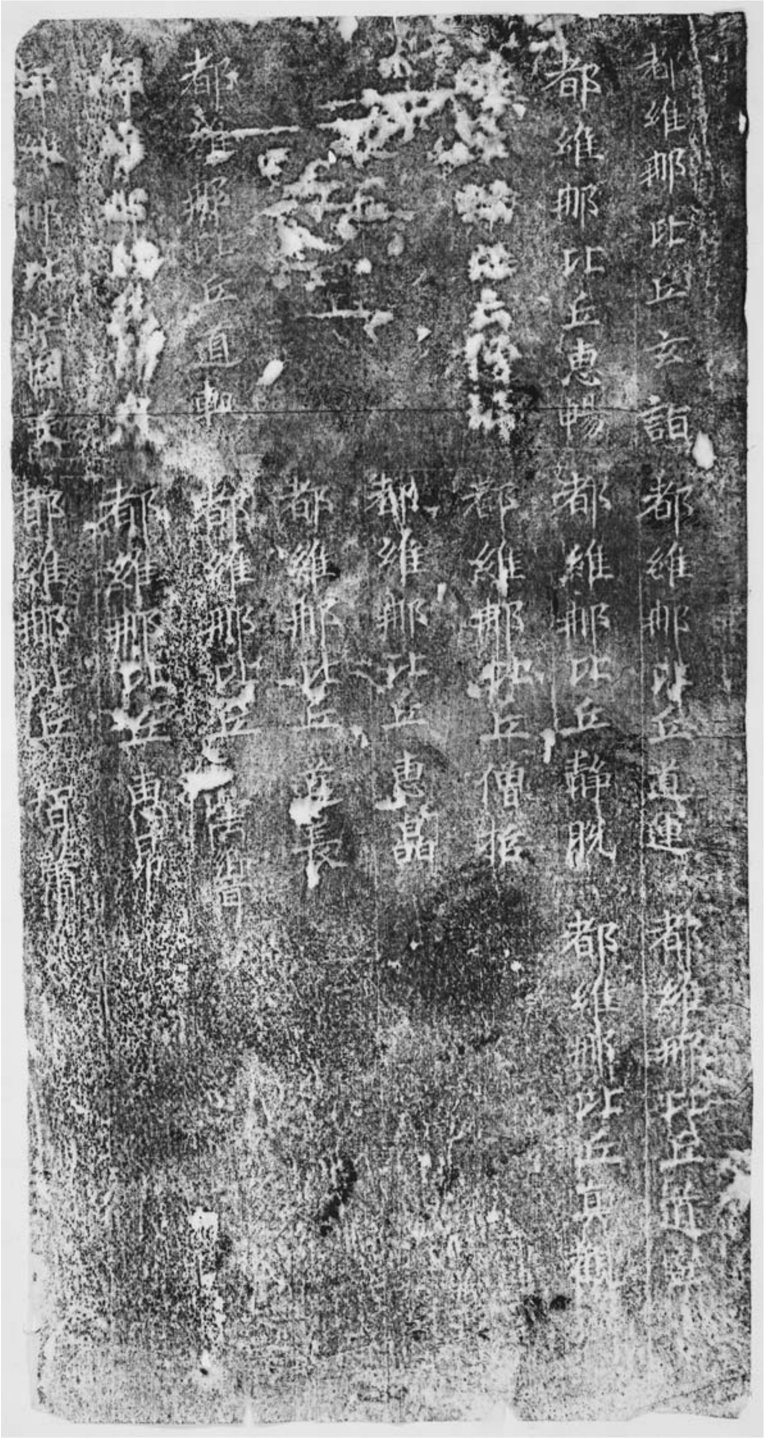


龍藏寺碑碑陽
河北省正定縣文物保管所編著
『正定隆興寺』文物出版社、
2006 年、230 頁



龍藏寺碑碑陽・碑額

龍藏寺碑碑陰・碑額
上海書畫出版社編『中國碑帖名品［38］龍藏寺碑』上海書畫出版社、2011 年、3 頁



龍藏寺碑左側　刻文

南宮令宋君像碑（石刻拓本資料 ZUI0038X 隋詔州縣各立僧尼二寺碑記）

擔當　池平紀子

【立碑時期】開皇一一年（五九一年）六月

【原石尺寸】高さ一八五、幅七五、厚さ二三糎（張云英・張興岭「大隋南宮令宋君之碑」『文物春秋』一九九八年第一期による。）

【字　數】二二行、滿行四四字。

【原石所在地】もとは冀州南宮縣の尼寺「定覺寺」に建立。現在は河北省邢臺市南宮市「八路軍一二九師東進抗日遊擊縱隊司令部舊址」にて保管。

【碑　額】「大隋南／宮令宋／君象碑」（碑陰、篆書）。拓本資料の③傅・④淑、及び翻刻資料の④魯により確認可。但し傅は三行×三列の內、第一列を缺く。傅と淑は碑陰上部の碑額拓本を碑陽の拓本上部に繫げたものであり、原石では碑陽上部の碑額には龕が彫られている。

【拓　影】

①人文研＝前記。人文研にはもう一種類別の拓本があり、それも參考にした。

②北圖　＝北京圖書館金石組編『北京圖書館藏中國歷代石刻拓本匯編』第九冊、隋、「宋景構尼寺造像碑」、顧二四三（六九頁、中州古籍出版社、一九八九年）（拓片高一二三糎、寬七五糎）

③傅　＝中央研究院歷史語言研究所傅斯年圖書館藏拓本、fsnrb01395、「景構尼寺造像碑記并額及陰」（墨拓尺寸一六〇×七四・五糎）

④淑　＝淑德大學藏拓本（倉本尙德氏撮影寫眞を使用）。

（釋文篇）

【釋文收錄書　略稱】

・碑陽

①萃　＝清・王昶『金石萃編』卷三八　隋一　三〇－三三葉「詔立僧尼二寺記」（『石刻史料新編』第一輯、六五八－六六〇頁）

②全隋＝「全隋文」卷三〇　闕名　八－九葉「建安公等造尼寺碑」（清・嚴可均校輯『全上古三代秦漢三國六朝文』中華書局、一九五八年）

③宜　＝清・朱士端『宜祿堂收藏金石記』卷一五「隋南宮令宋君造象碑」（『石刻史料新編』第二輯・五卷、三四八九－三四九〇頁）

※一五行目の翻刻を全て缺く。

④魯　＝北京魯迅博物館・上海魯迅紀念館編『魯迅輯校石刻手稿』第五冊　造像　隋開皇十一年六月「大隋南宮令宋君象碑」（一〇九七－一一〇一頁、上海書畫出版社、一九八七年）

⑤縣志＝民國・賈恩紱纂、黃容惠重修『民國南宮縣志』卷二三　掌故志　石刻篇上　一－三葉「隋定覺寺爲宋令敕建僧尼二寺碑記」（『中國地方志集成』河北府縣志輯六九、上海書店出版社、二〇〇六年）

※明清刊の南宮五志（明嘉靖三八年［一五五九年］刊、明萬曆七年［一五七九年］刊、清康熙一二年［一六七三年］刊、清道光一一年［一八三一年］刊、清光緒三〇年［一九〇四年］刊）の內、萬曆以降の四志に本石刻の翻刻を收錄。四志間の異同は少なく、民國本は四志本の誤字脫字を修正したもの。

・碑陰　※今回碑陰・碑側の人名題記は省略した。

①瓊＝清・陸增祥『八瓊室金石補正』卷二五　隋二　一－一三葉「南宮令宋景構尼寺銘竝陰側」（『石刻史料新編』第一輯、四三八六－四三九二頁）

②魯＝前述（一一〇二－一一一六）

【釋文】（碑陽）

1 昔夫老子作上下之經纔表淸虛之妙莊生著內外之義且論出世[1]之高
無申業報之言豈暢因緣之旨[2]眷言大道[3]

2 未爲盡得是知神理微密[4]眞趣幽玄心期之侶[5]起惑興障若非達聖膺運
至德降靈熟[6]能敷化大千□□[7]彼[8]岸[9]暨□[10]

3 通漢夢炭驗昆明法輪西闡像敎東被自爾迄今將千歲[11]矣雖神功妙迹
迥出天人應物隨方多有[12]□□□□[13]玄風[14]

4 遂扇緇[15]徒[16]更[17]繁或廢[18]或興隨時出沒良由心塗[19]所隔業緣致壅故耳我大
隨膺千齡之會處五運之[20]□□□□道先[21]

5 天協命△皇帝統曆乘元欽明御宇秉金輪以治世懸玉鏡而照臨[22]聲逸
萬古澤被遐外好生惡煞泣辜解網[23]輕茲

6 小道慕彼大乘欲歸一諦會由三寶乃△詔州縣各立僧尼二寺襲聖[24]軌
之將頹繼金言之墜缺△使君建安公衣

7 冠水鏡縉紳模楷入朝見美出牧稱賢含柔履順[25]率由成則德流異[26]部聲
播[27]殊方念法界以歸依弘慈善以訓物申

8 命勲至不捨斯須縣令西河宋景輔國將軍內散復州別駕治長史宜昌
竟陵二郡守[28]□□都督允文允武所在稱

9 奇製錦一同[29]弦歌千室志懷淸愼恆若履冰能官之美今古獨絶深悟非
常情存釋典聽訟[30]之暇無忘福田丞大梁

10 齊相尉博陵張服河閒張標並以明哲來贊專城淸勲自處譽宣隣邑俱
申迴向之心共忻眞淨之路心意精實不

11 行自遠遂仰依明△敕府[31]厲[32]宿誠乃於形勝之所崇構尼寺縣官七職爰
及鄕正之徒感斯福德忻然營助寺主道

12 辯等覺法紬上坐智最緩稱等咸以戒操端嚴音儀匪忒煩惱已棄業行
聿脩相与經始不日而就爾其勢極弘麗[33]

13 地惟爽塏房廡[34]深重長廊[35]交暎連甍雲合比屋霞舒寶鐸迎風雕梁照日
至於莊嚴□殿[36]飾盡[37]丹靑相好非常光□[38]

14 特絶舊尼宿德深覩律藏莫不負錫來遊有懷樂土[39]竊惟靈應微遠無迹
可尋但理□□□言[40]由事發故探賾[41]索隱[42]

15 更顯法於將來幽贊神明亦了達於未悟然則立德之美從斯而見著述
之義[43]其在□□今盛業[44]既彰大功[45]剋構而[46]

16 徽猷莫記非所以曉示來葉者也是以敬勒他山式遵前學庶使無上功[47]
德与山□□□[48]傳[49]其詞曰△遜聽[50]前脩曾[51]

17 聞莊老可名非名可道非[52]道逍遙爲貴齊物爲寶緣報不申[53]理尙未好遙
哉上覺曠[54]矣[55]神功四禪無像三界畢空道[56]

18 非迹應事以感通無因達聖何以開蒙於惟我△皇自天攸縱九有懷德
八方[57]咸統治尙無爲[58]民隨日用淳風旣□[59]

19 式歌且[60]誦功參佐命來牧蕃惟[61]秉茲德實是導是綏民知禮讓俗尙謙撝
過則稱[62]己功必□推[63]寔爲良宰撥煩理□

20 旣經德化風移俗易仁不獨善贊輔斯敍共保令名嘉命可適爰有明△
詔誥彼四方玄風更闡遺敎重昌[64]同[65]□□

21 德上下紀綱伽藍[66]仍建迥刹高驤物愛雕修人榮寶飾晝堂晈晈華攘[67]翼
翼名德卜居宴坐心[68]息歸依一□[69]□□□

22 □溫溫哲人穆穆明后作我橋梁弘茲善誘有緣[70]必應言立不朽敬勒斯
銘天長地久大隋開皇[71]十一年歲次辛亥六月辛亥[72]……

【校勘】

1 「世」萃・宜・魯・縣志。／「處」全隋。
2 「緣の旨」／「緣之旨」萃・全隋・宜・縣志／「緣之旨」魯。
3 「道」魯／「道」萃・全隋・宜・縣志。
4 「微密」萃・宜・魯・縣志／「未滅」全隋。
5 「侶」萃・宜・魯・縣志／「理」全隋。
6 「熟」萃・宜・魯・縣志／「執」全隋。
7 「□□」萃・全隋・宜・魯／「到於」縣志。
8 「彼」萃・全隋・縣志／「彼」魯／宜は旁の「皮」のみ記す。旁の「皮」は人文研・北圖で確認可。
9 「岸」萃・全隋・宜・縣志／「岸」魯。
10 「暨□」萃・全隋・宜／「暨□」魯／「暨光」縣志。
11 「歳」萃・宜・魯・縣志／「載」全隋。
12 「有」魯／「有」萃・全隋／「□」宜／「眞」縣志。
13 「□□□□」萃・全隋・宜・魯／「度脱於是」縣志。
14 「玄風」魯／「玄風」萃・全隋・縣志／「□□」宜。
15 「緇」縣志／「緒」萃・全隋・魯／宜は糸偏のみ記す。
16 「徒」／「徒」魯・縣志／「□」萃・全隋・宜。
17 「更」萃・全隋・魯・縣志／「□」宜。
18 「廢」原碑は「癈」に作るが正字體に改める。
19 「塗」魯／「塗」萃・全隋／「□」宜／「途」縣志。
20 「之」／「之」全隋・縣志／「□」萃・宜・魯。
21 「道先」萃・全隋・宜・縣志／「道先」魯。北圖で確認可。
22 「臨」萃・全隋・宜・縣志／「臨」魯。北圖で確認可。
23 「解網」萃・全隋・宜・縣志／「解網」魯。人文研は角偏と「網」字、北圖は兩字とも確認可。
24 「聖」萃・全隋・縣志／「□」宜／「聖」魯。人文研・北圖で確認可。
25 「順」萃・宜・魯・縣志／「愼」全隋。
26 「異」萃・全隋・魯・縣志／「冀」宜。
27 「聲播」萃・全隋・宜・魯・縣志。
28 「守」／「守」縣志／「□」萃・全隋・宜・魯。
29 「同」萃・宜・魯・縣志／「周」全隋。
30 「聽訟」／「聽訟」萃・全隋・縣志／「□□」宜は下字の言偏のみ記す。／「聽訟」魯は下字の旁「公」のみ圍む。
31 「府」萃・宜・魯・縣志／「俯」全隋。
32 「厲」萃・全隋・魯・縣志／「癘」宜。原碑は「癘」に作るが文脈により「厲」に改める。
33 「弘麗」萃・全隋・宜・縣志／「弘麗」魯。北圖で確認可。
34 「廡」原碑は病垂（やまいだれ）に作るが正字體に改める。
35 「廊」原碑は病垂に作るが正字體に改める。
36 「殿」萃・全隋・宜・縣志／「殿」魯。北圖で確認可。
37 「飾盡」萃・全隋・宜／「飾盡」魯／「飾畫」縣志。北圖で確認可。
38 「光□」／「光明」萃・全隋・宜・縣志／「光明」魯。「光」は北圖で確認可。
39 「土」萃・宜・魯・縣志／「上」全隋。
40 「言」萃・全隋・宜・縣志／「言」魯。北圖で確認可。
41 「賾」萃・全隋・宜・縣志／「賾」魯。旁「責」は確認可。北圖で確認可。
42 「索隱」萃・全隋・宜・縣志／「索隱」魯。北圖で確認可。
43 「義」魯／「義」萃・全隋／「善」縣志。宜は一五行目の翻刻を

缺くため不明。
44 「盛業」萃・全隋・縣志／「盛業」魯。宜は一五行目の翻刻を缺くため不明。北圖で確認可。
45 「功」萃・全隋・縣志／「功」魯。宜は一五行目の翻刻を缺くため不明。旁「力」は一部確認可。北圖で確認可。
46 「剋構而」全隋／「剋搆而」萃・縣志／「剋搆而」魯。宜は一五行目の翻刻を缺くため不明。北圖で確認可。
47 「上」萃・宜・魯・縣志／「土」全隋。
48 「□」萃・全隋・宜・魯／「其」縣志。
49 「傳」萃・全隋・魯・縣志／「□」宜。
50 「聽」萃・全隋・宜・縣志／「聽」魯。北圖で確認可。
51 「曾」萃・全隋・宜・縣志／「曾」魯。人文研・北圖で確認可。
52 「非」萃・全隋・宜・魯・縣志。人文研で確認可。
53 「申」宜・魯・縣志／「由」萃・全隋。
54 「曠」／「□」萃・全隋・宜／「曠」縣志。日偏は確認可。魯は日偏のみ記す。關連資料とも勘案し「曠」とする。
55 「矣」／「□」萃・全隋・宜・魯／「矣」縣志。縣志および關連資料により「矣」とする。
56 「道」／「□」萃・全隋・宜・魯／「道」縣志。縣志および關連資料により「道」とする。
57 「方」萃・全隋・宜・魯・縣志。人文研・北圖で確認可。
58 「無爲」／「無爲」萃・全隋／「無爲」魯／「□□」宜・縣志。「無」は人文研で確認可。萃・全隋・魯および文脈より「爲」とする。
59 「既□」魯／「既□」萃・全隋／「□□」宜／「既邈」縣志。
60 「且」／「且」萃・魯・縣志／「□」全隋・宜。
61 「惟」縣志。／「維」萃・全隋・宜・魯。
62 「稱」／「稱」萃・全隋・宜・縣志・魯。魯は旁「爯」のみ圍む。
63 「□推」／「□□」萃・全隋・宜・魯。魯は下字の手偏のみ記す。／「相推」縣志。人文研・北圖・淑・傅いずれも手偏は確認可。
64 「昌」萃・全隋・縣志／「昌」魯／「□」宜。人文研・北圖で確認可。
65 「同」萃・全隋・魯・縣志／「□」宜。
66 「藍」原碑は「籃」に作るが文脈により「藍」に改める。
67 「攘」萃・全隋・宜・魯／「榱」縣志。
68 「心」萃・宜・魯・縣志／「止」全隋。
69 「□」萃・全隋・宜・魯／「諦」縣志。
70 「緣」萃・宜・魯・縣志／「言」全隋。
71 「開皇」萃・全隋・宜・魯。縣志は「大隋」以降の翻刻なし。人文研で確認可。
72 「亥」宜／「□」萃・全隋・魯／縣志は「大隋」以降の翻刻なし。人文研で確認可。

（譯注篇）

【原文】

昔夫老子作上下之經[1]、纔表清虛之妙[2]、莊生著内外之義[3]、且論出世之高[4]、無申業報之言、豈暢因緣之旨。眷言[5]大道、未爲盡得。是知、神理[6]微密、眞趣[7]幽玄、心期之侶[8]、起惑興障。若非達聖[9]膺運[10]、至德[11]降靈、熟能敷化[12]大千[13]、□□彼岸。

暨□通漢夢[14]、炭驗昆明[15]、法輪[16]西闡[17]、像敎[18]東被[19]。自爾迄今、將千歲矣。雖神功[20]妙迹[21]、逈出天人[22]、應物隨方[23]、多有□□。□□玄風遂扇[24]、

緇徒[25]更繁、或廢或興、隨時[26]出沒。良由心塗[27]所隔、業緣致壅故耳。

我大隨膺千齡之會[28]、處五運之□[29]、□□□道、先天協命[30]。△皇帝統曆[31]乘元[32]、欽明[33]御宇[34]、秉金輪[35]以治世、懸玉鏡[36]而照臨[37]。聲逸萬古[38]、澤被遐外[39]、好生惡煞、泣辜[40]解網[41]。輕茲小道、慕彼大乘。欲歸一諦[42]、會由三寶[43]。乃△詔州縣、各立僧尼二寺[44]、襲聖軌[45]之將頽、繼金言[46]之蹔缺。

△使君建安公[47]。衣冠水鏡[48]、縉紳模楷[49]、入朝見美[50]、出牧[51]稱賢。含柔[52]履順[53]、率由成則[54]、德流異部[55]、聲播殊方[56]。念法界[57]以歸依、弘慈善以訓物[58]、申命[59]懃至、不捨斯須[60]。

縣令西河宋景[61]、輔國將軍[62] 内散[63] 復州[64]別駕 治長史 宜昌・竟陵[65]二郡守□□都督、允文允武[66]、所在稱奇[67]、製錦[68]一同[69]、弦歌[70]千室[71]。志懷清愼[72]、恆若履冰[73]、能官[74]之美、今古獨絕[75]。深悟非常[76]、情存釋典[77]、聽訟[78]之暇、無忘福田[79]。

丞大梁[80]齊相[81]、尉博陵[82]張服[83]・河間[84]張標[85]、並以明哲[86]、來贊專城[87]、清懃[88]自處[89]、譽宣隣邑。俱申迴向之心[90]、共忻眞淨之路[91]、心意[92]精實[93]、不行自遠[94]。

遂仰依明△敕[95]、府厲宿誠[96]、乃於形勝之所[97]、崇構[98]尼寺。縣宦[99]七職[100]、爰及鄉正[101]之徒、感斯福德、忻然營助[102]。

寺主道辯[103]、等覺法紬[104]、上坐智最・緩稱[105]等、咸以戒操[106]端嚴[107]、音儀[108]匪忒[109]、煩惱已棄、業行[110]聿脩[111]。相与經始、不日而就[112]。

爾其勢[113]極弘麗[114]、地惟爽塏[115]。房廡[116]深重、長廊交暎[117]。連甍[118]雲合、比屋[119]霞舒[120]。寶鐸[121]迎風、雕梁照日[122]。

至於莊嚴□殿、飾盡[123]丹青[124]、相好[125]非常、光□特絕、舊尼宿德[126]、深覩律藏[127]、莫不負錫[128]來遊、有懷樂土[129]。

竊惟靈應[130]微遠、無迹可尋[131]。但理□□、言由事發[132]。故探賾索隱[133]、更顯法於將來[134]、幽贊神明[135]、亦了達[136]於未悟[137]。然則立德[138]之美、從斯而見、著述[139]之義、其在□□。今盛業[140]既彰、大功[141]剋構[142]、而徽猷[143]莫記、非所以曉示來葉[144]者也。是以敬勒他山[145]、式遵[146]前學。庶使無上功德、与山□□□傳。其詞曰、

△逖聽[147]前脩[148]、曾聞莊老、可名非名、可道非道[149]、逍遙爲貴、齊物爲寶[150]、緣報[151]不申、理尚未好[152]。遙哉[153]上覺[154]、曠矣神功[155]、四禪[156]無像[157]、三界畢空[158]、道非迹應[159]、事以感通[160]、無因達聖[161]、何以開蒙[162]。

於惟我△皇、自天攸縱[163]、九有[164]懷德[165]、八方咸統。治尚無爲[166]、民隨日用[167]、淳風[168]既□、式歌且誦[169]。功參佐命[170]、來牧蕃惟[171]、秉茲德實[172]、是導是綏[173]。民知禮讓[174]、俗尚謙撝[175]、過則稱己[176]、功必□推。

寔爲良宰[177]、撥煩理□[178]、既經德化、風移俗易[179]。仁不獨善[180]、贊輔[181]斯益、共保令名[182]、嘉命可適[183]。爰有明△詔、誥彼四方、玄風[184]更闡、遺敎[185]重昌。同□□德、上下紀綱[186]、伽藍仍建、迥刹高驤[187]。

物愛雕修[188]、人榮寶飾[189]、畫堂[190]晈晈[191]、華攘［榱／壤］[192]翼翼[193]。名德卜居[194]、宴坐心息[195]、歸依一□、□□□□。溫溫哲人[196]、穆穆明后[197]、作我橋梁[198]、弘茲善誘[199]。有緣必應、言立不朽[200]、敬勒斯銘、天長地久[201]。

大隋開皇十一年、歲次辛亥、六月辛亥……

【語注】

（1）**上下之經**＝『史記』卷六三 老子列傳「老子脩道德、其學以自隱無名爲務。居周久之、見周之衰、迺遂去。至關、關令尹喜曰『子將隱矣。彊爲我著書』。於是**老子迺著書上下篇**、言道德之意五千餘言而去、莫知其所終」。

（2）**清虛之妙**＝『老子』第三章「……是以聖人之治、**虛其心**、實其腹、弱其志、强其骨。常使民無知無欲、使夫智者不敢爲也。爲無爲、則無不治」。同上、第五章「天地之間、其猶橐籥乎。**虛而不屈**、動而愈出。多言數窮、不如守中」。同上、第一六章「**致虛極**、**守靜篤**。万物竝作、吾

以觀復。夫物藝藝、各復歸其根。歸根曰靜、是謂復命。復命曰常、知常曰明」。『文子』自然「**老子**曰。**淸虛者、天之明也**、無爲者、治之常也、去恩慧、舍聖智、外賢能、廢仁義、滅事故、棄佞辯、禁姦僞、則賢不肖者齊於道矣。**靜則同**、**虛則通**、至德無爲、萬物皆容、**虛靜之道**、天長地久、神微周盈、於物無宰」。

（3）**內外之義**＝『漢書』卷三〇　藝文志　諸子略　道家「莊子五十二篇。（名周、宋人）」。『經典釋文』卷一　序錄　莊子「崔譔注十卷二十七篇（……**內篇七、外篇二十**）。向秀注二十卷二十六篇（一作二十七篇、一作二十八篇、亦無雜篇、爲音、三卷）。司馬彪注二十一卷五十二篇（……內篇七、外篇二十八、雜篇十四、解說三、爲音、三卷）。郭象注三十三卷三十三篇（……內篇七、外篇十五、雜篇十一、爲音、三卷）」。

（4）**出世之高**＝『莊子』に「出世」の語は見えない。次のような境地を指すか。『莊子』逍遙遊篇「藐姑射之山、有神人居焉、肌膚若冰雪、淖約若處子。不食五穀、吸風飮露。乘雲氣、御飛龍、而**遊乎四海之外**。其神凝、使物不疵癘而年穀熟」。同上、大宗師篇「莫然有閒而子桑戶死、未葬。孔子聞之、使子貢往待事焉。或編曲、或鼓琴、相和而歌曰……孔子曰「彼**遊方之外者**也、而丘遊方之內者也。外內不相及、而丘使女往弔之、丘則陋矣。……」。

（5）**眷言**＝『毛詩』小雅　谷風之什　大東「**睠言顧之**、潸焉出涕（毛亨傳：睠、反顧也。潸、涕下貌。／鄭玄箋：言、我也＊。此二事者、在乎前世過而去矣、我從今顧視之、爲之出涕、傷今不如古。／釋文：睠、音卷。**本又作眷**。／孔穎達疏：今此二者、於前世已過而去、**睠然迴反**、我從今世徒反顧而視之、終不可值。由此潸焉爲之出涕）」。＊鄭玄は「言」を「我」とするが、本文では取らず、助辭と考える。陸機「贈尙書郎顧彥先二首」第二首（『文選』卷二四）「……沈稼湮梁潁、流民泝荊徐。**眷言懷桑梓**、無乃將爲魚。（李善注：毛詩曰『眷言顧之』）」。『隋書』卷一　高祖帝紀「（開皇三年）秋七月……壬戌、詔曰「……郡省事范臺玫傾產營護、免其戮辱。**眷言誠節**、**實有可嘉**。宜超呰賞、用明沮勸。臺玫可大都督假湘州刺史」。［北魏］普泰元年（五三一）穆紹墓誌「聖上龍飛、**眷言舊德**、求瘼之任、經挹所先」（『北圖』第五冊一五三頁）。［北魏］韓震墓誌「天子**睠言盛德**、念在追榮」（同上、第五冊）。

（6）**神理**＝謝靈運「從游京口北固應詔」（『文選』卷二二）「玉璽戒誠信、黃屋示崇高。事爲名教用、**道以神理超**。（李善注：言、上二事乃爲名敎之所用、**而其至道實神理而超然也**。『文子』曰『聖人所由曰道、所爲曰事』。……『周易』曰『聖人以神道設敎、而天下服』。曹植『武帝誄』曰『**聰竟神理**』。／張銑注：此二事、蓋爲名敎而用之、至於大道化人、在神理超遠而已）」。［梁］陶弘景『登眞隱訣』卷下　誦黃庭經法　入靜「入靜法（陶弘景注：若有所啓請者、當用夜半時也。**神理尙幽**、故眞人下降、多不以晝矣）」。

（7）**眞趣**＝江淹「殷東陽（興矚）仲文」（『文選』卷三〇）「晨遊任所萃、**悠悠蘊眞趣**。（李善注：……『莊子』曰『**道之眞以治身**』。謝靈運『登江中孤嶼詩』曰「**蘊眞誰爲傳**」。／劉良注：萃、聚也。言陵晨觀望萬物、竝聚於目中。**悠悠蘊積至道之眞趣**）」。

（8）**心期之侶**＝［梁］任昉「贈郭桐廬、出谿口見候、餘旣未至、郭仍進村、維舟久之、郭生方至」（『文選』卷二六）「朝發

富春渚、蓄意忍相思。望久方來萃、悲歡不自持。（李周翰注：萃、聚會也。望久則悲、聚會則歡、應事而感、不能自執持也）。滄江路窮此、湍嶮方自玆。**疊嶂易成響**、重以夜猨悲。客心幸自弭、**中道遇心期**。（張銑注：言、我爲客之心、幸而暫止者、**爲遇心期也**。心期、謂峙*也）」。＊峙は桐廬縣令の郭峙。

(9) **達聖**＝［後秦］竺佛念譯『菩薩瓔珞經』卷一二「**如來達聖**、轉大法輪、空性無形、永處泥洹、是謂清淨。不見諸法、不見泥洹、有此二心、欲成無上正眞之道、是謂不淨」（大正一六・一〇四上）。

(10) **膺運**＝［東魏］武定八年（五五〇）蕭正表墓誌「伯梁武皇帝、**膺運受圖**、負玆寶曆、天飛江左、光宅四方」（『北圖』第六册一六四頁）。［隋］仁壽四年（六〇四）楊文愻誌「**大隋膺運**、敷奏俟才」（『隋代墓誌銘彙考』第三册九六頁）。

(11) **至德**＝『周易』繫辭上傳「廣大配天地、變通配四時、陰陽之義配日月、**易簡之善配至德**」。『論語』泰伯「子曰『泰伯、其可謂**至德**也已矣。三以天下讓、民無得而稱焉』」。婆藪槃頭造、曇鸞注解『無量壽經優婆提舍願生偈注』「如是之人、應受拔舌苦瘖啞苦言敎不行苦無名聞苦。如是等種種諸苦衆生、聞**阿彌陀如來至德**名號説法音聲、如上種種口業繫縛、皆得解脱」（大正四〇・八三九下）。

(12) **敷化**＝阮籍「與晉王薦盧播書」（『漢魏六朝百三家集』卷三四）「皇靈誕秀、九德光被。應期作輔、**論道敷化**」。王融「永明九年策秀才文五首」（『文選』卷三六）「或揚旌求士、或設虡待賢、用能**敷化一時**、**餘烈千古**。（劉良注：敷布、烈美也）」。

(13) **大千**＝三千大千世界のこと。全世界。鳩摩羅什譯『金剛般若波羅蜜經』「〔世尊〕『……若人滿**三千大千世界**七寶、以用布施、是人所得福德、寧爲多不』。須菩提言『甚多、世尊』」（大正八・七四九中）。

(14) **□通漢夢**＝「牟子理惑論」（『弘明集』卷一）「問曰『漢地始聞佛道、其所從出耶』。牟子曰『**昔、孝明皇帝**＊1、**夢見神人**。身有日光、飛在殿前。欣然悦之。明日博問群臣「此爲何神」。有通人傅毅曰「臣聞、天竺有得道者、號曰佛。飛行虛空、身有日光。殆將其神也」。於是上寤＊2、遣中郎蔡愔・羽林郎中秦景・博士弟子王遵等十八人、於大月支、寫佛經四十二章、藏在蘭臺石室第十四閒。時於洛陽城西雍門外、起佛寺。……』」（大正五二・四下）。＊1 後漢の明帝（五七–七五年在位）＊2 宋・元・明本と宮本は「寤」を「悟」に作る。［東晉］袁宏『後漢紀』卷一〇 孝明皇帝紀「**初、帝夢見金人長大、項有日月光**。以問群臣、或曰『西方有神、其名曰佛、其形長大』。而問其道術、遂於中國而圖其形象焉」。『高僧傳』卷三 譯經下 求那毘地傳「贊曰……周星曜魄、**漢夢通神**、騰蘭讖什、殉道來臻」（大正五〇・三四六下）。「今上＊1停沙門拜君詔一首」（『廣弘明集』卷二五）「自周霄隕照、**漢夢**延輝、妙化西移、惠流**東被**、至於玄牝邃旨、碧落希聲、具開六順之基、偕協五常之本。而於愛敬之地、忘乎跪拜之像＊2、其來永久罔革玆弊」（大正五二・二八九下）。＊1 高宗の龍朔二年（六六二）の詔。＊2 宮本は「像」を「儀」に作る。

(15) **炭驗昆明**＝『高僧傳』卷一 譯經上 竺法蘭傳「又昔**漢武穿昆明池**、**底得黑灰**。以問東方朔、朔云『不委。可問西域

人』。後法蘭既至、衆人追以問之、蘭云『世界終盡、劫火洞燒。此灰是也』。朔言有徵、信者甚衆。蘭後卒於雒陽。春秋六十餘矣」（大正五〇・三二三上）。［隋］費長房『歷代三寶紀』卷一　帝年次前漢・新王・後漢「武帝徹。景帝子。治五十四年。自此始建年號稱建元元年（紀元前一四〇）。**佛入涅槃至此已四百七十年***。……元狩……辛酉三年（紀元前一二〇）**掘昆明池、其下悉是炭墨**。武帝以問東方朔、令辯所由。朔答云『非臣所知。陛下可問西域梵人』」（大正四九・三〇）。＊宋・元・明・宮本は「四百七十一年」に作る。また、『歷代三寶紀』卷一は佛滅の日を周の匡王四年二月十五日とし、この年は紀元前六一〇年もしくは六一一年と考えられていたことになる。

(16) **法輪**＝佛法を輪に譬えたもの。『妙法蓮華經』卷二　譬喩品第三「而說偈言……我定當作佛、爲天人所敬、**轉無上法輪**、敎化諸菩薩」（大正九・一一中）。

(17) **西闡**＝『周易』繫辭下傳「夫易、彰往而察來、而微顯**闡幽**。（韓康伯注：易无往不彰、无來不察。而微以之顯、**幽以之闡**。**闡、明也**）」。

(18) **像敎**＝佛滅後、像法の時期に中國に傳わった佛の敎え。像法の前の正法は五百年とする說と一千年とする說があるが、五百年の說が有力。［西晉］竺法護譯『賢劫經』卷七千佛興立品第二一「今世人壽百歲、或長或短。一會說經、千二百五十比丘衆、皆得道證。舍利普布八方上下。**正法存立五百歲、像法存立亦五百歲**」（大正一四・五〇下）。［後秦］鳩摩羅什譯『大智度論』卷二　總說如是我聞釋論「大迦葉言『汝更有罪。佛意不欲聽女人出家。汝慇懃勸請、佛聽爲道。以是故**佛之正法五百歲而衰微**。是汝突吉羅罪』」（大正二五・六八上）。『**像法**決疑經』（中國撰述經典）「常施菩薩白佛言『世尊。如來去世後、一切衆生不復覩見如來色身、不聞眞法、於未來世中**像法之時**、善法漸衰、惡轉熾然。當爾之時、敎諸衆生作何福德、最爲殊勝。……爾時世尊告常施菩薩『……善男子。我於處處經中說布施者、欲令出家在家人、修慈悲心、**布施貧窮孤老乃至餓狗**。……』……『善男子。**我滅度已千年後**、惡法漸興、**千一百年後**、諸惡比丘比丘尼遍閻浮提。處處充滿、不修道德、多求財物、專行非法。……』」（大正八五・一三三五下～一三三七中）。「高明二法師答李交州淼難佛不見形事」（『弘明集』卷一二）「夫如來應物、凡有三焉。一者、見身放光動地。二者、**正法**如佛在世。三者、**像敎**髣髴儀軌。髣髴儀軌、應今人情。人情感像、孰爲見哉」（大正五〇・四四五上）。［北魏］孝文帝「帝立僧尼制詔」（『廣弘明集』卷二四）「自**象敎***東流**、千齡已半。秦漢俗華、制禁彌密。故前世英人、隨宜興例。世輕世重、以裨玄奧。先朝之世、甞爲僧禁、小有未詳、宜其修立」（大正五二・二七二中）。＊宋・元・明・宮本は「象」を「像」に作る。また『初學記』卷二三「道釋部・僧」參照。［梁］元帝「內典碑銘集林序」（『廣弘明集』卷二〇）「自**象敎***東流**、化行南國。吳主至誠、歷七霄而光曜、晉王畫像、經五帝而彌新」（大正五二・二四四下）。＊宋・元・宮本は「象」を「像」に作る。『續高僧傳』卷三　譯經篇三　釋慧淨傳「蓋聞、**正法**沒於西域、**像敎**被於東華。古往今來、多歷年所」（大正五〇・四四五上）。

(19) **東被**＝［梁］僧祐『出三藏記集』卷一四　鳩摩羅什傳「自大法**東被**、始於漢明、歷涉魏晉、經論漸多、而支竺所出、多滯文格義」（大正五五・一〇一中）。王巾「頭陀寺碑文」（『文選』卷五九）「既而方廣**東被**、敎肄南移。（李善注：華嚴經題云『大方廣佛華嚴經』。孔安國尙書傳曰『**被**、**及也**』）」。『尙書』夏書　禹貢「東漸于海、**西被**于流沙、朔南曁聲敎。（孔安國傳：漸、入也。**被**、**及也**。此言、五服之外、皆與王者聲敎而朝見）」。また、注（14）「今上停沙門拜君詔一首」（『廣弘明集』卷二五）參照。

(20) **神功**＝『晉書』卷一三〇　載記　赫連勃勃「我皇祖大禹……夷一元之窮災、拯六合之沈溺、鴻績侔于天地、**神功**邁于造化」。任昉「到大司馬記室牋」（『文選』卷四〇）「將使伊周奉轡、桓文扶轂。**神功**無紀、作物何稱」。「大梁皇帝敕答臣下神滅論」（『弘明集』卷一〇）「豫章王主簿王筠答。……竊聞優然有見禮典之格言、今則不滅法敎之弘旨。但妙相虛玄、**神功**凝靜、自非體道者、豈能默領其宗」（大正五二・六〇下）。

(21) **妙迹**＝劉義慶『世說新語』文學「殷與孫共論易象妙於見形。（劉孝標注：聖人知觀器、不足以達變、故表圓應於著龜。圓應不可爲典要、故寄**妙迹**於六爻。六爻周流、唯化所適。故雖一畫而吉凶竝彰、微一則失之矣）」。慧遠「沙門袒服論　遠法師答」（『弘明集』卷五）「常以爲、道訓之與名敎、釋迦之與周孔、發致雖殊、而潛相影響。出處誠異、終期則同。但**妙迹**隱於常用、指歸味而難尋、遂令至言隔於世典」（大正五二・三二下）。

(22) **逈出天人**＝［梁］元帝*1「法寶聯璧序」（『藝文類聚』卷七七）「竊以、觀乎天文、日月所以貞麗、觀乎人文、藻火所以昭發。況復玉毫朗照、**出天人之表**、金牒解空*2、生文章之外」。＊1 蕭繹。＊2『廣弘明集』卷二〇所收の「梁簡文帝法寶聯璧序」（大正五二・二四二下）は「解空」を「空解」に作る。［隋］常得志「兄弟論」（『文苑英華』卷七四八）「今子大夫幸而見覿、博我以友弟、弘我以禮經。洋洋乎、理**出天人之表**、恢恢焉、道周仁義之鄉」。［隋］達磨笈多譯『大方等大集經菩薩念佛三昧分』卷六　佛作神通品「如是滿月大法王、炎赫獨**出天人上**」（大正一三・八五一下）。

(23) **應物隨方**＝『莊子』知北遊「邀於此者、四肢彊、思慮恂達、耳目聰明、其用心不勞、**其應物無方**。（郭象注：人生而遇此道、則天性全而精神定。／成玄英注：遇於道而會於眞理者、則百體安康、四肢彊健、思慮通達、視聽聰明、無心之心、用而不勞、**不應之應**、**應無方所也**）」。謝靈運「辯宗論」（『廣弘明集』卷一八）「二敎不同者、**隨方應物**、所化地異也。大而較之、監在於民。華人易於見理、難於受敎。故閉其累學、而開其一極。夷人易於受敎、難於見理。故閉其頓了、而開其漸悟」（大正五二・二二五上）。梁簡文帝「大愛敬寺刹下銘」（『文苑英華』卷一六〇）「夫波若眞空、導大（一作羣）生於假域、涅槃有岸、引未度於無邊。應此十千、現茲權實、**隨方**攝受、孰能弘濟。皇帝＊照盡神原、心凝寂境、……」。＊梁武帝。［北齊］魏收「征南將軍和安碑銘一首幷序」（『文館詞林』卷四五二）「惟公天璞不雕、全德斯在、**應物隨方**、攸往必適」。

(24) **玄風遂扇**＝玄風は一般に玄學の氣風を表すが、ここでは佛教

の氣風と解した。沈約「宋書謝靈運傳論」（『文選』卷五〇）「在晉中興、玄風獨扇、爲學窮於柱下、博物止乎七篇。馳騁文辭、義殫乎此。（李善注：『續晉陽秋』曰『正始中、王弼何晏好莊子玄勝之談、而俗遂貴焉』。／張銑注：玄、道。扇、盛也。……言中興之後人、承王弼何晏之風、學者義理、盡於莊老。殫、盡也）」。僧肇「涅槃無名論」（『肇論』）「不幸什公去世、諮參無所、以爲永慨。而陛下＊聖德不孤、獨與什公神契、目擊道存、快盡其中方寸。故能振彼玄風、以啓末俗」（大正四五・一五七上）。＊姚興。

(25) **緇徒**＝［北魏］孝昌二年（五二六）元乂墓誌「公少好黃老、尤精釋義、招集緇徒、日盈數百。講論疑滯、研賾是非、以燭嗣日、怡然自得」（『北圖』第五册三二頁）。『法苑珠林』卷三三　興福篇　洗僧部「生生常修佛事、世世常轉法輪。故能信正法於群邪、敬緇徒於像季」（大正五三・五四四中）。

(26) **隨時**＝『周易』隨卦（震下兌上）「隨。元亨利貞、无咎。彖曰、隨、剛來而下柔、動而說隨。大亨貞无咎、而天下隨時。隨時之義大矣哉。（王弼注：……爲隨而令大通利貞、得於時也。得時則天下隨之矣。隨之所施、唯在於時也。時異而不隨、否之道也。故隨時之義大矣）」。『隋書』卷三七　李穆傳「時太史奏云『當有移都之事』。上＊以初受命、甚難之。穆上表曰『帝王所居、隨時興廢、天道人事、理有存焉。始自三皇、暨夫兩漢、有一世而屢徙、無革命而不遷。……』」。＊文帝。

(27) **心塗**＝［梁］簡文帝「唱導文」（『廣弘明集』卷一五）「夫十惡緣巨、易惑心塗、萬善力微、難感靈性。是以摩鉗赴火、立志道場、薩埵投身、必之妙覺」（大正五二・二〇五上）。

(28) **膺千齡之會**＝『晉書』卷一九　禮志上「是以常侍戴邈詣闕上疏云『方今天地更始、萬物權輿、蕩近世之流弊、創千齡之英範。……』」。『周書』卷三三　王悅傳「我相公＊膺千齡之運、創三分之業、道洽區中、威振方外。聲教所被、風行草偃、兵車所指、雲除霧廓」。＊楊堅の父楊忠のこと。法琳『辯正論』卷三　十代奉佛上篇「隋高祖文皇帝（諱堅）。膺千齡之運、當百王之末。玄德通於神明、至功包於造化」（大正五二・五〇八中）。

(29) **處五運之□**＝「五運」は五行の運行。この運行に從って王朝が交代すると考えられた。左思「魏都賦」（『文選』卷六）「于時運距陽九、漢網絕維。（李善注：『春秋保乾圖』曰『五運七變、各以類驚。宋衷曰『五運、五行用事之運也』。孔安國尚書傳曰『距、至也』）」。魏收『魏書』卷九一　術藝　江式傳「皇魏承百王之季、紹五運之緒、世易風移、文字改變、篆形謬錯、隸體失眞」。

(30) **先天協命**＝『周易』乾卦　文言傳「（九五）夫大人者、與天地合其德、與日月合其明、與四時合其序、與鬼神合其吉凶。先天而天弗違、後天而奉天時。天且弗違、而況於人乎、況於鬼神乎。（孔穎達疏：先天而天弗違者、若在天時之先行事、天乃在後不違、是天合大人也）」。

(31) **統曆**＝『隋書』卷一　文帝紀「（開皇）四年（五八四）春正月甲子、日有蝕之。己巳、有事於太廟。辛未、有事於南郊。……辛卯、渝州獲獸、似麋一角同蹄。壬辰、班新曆」。『隋書』卷七八　藝術列傳　張冑玄傳「張冑玄、渤海蓨人也。博學多通、尤精術數。……改定新曆、言前曆差一日。內史通事顏敏楚上言曰、『漢時落下閎改顓頊曆作太

初曆、云、「後當差一日。八百年、當有聖者定之」。計今相去七百一十年、術者舉其成數、聖者之謂、其在今乎』。上*大悅、漸見親用」。＊文帝。『隋書』卷七五 儒林列傳「自正朔不一、將三百年、師說紛綸、無所取正。高祖膺期纂曆、平一寰宇、頓天網以掩之、賁旌帛以禮之、設好爵以縻之。於是四海九州强學待問之士、靡不畢集焉」。

（32）**乘元**＝「乘乾」に同じ。『隋書』卷一五 音樂志下 武舞歌辭「惟皇御宇、惟帝乘乾。五材竝用、七德兼宣。平暴夷險、拯溺救燔。九域載安、兆庶斯賴」。『春秋左氏傳』昭公三十二年「在易卦、雷乘乾曰大壯。天之道也。（杜預注：乾下震上、大壯。震在乾上、故曰雷乘乾。乾爲天子、震爲諸侯而在上。君臣易位、猶臣大强壯、若天上有雷）」。『周易』大壯卦（乾下震上）「大壯、利貞。（彖傳：大壯、大者壯也。剛以動、故壯。『大壯利貞』、大者正也。正大而天地之情可見矣）」。『周易』乾卦「乾、元亨利貞。（彖傳：大哉乾元。萬物資始、乃統天）」。『魏書』卷六九 袁翻傳「是時修明堂辟雍、翻議曰『……皇代既乘乾統曆、得一馭宸、自宜稽古則天、憲章文武、追蹤周孔、述而不作、四彼三代、使百世可知」。

（33）**欽明**＝『尙書』堯典「放勳、欽明文思安安、允恭克讓。（釋文：馬云、威儀表備謂之欽、照臨四方謂之明、經緯天地謂之文、道德純備謂之思）」。『三國志』卷一九 魏書一九 陳思王植傳「伏惟、陛下資帝唐欽明之德、體文王翼翼之仁、惠洽椒房、恩昭九族」。

（34）**御宇**＝『晉書』卷三 武帝紀「武皇承基、誕膺天命、握圖御宇、敷化導民、以佚代勞、以治易亂」。また、注（32）『隋書』卷一五 音樂志下 武舞歌辭、參照。

（35）**秉金輪**＝「金輪」は四輪王の內の金輪王が卽位する時、東方に現れるとされる輪寶。［梁］蕭綱*1「啓奉請上開講幷敕答」（『廣弘明集』卷一九）「伏惟陛下*2玉鏡宸居、金輪馭世、應跡有爲、俯存利物。不違本誓、開導愚蒙、驅十方於大乘、運萬國於仁壽」（大正五二・二三五上）。＊1 後の簡文帝。＊2 梁武帝。［隋］智顗「智者遺書與臨海鎭將解拔國述放生池」（［隋］灌頂『國淸百錄』卷四）「仰惟皇帝陛下*、秉金輪而御八表、握寶鏡以臨四民」（大正四六・八二二中）。＊文帝。［三國吳］支謙譯『太子瑞應本起經』卷上「菩薩承事定光、至于泥曰、奉戒護法、壽終卽生第一天上、爲四天王。畢天之壽、下生人間、作轉輪聖王飛行皇帝、七寶自至。一金輪寶。二神珠寶、三紺馬寶朱髦鬣、四白象寶朱髦尾、五玉女寶、六賢鑒寶、七聖導寶」（大正三・四七三中）。玄奘譯『阿毘達磨倶舍論』卷一二 分別世品「謂鐵輪王、王一洲界。銅輪王二。銀輪王三。若金輪王、王四洲界。……若王生在刹帝利種、紹灑頂位、於十五日受齋戒時、沐浴首身、受勝齋戒、昇高臺殿、臣僚輔翼、東方忽有金輪寶現、其輪千輻、具足轂輞、衆相圓淨、如巧匠成、舒妙光明、來應王所、此王定是轉金輪王*」（大正二九・六四下）。＊宋・元・明本と宮本は「轉金輪王」を「金轉輪王」に作る。

（36）**懸玉鏡**＝『尙書帝命驗』（『太平御覽』卷八二）「桀失其玉鏡、用其噬虎。（注：玉鏡、喩以淸明之道。噬虎、喩暴虐之風）」。また、注（35）蕭綱「啓奉請上開講幷敕答」參照。

（37）**照臨**＝『毛詩』邶風 日月「日居月諸、照臨下土。（毛亨傳：

日乎月乎、照臨之也。／鄭玄箋：日月喩國君與夫人也。當同德齊意、以治國者、常道也)」。また、注(33)『尙書』堯典參照。

(38) **萬古**＝『北齊書』卷四　文宣帝紀　天保元年(五五〇)八月「庚寅、詔曰『朕以虛寡、嗣弘王業、思所以贊揚盛績、播之萬古』」。

(39) **澤被遐外**＝梁簡文帝「大愛敬寺刹下銘」(『文苑英華』卷一六〇)「惠雲旦聚、浸澤灑於遐外、法炬夜明、揚光燭於梵頂」。

(40) **泣辜**＝『南齊書』卷四〇　武十七王　竟陵文宣王子良傳「夏禹廟盛有禱祀、子良曰『禹泣辜表仁、菲食旌約、服黻果粽、足以致誠』。使歲獻扇簟而已」。劉向『說苑』卷一　君道「禹出見罪人、下車問而泣之。左右曰『夫罪人不順道、故使然焉。君王何爲痛之至於此也』。禹曰『堯舜之人、皆以堯舜之心爲心。今寡人爲君也、百姓各自以其心爲心。是以痛之』。書曰『百姓有罪、在予一人』」。文帝が開皇五年に菩薩戒を受け、その恩赦により獄囚を放ったことは、【概要】(三) 文帝の寺院建立の詔敕について、『辯正論』參照。

(41) **解網**＝沈約「漢東流」(『樂府詩集』卷二〇)「至仁解網、窮鳥入懷。因此龍躍、言登泰階」。『史記』卷三　殷本紀「湯出、見野張網四面、祝曰『自天下四方皆入吾網』。湯曰『嘻、盡之矣』。乃去其三面、祝曰『欲左、左。欲右、右。不用命、乃入吾網』。諸侯聞之曰『湯德至矣、及禽獸』」。

(42) **一諦**＝唯一の眞理。龍樹造、鳩摩羅什譯『大智度論』卷八六　釋遍學品「聲聞人以四諦得道、菩薩以一諦入道。佛說是四諦、皆是一諦。分別故有四」(大正二五・六六二中)。智顗說　灌頂記『摩訶止觀』卷三下「次圓敎但明一實諦。大經云『實是一諦、方便說三』」(大正四六・二八中)。

(43) **會由三寶**＝「三寶」は佛・法・僧。歸依すべき三つの寶。[隋] 淨影寺慧遠『大乘義章』卷一〇「言三歸者。……歸依不同、隨境說三。所謂歸佛歸法歸僧。依佛爲師、故曰歸佛。憑法爲藥、故稱歸法。依僧爲友、故名歸僧。問曰『何故偏歸此三』。以此三種、畢竟歸處、能令衆生出離生死、稱涅槃故。名義如是。第二門中、別明所歸三寶境界。……」(大正四四・六五四上)。

(44) **詔州縣、各立僧尼二寺**＝【概要】(三) 文帝の寺院建立の詔敕について、參照。

(45) **聖軌**＝「軌」は「軌則」であり、「法」を意味する言葉と考えられる。向秀「難養生論」(『嵇中散集』卷四)「今若舍聖軌、而恃區種、離親棄歡、約己苦心、欲積塵露、以望山海、恐此功在身後。實不可冀也」。釋僧敏「戎華論折顧道士夷夏論」(『弘明集』卷七)「若謂聖軌無定、應隨方異者、太伯亦可裸步江東。君今亦可未服裳耶。故雖復方類不同、聖法莫異」(大正五二・四七下)。[梁] 昭明太子「令旨解法身義」(『廣弘明集』卷二一)「法者、軌則爲旨。身者、有體之義。軌則之體、故曰法身」(大正五二・二五〇下)。『大乘義章』卷一〇「法義不同、汎釋有二。一、自體名法。……二、軌則名法。辨彰行儀、能爲心軌、故名爲法。今三寶中所論法者、軌則名法」(大正四四・六五四中)。

(46) **金言**＝金人の言葉。金人は佛世尊を指す。[東魏] 楊衒之

『洛陽伽藍記』卷四　融覺寺「〔菩提〕流支、解佛義知名。西土諸夷、號爲羅漢。曉魏言及隷書、翻『十地』『楞伽』及諸經論二十三部。雖石室之寫**金言**、草堂之傳眞教、不能過也」（大正五一・一〇一七中）。〔隋〕闍那崛多譯『大法炬陀羅尼經』卷九　法師行相品「今是法師凡所宣吐、卽是**世尊金言教誨**、無有異也。所言異者、唯佛世尊三十二相及金色身。梵音宣發、辯才具足、爲天人師、斯爲異耳」（大正二一・七〇〇中）。

（47）**使君建安公**＝【**概要**】（二）寺院と寺院建立者について、參照。「使君」は刺史の尊稱。『隋書』卷六六　郎茂傳「**魏州刺史元暉**謂茂曰『長史言衞國民不敢申訴者、畏明府耳』。茂進曰『民猶水也、法令爲隄防。隄防不固、必致奔突。苟無決溢、**使君**何患哉』」。『隋書』卷三一　地理志下「**建安郡**（陳置閩州、仍廢、後又置豐州。**平陳、改曰泉州**。**大業初、改曰閩州**。）統縣四、戸一萬二千四百二十。閩、**建安**（**舊置建安郡**。**平陳、廢**。）、南安、龍溪」。

（48）**衣冠水鏡**＝〔東晉〕孫綽「丞相王導碑」（『藝文類聚』卷四五）「柔暢協乎春風、溫煦侔於冬日。信**人倫之水鏡**、道德之標準也」。〔東魏〕武定二年（五四四）叔孫固墓誌「……豈直歌謠成韻、去後見思而已哉。信**人倫之模楷**、**衣冠之准的**」（人文研拓本 DB：NAN0441X、また『北圖』第六册一一七頁）。法琳『辯正論』卷四　十代奉佛篇下「齊[*1]侍中尙書令元羅。……崇敬三寶、欽尙四弘、於法喜寺、興建七層浮圖甎塔。至於盡心以匡聖主、修已以圖永安、則上寧於君。下保於己[*2]。蓋**人倫之水鏡**、**天下之楷模**」（大正五二・五一六中）。＊1 北齊。＊2 宋・元・明本は「己」を「民」に作る。〔唐〕顯慶四年（六五九）楊士墓誌「父郎、隨相州臨漳縣主簿。淸白流於百代、雅望重於一時。爲**縉紳之模楷**、**作人倫之水鏡**」（人文研拓本 DB：TOU0282X、また『北圖』第十三册九九頁）。

（49）**縉紳模楷**＝注（48）參照。『史記』卷二八　封禪書「自未作鄜時也、而雍旁故有吳陽武時、雍東有好時、皆廢無祠。或曰『自古以雍州積高、神明之隩、故立時郊上帝、諸神祠皆聚云。蓋黃帝時嘗用事、雖晩周亦郊焉。』語不經見、**縉紳者**不道。（李奇注：**縉、插也**。**插笏於紳**。**紳、大帶**）」。『後漢書』列傳五七　黨錮列傳「因此流言轉入太學、諸生三萬餘人、郭林宗・賈偉節爲其冠、竝與李膺・陳蕃・王暢、更相褒重。學中語曰『**天下模楷李元禮**、不畏强禦陳仲舉、天下俊秀王叔茂』」。

（50）**見美**＝「見」は受身の助辭。『史記』卷八四　屈原列傳「信而**見疑**、忠而**被謗**、能無怨乎。屈平之作離騷、蓋自怨生也」。『魏書』卷六二　李彪傳「昔史談誡其子遷曰『當世有美而不書、汝之罪也』。是以久而**見美**。孔明在蜀、不以史官留意。是以久而**受譏**」。

（51）**出牧**＝『宋書』卷六　孝武帝[*1]紀「〔大明〕七年（四六三）……又詔曰『朕弱年操製、**出牧**司雍[*2]、承政宣風、薦歴年紀。……』」＊1 劉駿。＊2 司州と雍州。『魏書』卷六五　李平傳「（平長子奬）……自少及長、忠孝爲心、**入朝出牧**、淸明流譽」。

（52）**含柔**＝『魏書』卷五二　宗欽傳「欽與高允書曰……詩曰……山降則謙、**含柔**爲信。林崇日漸、明升斯進。有邈夫子、兼茲**四愼**。弱而難勝、通而不峻」。〔北齊〕天保六年（五

五五）賓泰妻婁黒女墓誌「求箴待傳之操、率自天眞。**含柔履度**之迹、事非因假」（人文研拓本 DB：NAN0517X、また『北圖』第七冊四五頁）。

(53) **履順**＝『周易』泰卦（乾下坤上）「六五、帝乙歸妹、以祉元吉。（王弼注：婦人謂嫁曰歸。泰者陰陽交通之時也。女處尊位、**履中居順**、降身應二、感以相與、用中行願、不失其禮。『帝乙歸妹』、誠合斯義。**履順居中**、行願以祉、盡夫陰陽交配之宜、故『元吉』也）。

(54) **率由成則**＝『尙書』微子之命「**率由典常**、以蕃王室。（孔安國傳：循用舊典、無失其常、以蕃屛周室、戒之）。『毛詩』大雅生民之什　假樂「不愆不忘、**率由舊章**（鄭玄箋：循用舊典之文章、謂周公之禮法）」。

(55) **德流異部**＝『文子』卷下「體太一者、明於天地之情、通於道德之倫、聰明照於日月、精神通於萬物、……蜎飛蠕動、莫不依德而生、**德流方外**、**名聲傳乎後世**」。『宋書』卷一一　志序「劉向鴻範、始自春秋、劉歆七略、儒墨**異部**」。［陳］眞諦譯『婆藪槃豆法師傳』「凡是法師所造、文義精妙、有見聞者、靡不信求。故天竺及餘邊土學大小乘人、悉以法師所造爲學本。**異部**及外道論師、聞法師名、莫不畏伏」（大正五〇・一九一上）。

(56) **聲播殊方**＝『魏書』卷五二　宗欽傳「先皇*有大功二十、加以謙尊而光、爲而弗有、可謂四三皇而六五帝矣。誠宜功書於竹素、**聲播**於金石」。＊孝文皇帝。『列子』楊朱篇「至其情所欲好、耳所欲聽、目所欲視、口所欲嘗、雖**殊方偏國**、非齊土之所產育者、無不必致之。猶藩牆之物也」。班固『西都賦』（『文選』卷一）「其中乃有九眞之麟、大宛之馬、黄支之犀、條支之鳥。踰崑崙、越巨海、**殊方異類**、至于三萬里」。『東都賦』「西盪河源、東澹海漘、北動幽崖、南燿朱垠。**殊方別區**、界絕而不鄰」。

(57) **念法界**＝［梁］曼陀羅仙譯『文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經』「佛言。**法界**一相、**繫緣法界**、是名一行三昧」（大正八・七三一上）。智顗『摩訶止觀』卷第二上「意止觀者、端坐正念、蠲除惡覺、捨諸亂想、莫雜思惟、不取相貌、但專**繫緣法界**、**一念法界**。繫緣是止、一念是觀、信一切法皆是佛法」（大正四六・一一上）。

(58) **訓物**＝『晉書』卷三五　裴頠傳「……故大建厥極、綏理群生、**訓物**垂範、於是乎在。斯則聖人爲政之由也」。『隋書』卷七三　梁彥光傳「開皇二年、上幸岐州、悅其能、乃下詔曰『賞以勸善、義兼**訓物**。……』」。

(59) **申命**＝命を重ねる。君子が命令を丁寧にくり返し、着實に實行させること。『周易』巽卦（巽下巽上）「小亨。（王弼注：上下皆巽、不違其令、命乃行也。故**申命**行事之時、上下不可以不巽也。）……彖曰。重巽以**申命**。（王弼注：命乃行也。未有不巽而命行也。）……彖曰。隨風、巽。君子以**申命**行事」。

(60) **斯須**＝『禮記』樂記「君子曰『禮樂不可**斯須**去身。……』」。『禮記』祭義「君子曰『禮樂不可**斯須**去身。（鄭玄注：**斯須**、**猶須臾也**。）……』」。［前秦］曇摩難提譯『增壹阿含經』「是故諸比丘、愚者三相、常當捨離。此三智者所行、**不發***斯須**。如是諸比丘、當作是學」（大正二・六〇八中）。
＊宋・元・明本は「發」を「廢」に作る。

(61) **西河宋景**＝西河は今の山西省の地。『隋書』卷三〇　地理志

中「**西河郡**。統縣六、戸六萬七千三百五十一」。宋景は不詳。以下の資料の前半は本碑に基づくと考えられる。［明］凌迪知『萬姓統譜』卷九二　二宋「（隋）**宋景**（**西河人**。**開皇十一年爲南宮令**、**志懷廉愼**、賢能著稱。百姓歌曰『劉寵一錢、楊震四知、流風餘澤、今在於茲』）。

(62) **輔國將軍**＝『隋書』卷二七　百官志中「散騎常侍、三等中州刺史、……武衞將軍、太子左右衞率、**輔國將軍**、四護校尉、太中大夫、龍驤將軍、三等上郡太守、散縣伯、爲**從第三品**」。『隋書』卷一一　禮儀志六「驃騎、車騎、衞將軍、中軍、冠軍、**輔國將軍**、四方中郎將、金章紫綬、朝服、武冠、佩水蒼玉」。

(63) **內散**＝中散大夫のこと。文帝の父楊忠の名を避け「中」を「內」に改めている。［隋］開皇九年（五八九）田彪墓誌「□□征虜將軍**內散大夫**田君*墓志銘」（『中國書法精粹　新出土墓誌精粹』隋唐卷一二頁）。［隋］仁壽四年（六〇四）符盛暨妻胡氏墓誌「〔符〕君諱盛、字伏興……父靈、冠軍將軍、**內散大夫**。……」（『隋代墓誌銘彙考』第三册一二二頁）。

(64) **復州**＝今の湖北省沔陽縣。『隋書』卷三一　地理志下「沔陽郡（後周置**復州**、大業初改曰沔州。）統縣五、戸四萬一千七百一十四。沔陽（……後周置**復州**、後又省營陽州城二郡入建興。開皇初州移郡廢、仁壽三年復置州。大業初改建興曰沔陽、州廢、復置沔陽郡焉。）、監利、**竟陵**（舊曰霄城、置**竟陵郡**。後周改縣曰**竟陵**。**開皇初置復州**、仁壽三年州復徙建興。……）、甑山、漢陽。

(65) **宜昌・竟陵**＝宜昌は今の湖北省宜都市。『隋書』卷三一　地理志下「南郡（舊置荊州。……）統縣一十、戸五萬八千八百三十六。江陵、長楊、**宜昌**（開皇九年置松州、又省歸化受陵二縣入。十一年州廢、又省宜都縣入。有丹山黃牛山。）、……」。竟陵は今の湖北省天門市。『隋書』卷三一　地理志下「**竟陵郡**（舊置郢州。）統縣八、戸五萬三千三百八十五。長壽（後周置石城郡、開皇初郡廢、大業初置**竟陵郡**。……）、藍水、……」。また、注（64）參照。

(66) **允文允武**＝『毛詩』魯頌　泮水「穆穆魯侯、敬明其德、敬愼威儀、維民之則。**允文允武**、昭假烈祖。（鄭玄箋：則、法也。僖公之行、民之所法效也。**僖公信文矣**、**爲修泮宮也**。**信武矣**、**爲伐淮夷也**。其聰明乃至於美祖之德、謂遵伯禽之法）」。

(67) **稱奇**＝沈約「齊故安陸昭王碑文」（『文選』卷五九）「公少而英明、長而弘潤。……奕思之微、秋儲無以競巧、取睽之妙、流睇未足**稱奇**。（呂延濟注：養由*善射、流睇而猿號也）」。＊弓の名人の養由基。［北魏］永安元年（五二八）元欽墓誌「至於秋臺引月、春帳來風、琴吐新聲、觴流芳味、高談天人之初、清言萬物之際、**雖林下七子**、**不足稱奇**、巖裏四公、曷云能上」（『北圖』第五册一二二頁）。［北齊］武平四年（五七三）高僧護墓誌「父王偏所鐘愛、聖上每見**稱奇**」（『北圖』第八册五四頁）。

(68) **製錦**＝地方の長官となって政治を行うことを喩える。『春秋左氏傳』襄公三十一年「子皮*欲使尹何爲邑。子產曰『少。未知可否。』……（子產曰）**子有美錦**、**不使人學製焉**。大官大邑、身之所庇也。而**使學者製焉**。**其爲美錦**、**不亦多乎**。僑聞學而後入政、未聞以政學者也。若果行此、必有所害。（杜預注：爲邑、大夫。……**製**、**裁也**。言官邑之重、

多於美錦）。＊鄭の罕虎。［北魏］太昌元年（五三二）元馗墓誌「方製錦瓊璣、和羹鼎溢」（『北圖』第五册一七三頁）。

（69）**一同**＝『春秋左氏傳』襄公二十五年「晉人曰『何故侵小』。（子產）對曰『先王之命、唯罪所在、各致其辟。且昔天子之地一圻。（杜預注：方千里。／釋文：圻音祈。）列國一同。（注：方百里。）今大國多數圻矣、若無侵小、何以至焉』」。『淮南子』本經訓「古者天子一畿、諸侯一同。各守其分、不得相侵」。［隋］大業九年（六一三）宋仲墓誌「遂使剖符之牧、委成千里之風、制錦之君、聊寄一同之化」（『北圖』第一〇册九三頁）。

（70）**弦歌**＝『周禮』春官　小師「小師掌敎鼓鼗柷敔塤簫管弦歌。（鄭玄注：……絃、謂琴瑟也。歌、依詠詩也。／賈公彥疏：云『弦、謂琴瑟也。歌、依詠詩也』者、謂工歌詩、依琴瑟而詠之詩。此卽詩傳云『曲合樂曰歌』、亦一也）」。『論語』陽貨「子之武城、聞弦歌之聲。夫子莞爾而笑曰『割雞焉用牛刀』。子游對曰『昔者、偃也聞諸夫子、曰「君子學道則愛人、小人學道則易使也」』。子曰『二三子。偃之言是也。前言戲之耳』。（邢昺疏：此章論治民之道也。……時子游爲武城宰、意欲以禮樂化導於民、故弦歌）」。『莊子』讓王「孔子窮於陳蔡之閒、七日不火食、藜羹不糝、顏色甚憊、而弦歌於室」。

（71）**千室**＝『春秋左氏傳』宣公十五年「秋七月……晉侯賞桓子狄臣千室。（杜預注：千家。）亦賞士伯以瓜衍之縣」。『論語』公冶長「孟武伯問……『求也何如』。子曰『求也、千室之邑、百乘之家、可使爲之宰也。不知其仁也』。（何晏集解：孔曰、千室之邑、卿大夫之邑也。卿大夫稱家。諸侯千乘、卿大夫故曰百乘也。宰、家臣也）」。『後漢書』列傳六六　循吏列傳　童翊傳「贊曰……一夫得情、千室鳴弦。懷我風愛、永載遺賢。（注：一夫謂守長也。千室謂黎庶。言上得化下之情、則其下鳴弦而安樂也）」。

（72）**淸愼**＝『魏書』卷一九　拓跋衍＊傳「衍性淸愼、所在廉潔。又不營產業、歷牧四州、皆有稱績、亡日無斂屍具」。＊平陽王拓跋熙の子。『魏書』卷八五　文苑　邢臧傳「時天下多事、在職少能廉白。臧獨淸愼奉法、吏民愛之」。

（73）**履冰**＝『詩經』小雅　節南山之什　小旻「不敢暴虎、不敢馮河、人知其一、莫知其他。戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰。（毛亨傳：恐陷也）」。『論語』泰伯「曾子有疾、召門弟子曰『啓豫足、啓豫手。詩云「戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰」。而今而後、吾知免夫。小子』」。『淮南子』說林訓「君子之居民上、若以腐索御奔馬、若蹍薄冰、蛟在其下、若入林而遇乳虎」。『漢書』卷七三　韋賢傳「如何我王、不思守保、不惟履冰、以繼祖考。（顏師古注：言、不思念敬愼如履薄冰之義、用繼其祖考之業也）」。

（74）**能官**＝『管子』白心「當生者生、當死者死。言有西有東、各死其鄉、置常立儀、能守貞乎。常事通道、能官人乎。（［明］劉績注：有能守其常事、隨時變通、不違於道、如此者可以官於人）」。『國語』卷一〇　晉語「城濮之役、先且居之佐軍也善。軍伐有賞、善君有賞、能其官有賞。且居有三賞、不可廢也。（韋昭注：能領治其官職、使不謬誤、君得以尊、民得以寧、當有賞也）」。［北魏］孝昌二年（五二六）寇治墓誌「釋褐中散、平憲司直、司府令、加强弩將軍。乃以能官取譽、當時見重」（『北圖』第五册五〇頁）。

(75) **獨絶**＝『注維摩詰經』卷四　菩薩品「無比是菩提無可諭*故。（僧肇注：第一大道、無有兩逕、**獨絶**群方、故以無諭）」（大正三八・三六三中）。＊宗教大學藏本、談山神社藏本は「諭」を「喩」に作る。［北魏］熙平二年（五一七）楊舒墓誌「乃作銘曰、『於鑠使君、淸風**獨絶**。太尉之胤、儀同之裔。……』」（『西安碑林博物館新藏墓誌彙編』上册一二頁）。

(76) **深悟非常**＝「非常」は「無常」に同じ。［南朝宋］竺道生『妙法蓮花經疏』卷下　壽量品第十五「『是時諸子聞父背喪』至『毒病皆愈』。見佛泥洹、**深悟非常**、始知佛語爲美。得旨爲服也」（續藏一・二乙一・二三・四、X五七七）。［梁］寶唱『比丘尼傳』卷三　崇聖寺僧敬尼傳「**深悟無常**、乃欲乘船泛海尋求聖跡、道俗禁閉、留滯嶺南三十餘載」（大正五〇・九四二中）。［南朝宋］求那跋陀羅譯『雜阿含經』卷一「（世尊）『……云何比丘、色爲常耶、爲**非常耶**』。答言『**無常**、世尊』。『若無常者、是苦耶』。答言『是苦、世尊』」（大正二・一五上）。世親造、［唐］玄奘譯『阿毘達磨倶舍論』卷二　分別智品「謂、苦聖諦有四相。一**非常**、二苦、三空、四非我。**待緣故非常**、逼迫性故苦、違我所見故空、違我見故非我」（大正二九・一三七上）。

(77) **情存釋典**＝『魏書』卷六九　裴延儁傳「時世宗、**專心釋典**、不事墳籍。延儁上疏諫曰『……伏願經書互覽、孔釋兼存、則內外倶周、眞俗斯暢』」。［隋］費長房『歷代三寶紀』卷四九　齊梁及周帝代錄「『摩訶般若波羅蜜子注經』五十卷。武帝蕭衍、年三十七卽帝位、在位四十九年。年八十六、帝以庭蔭早傾、常懷哀感。每歎曰『雖有四海之尊、無以得申罔極』。故**留心釋典**、以八部般若是十方三世諸佛之母、能消除災障蕩滌煩勞、故採衆經、窮述注解」（大正四九・九九中）。

(78) **聽訟**＝『論語』顏淵「**聽訟**、吾猶人也。必也使無訟乎」。『禮記』大學「子曰『**聽訟**、吾猶人也。必也使無訟乎』。無情者不得盡其辭、大畏民志。此謂知本」。『後漢書』列傳四　宗室四王三侯　北海靖王劉興傳「興其歲試守緱氏令。爲人有明略、善**聽訟**、甚得名稱。遷弘農太守、亦有善政」。

(79) **福田**＝『雜阿含經』卷一三「若比丘、成就此六常行者、世間難得。所應承事恭敬供養、則爲世間無上**福田**」（大正二・九三中）。『大智度論』卷三〇「好施之人、聲譽流布、八方信樂、無不愛敬、處大衆中、無所畏難、死時無悔。其人自念、**我以財物**、**殖*良福田**、人天中樂涅槃之門、我必得之」（大正二五・二八〇下）。＊宋・元・明本と宮本は「殖」を「植」に作る。

(80) **大梁**＝戰國魏の都。今の河南省開封市。『史記』卷四四　魏世家「（惠王）**三十一年**、秦・趙・齊共伐我、秦將商君詐我將軍公子卬、而襲奪其軍、破之。秦用商君、東地至河、而齊・趙數破我、安邑近秦、於是**徙治大梁**。（［南朝宋］徐廣注：**今浚儀**。／裴駰注：汲冢紀年曰『梁惠成王**九年**四月甲寅、徙都**大梁**』也）」。

(81) **齊相**＝南宮丞。本碑に見える情報以外は不詳。『民國南宮縣志』卷一三　文獻志　職官篇　宦績列傳「隋宋景……又**齊相**、**大梁人爲南宮丞**。**張服**、**博陵人爲南宮尉**。**張標**、**河間人爲南宮尉**。隋開皇間、與宋景同仕、碑稱『倶以明哲、來贊專城、淸勤自處、譽宣鄰邑』。此据錄邢志」。

(82) **博陵**＝『魏書』卷一〇六上　地形志二上第五「**博陵郡**（漢桓帝置。）領縣四戶二萬七千八百一十二、口一十三萬五千七十。饒陽（前漢屬涿、後漢屬安平、晉屬。有魯口城・博陵城・三良神・饒陽城）、安平（前漢屬涿、後漢屬安平、晉屬。治安平城。有樓・女貴人神）、深澤（前漢屬涿、後漢屬安平、晉屬。二漢・晉曰南深澤、後改。有女蝸神祠）、安國（二漢屬中山、晉屬。眞君七年倂深澤、景明二年復。有鹽石淵・安國城）」。

(83) **張服**＝南宮尉。本碑に見える情報以外は不詳。注（81）參照。

(84) **河間**＝今の河北省滄州市。『隋書』卷三〇　地理志中「**河間郡**（舊置瀛州。）統縣十三、戶十七萬三千八百八十三。**河間**（舊置**河間郡**、開皇初郡廢。大業初復置郡、倂武垣縣入焉）」。

(85) **張標**＝南宮尉。本碑に見える情報以外は不詳。注（81）參照。

(86) **明哲**＝『尙書』商書　說命上「群臣咸諫于王曰『嗚呼、知之曰**明哲**、**明哲**實作則。（孔安國傳：知事則爲明智、明智則能制作法則。）……』」。『毛詩』大雅　烝民「**既明且哲**、以保其身。夙夜匪解、以事一人。（孔穎達疏：既能明曉善惡、且又是非辨知、以此**明哲**擇安去危、而保全其身、不有禍敗）」。

(87) **專城**＝地方の長官を指す。『論衡』辨崇「天下千獄、獄中萬囚、其舉事、未必觸忌諱也。居位食祿、**專城長邑**、以千萬數、其遷徙日、未必逢吉時也」。『宋書』卷二一　樂志三　豔歌羅敷行「東方千餘騎、夫壻居上頭。……十五府小史、二十朝大夫、三十侍中郎、**四十專城居**」。

(88) **清懃**＝[北魏]建義元年（五二八）元歆墓誌「以君在朝**清懃**、公顯纍著、前贈未盡、復加征東大將散騎常侍、備玆禮物」（『北圖』第五册一〇三頁）。『宋書』卷九二　良吏列傳江秉之傳「元嘉初、太祖遣大使巡行四方、兼散騎常侍孔默之・王歆之等上言『宣威將軍、陳南頓二郡太守李元德、**清勤**均平、姦盜止息。……』」。

(89) **自處**＝『史記』卷八七　李斯列傳「李斯者、楚上蔡人也。年少時、爲郡小吏、見吏舍廁中鼠食不絜、近人犬、數驚恐之。斯入倉、觀倉中鼠、食積粟、居大廡之下、不見人犬之憂。於是李斯乃歎曰『人之賢不肖、譬如鼠矣、在所**自處**耳。……』」。[東魏]天平三年（五三六）王僧墓誌「祖清、少履庠門、**以清貞自處**、洪鑒雅粹、不以世事逕懷」（『北圖』第六册三五頁）。『宋書』卷六九　劉湛傳「義眞曰『旦甚寒、一盌酒亦何傷。長史事同一家、望不爲異』。酒既至、湛因起曰『既不能**以禮自處**、又不能以禮處人』」。

(90) **迴向之心**＝迴向は功德を他の衆生にふり向けること。[後秦]鳩摩羅什譯『妙法蓮華經』卷一　序品「或有行施、金銀珊瑚、眞珠摩尼、車𤦲馬腦、金剛諸珍、奴婢車乘、寶飾輦輿、歡喜布施、**迴向**佛道」（大正九・三上）。[北魏]菩提流支譯『法集經』卷二「復次善男子。菩薩摩訶薩、於十種捨心、皆不共住。……捨於**三聚迴向之心**、亦不共住」（大正一七・六一七中）。

(91) **眞淨之路**＝『大智度論』卷四三「佛此中自說『……是起作法、皆是虛誑。離如是相、名畢竟淸淨』。舍利弗問佛『菩薩能如是行畢竟**眞淨道**、爲學何法、爲得何法』。佛答『能如是學、爲無所學無所得』」（大正二五・三七四下）。

(92) **心意**＝『周易』明夷（離下坤上）「六四、入于左腹、獲明夷之心。于出門庭。象曰、入於左腹、獲**心意**也。（王弼注：左者、取其順也。入於左腹、得其**心意**、故雖近不危）」。

(93) **精實**＝[三國吳]韋曜『國語解』敘「切不自料、復爲之解。

因賈君*之**精實**、採虞唐之信善、亦以所覺增潤補綴」。＊賈逵。

(94) **不行自遠**＝『周易』繫辭上傳「夫易、聖人之所以極深而研幾也。唯深也、故能通天下之志。唯幾也、故能成天下之務。唯神也、故不疾而速、**不行而至**。（孔穎達疏：以无思无、爲寂然不動、感而遂通。故不須急疾、而事速成、**不須行動**、**而理自至也**）」。［隋］智顗『仁王護國般若經疏』卷五　菩薩教化品之餘「初、明菩薩**不行而行不思議**」（大正三三・二七七下）。［唐］王懸河『三洞珠囊』卷四　絕粒品「『吐納經』云『絕穀不食、元神之道也。……九日之時、精神備形、弱者彊神、氣日堅固、**不行自遠**、不來自近、顏色日悅。……』」。

(95) **明敕**＝『漢書』卷一二　平帝紀「其**明敕**百寮、婦女非身犯法、及男子年八十以上七歲以下、家非坐不道、詔所名捕、它皆無得繫」。『後漢書』孝和孝殤帝紀「選舉良才、爲政之本。科別行能、必由鄉曲。而郡國舉吏、不加簡擇、故**先帝明敕**在所、令試之以職、乃得充選」。

(96) **宿誠**＝『宋書』卷五三　庾炳之傳「太祖*乃可有司之奏、免炳之官。是歲、元嘉二十五年（四四八）也。二十七年、卒於家。時年六十三。太祖錄其**宿誠**、追復本官」。＊文帝。『宋書』卷八四　鄧琬傳「今可擢爲給事黃門侍郎、以旌胤之*宿誠」。＊鄧胤之（琬の父）。『舊唐書』卷一四二　王武俊傳「六月、李抱眞使辯客賈林詐降武俊。林至武俊壁曰『是來傳詔、非降也』。武俊色動、徵其說、林曰『天子知大夫**宿誠**、及登壇建國之日、撫膺顧左右曰〈我本忠義、天子不省〉。……』」。

(97) **形勝之所**＝『荀子』彊國「應侯問孫卿子曰『入秦何見』。孫卿子曰『其固塞險、形埶便、山林川谷美、天材之利多、是**形勝也**』。（［唐］楊倞注：形、地。**形便而物產多**、**所以爲勝**。故曰、如高屋之上、而建瓴水也）」。『史記』卷八　高祖紀「秦、**形勝之國**、……地埶便利、其以下兵於諸侯、譬猶居高屋之上建瓴水也」。また、【概要】（三）『辯正論』、注(115)『洛陽伽藍記』卷三參照。

(98) **崇構**＝［北魏］永平四年（五一一）元悅墓誌「王諱悅、字慶安、河南洛陽人也。大宗明元皇帝之玄孫。……方隆**崇構**、剋廣鴻烈、晦明弗殊、倚伏同轍」（『北圖』第三冊一四五頁）。『魏書』卷四一　源子恭傳「子恭上書曰『［明堂］……爽塏荒茫、淹積年載、結架**崇構**、指就無兆。……』」。

(99) **縣宦**＝縣官に同じ。縣の役人・役所。『漢書』卷二四　食貨志四下「諸取衆物鳥獸魚鱉百蟲於山林水澤及畜牧者……皆各自占所爲於其在所之**縣官**、除其本、計其利、十一分之、而以其一爲貢」。

(100) **七職**＝地方行政區における屬官の總稱。ここでは「縣正」「主簿」等の縣の屬官を指すと考えられる。『南史』卷七七　恩倖列傳　呂文顯傳「故事、府州部內論事、皆籤前直敘所論之事。後云謹籤、日月下又云某官某籤、故府州置典籤以典之。本五品吏、宋初改爲**七職**」。［唐］盧照鄰「益州至眞觀主黎君碑」（『文苑英華』卷八四九）「觀主三洞法師、姓黎諱某、廣漢雒人也。……北齊時練山爲益州刺史、故子孫因家於蜀、法師練山之六代孫也。祖宗父泉、竝爲**州郡都・主簿・平正***、**七職之任**」。＊汪征魯は「平正」を「郡正」のことと考える。（汪征魯「典簽、五品吏、七

職考論」『首都師範大學學報［社會科學版］』二〇一八年第五期參照)。『隋書』卷二八 百官志下「雍州、置牧。屬官有別駕、贊務、**州都**、**郡正**、**主簿**、錄事、西曹書佐、金・戶・兵・法・士等曹從事、部郡從事、武猛從事等員。幷佐史、合五百二十四人。……**郡**、置太守、丞、尉、**正**、光初功曹、**光初主簿**、**縣正**、功曹、**主簿**、西曹、金・戶・兵・法・士等曹、市令等員。幷佐史、合一百四十六人。……**縣**、置令、丞、尉、**正**、光初功曹、**光初主簿**、功曹、**主簿**、西曹、金・戶・兵・法・士等曹佐、及市令等員。合九十九人」。

(101) **鄉正**＝鄉村の役人。隋代は五百戶を司り民間の訴訟を審理した。本碑が建立される前年の開皇一〇年（五九〇）に鄉正の制度は廢止したとされるが、徹底されていなかったようである。（雷聞「隋唐的鄉官與老人――從大谷文書四〇二六《唐西州老人、鄉官名簿》說起」『唐研究』二〇一六年第二二期參照)。『春秋左氏傳』襄公九年「二師、令四**鄉正**敬享。（杜預注：**鄉正**、**鄉大夫**)」。『隋書』卷四二 李德林傳「開皇元年、敕令與太尉任國公于翼・高熲等同修律令。……威又奏置**五百家鄉正**、卽令理民閒辭訟。德林以爲本廢鄉官判事、爲其里閭親戚、剖斷不平、今令**鄉正**專治五百家、恐爲害更甚。……十年、虞慶則等於關東諸道巡省使還、竝奏云『**五百家鄉正**、專理辭訟、不便於民。黨與愛憎、公行貨賄』上仍令廢之」。

(102) **營助**＝［後秦］鳩摩羅什譯『集一切福德三昧經』卷中「爾時佛告淨威力士『善男子、云何菩薩摩訶薩淨戒莊嚴。……不見他過、不作衆惡、不願諸有、亦不喜樂、勸他修善、勸**營助**他、不悕望樂、勸人布施……』」。『魏書』卷九〇 逸士 馮亮傳「馮亮、字靈通、南陽人。蕭衍平北將軍蔡道恭之甥也。少博覽諸書、又篤好佛理。……初、亮以盛冬喪。……焚燎之日、有素霧蓊鬱、迴繞其傍、自地屬天、彌朝不絕。山中道俗**營助**者百餘人、莫不異焉」。

(103) **寺主道辯**＝道辯については不詳。「寺主」は寺院を管理する「三綱（寺主・上座・［都］維那)」の一つ。［北魏］永熙三年（五三四）昭玄沙門大統僧令法師墓誌「武明之世、禮遇彌隆、乃以法師爲嵩高閑居**寺主**。……雖跡出塵中、而尙羈世網、尋被徵爲沙門**都維那**」（『鴛鴦七誌齋藏石』一三六頁、『漢魏南北朝墓誌彙編』三一一頁)。［唐］義淨『大唐西域求法高僧傳』卷上 慧輪師「（那爛陀寺）寺內但**以最老上座而爲尊主**。不論其德、諸有門鑰、每宵封印、將付**上座**。更無別置**寺主・維那**。但**造寺之人**、**名爲寺主**。梵云毘訶羅莎弭。若作番直、典掌寺門、及和僧白事者、名毘訶羅波羅、譯爲護寺。若鳴楗*稚及監食者、名爲羯磨陀那、譯爲**授事**。言**維那**者略也」（大正五一・五下)。＊宋・元・明本と宮本に依り「健」を「楗」に改む。［北宋］贊寧『大宋僧史略』卷中 三五雜任職員「寺之設也、**三綱**立焉。若網罟之巨綱、提之則正、故云也。梵語**摩摩帝**・**悉替那**・**羯磨那陀**。華言、言**寺主**・**上座**・**悅衆***也。詳**其寺主**、**起乎東漢白馬**也。寺旣爰處、人必主之。于時雖無**寺主**之名、而有知事之者。**至東晉以來**、**此職方盛**。故侯景言『以蕭衍老翁、作**太平寺主也**』。後周則有**陟岵寺主**、自敕封署。隋有**大興善寺主**。……」（大正五四・二四四下)。*悅衆は維那に同じ。

(104) **等覺法紬**＝『山左碑目』巻四に「北齊比邱尼法紬造像記。武平四年（五七三）。石高四寸寬二尺餘、字徑七分、正書、共十七行。在府財神閣下」（『石刻史料新編』第二輯）とあり、青州（現在の山東省）に「法紬」という比丘尼の造像碑があったよう。ただし、ここの法紬がこの人であるかは不詳。「等覺」は「佛と等しい悟りを得た者」という意味。「平等覺」とも。別案として、「法紬」を人名ではなく「法を繼ぐ」と解して「等覺」と共に前の「寺主道辯」に掛けるという意見があった。［梁］寶唱等『經律異相』巻一　序「皇帝*同**契等覺**、比德遍知。大弘經教、竝利法俗。廣延博古、旁採遺文」（大正五三・一上）。＊武帝蕭衍。

(105) **上坐智最・緩稱**＝智最および緩稱については不詳。「上坐」は「上座」に同じ。「三綱」のひとつ。［北宋］贊寧『大宋僧史略』巻中　三五　雜任職員「夫**上座者**、**有三種焉**。集異足毘曇云『**一生年爲耆年**。**二世俗財名與貴族**、**三先受戒及先證果**』。古今立此位、皆取其年德、幹局者充之。高僧傳多云『被敕爲某寺上座』是也。道宣敕爲**西明寺上座**、**列寺主・維那之上**」（大正五四・二四四下）。玄奘譯『阿毘達磨集異門足論』巻四　三法品「**三上座**者、謂**生年上座・世俗上座・法性上座**。云何**生年上座**。答、諸有生年尊長耆舊、是謂生年上座。云何**世俗上座**。答、……諸有知法大財・大位・大族・大力・大眷屬・大徒衆、勝我等者、我等皆應推爲上座。……云何**法性上座**。答、諸受具戒耆舊長宿、是謂法性上座」（大正二六・三八〇中）。上座が二名いる用例については、［北齊］天保三年（五五二）宋顯伯造像碑碑陰「邑師父法略、廣福寺主僧寶、**上座比丘尼惠藏**、**上座比丘尼僧津**、比丘尼惠姜、比丘尼僧贊……」（『河南佛教石刻造像』一八八頁）などがある。

(106) **戒操**＝「操」は持すること。戒を持すること。『高僧傳』巻三　譯經下　釋智嚴傳「於是、步歸至罽賓、無疾而化。時年七十八。彼國法、凡聖燒身各處。嚴雖**戒操高明**、而實行未辨*。始移屍、向凡僧墓地、而屍重不起。改向聖墓、則飄然自輕」（大正五〇・三三九下）。＊宋・元・明本と宮本に從い「辨」を「辦」に改む。『續高僧傳』巻二〇　習禪六　釋無礙傳「天和三年（五六八）、周武皇后*入朝、投名出家、先蒙得度。雖有弱冠、**戒操逾嚴**」（大正五〇・五九九中）。＊阿史那皇后。

(107) **端嚴**＝［後漢］應劭『風俗通義』十反　宗正南陽劉祖「太守公孫慶當祠章陵、舊俗常以衣冠子孫、容止**端嚴**、學問通覽、任顧問者以爲御史」。［唐］文軌『天請問經疏』「經曰。世尊告曰『少欲最安樂、知足大富貴、**持戒恒端嚴**、破戒常醜陋』。述曰。……持戒之人、尸羅*清淨、近得人天、可喜妙相、遠得三乘、**端嚴法身**。故言『持戒恒端嚴』也」（大正八五・五六二下）。＊「尸羅」は戒のこと。

(108) **音儀**＝［北周］建德元年（五七二）匹婁歡墓誌「夫人文城縣君尉遲氏、武威人。世傳令德、家擅清徽、性識柔明、**音儀**昭著」（『北圖』第八冊一六〇頁）。『續高僧傳』巻九　義解篇　慧暅傳「凡講『成實』玄義六十三遍、論文十五遍、『涅槃』・『大品』各二十餘遍。五十許年、法事相接、自餘衆部、略而不載。……弟子智瑜等、以**音儀**永謝、餘論將空、非彼豐碑、無陳聲實、乃勒銘于寺中」（大正五〇・

四九四下）。

(109) **匪忒**＝「不忒」に同じ。疑いないこと、違わないこと、一致すること。『毛詩』國風　曹風鳲鳩「鳲鳩在桑、其子在棘。淑人君子、其儀不忒。其儀不忒、正是四國。（毛亨傳：忒、疑也。／鄭玄箋：執義不疑、則可爲四國之長）」。『毛詩』魯頌　閟宮「春秋匪解、享祀不忒。（鄭玄箋：春秋、猶言四時也。忒、變也）」。『周易』豫卦（坤下震上）「彖曰、……天地以順動、故日月不過而四時不忒*」。＊觀卦彖傳にもあり。

(110) **業行**＝［東魏］瞿曇般若流支譯『正法念處經』卷四六　觀天品「謂見有人修身口意善業行者、見已則念。如是之人、決定生天。若見有天惡業行者、見已則念。如是天者、必墮地獄」（大正一七・二七五中）。王巾「頭陀寺碑文」（『文選』卷五九）「法師釋曇珍、業行淳脩、理懷淵遠。今屈知寺任、永奉神居」。

(111) **聿脩**＝「聿脩」の「聿」は毛亨は「述べる」と解するが、ここでは發語の辭と取る。『毛詩』大雅　文王「無念爾祖、聿修厥德。（毛亨傳：聿、述。／鄭玄箋：王既述修祖德、常言當配天命而行、則福祿自來。／朱熹集傳：聿、發語辭）」。［隋］開皇元年（五八一）王軌暨妻馮氏墓誌「夫人□□馮氏、挺質蘭房、增華桂苑。四德聿脩、六行爰備」（『隋代墓誌銘彙考』第一册九〇頁）。

(112) **經始、不日而就**＝「經始」は建築のため測量を始めること。「不日」については、毛亨は「期日を設けないこと」とするが、ここでは「あっという間に」と解する。『毛詩』大雅　文王之什　靈臺「經始靈臺、經之營之。庶民攻之、不日成之。（毛亨傳：神之精明者、稱靈。四方而高、曰臺。經、度之也。攻、作也。不日有成也。／鄭玄箋：文王應天命、度始靈臺之基趾、營表其位。衆民則築作、不設期日而成之。言說文王之德、勸其事、忘己勞也。／朱熹集傳：不日、不終日也）」。『北齊書』卷三七　魏收傳「侯景叛入梁、寇南境、文襄時在晉陽、令收爲檄五十餘紙、不日而就」。『續高僧傳』卷二〇　習禪　曇獻傳「彫造未畢、而昌*遷逝。族人百數、仰慨尊容、以爲法儀。雖歿、神足猶在。祈請續功便從來意。遂移仁壽、而經營之、故得棟宇高華、不日而就」。＊曇獻の師、昌律師。

(113) **勢**＝建物の様式。［陳］徐陵「奉和山池詩」（『藝文類聚』卷九）「不覺因風雨、何時入後池、樓臺非一勢、臨翫自多奇」。

(114) **弘麗**＝『漢書』卷八七　揚雄傳「先是時、蜀有司馬相如。作賦甚弘麗溫雅、雄心壯之、每作賦、常擬之以爲式」。嵇康「琴賦」（『文選』卷一八）「嗟姣妙以弘麗、何變態之無窮。（呂延濟注：姣好弘大麗美也。變態、謂變聲也」。）［東魏］楊衒之『洛陽伽藍記』卷一「建中寺。普泰元年（五三一）尙書令樂平王爾朱世隆所立也。……堂比宣光殿、門匹乾明門。博敞弘麗、諸王莫及也」（大正五一・一〇〇二中）。

(115) **爽塏**＝『春秋左氏傳』昭公三年「景公欲更晏子之宅、曰『子之宅近市、湫隘囂塵、不可以居。請更諸爽塏者』。（杜預注：爽、明。塏、燥。／孔穎達疏：塏、高地、故爲燥也。以所居下濕塵埃、故欲更於明燥之處）」。又『晏子春秋』內篇雜下にもあり。左思「蜀都賦」（『文選』卷四）「營新宮於爽塏、擬承明而起廬。……金鋪交映、玉題相暉。外則軌躅八達、里閈對出。比屋連甍、千廡萬室。（劉良注：甍、

棟也。**大屋曰廡**。皆言**閻閻相次**也）」。『洛陽伽藍記』卷三「景明寺。宣武皇帝所立也。景明年中（五〇〇～五〇三）立、因以爲名。……前望嵩山少室、却負帝城。青林垂影、綠水爲文。**形勝之地**、**爽塏**獨美」（大正五一・一〇一〇上）。

(116) **房廡**＝左思「魏都賦」（『文選』卷六）「營客館以周坊、餝賓侶之所集。瑋豐樓之閈閎、起建安而首立。葺牆冪室、**房廡雜襲**。剞劂罔掇、匠斲積習。（李善注：說文曰『廡、**堂下周屋也**』。／李周翰注：廡、**簷也**。言**房簷雜錯**、**以相掩習**）。『洛陽伽藍記』卷一「景林寺。在開陽門內御道東。講殿疊起、**房廡連屬**、丹檻炫日、繡桷迎風。實爲勝地」（大正五一・一〇〇四上）。同、卷四「永明寺。宣武皇帝所立也。在大覺寺東。時佛法經像、盛於洛陽。異國沙門、咸來輻輳、**負錫持經**、適茲藥*1**土**。世宗*2故立此寺以憩之、**房廡連亘**、一千餘閒」（大正五一・一〇一七中）。＊1甲・丁本は「藥」を「樂」に作り、乙・戊・己本は「洛」に作る。＊2宣武帝元恪の廟號。

(117) **交暎**＝注（115）左思「蜀都賦」參照。陸機「贈馮文羆遷斥丘令」（『文選』卷二四）「出自幽谷、及爾同林。雙情**交映**、遺物識**心**。（李善注：**映**、**猶照也**。／張銑注：**交映**、**謂相明也**）」。『洛陽伽藍記』卷二「正始寺。……簷宇精淨、美於叢林。衆僧房前、高林對牖、青松綠檉、連枝**交映**」（大正五一・一〇〇七上）。

(118) **連甍**＝注（115）左思「蜀都賦」參照。『洛陽伽藍記』卷二「修梵寺。在淸陽門內御道北。嵩明寺、復在修梵寺西。竝雕牆峻宇、**比屋連甍**。亦是名寺也」（大正五一・一〇〇四上）。

(119) **比屋**＝注（115）左思「蜀都賦」、注（118）『洛陽伽藍記』卷二參照。同、卷二「別有準財金肆二里、富人在焉。凡此十里、多諸工商貨殖之民。**千金比屋**、層樓對出。重門啓扇、閣道交通」（大正五一・一〇一六上）。

(120) **霞舒**＝「霞」は朝焼けや夕焼けの時に現れる彩雲。「霞舒」はそれが廣がっていく樣子。［東晉］褚爽「禊賦」（『藝文類聚』卷四）「川廻瀾以澄映、嶺插嵦以霏烟。**輕霞舒於翠崖**、白雲映乎青天」。［隋］大業九年（六一三）徐純曁妻王氏墓誌「篤志儒林、拘深泉涌、留襟文苑、絢藻**霞舒**。以秀才升第、調國子學生、頻遷兼著作」（『隋代墓誌銘彙考』第四册三九七頁）。

(121) **寶鐸**＝佛寺の堂や寶塔の軒下に掛ける鐘。風鐸・簷鐸に同じ。『洛陽伽藍記』卷一「永寧寺。……時有西域沙門菩提達磨者。波斯國胡人也。起自荒裔、來遊中土。見金盤炫日、光照雲表。**寶鐸含風**、響出天外。歌詠讚歎、實是神功」（大正五一・一〇〇〇中）。同卷五「塔內物事、悉是金玉。千變萬化、難得而稱。旭日始開、則金盤晃朗。**微風**漸發、則**寶鐸**和鳴」（大正五一・一〇二一中）。

(122) **雕梁照日**＝［南齊］謝眺「陽春曲」（『謝宣城詩集』卷二）「青雲猷初歲、**白日映雕梁**、蘭萌猶自短、菰菜禾能長」。『洛陽伽藍記』卷一「永寧寺。……僧房樓觀、一千餘閒。**雕梁**粉壁、青繅綺疏、難得而言」（大正五一・一〇〇〇上）。同卷三「高陽王寺。高陽王雍之宅也。……僮僕六千、妓女五百。隋*珠**照日**、羅衣**從風**。自漢晉以來、諸王豪侈、未之有也」（大正五一・一〇一三上）。＊諸本は「隋」を「隨」に作る。江總「雜曲」（『樂府詩集』卷七七）「殿內一處起金

房、併勝餘人白玉堂。珊瑚挂鏡臨網戶、芙蓉作帳照雕梁」。

(123) **飾畫**＝［西晉］竺法護譯『普曜經』卷八　十八變品「吾往迎佛、導從威儀法轉輪王。平治道路、掃除令淨。香汁灑地、懸繒幡綵。竪其幢蓋、周遍國内。其所修治光飾畫宜」（大正三・五三五下）。

(124) **丹靑**＝『周禮』秋官司寇　職金「掌凡金玉錫石丹靑之戒令。受其入征者、辨其物之媺惡與其數量、楬而璽之。入其金錫于爲兵器之府、入其玉石丹靑于守藏之府、入其要」。『洛陽伽藍記』卷四「法雲寺。……是以道俗貴賤、同歸仰之、作祇洹寺一所。工制甚精、佛殿僧房、皆爲胡飾。丹素*炫彩、金玉垂輝。摹寫眞容、似丈六之見鹿苑」（大正五一・一〇一五上）。＊甲・丁本は「素」を「靑」に作る。『續高僧傳』卷二一　明律下　智首傳「於出家受戒二所、雙建兩塔。鎣以珠寶、飾以丹靑、爲列代之儀表」（大正五〇・六一四下）。

(125) **相好**＝佛の特異な身體的特徵。三十二相八十隨形好（八十種好）。『大智度論』卷二九「問曰『若須八十隨形好、何不皆名爲相、而別爲好』。答曰『相大嚴身。若說大者、則已攝小。復次、相麁而好細。……以是故相好別說』」（大正二五・二七四下）。［三國吳］康僧會譯『六度集經』卷七　禪度無極章「上方佛來、飛在其前。身色紫金、相好絕聖。面若滿月、項有日光。諸天翼從、寶帳華蓋。作樂散華、叉手垂首」（大正三・四三中）。

(126) **宿德**＝『後漢書』列傳四　宗室四王三侯　劉興傳「中興初、禁網尙闊、而睦*性謙恭好士、千里交結、自名儒宿德、莫不造門。由是聲價益廣」。＊劉興の子、劉睦。『後漢書』列傳三三　朱穆傳「自此以來、權傾人主、窮困天下。宜皆罷遣、博選耆儒宿德、與參政事」。［三國吳］支謙譯『撰集百緣經』卷一〇　諸緣品　長爪*梵志緣「時舍利弗、聞是語已、輒昇論士高座而坐其上。時諸宿德耆舊梵志、一切時衆、無不驚怪」（大正四・二五五中）。＊宋・元・明本により「瓜」を「爪」に改む。

(127) **律藏**＝比丘・比丘尼が持する敎團規則の集成、三藏のひとつ。［東晉］法顯『法顯傳』「法顯昔在長安、慨律藏殘缺、於是遂以弘始二年（四〇〇）歲在己亥、與慧景・道整・慧應・慧嵬等、同契至天竺、尋求戒律」（大正五一・八五七上）。

(128) **負錫**＝（一一六）『洛陽伽藍記』卷四參照。『洛陽伽藍記』卷三「景明寺。……至八月節、以次入宣陽門、向閶闔宮前、受皇帝散花。……梵樂法音、聒動天地、百戲騰驤、所在駢比。名僧德衆、負錫爲群、信徒法侶、持花成藪」（大正五一・一〇一〇中）。

(129) **樂土**＝『毛詩』國風　魏風　碩鼠「逝將去女、適彼樂土。樂土樂土、爰得我所。（鄭玄箋：樂土、有德之國）」。『後漢書』列傳二一　杜詩傳「今若使公卿郡守出於軍壘、則將帥自厲、士卒之復、比於宿衞、則戎士自百。何者。天下已安、各重性命、大臣以下、咸懷樂土、不讎其功而厲其用、無以勸也」。注（116）『洛陽伽藍記』卷四參照。

(130) **靈應**＝『漢書』卷八一　匡衡傳「道德之行、由内及外、自近者始、然後民知所法、遷善日進而不自知。是以百姓安、陰陽和、神靈應、而嘉祥見。詩曰『商邑翼翼、四方之極。

壽考且寧、以保我後生』」。『後漢書』光武帝紀「（中元元年〔五六〕）**地祇靈應**、而朱草萌生。孝宣帝*、每有嘉瑞、輒以改元、神爵・五鳳・甘露・黃龍、列爲年紀、蓋以感致神祇、表彰德信」。*前漢宣帝劉詢。沈約「瑞石像銘*幷序」（『廣弘明集』卷一六）「夫**靈應微遠**、**無迹可追**。心路照通、有感斯順。我皇體神御極、挹睿臨乾、幽顯成帙、無思不服」（大正五二・二一一下）。

(131) **無迹可尋**＝注（130）沈約「瑞石像銘幷序」參照。『莊子』繕性「古之所謂隱士者、非伏其身而弗見也。非閉其言而不出也。非藏其知而不發也。時命大謬也。當時命而大行乎天下、則反一**無迹**。（郭象注：反任物性而物性自一、故**無迹**）」。沈約「善館碑」（『藝文類聚』卷七八）「**至道玄妙**、**無跡可尋**。寄言立稱、已乖宗極」。

(132) **言由事發**＝『毛詩』大序「詩者、志之所之也。在心爲志、**發言**爲詩」。

(133) **探賾索隱**＝『周易』繫辭上傳「通變之謂**事**、陰陽不測之謂**神**。……聖人有以見**天下之賾**、而擬諸其形容、象其物宜。是故謂之象。……言**天下之至賾**、而不可惡也。……**探賾索隱**、鉤深致遠、以定天下之吉凶、成天下之亹亹者、莫大乎著龜。……是故、形而上者謂之**道**、形而下者謂之**器**。……夫象、聖人有以見**天下之賾**、而擬諸其形容、象其物宜。是故謂之象。聖人有以見天下之動、而觀其會通、以行其典禮、繫辭焉、以斷其吉凶。是故謂之爻。極**天下之賾**者、存乎卦。鼓天下之動者、存乎辭」。

(134) **顯法於將來**＝〔前漢〕揚雄「長楊賦」（『文選』卷九）「方將俟元符、以禪梁父之基、增泰山之高、**延光于將來**、比榮乎往號。（李善注：張晏曰『往號、三五也』。李軌『法言』注曰『五帝三王、**延光至今不絕也**』）」。〔東晉〕郗超「奉法要」（『弘明集』卷一三）「四過者、上之所謂兩舌・惡口・妄言・綺語也。夫彼以惡來、我以善應。苟心非木石、理無不感。但患處之不恒、弘之不積耳。苟能每事思忍、則悔悋消於見世、**福報顯於將來**」（大正五二・八七下）。

(135) **幽贊神明**＝『周易』說卦傳「昔者聖人之作易也、**幽贊於神明**而生著、參天兩地而倚數、觀變於陰陽而立卦、發揮於剛柔而生爻、和順於道德而理於義、窮理盡性以至於命。（韓康伯注：**幽**、**深也**。**贊**、**明也**。著、受命如嚮、不知所以然而然也）」。

(136) **了達**＝『大方廣佛華嚴經』卷二五　十地品「**了達**於三界但從貪心有、知十二因緣在於一心中」（大正九・五六〇上）。〔隋〕大業七年（六一一）元鍾墓誌「尋以謝患歸養、但君**了達苦空**、妙閑生滅、勤修三業、專精十善。歸依之情、老而彌篤」（『北圖』第一〇册五二頁）。

(137) **未悟**＝無著造、眞諦譯『攝大乘論』慧愷序「法師既博綜墳籍、妙達幽微。每欲振玄宗於他域、**啓法門於未悟**。以身許道、無憚遠遊、跨萬里猶比隣、越四海如咫尺」（大正三一・一一二下）。

(138) **立德**＝『春秋左氏傳』襄公二四年「豹*聞之『大上有**立德**、其次有立功、其次有立言』。雖久不廢、此之謂不朽。（杜預注：**黃帝堯舜**。／孔穎達疏：**立德**、**謂創制垂法**、**博施濟衆**）」。

*叔孫豹。

(139) **著述**＝『漢書』卷一〇〇　敘傳上「（班固）永平中爲郎、典校祕書、專篤志於博學、以**著述**爲業」。『三國志』卷二一　魏

書　文帝紀「初、帝好文學、以著述爲務、自所勒成垂百篇。又使諸儒撰集經傳、隨類相從、凡千餘篇、號曰皇覽。（裴松之注：『魏書』曰『帝初在東宮、疫癘大起、時人彫傷。帝深感歎、與素所敬者大理王朗書曰〈生有七尺之形、死唯一棺之土。唯立德揚名、可以不朽、其次莫如著篇籍。……〉。……』）」。

(140) **盛業**＝『周易』繫辭上傳「顯諸仁、藏諸用、鼓萬物而不與聖人同憂、**盛德大業至矣哉**。富有之謂大業、日新之謂盛德。（韓康伯注：夫物之所以通、事之所以理、莫不由乎道也。聖人功用之母、體同乎道、**盛德大業**、所以能至）」。劉孝標「辨命論」（『文選』卷五四）「而商臣之惡、**盛業**光於後嗣、仲由之善、不能息其結纓。斯則邪正由於人、吉凶在乎命。（李善注：楚之後業、皆商臣之子孫。『周易』曰『**盛德大業**、至矣哉』）」。

(141) **大功**＝『尚書』大誥「敷前人受命、茲不忘**大功**。（孔安國傳：**在此不忘大功**、**言任重**）」。

(142) **剋構**＝『三國志』卷五八　吳書　陸遜傳「評曰。……及遜忠誠懇至、憂國亡身、庶幾社稷之臣矣。抗*貞亮籌幹、咸有父風、奕世載美、具體而微、可謂**克構**者哉」。＊陸遜の子の陸抗。［晉］陸雲「答兄平原詩」「令問伊何、休音允臧。先公**克構**、乃崇斯堂」。［北魏］永安二年（五二九）邢巒妻元純陁墓誌「故以敎侔在識、言若斷機。用令此子、成名**剋構**」（『北圖』第五冊一二六頁）。

(143) **徽猷**＝『詩』小雅　魚藻之什　角弓「君子有**徽猷**、小人與屬。（毛亨傳：徽、美也。／鄭玄箋：猷、道也。君子有美道、以得聲譽、則小人亦樂與之、而自連屬焉。今無良之人相怨王不敎之）」。［北魏］太昌元年（五三二）元延明墓誌「嵗聿其暮、幽泉方啓、**敬勒徽猷**、永貽蘭菊」（『北圖』第五冊一六六頁）。

(144) **來葉**＝陸機「文賦」（『文選』卷一七）「伊茲文之爲用、固衆理之所因。恢萬里而無閡、通億載而爲津。俯貽則於**來葉**、仰觀象乎古人。（李善注：『尚書』曰「**豫恐來世**」。又曰「豫欲觀古人之象」）」。『高僧傳』卷一一　習禪　釋僧璩傳「時有沙門僧定、自稱得不還果。……定既虛誑事暴、卽日明擯、璩仍著誡衆論、以**示來業***」（大正五〇・四〇一中）。

＊宋・元・明本と宮本は「業」を「葉」に作る。

(145) **他山**＝もとは「異國の石」から異國に埋もれる賢人を指したが、ここでは石碑に銘文を刻む際の定型句として單に石を表す。『毛詩』小雅　鴻雁之什　鶴鳴「樂彼之園、爰有樹檀、其下維蘀。**它山之石**、**可以爲錯**。……**它山之石**、**可以攻玉**。（毛亨傳：錯、石也。可以琢玉。**擧賢用滯**、則可以治國。／鄭玄箋：**它山**、**喩異國**。／孔穎達疏：又**它山遠國之石**、取而得之、可以爲錯物之用。**興異國沈滯之賢**、任而官之、可以爲理國之政。國家得賢臣輔以成治、猶寶玉得石、錯琢以成器。故須求之也）」。［唐］開元五年（七一七）元思忠墓誌銘「將恐佳城鬱鬱、滕公之室或開、雙表巖巖、戴侯之墳無紀。遂**勒他山之石**、申其罔極之懷、命植爲銘、敢揚休懿」（『北圖』第二一冊七四頁）。

(146) **式遵**＝「式」は助辭。もって。『毛詩』大雅　蕩之什　瞻卬「無忝皇祖、式救爾後。（鄭玄箋：**式**、**用也**）」。『尚書』盤庚下「式敷民德、永肩一心。（孔穎達疏：**用此**布示於民、必以德義、長任一心以事君、不得懷二意）」。『後漢書』列傳一四　馬嚴傳「故事、州郡所擧上奏、司直察能否、以懲虛

實。今宜加防檢、式遵前制」。［北魏］正始四年（五〇七）元鑒墓誌「化溢東夏、渭區再汪、式遵先惠、世濟其光」（『北圖』第三冊一〇〇頁）。

(147) **逖聽**＝『史記』卷一一七　司馬相如列傳「封禪文」「其遺札書言封禪事……伊上古之初肇、自昊穹兮生民、歷撰列辟、以迄于秦。率邇者踵武、逖聽者風聲。（徐廣注：逖、遠也。聽察遠古之風聲）」。［南齊］謝朓「爲皇太子侍華光殿曲水宴詩」（『藝文類聚』卷四）「傍求遂古、逖聽鴻名、大寶曰位、得一爲貞」。

(148) **前脩**＝屈原「離騷」（『文選』卷三二）「謇吾法夫前脩兮、非世俗之所服。雖不周於今之人兮、願依彭咸之遺則。（王逸章句：言、我忠信謇謇者、乃上法前代遠賢。／呂向注：前脩、謂前代脩習道德之人）」。陸機「文賦」（『文選』卷一七）「普辭條與文律、良餘膺之所服。練世情之常尤、識前脩之所淑」。

(149) **可名非名、可道非道**＝『老子』第一章「道可道非常道、名可名非常名。無名天地之始、有名萬物之母。故常無欲以觀其妙、常有欲以觀其徼。此兩者同出而異名、同謂之玄。玄之又玄、衆妙之門。（王弼注：可道之道、可名之名、指事造形、非其常也。故不可道、不可名也）」。

(150) **逍遙爲貴、齊物爲寶**＝『莊子』內篇　逍遙遊（郭象注：夫小大雖殊、而放於自得之場、則物任其性、事稱其能、各當其分、逍遙一也。豈容勝負於其閒哉）。「今子有大樹、患其無用。何不樹之於無何有之鄉・廣莫之野、彷徨乎無爲其側、逍遙乎寢臥其下」。『莊子』內篇　齊物論（郭象注：夫自是而非彼、美己而惡人、物莫不皆然。然、故是非雖異而彼我均也）。「物無非彼、物無非是。自彼則不見、自知則知之。故曰彼出於是、是亦因彼。彼是方生之說也。……天下莫大於秋豪之末、而大山爲小。莫壽於殤子、而彭祖爲夭。天地與我竝生、而萬物與我爲一」。

(151) **緣報**＝［後秦］竺佛念譯『菩薩瓔珞經』卷三　識界品「一切諸法本、無緣亦不合。道從平等覺、乃逮如來慧。諸佛不思議、法本不思議。緣報不思議、分別不思議」（大正一六・三一上）。郗超「奉法要」（『弘明集』卷一三）「是以學者必歸心化本、領觀玄宗。玩之珍之、則衆念自廢。廢則有忘、有忘則緣絕。緣報既絕、然後入於無生。既不受生、故能不死」（大正五二・八八下）。

(152) **理尚未好**＝任昉「爲蕭揚州作薦士表」（『文選』卷三八）「前晉安郡侯官令、東海王僧孺、年三十五、理尚棲約、思致恬敏。既筆耕爲養、亦傭書成學」。

(153) **遙哉……**＝注（130）と同樣に、これ以降の部分も沈約「瑞石像銘幷序」の「詞」を援用している。沈約「瑞石像銘幷序」（『廣弘明集』卷一六）「維永明七年*某月。爰有祥石眇發天津。……帝上眷幽關之易啓、咨玄應之無方。……乃詔名工。是鐫是琢。靈相瑞華煥同神造。……其詞曰『遙哉上覺、曠矣神功。四禪無像、三達皆空。表靈降世、演露開蒙。惟聖仁宇、寶化潛融。道非迹應、事以感通。沈精浮質、遠自河蔥。悠悠亘水、眇眇因風。泛彼遼碣、瑞我國東。有符皇德、乃眷宸衷。永言鷲室、栖誠梵宮。載雕載範、寫好摛工。藉茲妙力、祚闡業隆。冕旒南面、比壽華嵩』」（大正五二・二一一下）。*南齊武帝の年號、四八九年。『法苑珠林』にも次のような同樣の「頌」が錄され

るが、「瑞石像銘幷序」の「序」に相當する部分はなく、字句も本碑は「瑞石像銘幷序」に近い。［唐］道世撰『法苑珠林』卷一二　千佛篇第五之五「**遙欣大覺**、**曠矣神功**。**四禪無像**、**三達皆空**。千佛異迹、一智心同。表靈降世、敷演**開曚**。賢劫始四、餘佛潛通。續前有七、繼嗣虔恭」（大正五三・三七八上）。

（154）**上覺**＝佛のこの上ない悟りを意味する「無上覺」と同義と考えられる。僧伽提婆譯『中阿含經』卷五六　晡利多品羅摩經「我於爾時、卽爲優陀、說偈答曰『我最上最勝、不著一切法。諸愛盡解脫、自覺誰稱師。無等無有勝、自覺**無上覺**。如來天人師、普知成就力』」（大正一・七七七中）。［唐］實叉難陀譯『大方廣佛華嚴經』卷一六　昇須彌山頂品「於法不顚倒、如實而現證。離諸和合相、是名**無上覺**。現在非和合、去來亦復然。一切法無相、是則**佛眞體**」（大正一〇・八三上）。［唐］慧琳撰『一切經音義』卷二一　慧苑「音新譯大方廣佛花嚴經音義卷上」「阿耨多羅三藐三菩提。（阿、此云無也。**耨多羅**、**上也**。三藐、正也、三遍也、等也。**菩提**、**覺也**。總應言**無上正等覺也**）」（大正五四・四三八中）。

（155）[曠矣]**神功**＝「神功」の前の二字は、注（153）に引く「瑞石像銘」の詞文から「曠矣」である可能性が高い。「神功」は注（20）參照。

（156）**四禪**＝衆生が輪廻する三界（欲界・色界・無色界）の內、色界に生ずる四段階の瞑想的境地。求那跋陀羅譯『雜阿含經』卷一七　雜因誦第三品之五「阿難白佛言『云何世尊、以諸受漸次寂滅故說』。佛告阿難『**初禪**正受時、言語寂滅。**第二禪**正受時、覺觀寂滅。**第三禪**正受時、喜心寂滅。**第四禪**正受時、出入息寂滅。空入處正受時、色想寂滅。……』」（大正二・一二一中）。

（157）**無像**＝『老子』第一四章「其上不皦、其下不昧、繩繩不可名、復歸於無物。是謂無狀之狀、**無物之象**、是謂惚恍」。［唐］杜光庭『道德眞經廣聖義』卷二一　有物混成章第二十五「其初也示若無狀之狀、**無象之象**、無物之物、無名之名」。『增壹阿含經』「如是、釋提桓因、一切所有、皆歸於空、無我無人、無壽無命、無士無夫、無形**無像**、無男無女」（大正二・五七五下）。沈約「彌陀佛銘」（『廣弘明集』卷一六）「法身**無像**、常住非形。理空反應、智滅爲靈。窮寂震響、大夜開冥。眇哉遐壽、非歲非齡。**物愛彫綵***、**人榮寶飾**。事儉欲興、情充纍息。至矣淵聖、流仁動惻。順彼世心、成茲願力」（大正五二・二一一下）。＊宋・元・明本・宮本は「綵」を「彩」に作る。

（158）**三界畢空**＝「三界」は注（156）參照。一方、「瑞石像銘幷序」の「三達」は修業によって得られた「宿命智證明・生死智證明・漏盡智證明」の「三明」のこと。「畢空」は「絕體の空」を意味する「畢竟空」と同義。玄奘譯『大般若波羅蜜多經』卷三八三　初分諸功德相品「六神通、亦無生無滅、無染無淨。**以畢竟空無際空故**。善現、勝義諦中、佛十力、無生無滅、無染無淨。四無所畏、四無礙解、十八佛不共法、亦無生無滅、無染無淨。**以畢畢空無際空故**」（大正六・九八〇下）。

（159）[道]**非迹應**＝「瑞石像銘幷序」の「詞」より、□は「道」字の可能性がある。また、「迹應」は本碑文四行目の「靈應

微遠、無迹可尋」（「瑞石像銘并序」の序にもあり）を踏まえていると考えられる。智顗『妙法蓮華經玄義』「四、本感應妙者、經云『若有衆生來至我所、我以佛眼、觀其信等諸根利鈍』。……此指本時證二十五三昧感應。非迹中感應也。迹應多種、或言一日三時、入定觀可度機。此三藏佛照分段穢國九法界機、析空感應也」（大正三三・七六七中）。

(160) **感通**＝『周易』繫辭上傳「易無思也、無爲也。寂然不動、感而遂通天下之故。非天下之至神、其孰能與於此」。支道林「大小品對比要抄序」（『出三藏記集』卷八）「夫至人也、攬通群妙、凝神玄冥。虛靈響應、感通無方。建同德以接化、設玄教以悟神」（大正五五・五五中）。

(161) **達聖**＝注（9）參照。

(162) **開蒙**＝［後漢］曇果・康孟詳譯『中本起經』卷下　尼揵問疑品「長者問曰『伏聞、如來慈等普救。不審、法教偏駮不等、有得道者、有不得者。抱疑日久、願尊開蒙』。佛言『善哉問也。諦聽諦受……』」（大正四・一六二中）。

(163) **於惟我**△**皇、自天攸縱**＝「攸縱」は許すこと、あるいは許されること。『宋書』卷二　武帝本紀中「公*明罰恤刑、庶獄詳允、放命干紀、罔有攸縱」。＊豫章公時の劉裕。沈約「光宅寺刹下銘并序」（『廣弘明集』卷一六）「自天攸縱、於惟我皇*。即基昔兆、爲世舟航。重檐纍構、迴刹高驤」（大正五二・二一二下）。＊梁武帝蕭衍。［唐］長孫無忌「請封禪表」「臣聞、陰陽不測、陶冶生靈、之謂神。道德元通、仁育黎元、之謂聖。聖也者、自天之攸縱也。神也者、代天之理物也」。

(164) **九有**＝『毛詩』商頌　玄鳥「古帝命武湯、正域彼四方。方命厥后、奄有九有。（毛亨傳：九有、九州也）」。『尙書』商書　咸有一德「嗚呼、天難諶、命靡常。常厥德、保厥位、厥德匪常、九有以亡。……惟尹躬曁湯、咸有一德。克享天心、受天明命。以有九有之師、爰革夏正」。

(165) **懷德**＝『詩』大雅　生民之什　板「价人維藩、大師維垣、大邦維屛、大宗維翰。（毛亨傳：藩、屛也。王當用公卿諸侯及宗室之貴者爲藩屛垣幹、爲輔弼、無疏遠之）。懷德惟寧、宗子維城。（孔穎達疏：王必常行此德、無使宗子之城壞）」。『論語』里仁「子曰『君子懷德、小人懷土。君子懷刑、小人懷惠』（孔安國注：懷、安也）」。

(166) **治尙無爲**＝『論語』衞靈公「子曰。無爲而治者、其舜也與。夫何爲哉。恭己正南面而已矣」。『老子』第三章「不尙賢、使民不爭。不貴難得之貨、使民不爲盜。不見可欲、使民心不亂。是以聖人之治、虛其心、實其腹、弱其志、强其骨。常使民無知無欲、使夫智者不敢爲也。爲無爲、則無不治」。

(167) **日用**＝『周易』繫辭上傳「一陰一陽之謂道、繼之者善也、成之者性也。仁者見之謂之仁、知者見之謂之知、百姓日用而不知。故君子之道鮮矣。（孔穎達疏：百姓日用而不知者、言萬方百姓恆日日賴用此道、而得生而不知道之功力也。言道冥昧不以功爲功、故百姓日用而不能知也）」。

(168) **淳風**＝『抱朴子』外篇　逸民「太上無己、其次無名。……少多不爲凡俗所量、恬粹不爲名位所染、淳風足以濯百代之穢、高操足以激將來之濁」。［北魏］普泰元年（五三一）元弼墓誌「君稟淳風於妙谷、含粹抱於叡苑。鵷毛鴻羽、

標於齠齔之年。韶資雅亮、著於童冠之日」。（『北圖』第五冊一四九頁）

(169) **式歌且誦**＝『毛詩』小雅　甫田之什　車舝「雖無旨酒、式飲庶幾。雖無嘉殽、式食庶幾。雖無德與女、**式歌且舞**。（鄭玄箋：人*皆庶幾於王之變改、得輔佐之。雖無其德、我與女用是**歌舞**、相樂喜之至也）」。＊阮元校勘記に從い「必」を「人」に改む。［隋］開皇一四年（五九四）扈志墓誌「暄以冬日、扇以春風。曉義知方、**式歌且舞**」（『大唐西市博物館藏墓誌』上冊三四頁）

(170) **佐命**＝班固「西都賦」（『文選』卷一）「左右庭中、朝堂百寮之位。蕭曹魏邴、謀謨乎其上、**佐命**則垂統、輔翼則成化、流大漢之愷悌、蕩亡秦之毒螫。（李善注：李陵「報蘇武書」曰『其**佐命**立功之士』。『易乾鑿度』曰『代者、赤兗。黃、**佐命**』。宋哀曰『此赤兗者、謂漢高帝也。黃者、火之子、故**佐命**、張良是也』）」。李陵「答蘇武書」（『文選』卷四一）「其餘**佐命**立功之士、賈誼亞夫之徒、皆信命世之才、抱將相之具。而受小人之讒、竝受禍敗之辱」。

(171) **蕃惟**＝藩維に同じ。藩國、諸侯。注(165)『毛詩』大雅　板「維藩」參照。王巾「頭陀寺碑文」（『文選』卷五九）「乃詔西中郎將郢州刺史江夏王、觀政**藩維**、樹風江漢。（呂延濟注：**藩、諸侯也**。**維、隅也**。言觀政作藩、衞彼一隅也）」。沈約「封授臨川等五王詔」（『文苑英華』卷四四四）「朕承運迭興、光宅四海、**藩維**廣樹、經朔攸屬」。

(172) **德實**＝訊問して民の實狀を得ることを表す「得實」の意味と考えた。『史記』卷一　五帝本紀「皋陶爲大理平、民各伏**得其實**」。『周書』卷四　明帝紀「乙卯、詔曰『……自周有天下以來、雖經赦宥、而事跡可知者、有司宜即推窮。**得實**之日、但免其罪、徵備如法』」。

(173) **是導是綏**＝『論語』子張「陳子禽謂子貢曰『子爲恭也、仲尼豈賢於子乎』。子貢曰『君子一言以爲知、一言以爲不知、言不可不愼也。夫子之不可及也、猶天之不可階而升也。夫子之得邦家者、所謂立之斯立、**道之斯行**、**綏之斯來**、動之斯和。其生也榮、其死也哀。如之何其可及也』」。［北魏］太昌元年（五三二）元恭墓誌「絲言落雨、綸綍騰煙。跡通自遠、潔靜窮玄。黃津浩淼、丹山崇峻。惟機唯宜、**是綏是鎮**」（『北圖』第五冊一七二頁）。

(174) **禮讓**＝『論語』里仁「子曰。能以**禮讓**爲國乎。何有。不能以**禮讓**爲國、如禮何」。陸倕「石闕銘」（『文選』卷五六）「於是、天下學士、靡然向風、人識廉隅、家**知禮讓**。敎臻侍子、化洽期門。區宇乂安、方面靜息、役休務簡、歲阜民和」。

(175) **謙撝**＝「撝謙」に同じ。謙讓の德を發揮すること。『周易』謙卦（艮下坤上）「六四。无不利。**撝謙**。（王弼注：**指撝皆謙**、不違則也）。象曰。无不利。**撝謙**、不違則也」。［北魏］武泰元年（五二八）元暐墓誌「除給事黃門侍郎將軍、王如故。王固遵後外、深秉**謙撝**、敷衽陳誠、久而獲許。改授散騎常侍、王如故」（『北圖』第五冊八〇頁）。

(176) **過則稱己**＝『禮記』祭義「昔者、聖人建陰陽天地之情、立以爲易。……善則稱人、**過則稱己**。敎不伐以尊賢也」。『禮記』坊記「子云『善則稱人、**過則稱己**、則民不爭。善則稱人、**過則稱己**、則怨益亡。《詩》云〈爾卜爾筮、履無咎言〉』。子云『善則稱人、**過則稱己**、則民讓善。《詩》

云〈考卜惟王、度是鎬京。惟龜正之、武王成之〉』。子云『善則稱君、過則稱己、則民作忠。……』。子云『善則稱親、過則稱己、則民作孝。……』」。

(177) **良宰**＝『宋書』卷四七　劉懷肅傳「〔沈〕演之上表曰『……竊見錢唐令劉眞道・餘杭令劉道錫、皆奉公卹民、恪勤匪懈、百姓稱詠、訟訴希簡。……經歷諸縣、訪覈名實、竝爲二邦之首最、治民之良宰」。上嘉之、各賜穀千斛、以眞道爲步兵校尉」。〔隋〕大業一一年（六一五）故韓城縣令白府君墓誌銘「弦歌流響、朞月有成、古之良宰、不能過也」（『北圖』第一〇册一一七頁）。

(178) **撥煩理□**＝□は「亂」「難」「劇」等の可能性がある。「撥煩」は煩雜な事務を處理すること。「理亂」等も同じ。『漢書』卷七二　龔勝傳「爲大夫二歲餘、遷丞相司直、徙光祿大夫、守右扶風。數月、上知勝非撥煩吏、乃復還勝光祿大夫諸吏給事中」。『晉書』卷四六　劉頌傳「魏武帝以經略之才、撥煩理亂、兼肅文教、積數十年、至于延康之初、然後吏清下順、法始大行」。同上卷五六　孫楚傳「又舉亮拔秀異之才、可以撥煩理難、矯世抗言者、無繫世族、必先逸賤」。〔北齊〕天統二年（五六六）崔昂墓誌「轉司徒右長史、拜尙書左丞。理劇撥煩、名動朝列」。（『新中國出土墓誌』河北壹上二〇頁、『漢魏南北朝墓誌彙編』四三三頁）。

(179) **風移俗易**＝『禮記』樂記「樂也者、聖人之所樂也。而可以善民心、其感人深、其移風易俗、故先王著其敎焉。（孔穎達疏：其移風易俗者、風、謂水土之風氣、謂舒疾剛柔。俗、謂君上之情欲、謂好惡趣捨。用樂化之、故使惡風移改、弊俗變易）」。同上樂記「故樂行而倫淸、耳目聰明、血氣和平、移風易俗、天下皆寧」。『孝經』廣要道章「子曰。敎民親愛、莫善於孝。敎民禮順、莫善於悌。移風易俗、莫善於樂」。〔三國魏〕曹植「漢景帝贊」（『曹子建集』卷七）「景帝明德、繼文之則。肅淸王室、克滅七國。省役薄賦、百姓殷昌。風移俗易、齊美成康」。

(180) **仁不獨善**＝『孟子』盡心上「古之人、得志、澤加於民。不得志、修身見於世。窮則獨善其身、達則兼善天下」。『尹文子』大道上「爲善、使人不能得從、此獨善也。爲巧、使人不能得從、此獨巧也」。菩提流支譯『金剛仙論』「然諸佛菩薩、本不獨善。復化物同得故、發心修行、度衆生令入涅槃」（大正二五・八五〇中）。

(181) **贊輔**＝『三國志』卷七　魏書　呂布傳「（沛相陳珪）於是往說布曰『曹公奉迎天子、輔讚國政、威靈命世、將征四海。將軍宜與協同策謀、圖太山之安。今與術結婚、受天下不義之名、必有纍卵之危』」。『北史』卷一五　宗室　元贊傳「帝每歲南伐、執手寄以後事。卒、贈衞將軍、僕射如故。後以留守贊輔之功、進封晉陽縣伯」。

(182) **令名**＝『春秋左氏傳』襄公二四年「僑聞、君子長國家者、非無賄之患、而無令名之難。……夫令名、德之輿也。德、國家之基也。有基無壞、無亦是務乎……（詩曰）『上帝臨女、無貳爾心』。有令名也夫。恕思以明德、則令名載而行之。是以遠至邇安」。〔後漢〕張衡「司徒呂公誄」（『藝文類聚』卷四七）「既明且哲、式保令名。斿旂從風、駟牡超驤」。

(183) **嘉命**＝有り難い命令。『儀禮』士昏禮「納徵曰『吾子有嘉命、

眖室某也。……』」。陸機「挽歌詩」（『文選』卷二八）「卜擇考休貞、嘉命咸在茲。夙駕警徒御、結轡頓重基。（李周翰注：卜擇葬地、考其貞吉、嘉善之命、云在此中）」。『後漢書』列傳四三　周黄徐姜申屠列傳「建武中、應司徒侯霸之辟。既至、霸不及政事、徒勞苦而已。仲叔恨曰『始蒙嘉命、且喜且懼。今見明公、喜懼皆去。以仲叔爲不足問邪、不當辟也。辟而不問、是失人也』。遂辭出、投劾而去」。

(184) **玄風**＝注（24）參照。

(185) **遺教**＝宋玉「九辯」（『楚辭章句』卷八）「獨耿介而不隨兮、願慕先聖之遺教。（王逸章句：循行道德、遵典經也）」。［西晉］白法祖譯『佛般泥洹經』卷下「出西城門、趣周黎波檀殿、有大講堂、以佛著堂上。逝心理家、如佛遺教、以㲲錦纏身、劫波育千張、交纏其上、著假棺中」（大正一・一七三下）。鳩摩羅什譯『佛垂般涅槃略説教誡經』「佛垂般涅槃略説教誡經（亦名佛遺教經）」（大正一二・一一一〇下）。

(186) **紀綱**＝『尙書』夏書　五子之歌「其三曰。惟彼陶唐、有此冀方。今失厥道、亂其紀綱、乃厎滅亡。（孔安國傳：言、失堯之道、亂其法制、自致滅亡）」。『禮記』樂記「夫古者、天地順而四時當、民有德而五穀昌、疾疢不作而無妖祥、此之謂大當。然後聖人作爲父子君臣、以爲紀綱。紀綱既正、天下大定」。

(187) **迴刹高驤**＝「刹」は寺院の刹柱。注（163）沈約「光宅寺刹下銘幷序」參照。班固「西都賦」（『文選』卷一）「列棼橑以布翼、荷棟桴而高驤。（呂向注：驤、舉也。謂虹梁荷負而舉）」。［三國魏］何晏「景福殿賦」（『文選』卷一一）「飛櫚翼以軒翥、反宇轍以高驤」。

(188) **物愛雕修**＝注（157）沈約「彌陀佛銘」參照。『後漢書』列傳四四　楊震傳「震復上疏曰『……伏見詔書爲阿母興起津城門內第舍、合兩爲一、連里竟街、雕修繕飾、窮極巧伎。今盛夏土王、而攻山採石、其大匠左校別部將作合數十處、轉相迫促、爲費巨億。……』」。

(189) **人榮寶飾**＝注（157）沈約「彌陀佛銘」參照。僧肇撰『注維摩詰經』卷二　方便品「雖服寶飾、而以相好嚴身（肇曰。外服寶飾、而內嚴相好也。）雖復飲食、而以禪悅爲味。（肇曰。外食世膳、而內甘禪悅之味也）」（大正三八・三三九下）。

(190) **畫堂**＝『漢書』卷一〇　成帝紀「孝成皇帝、元帝太子也。母曰王皇后、元帝在太子宮生甲觀畫堂、爲世嫡皇孫。（應劭注：畫堂、畫九子母。／顏師古注：畫堂、但畫飾耳。豈必九子母乎。霍光止畫室中、是則宮殿中通有綵畫之堂室）」。

(191) **皎皎**＝『詩』小雅　鴻鴈之什　白駒「皎皎白駒、食我場苗。（釋文：皎、古了反。絜白也）」。『楚辭章句』卷二　九歌　少司命「撫餘馬兮安驅、夜皎皎兮既明。（王逸章句：雖幽昧之夜、猶皎皎而自明也）」。

(192) **華攘**＝「華攘」では通じない。「攘」を「榱」の誤刻とすれば「裝飾された垂木」の意味になる。曹植「七啓」（『文選』卷三四）「彤軒紫柱、文榱華梁。綺井含葩、金墀玉箱。（張銑注：彤、赤色、軒、欄檻也。榱、椽也。皆飾以文華。又於屋閒、爲井形、中有蓮花下垂也。）」。或いは、「攘」を「壤」の誤刻とすれば、寺の境內を中華の土地や中原に擬えていると考えられる。［南朝宋］顏延之「又釋何衡陽」（『弘明集』卷四）「由餘・日磾不生華壤、何限九服之

外不有窮理之人」（大正五二・二二六上）。『魏書』卷五六 崔辯傳「於時冀定數州、頻遭水害、（辯子）楷上疏曰『……**華壤**膏腴、變爲舃鹵、菽麥禾黍、化作雚蒲……』」。『魏書』卷六一 田益宗傳「（熙平初）靈太后令曰『……先帝以卿勞舊、州小祿薄、故遷牧**華壤**、爰登顯級……』」。『隋書』卷六六 李諤傳「諤又以屬文之家、體尚輕薄、遞相師效、流宕忘反、於是上書曰『……損本逐末、流遍**華壤**、遞相師祖、久而愈扇……』」。

(193) **翼翼**＝『毛詩』大雅 文王之什 綿「乃召司空、乃召司徒、俾立室家。其繩則直、縮版以載、**作廟翼翼**。（鄭玄箋：廟成則嚴顯**翼翼然**。／孔穎達疏：作此宗廟、**翼翼然而嚴正**。言能依就準繩、牆屋方正也）」。左思「魏都賦」（『文選』卷六）「奸回內匱、兵纏紫微。**翼翼京室**、眈眈帝宇、巢焚原燎、變爲煨燼。（張銑注：**翼翼**、**美也**）」。

(194) **卜居**＝屈原「**卜居**（王逸章句：**卜居**者、屈原之所作也。……心迷意惑、不知所爲。乃往至太卜之家、稽問神明、決之著龜、**卜己居世何所宜行**、冀問異策、以定嫌疑。故曰卜居也。）」（『楚辭章句』卷六）『史記』卷三三 魯周公世家「成王七年二月乙未、王朝步自周至豐、使太保召公先之雒相土。其三月、周公往營成周雒邑、**卜居焉**。曰吉、遂國之」。

(195) **宴坐**＝『中阿含經』卷三 業相應品「後時世尊靜處**宴坐**。以淨天耳出過於人、聞尊者大目乾連與尼乾弟子釋恕破共論如是。世尊聞已、則於晡時、從**宴坐**起、往詣講堂」（大正一・四三四上）。

(196) **溫溫哲人**＝『毛詩』大雅 抑「**溫溫恭人**、**維德之基**。（毛亨傳：**溫溫**、**寬柔也**。／鄭玄箋：**寬柔之人**、**溫溫然**、**則能爲德之基止**。）其維**哲人**、告之話言、順德之行。（鄭玄箋：語**賢知之人**以善言、則順行之）」。

(197) **穆穆明后**＝『毛詩』大雅 文王「**穆穆文王**、於緝熙敬止。假哉天命、有商孫子。（毛亨傳：**穆穆**、**美也**。／箋云：**穆穆乎文王**、**有天子之容**、**於美乎**）」。［梁］蕭綱「菩提樹頌」（『廣弘明集』卷一五）「菩提永立、波若長宣。**穆穆明后**、萬壽如天」（大正二五・二〇四下）。

(198) **作我橋梁**＝［三國吳］支謙譯『菩薩本緣經』卷下「夫正法者、能護衆生、不墮惡趣、爲度煩惱苦海之人、而**作橋梁**。如人處嶮、要因机杖、亦如執炬、覩見諸器。行正法者、亦復如是」（大正三・六六下）。『高僧傳』卷一〇 曇霍傳「鹿孤*有弟耨檀。假署車騎、權傾僞國。性猜忌、多所賊害。霍每謂檀曰『當修善行道、**爲後世橋梁**』」（大正五〇・三八九下）。＊南涼王の禿髮利鹿孤。

(199) **善誘**＝『論語』子罕「顏淵喟然歎曰『仰之彌高、鑽之彌堅。瞻之在前、忽焉在後。夫子循循然**善誘人**、博我以文、約我以禮。……』。（何晏注：循循、次序貌。**誘**、**進也**。言、夫子正以此道、進勸人有所序）」。［後漢］蔡邕「**陳太丘碑**」（『文選』卷五八）「於鄉黨則恂恂焉、彬彬焉。**善誘善導**、仁而愛人、使夫少長咸安懷之」。

(200) **言立不朽**＝『春秋左氏傳』襄公二四年「豹聞之『大上有立德、其次有立功、其次有**立言**』。雖久不廢、此之謂**不朽**」。［北周］天和六年（五七一）元世緒墓誌「鄭僑遺愛、臧文**立言**。空傳**不朽**、詎識營魂」。（『大唐西市博物館藏墓誌』上冊一六頁）。

(201) **天長地久**＝『老子』第七章「**天長地久**。天地所以能長且久者、

以其不自生、故能長生。是以聖人後其身而身先、外其身而身存。非以其無私邪。故能成其私」。［北魏］正光四年（五二三）元譚妻司馬氏墓誌「于嗟一別、**天長地久**。此其觀德、茲焉**不朽**」（『北圖』第四冊一三九頁）。沈約「光宅寺刹下銘幷序」（『廣弘明集』卷一六）「一念斯答、萬壽無疆。**如日之久**、**如天之長**」（大正五二・二一二下）。

【訓讀】

昔 夫の老子は上下の經を作りて、纔かに清虚の妙を表わし、莊生は內外の義を著わして、且く出世の高を論ずるも、業報の言を申ぶる無く、豈に因緣の旨を暢べんや。大道を眷言すれば、未だ盡くし得たりと爲さず。是れ知れり、神理は微密にして、眞趣は幽玄なれば、心期の侶も、惑を起こし障を興す。若し達聖の運を膺け、至德の靈を降すに非ざれば、熟［孰］か能く化を大千に敷き、□を彼岸に□……んや。

□の漢夢に通じ、炭の昆明に驗するに曁び、法輪 西闡し、像敎 東被す。爾れ自り今に迄るに、將に千歲にならんとす。神功 妙迹は、逈かに天人を出ずると雖も、物に應じ方に隨い、多く□□を有す。□□玄風 遂に扇ぎ、緇徒 更に繁るも、或いは廢し或いは興り、時に隨いて出沒す。良に心塗の隔つる所となり、業緣の壅を致すが故に由るのみ。

我が大隋は千齡の會を膺け、五運の□に處し、□□□道、天に先んじて命に協う。皇帝 曆を統べて元に乘じ、欽明もて宇を御し、金輪を乘りて以って世を治め、玉鏡を懸けて照臨す。聲は萬古に逸し、澤は遐外を被い、生を好み煞を惡み、幸に泣き網を解く。茲の小道を輕んじ、彼の大乘を慕う。一諦に歸せんと欲せば、會ず三寶に由る。乃ち州縣に詔して、各おの僧尼二寺を立て、聖軌の將に頹れんとするを襲い、金言の蹔し缺くるを繼ぐ。

使君建安公は衣冠の水鏡、縉紳の模楷にして、朝に入りては美められ、牧に出だされては賢と稱せらる。柔を含み順を履み、成則に率由し、德は異部に流れ、聲は殊方に播く。法界を念じては以て歸依し、慈善を弘めては以て物に訓え、命を申ぬれば懃めて至し、斯須も捨てず。

縣令 西河の宋景、輔國將軍 內散 復州別駕 治長史 宜昌・竟陵二郡守□□都督は、允に文 允に武、在る所に奇と稱され、一同に製錦し、千室に弦歌せしむ。志は清愼を懷き、恆に冰を履むが若く、能官の美、今古に獨り絕す。深く非常を悟り、情を釋典に存し、聽訟の暇、福田を忘るる無し。

丞 大梁の齊相、尉 博陵の張服・河閒の張標は、並びに明哲を以て、來たりて專城を贊け、清懃もて自ら處し、譽は隣邑に宣ぶ。倶に迴向の心を申べ、共に眞淨の路を忻き、心意は精實にして、行かずして自ずから遠し。

遂に仰ぎては明敕に依り、府しては宿誠を厲まし、乃ち形勝の所に於いて、尼寺を崇構す。縣宦の七職より、爰に鄉正の徒に及ぶまで、斯の福德に感じ、忻然として營助す。

〔寺主の道辯、等覺の法紬／寺主道辯の等覺にして法紬せる〕、上坐の智最・緩稱等、咸な戒操 端嚴、音儀 忒わず、煩惱 已に棄て、業行 聿に脩むるを以て、相い與に經始し、日ならずして就る。

爾れ其の勢は弘麗を極め、地は惟れ爽塏にあり。房廡は深く重なり、長廊は交ごも暎ゆ。連甍は雲合し、比屋は霞舒す。寶鐸は風を迎え、雕梁は日に照る。

□殿を莊嚴して丹靑を飾り盡くし、相好は常に非ず、光□は特絕

し、舊尼 宿徳の深く律藏を觀るに至りては、錫を負いて來遊し、樂土を懷うこと有らざる莫し。

竊かに惟うに、靈應は微遠にして、迹として尋ぬ可き無し。但だ理は□□□、言は事に由り發す。故に賾を探りて隱を索め、更に法を將來に顯らかにし、神明を幽贊し、亦た未悟を了達せしめんとす。然らば則ち立徳の美、斯從り見れ、著述の義、其れ□□に在り。今ま盛業は既に彰らかにして、大功は剋構するも、而るに徽猷 記す莫ければ、來葉の者に曉示する所以に非ざる也。是を以て敬んで他山に勒し、式て前學に遵う。庶わくば無上の功徳をして、與山……傳えしめん。其の詞に曰く、

逖かに前脩を聽き、曾て莊老を聞くに、名とす可きは名に非ず、道とす可きは道に非ず、逍遙を貴しと爲し、齊物を寶と爲すも、緣報申べず、理尙 未だ好からず。遙かなる哉 上覺、曠らかなるかな神功、四禪は像無く、三界は畢空、道は迹應に非ず、事は以て感通すれば、達聖に因る無ければ、何を以て蒙を開かん。

於惟れ我が皇の、天の縱す攸となりて自り、九有 徳に懷き、八方 咸な統ぶ。治は無爲を尙び、民は日用に隨い、淳風 既に……、式に歌い且つ誦んず。功は佐命に參じ、來たりて蕃惟を牧し、茲に徳實を秉りて、是に導き是に綏んず。民は禮讓を知り、俗は謙撝を尙び、過あれば則ち己を稱し、功あれば必ず……推す。

寔に良宰たり、煩を撥め……を理め、既に徳化を經て、風移り俗易わる。仁は獨善ならず、贊輔 斯に益く、共に令名を保ち、嘉命 適う可し。爰に明詔有りて、彼の四方に詰ぐれば、玄風 更に闡らかとなり、遺教 重ねて昌んとなる。同……徳、上下に紀綱あれば、伽藍 仍りて建ち、迥刹 高だかと驤る。

物は雕修を愛し、人は寶飾を榮とし、畫堂は晈晈たりて、華攘[榱/壞]は翼翼たり。名徳 卜居し、宴坐心息し、一……に歸依し、…………。溫溫たる哲人、穆穆たる明后、我が橋梁と作りて、茲に善誘を弘む。緣有れば必ず應じ、言立つれば朽ちざれば、敬んで斯の銘を勒む、天の長く地の久しきがごとくならん。

大隋開皇十一年、歲次辛亥、六月辛亥……

【現代語譯】

昔、かの老子は上下兩篇の『道徳經』を作って、淸靜で虛なる道の奧深さをわずかに書き記し、莊子は內外兩篇の文章を著して、世俗を超越した境地の高みをかりそめに論じたけれども、〔佛教のように〕業報についての義理を述べることはなく、因緣の意味を述べることもなかった。大道〔の深奧〕を振り返れば、〔道教は〕まだ論じきっているとは言えない。このことから、神妙なる道理は微妙で緻密なものであり、眞正なる意味はかすかで奧深いものであるので、たとえねんごろに心を許した友であっても、疑惑や妨げが起きてくることが分かる。時機のめぐりを受けた聖人、靈妙な天命が降った至徳〔である佛〕でなければ、いったい誰が三千大千世界をあまねく教化し、□を彼岸に□〔渡すことができるだろうか〕。

〔神祕的な力〕が通じて後漢明帝の夢に金人（佛陀）が現れ、〔前漢武帝の時に〕昆明池に劫火の炭が發見されてより、眞理の教えの輪である佛教は西方に明らかに開かれ、〔佛滅後の正法五百年を過ぎて〕像法の時になると東方にある中國に及んだ。その時から今日に至るまで、まさに千年になろうとしている。神祕的なはたらきや不可思議な事柄というのは、天界と人界を遙かに超えたものではあるが、そこに住む人間に應じその地域にしたがって、多く……が有

るものである。……佛教の氣風はついに盛んになり、僧侶たちはますます増えたが、あるいは衰微し、あるいは興起し、時運にしたがって浮き沈みした。これらは實に、心を覆う煩惱に妨げられ、業縁が〔敎えに觸れる機會を〕塞いでしまったからに他ならない。

わが大隋は千年に一度の機會を得て〔天下を統一し〕、五行の巡りが〔移る時〕に居合わせて〔禪讓を受けたが〕、これは……、天の時に先んじ〔て事を行い〕ながら天命にぴったりと適ったものであった。皇帝陛下（文帝）は暦を統一し〔て正朔を整えられ〕、乾元に乘って〔大壯の德を顯わされ〕、〔堯のような〕威儀と英明さを備えて宇内を御し、金輪聖王の輪寶を握って世界を治め、玉鏡を掛けて〔清明の道で天下を〕照らされた。その名聲は萬世に比類なきもの、その恩澤は邊境の地まで覆うものであり、〔陛下は〕生命を大切にして殺生を憎み、〔禹のように〕罪人のためにも涙を流され、〔成湯のように〕仕掛け網を解かれ〔禽獸にも慈悲を示され〕た。この地（中國）の小道（道敎）を輕んじ、かの地（インド）の大乘（佛敎）を慕われた。唯一の眞理に歸依するには、かならず（佛・法・僧の）三寶によるのである。そこで〔陛下は〕州と縣に詔敕を下され、各州縣毎に僧寺と尼寺の二寺を建立させ、〔廢佛により〕まさに崩れ去ろうとしていた聖人の軌則（佛の法・敎え）を蹈襲し、しばらく途絶えていた金人の言（佛の言葉）を繼承されたのである。

〔冀州〕刺史の建安公は官吏の鑑、士大夫の手本であり、朝廷に入っては褒めあげられ、地方の長官に派遣されては賢人と稱えられている。物腰柔らかく溫順な性格で、規則にはよく從われ、その德は敎えを異にする者達にも施され、その名聲は邊境の地にまで廣がっている。悟りの境界を念じては佛法に歸依し、慈善を廣く行っては人々に〔もその意義を〕敎え、〔君子より〕命令が丁寧に下ると力を盡くしてそれに當たり、一時たりとも忽せにはされない。

南宮縣令である西河の宋景、輔國將軍 內散 復州別駕 治長史 宜昌・竟陵二郡守□□都督は、まことに文武の德を兼ね備え、至るところで素晴らしい人物であると稱讚されており、この方百里ほどの地方で錦から服を裁製するように立派に政治を行い、この千戸ばかりの地方で誰もが琴に合わせて歌えるほど敎化を施している。清廉さと愼み深さを心がけ、いつも薄氷を踏むかのように愼重に事を進めており、その有能な官僚としての譽れは、古より今に至るまで誰よりも抜きん出ている。またこの世の無常を深く悟り、佛敎經典〔の敎え〕に心を寄せて、訴えを聽く仕事の合間には、布施や供養を忘れない。

南宮縣丞の大梁（今の河南省開封市）の齊相と、南宮縣尉の博陵（今の河北省保定市）の張服および河間（今の河北省滄州市）の張標は、そろって物事への明るさと聰さでもって縣令の仕事を助け、清廉で勤勉な態度でみずからを律し、その名聲は近鄰の地域にまでゆき渡っている。〔また彼らは〕ともに功德をふり向けようとする心を廣げ、ともに〔佛の〕眞實で清淨なる道を開いており、心づかいは精緻で實直であり、故意に行おうとしなくても自然と遠くにまで至るような者たちである。

〔そこで〕ついに〔縣令宋君は〕仰いでは〔皇帝の〕明らかな敕旨にのっとり、俯しては〔縣丞・縣尉らの〕長年にわたる請願を奬勵して、地勢のすぐれた場所に尼寺を高々と建立することとなった。縣の役所の七職より〔五百戶を司る〕鄕正の者におよぶまで、〔みな〕その福德に感じいり、喜んで事業に協力した。

〔寺主の道辯、佛と平等の悟りを得た高僧の法紬／佛と平等の悟りを得てその法を繼ぐ寺主の道辯〕、上坐の智最や緩稱らは、みな戒を持して端正で嚴かな居ずまいをし、徳音と威儀は〔佛の教えに〕適っており、煩惱はすでに棄て去り、修行は〔立派に〕おさめられていることから、〔縣令らと〕一緒になって尼寺の創建を始め、あっという間に完成させたのである。

このようにして〔建立された〕この寺院の様式は弘大さと麗美さを極め、土地は明るく乾燥した高地に建てられている。建物のひさしどうしは幾重にもかさなり、長い廊下どうしはこもごも反射しあっている。棟々が連なる様は雲が集まっているかのようであり、屋舎が建ちならぶ様子は朝夕の彩雲が廣がっていくかのようである。〔軒下に掛けられた〕寶鐸は風を迎え入れ、彫刻が施された梁は日の光に照らされている。

□殿をおごそかにしつらえて赤や青の彩色で飾りつくし、〔佛像の〕姿は竝外れてすばらしく、光□は群を抜いてりっぱであり、年配の尼僧や長年徳を積んだ者たちが、深く律の經典を讀んでいる様子に至っては、誰もが錫杖を持ってここに遊び、常樂の佛國土を想うほどである。

ひそかに思うところでは、神靈の感應というのは幽玄で奥深いところで起きており、たどれるような跡というものは無い。しかし、理は□□□するものであり、言葉は〔實際の〕事柄に卽して發されるものである。それゆえ、様々な事象を探ってはそこに隱された理をもとめ、さらに〔佛の〕教えを將來の人々に顯らかに示し、神明のはたらきを冥々のうちに助け明らかにし、また、まだ悟りを得ていない者を悟りに至らせようとするものである。そのようにすれば徳を立てるということのすばらしさは、ここから明らかとなり、書き著すということの意義は、□□に存在することになる。ところで今、〔尼寺建立という〕盛んなる事業はすでに明らかに起こされ、大いなる功績は前人を受け繼いで完成されたものの、しかしその美しい道のりを記さなければ、未來の者たちにはっきりと示す手立てがなくなってしまう。そこでつつしんで石に刻み、よって先學のやり方に從いたい。ねがわくばこの上ない功德を、………傳えられるように。その詞に言うには、

はるかに古の修德の賢人の言を聽き、かつて莊子や老子の言を聞いたところ、これこそ「名」だと言えるようなものは永遠不變の「名」ではなく、これこそ「道」だと言えるようなものは永遠不變の「道」ではないと言い、〔何にもまつろわずに〕逍遙することを尊び、萬物を齊同視することを重んじたが、因緣や應報についてまでは說き到っておらず、その主旨は立派だがまだ十分によいとは言えない。なんとはるかに見通しているのだろうか、この上ない悟りを得た佛は。なんと明らかなことだろうか、佛の不可思議なはたらきは。四禪の境地には〔畢竟〕形象は現れず、三界は畢竟空であり、道は方便として應じてくれるものではなく、〔この世の〕事象は〔衆生からの〕感によって通じていくものである以上、聖に達した佛を賴りとしなければ、いったい何によって道理に暗い者を導くことができよう。

ああ、我が皇帝陛下が、天に〔聖人となることを〕許されてより、九州全土〔の民〕はその德を慕い、八方全域はみな統べられた。その統治は無爲を貴び、民は〔知らず知らずのうちに〕日々道に隨い、純朴な風俗はすでに……し、〔太平の世を〕謳歌している。〔使君建安公の〕功績は建國の功臣に數えられ、〔冀州に〕赴任して蕃國をつかさどり、ここに民の實狀を把握して、〔この地の人々を〕導き

安寧にしている。民衆は禮節と辭讓を知り、風俗は謙讓を尙び、過ちがあれば自分の罪だと言い、功績があれば必ず〔人がしたことだと〕薦めるのである。

〔南宮令宋君は〕まことに優れた縣令であり、煩雜な仕事をうまく處理しており、すでにその德による敎化をこうむって、風俗は善良なものになった。〔しかもその〕仁政は〔宋君だけが〕獨り行っているのではなく、〔丞尉ら〕贊助し補佐する者も多く、共に名聲を保ち、有り難いご下命にも應えられてきた。おりしも〔州縣に各々僧尼二寺を建立せよとの〕詔が出され、全國に告げられたため、佛敎を尊ぶ氣風はさらにはっきりと現れ、佛が遺された敎えはあらためて盛んになった。〔尼僧らは〕同……德、上の者から下の者までみな規律正しくあったので、伽藍は建立され、見上げるほどの刹柱は高だかと立てられたのである。

〔世俗の〕者は〔寺院の〕彫刻された裝飾を喜び、人々は寶物で飾られた意匠を榮譽とし、繪が描かれた堂は皎皎と明るく、〔裝飾を施した垂木は整然と竝んでいる。／嚴かな境內は整然としている〕。高名高德の尼僧達は占ってこの寺に移り住み、座禪を組んで心念を消し、一……に歸依し、…………。寛容で柔和な賢知の人であり、麗しく聰明なる皇帝陛下は、我らを悟りに渡す橋梁となってくださり、ここに善き導きを廣めてくださっている。緣が有れば必ず應じられ、後世への戒めの言葉が殘されれば〔敎えが〕朽ちることはないので、つつしんでこの銘文を刻む。天地の壽命と同じほど永遠に殘るように。

大隋開皇十一年、辛亥の歲、六月辛亥（朔日）……

【概要】

（一）碑文の作者について

萬曆七年（一五七九）邢侗纂修『南宮縣志』卷一三　藝文志

大隋南宮令宋君爲碑一篇「**此文無作者姓名**。雖多佛氏之言、要爲文人之筆。旣爲令君而作、故得附于斯焉。道家者流、漢志不廢。豈云異敎遂舍斯文」。

（二）寺院と寺院建立者について

民國二五年（一九三六）賈恩紱纂『民國南宮縣志』卷二三

掌故志　石刻篇上　隋**定覺寺***1爲宋令敕建僧尼二寺碑記「按南宮碑刻、以此爲最古。邢氏侗稱爲三妙者、邢本善書於南宮碑刻、皆有贊揚之語、詳萬曆志。**隋代之縣令丞尉數名***2、載在**職官篇***3者、卽据此碑也」。

＊1　定覺寺は南宮城內の東北隅にあった尼寺。

『民國南宮縣志』卷二　疆域志　古蹟篇　寺廟亭塔「**定覺寺**。**在城內東北隅**。本在廢縣內。有隋開皇十一年碑。萬曆志邢侗所謂**尼寺碑**、文章篆隸、足稱三絕者、卽此碑也。萬曆三十三年（一六〇五）、闞宗移建今城內東北隅。俗名大庵」。

＊2　本碑に見える南宮縣令の姓名は「宋景」、縣丞は「齊相」、縣尉は「張服」と「張標」。冀州刺史「使君建安公」の姓名は記されないが、「柳機」と考えられる。（聶順新《唐代佛敎官寺制度研究》（第二章　唐代佛敎官寺制度淵源辨析）中國社會科學出版社、二〇二〇年九月、參考）

『隋書』卷三〇　地理志中「信都郡（舊置**冀州**）。……**南宮**

（舊縣、後齊廢、開皇六年復）」。

『隋書』卷四七　柳機傳「柳機字匡時、河東解人也。父慶、魏尙書左僕射。機偉儀容、有器局、頗涉經史。年十九、周武帝時爲魯公、引爲記室。及帝嗣位、自宣納上士纍遷少納言、太子宮尹、封平齊縣公。從帝平齊、拜開府、轉司宗中大夫。宣帝時、遷御正上大夫。機見帝失德、屢諫不聽、恐禍及己、託於鄭譯、陰求出外、於是拜華州刺史。及高祖作相、徵還京師。時周代舊臣皆勸禪讓、機獨義形於色、無所陳請。俄拜衞州刺史。及踐阼、進爵建安郡公、邑二千四百戶、徵爲納言。機性寬簡、有雅望、然當近侍、無所損益、又好飲酒、不親細務、在職數年、復出爲華州刺史。奉詔每月朝見。尋轉冀州刺史。後徵入朝、以其子述＊尙蘭陵公主、禮遇益隆」。

＊息子の柳述は建安郡公の爵位を繼いでいるが、冀州刺史には任じられていない。

「大隋使持節大將軍靑州刺史建安簡公柳使君墓誌」「……大隋創歷、增啓河山。開皇二年、進封澮州建安郡開國公、邑戶依舊。四年入爲納言、六年授華州刺史、七年遭母憂解任、八年起復華州刺史、九年除使持節冀州諸軍事冀州刺史、十三年在州遘疾、十四年還京。其年夏五月廿六日已未、薨於京第。春秋五十有六。其年七月、殯於雍州長安縣高陽原。仁壽元年、秋七月詔贈使持節大將軍、靑州刺史。……謚曰簡公。魂而有靈、歆茲榮寵。嗚呼哀哉。仍以其月廿八日、遷厝於雍州大興縣洪原鄉延信里」。（王其祁・周曉薇〈新見隋仁壽元年《柳機墓誌》考釋——兼爲梳理西眷柳氏主支世系及其初入關中躋身〝郡姓〟之情形〉《唐史論叢》第十九輯、二二一・二四二頁、陝西師範大學出版總社、二〇一四年一〇月）

＊3　『民國南宮縣志』卷一三、文獻志　職官篇　宦績列傳。

（三）文帝の寺院建立の詔敕について

『金石萃編』卷三八　隋一　詔立僧尼二寺記「按碑、無額無題。文云『皇帝詔州縣、各立僧尼二寺』。『隋書』本紀不載。經籍志有云『後魏時、太武帝西征長安……營造經像』云云。蓋佛法廢而復興、與碑『襲聖軌繼金言』語合、而詔立僧尼寺、亦無明文。此碑是建造尼寺、立石紀績。惜使君建安公、不著姓名、縣令宋景等、亦無傳。可考文字完整、闕者不過數字。『府厲』疑是『俯厲』、方與『仰依』對。『煩惚』當是『煩惱』、『自天佟縱』、疑是『攸縱』。『華攘翼翼』疑是『華欀』、與『畫堂』對、欀、木名。吳都賦云『文欀楨橿』是也」。

『隋書』卷三五　經籍志　道佛經「又後魏時、太武帝西征長安、以沙門多違佛律、群聚穢亂、乃詔有司、盡坑殺之、焚破佛像。長安僧徒、一時殲滅。自餘征鎭、豫聞詔書、亡匿得免者十一二。文成之世、又使修復。熙平中、遣沙門慧生使西域、采諸經律、得一百七十部。永平中、又有天竺沙門菩提留支、大譯佛經、與羅什相埒。其『地持』、『十地論』、竝爲大乘學者所重。後齊遷鄴、佛法不改。至周武帝時、蜀郡沙門衞元嵩上書、稱僧徒猥濫、武帝出詔、一切廢毀。開皇元年、高祖普詔天下、任聽出家、仍令計口出錢、營造經像。而京師及并州、相州、洛州等

諸大都邑之處、**竝官寫一切經**、**置于寺內**。**而又別寫**、**藏于祕閣**。天下之人、從風而靡、競相景慕、民閒佛經、多於六經數十百倍」。

［隋］費長房『歷代三寶紀』卷一二　大隋錄「**開皇元年**二月、京及諸州城居聚落、竝皆創訖。至**閏三月**、詔曰『門下法無內外、萬善同歸。敎有淺深、殊途共致。朕伏膺道化、念好淸靜。**其五嶽之下**、**宜各置僧寺一所**』。……**開皇三年**、降敕旨云『好生惡殺、王政之本。佛道垂敎、善業可憑。稟氣含靈、唯命爲重。宜勸勵天下、同心救護。**其京城及諸州官立寺之所**、每年正月五月九月、恒起八日至十五日、當寺行道。其行道之日、遠近民庶、凡是有生之類、悉不得殺』」（大正四九・一〇七中）。

［唐］法琳『辯正論』卷三　十代奉佛上篇　隋高祖文皇帝「**開皇三年**詔曰[*1]『朕欽崇聖敎、念存神宇。**其周朝所廢之寺**、**咸可修復**。京兆太守蘇威奉敕、於京城之內、選**形勝之地**、安置伽藍』。……**開皇五年**、爰請大德經法師、受菩薩戒。因放獄囚、仍下詔曰『始龍潛之日、**所經行處四十五州**、**皆造大興國寺**。於仁壽宮造三善寺、爲獻皇后造東禪定寺』。又詔曰『……石泉栖息、巖藪去來、形骸所待、有須資給。**其五嶽及諸州名山之下**、**各置僧寺一所幷田莊**』。……自開皇之初終於仁壽之末、所度僧尼二十三萬人、**海內諸寺三千七百九十二所**。凡寫經論、四十六藏一十三萬二千八十六卷。修治故經、三千八百五十三部。造金銅檀香夾紵牙石像等、大小一十萬六千五百八十軀。修治故像、一百五十萬八千九百四十許軀。宮內畫像、常造刺繡織成像及畫像、五色珠旛、五彩畫旛等、不可稱計」（大正五二・五〇八下）。

＊1［淸］洪頤煊『平津讀碑記』卷三（『石刻史料新編』第一輯二六册）はこの『辯正論』に見える開皇三年の詔敕を引いて「所述頗與此碑相同」と述べる。但し、下記の碑文「隋重建七帝寺記」の內容も含めて勘案すれば、本碑に述べる「詔州縣各立僧尼二寺」は開皇五年の詔敕である可能性が高い（前記、聶二〇二〇參考）。

「隋重建七帝寺記（開皇五年八月一五日）」「……但周將滅□、卽禪位大隋國帝主楊堅、建元開皇。自聖君馭宇、俗易風移、國大民寧、八方調順。護持三寶、率遣興修、前詔後敕、佛法爲首。惠郁共弟子玄凝等、願欲修理本寺、願復前像。……從**開皇元年**造像頭手、竝鑄大鐘、**至五年**素起身跗、兼修寶殿。……。**忽蒙敕旨**『**大縣別聽立僧尼兩寺**』。安喜令裴世元、王・劉二尉等、以七帝舊所、像殿俱興、**遂申州表省**、**置爲縣寺**。……」（人文研拓本資料・ZUI0014X）

【主要著錄跋文】

・王昶『金石萃編』卷三八「詔立僧尼二寺記」＝上述概要參照。

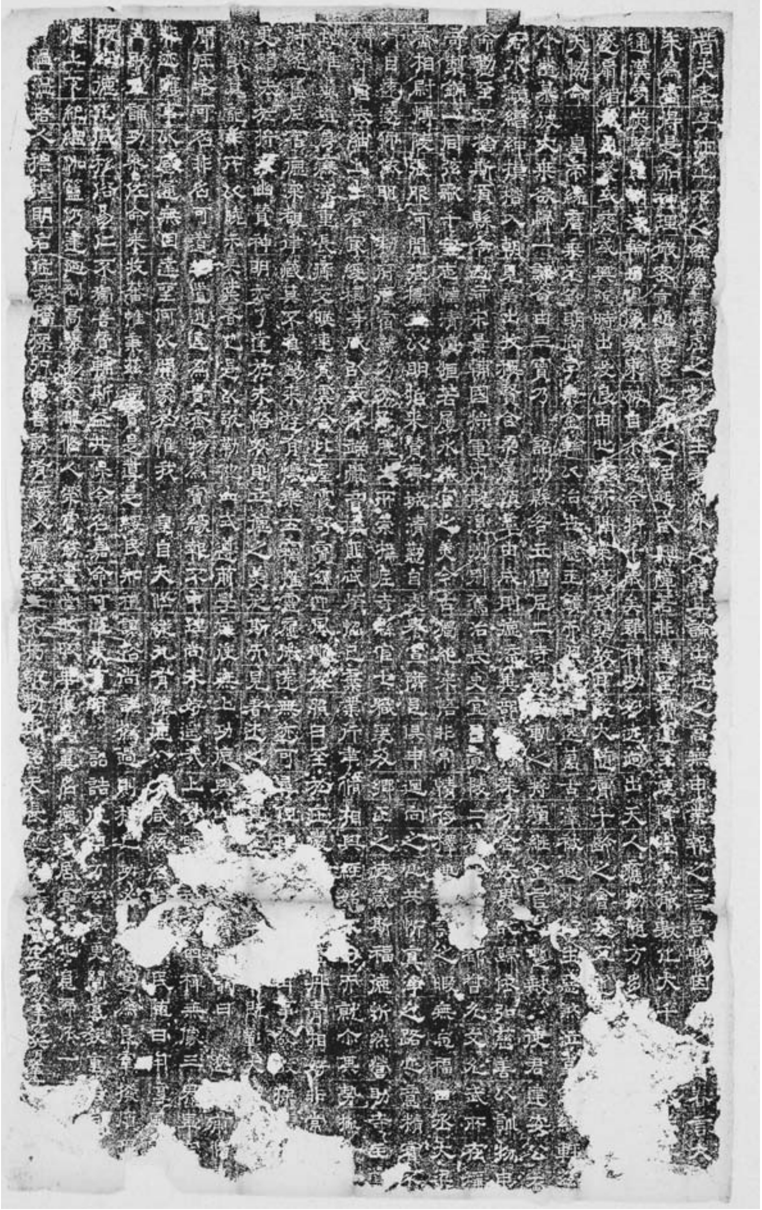
・洪頤煊『平津讀碑記』卷三

建安公搆尼寺銘。開皇十一年六月。右建安公搆尼寺銘、不知所在。文云、「我大隋膺千齡之會、處五運□□皇帝乃詔州縣各立僧尼二寺、使君建安公仰依明敕、乃於形勝之所、崇搆尼寺」。『隋書』高祖紀不載此詔、唯釋法琳『辨正論』奉佛篇載「隋高祖文皇帝開皇三年詔曰、『朕欽崇聖敎、念存神宇、其周朝所廢之寺、咸可修復』。京兆太守蘇威奉敕、於京城之內、選形勝之地、安置伽藍。於是合京城內、無論寬狹、有僧行處、皆許立寺」。所述頗與此碑相同。

・陸增祥『八瓊室金石補正』卷二五

碑在南宮縣、有篆額、有陰及兩側。『萃編』止載正、碑作「詔立僧尼二寺記」。孫氏『訪碑錄』及洪筠軒『讀碑記』竝作「建安公構尼寺銘」、均未詳所在。『訪碑錄』又有「南宮令宋君造像碑幷陰側。開皇十一年六月。直隸南宮」。按是碑額題「大隋南宮令宋君象碑」。碑文云、「大隋皇帝詔立僧尼二寺使君建安公、念法界以歸依、宏慈善以訓物、申命勲至、不捨斯須。縣令西河宋景、深悟非常、情存釋典、聽訟之暇、無忘福田。丞大梁齊相、尉博陵張服、河間張尌、仰依明敕、於形勝之所、崇搆尼寺。鄉正之徒忻然營助。寺主道辯、等覺法紬、上坐智寂・緩稱等、相與經始、不日而就」。碑陰列比邱尼道□等百二十人、次及鄉正、餘皆邑人。據此則寺爲縣令宋景率丞尉以下、依敕崇搆、故額題「宋君象碑」。其非建安公創搆、可知也。所搆爲尼寺、故碑陰有尼無僧、其非僧尼二寺、又可知也。正碑上截像、額在像之上、殆卽宋君歟。（以下略）

南宮令宋君像碑碑陽碑額佛龕（倉本尚徳撮影）



南宮令宋君像碑碑陽

曹子建碑（石刻拓本資料 ZUI0045X）

擔當　成田健太郎

【立碑時期】隋開皇十三年（五九三）刻。
【原石尺寸】通高二五七、幅一〇三、厚さ二一糎（篇末參考文獻の張弘・靳鶴亭氏論考による）。
【字　數】二二行、滿行四三字。
【原石所在地】山東省東阿縣曹植墓北側隋碑亭（現存）。

【拓　影】
『北京圖書館藏中國歷代石刻拓本匯編』第九册八九頁。
『書品』第一三四號、一九六二年（伏見冲敬釋）
『書跡名品叢刊』一三七、一九六九年（伏見冲敬釋）

（釋文篇）

【釋文收錄書　略稱】
居易＝王士禛『居易錄』卷二〇
縣志＝『（道光）東阿縣志』卷一九　藝文志五
全隋＝嚴可均『全隋文』卷二九
寫禮＝王頌蔚『寫禮廎讀碑記』（不分卷）
通志＝『（宣統）山東通志』卷一四九　藝文志一〇　石一
書品＝『書品』第一三四號、一九六二年（伏見冲敬釋）
名品＝『書跡名品叢刊』一三七、一九六九年（伏見冲敬釋）

【釋文】

01 王諱[1]植字子建沛國譙人也洪源與九泉競深崇□□□□比峻自權輿[2]□□□昌興焉其後[3]建國開基□□周[4]
02 室顯覇業於東邾彰茅封於譙邑瓊根寶葉蒔芳蘭如莫朽軒冕[5]相傳襲縉紳而不絕此乃備頌典册聊可梗槩
03 而言矣逮承相參迺成王室道勳隆重位登上宰受國平陽自[6]茲厥後鳴鸞佩玉飛蓋交映△祖嵩漢司隸太尉
04 公職掌三事從容論道美著阿衡之任不亦宜乎△父操魏太[7]祖武△皇帝資神龍虎剖判鬱以開基名頌識牒
05 謠畋眞人火運告終土德承曆爰據圖錄亭[8]有天下驟改質文馳還正朔英雄之氣[9]蓋有餘矣昆△丕魏高祖文
06 皇帝紹卽四海光澤五都負扆明堂朝宗萬國允文允武庶績咸熙正踐昇平時稱寧晏致黃龍表瑞驗兆漳濱
07 玉虎金雞恆綸宇縣[10]△王乃黃內通理愠淑唅英叡哲稟於自然博愍由於天縱佩金華以邁四氣抱玉操如忽
08 風霜綴贍藻於孩年攝酓什於孺歲尋聲制賦膺△詔題詩詞彩照灼子雲遙慙於吐鳳文華理富仲舒遠愧於
09 懷龍又能誦萬卷於三冬觀千言於壹見才比山藪思並江湖淸辭菀菀若叢葩之[11]蔚鄧林綠藻姸姸如河英之
10 照巨海武庫太官之譽握促之器者也但祿由德賞頻亭△皇爵建安十六年封平原侯十九年改封臨淄侯都
11 不以貴任爲懷直置淸雅自得常閑步文籍偃仰琴書朝覽百篇夕存吐握使高據擅名之士侍宴於西園振藻
12 獨[12]步之才陪遊於東閤△黃初二年奸臣謗奏遂貶爵爲安鄉侯三年進立爲△王□[13]京師面陳濫謗之罪△詔
13 令復國自以懷正信如見疑抱利器而無用每懷怨慨頻啓頻奏四年改封東□□五年以陳前四縣封復封爲
14 陳王以讒言數搆奸臣內興十一年裏頻三徙都汲汲無歡遂發憤而薨

時年卌□壹卽營墓魚山傍羊茂臺平

15 生遊陟有終焉之所既如年代夐遠兆塋崩[14]淪茂響英聲遠而不絕至十
弌世孫曹永洛等去齊朝△皇建二年

16 蒙前尊孝照△皇帝恢弘古典敬立二王崇奉三恪永洛等于時膺符表
貢面奉照△皇親訓聖△詔比經窮討皆

17 存實錄蒙△敕報允興復靈廟饋嗣烝嘗四時虔謁使恭恭嗣子得展衷
誠之願煢煢孝孫長畢昊天之慕遂雕

18 鏤眞容鐫金寫狀庶使卅二相度永劫而不泯七步文宗傳芳猷於萬葉
者也其詞粤△△惟□[15]磐石斯固締緒

19 攸長波連溟渤枝帶扶桑分珪作瑞建國開壃蕙樓菌閣遠邁靈光(其一)器
調高奇風革梳朗談人刮舌靈虵曜掌

20 東閤晨開西園夜賞松華桂茂玉閏金響(其二)聲馳天下道冠生民才驚曠
古德重千鈞混之不濁磨而不磷如何

21 壹旦萎我哲人(其三)山舟易失日車難駐。壹謝人間長遵埏路風哀松柏
墳穿狐兔何世何年還成七步(其四)迺考惟

22 昆廓定洪基受圖應曆運合紫微一辭皇闕永背象魏[16]□□日轉響逐雲
飛(其五)大隋開皇十三年歲次星紀□[17]

【校勘】

1 「諱」 左邊の「言」のみ確認できる。
2 「權」 左邊の「木」のみ確認できる。
3 「後」 左邊の「彳」のみ確認できる。
4 「□」 左邊の「日」のみ確認できる。
5 「冕」 不分明ながら諸家の釋に從う。
6 「自」 不分明ながら諸家の釋に從う。
7 「太」 不分明ながら諸家の釋に從う。
8 「亨」 ここでは「享」の意。以下同。
9 「氣」 篆文の「气」を獨特の形に作ったものと解される。
10 「縣」 上邊に「穴」を冠し、獨特の異體と解される。
11 「之」 不分明ながら諸家の釋に從う。
12 「獨」 左邊の「犭」のみ確認できる。
13 「□」／「詣」 居易／「及」 縣志。
14 「塋」 ここでは「塋」の意。
15 「□」／「王」 居易・縣志・全隋・寫禮・通志・書品・名品
16 「魏」 「鬼」の右下部のみ確認でき、通志はその部分のみ錄す。
17 「□」／「建」 書品・名品。あるいは「訖」か。通志は右邊の「攵」のみ錄し、またその下を「□」としてなお一字あるとする。

（譯注篇）

【原文】

王諱植、字子建、沛國譙人也①。洪源與九泉競深②、崇□□□□比峻、自權輿③□□□昌興焉。其後建國開基④、□□周室、顯覇業於東邾⑤、彰茅封於譙邑⑥。瓊根寶葉⑦、蒔芳蘭如莫朽⑧、軒冕相傳⑨、襲縉紳而不絕。此乃備頒典册⑩、聊可梗槩而言矣。逮承相參⑪、迺成王室、道勳隆重⑫、位登上宰⑬、受國平陽⑭。自茲厥後⑮、鳴鑾⑯佩玉、飛蓋⑰交映。

△祖嵩、漢司隷太尉公⑱。職掌三事⑲、從容論道⑳、美著阿衡之任㉑、不亦宜乎。△父操、魏太祖武△皇帝㉒。資神龍虎、剖判鬱以開基㉓、名頒識牒、謠敵眞人㉔。火運告終、土德承曆㉕、爰據圖錄、亨有天下。驟改質文、馳遷正朔。英雄之氣、蓋有餘矣。昆△丕、魏高祖文皇帝㉖。紹卽四海、光澤五都㉗、負扆㉘明堂、朝宗萬國。允文允武㉙、庶績咸熙㉚、正踐昇平㉛、時稱寧晏㉜、致黃龍表瑞㉝、驗兆漳濱、玉虎金雞㉞、恆綸宇縣㉟。

△王乃黃內通理㊱、慍淑唅英㊲、叡哲稟於自然㊳、博愍由於天縱㊴。佩

金華以邁四氣[40]、抱玉操[41]如忽風霜。綴贍藻[42]於孩年、攝酳什[43]於孺歲。尋聲[44]制賦、膺△詔題詩、詞彩照灼[45]、子雲遙慙於吐鳳[46]、文華理富、仲舒遠愧於懷龍[47]。又能誦萬卷於三冬[48]、觀千言於壹見。才比山藪、思並江湖[49]。清辭菀菀若叢葩之蔚鄧林[50]、緑藻妍妍如河英之照巨海。武庫太官之譽[51]、握促[52]之器者也。

但祿由德賞[53]、頻亭△皇爵。建安十六年封平原侯、十九年改封臨淄侯[54]。都不以貴任爲懷、直置清雅[55]自得、常閑步文籍、偃仰琴書、朝覽百篇、夕存吐握[56]。使高據擅名之士侍宴於西園、振藻獨步之才陪遊於東閤[57]。△黄初二年、奸臣謗奏、遂貶爵爲安鄉侯[58]。三年進立爲△王[59]、□京師面陳濫謗之罪、△詔令復國。自以懷正信如見疑、抱利器而無用、每懷怨慨、頻啓頻奏、四年改封東□□、五年以陳前四縣封、復封爲陳王[60]。以讒言數搆、奸臣內興、十一年裏頻三徙都、汲汲無歡、遂發憤而薨、時年卌□壹[61]。卽營墓魚山傍羊茂臺。平生遊陟、有終焉之所[62]。

既如年代夐遠、兆塋[63]崩淪、茂響英聲、遠而不絶、至十弌世孫曹永洛等。去齊朝△皇建二年、蒙前尊孝照△皇帝恢弘古典、敬立二王、崇奉三恪[64]。永洛等于時膺符表貢[65]、面奉照△皇、親訓聖△詔、比經窮討、皆存實錄。蒙△敕報允興復靈廟、饋嗣蒸嘗[66]、四時虔謁[67]、使恭恭嗣子得展衷誠之願、煢煢孝孫長畢昊天[68]之慕、遂雕鏤眞容、鐫金寫狀、庶使卅二相[69]度永劫而不泯、七步文宗傳芳猷於萬葉者也[70]。

其詞粵、△△惟□磐石斯固、締緒[71]攸長。波連溟渤[72]、枝帶扶桑。分珪作瑞[73]、建國開壃。蕙樓菌閣[74]、遠邁靈光[75]。其一。器調高奇、風革梳朗[76]。談人刮舌[77]、靈虵曜掌[78]。東閤晨開、西園夜賞[79]。松華桂茂、玉閏金響。其二。聲馳天下、道冠生民。才驚曠古、德重千鈞。混之不濁[80]、磨而不磷[81]。如何壹旦、萎我哲人[82]。其三。山舟易失、日車難駐。壹謝人間、長遵埏路[83]。風哀松柏、墳穿狐兔[84]。何世何年、還成七步。其四。迺考惟昆、廓定洪基。受圖應曆、運合紫微。一辭皇闕、永背象□。□□日轉、響逐雲飛。其五。大隋開皇十三年歲次星紀□。

【語注】

（1）**王諱植、字子建、沛國譙人也**＝『三國志』卷一九 魏書 陳思王植傳「陳思王植、字子建」。同卷一 魏書 武帝紀「太祖武皇帝、沛國譙人也」。

（2）**洪源與九泉競深**

・**洪源**＝［後漢］蔡邕「釋誨」（『後漢書』列傳五〇 蔡邕）「洪源辟而四隩集、武功定而干戈戢」。李賢注「謂禹理洪水而開道之」。

・**九泉**＝［西晉］潘岳「西征賦」（『文選』卷一〇）「貫三光而洞九泉、曾未足以喩其高下也」。

（3）**權輿**＝『毛詩』秦風 權輿「不承權輿」。毛傳「權輿、始也」。

（4）**建國開基**

・**建國**＝『三國志』卷一 魏書 武帝紀裴松之注引王沈『魏書』「其先出於黃帝。當高陽世、陸終之子曰安、是爲曹姓。周武王克殷、存先世之後、封曹俠於邾。春秋之世、與於盟會、逮至戰國、爲楚所滅。子孫分流、或家於沛。漢高祖之起、曹參以功封平陽侯、世襲爵土、絕而復紹、至今適嗣國於容城」。

・**開基**＝［南齊］王儉「褚淵碑文」（『文選』卷五八）「公諱淵、字彥回、河南陽翟人也。微子以至仁開基、宋段以功高命氏」。李善注「史記曰、微子開者、殷帝乙之首子、紂之庶兄。武王崩、成王幼、武庚作亂、成王命誅武庚、乃命微子開代殷、國於宋」。

（5）**霸業**＝『史記』卷一一〇 匈奴列傳「晉文公初立、欲修霸業、

乃興師伐逐戎翟、誅子帶、迎内周襄王、居于雒邑」。邾子の春秋時代に會盟に參加したことを誇張して言うか。

(6) **彰茅封於譙邑**

・**茅封**＝『史記』三王世家　廣陵王　褚少孫補「所謂『受此土』者、諸侯王始封者必受土於天子之社、歸立之以爲國社、以歳時祠之。……將封於東方者取青土、封於南方者取赤土、封於西方者取白土、封於北方者取黑土、封於上方者取黃土。各取其色物、裹以白茅、封以爲社」。

・**譙邑**＝譙は邾國の領域内になく、句意を詳らかにしない。

(7) **瓊根寶葉**＝［後漢］張衡「七辯」（『藝文類聚』卷五七）「然後擢雲舫、觀中流。搴芙蓉、集芳洲。縱文身、愽潛鱗。探水玉、拔瓊根」。［東晉］佛馱跋陀羅譯『大方廣佛華嚴經』「無量善根莊嚴道場、其菩提樹高顯殊特、清淨瑠璃以爲其幹、妙寶枝條莊嚴清淨、寶葉垂布猶如重雲」（大正九・三九五上）。［北周］保定四年（五六四）賀屯植墓誌（『北圖』第八册一一一頁）「瓊根盤鬱、歷千載而彌隆。寶葉駢羅、貫終古而獨茂」。

(8) **芳蘭**＝『三國志』卷四二　蜀書　張裕傳「諸葛亮表請其罪、先主答曰、『芳蘭生門、不得不鉏』。裕遂棄市」。

(9) **軒冕**＝［南齊］王儉「褚淵碑文」（『文選』卷五八）「自茲厥後、無替前規、建官惟賢、軒冕相襲」。李善注「管子曰、先王制軒冕、足以著貴賤」。

(10) **典册**＝『後漢書』列傳　儒林列傳六九「及董卓移都之際、吏民擾亂、自辟雍・東觀・蘭臺・石室・宣明・鴻都諸藏典策文章、競共剖散」。

(11) **承相參**＝『三國志』卷一　魏書　武帝紀「漢相國參之後」。

(12) **道勳**＝『宋書』卷二　武帝紀中　晉恭帝璽書「朕每敬惟道勳、永察符運、天之曆數、實在爾躬」。

(13) **位登上宰**＝『史記』卷二二　漢興以來將相名臣年表　孝惠二年「七月癸巳、齊相平陽侯曹參爲相國」。『宋書』卷七　前廢帝紀「凶慘難抑、一旦肆禍、遂縱戮上宰、殄害輔臣」。

(14) **受國平陽**＝『史記』卷五四　曹相國世家「以高祖六年賜爵列侯、與諸侯剖符、世世勿絕。食邑平陽萬六百三十戶、號曰平陽侯」。

(15) **自茲厥後**＝語注（9）を見よ。

(16) **鳴鑾**＝［後漢］班固「西都賦」（『文選』卷一）「大路鳴鑾、容與徘徊」。李善注「周禮曰、『巾車掌玉輅。凡馭輅儀、以鑾和爲節』。鄭玄曰、『鑾在衡、和在軾、皆以金鈴也』」。

(17) **飛蓋**＝曹植「公讌詩」（『文選』卷二〇）「公子敬愛客、終宴不知疲。清夜遊西園、飛蓋相追隨」。

(18) **祖嵩、漢司隸太尉公**＝『三國志』卷一　魏書　武帝紀「桓帝世、曹騰爲中常侍大長秋、封費亭侯。養子嵩嗣、官至太尉」。裴松之注引『續漢書』「嵩字巨高。質性敦愼、所在忠孝。爲司隸校尉、靈帝擢拜大司農・大鴻臚、代崔烈爲太尉」。『蔡中郎集』卷六「袁滿來碑銘」「茂德休行、曰袁滿來。太尉公之孫、司徒公之子」。

(19) **三事**＝『毛詩』小雅　雨無正「三事大夫、莫肯夙夜。邦君諸侯、莫肯朝夕」。鄭箋「王流在外、三公及諸侯隨王而行者、皆無君臣之禮、不肯晨夜朝暮省王也」。

(20) **從容論道**＝『孔叢子』卷九　孔通「左氏傳義詁序」「王莽之末、君魚避地至大河之西、依大將竇融爲家、常爲上賓、從容以論道爲事」。

(21) **美著阿衡之任**＝『晉書』卷一二四　載記　慕容盛「伊尹以舊臣之重、顯**阿衡之任**」

(22) **父操、魏太祖武皇帝**＝語注（1）を見よ。

(23) **剖判鬱以開基**

・**剖判**＝『漢書』卷一〇〇下　敍傳下「三代損益、降及秦漢、革剗五等、制立郡縣。略表山川、彰其**剖判**。述地理志第八」。

・**開基**＝語注（4）を見よ。

(24) **名頒讖牒、謠敞眞人**＝『三國志』卷二　魏書　文帝紀　延康元年引『獻帝傳』「辛亥、太史丞許芝條魏代漢見**讖**緯于魏王曰、……易運期**讖**曰、『言居東、西有午、兩日竝光日居下。其爲主、反爲輔。五八四十、黃氣受、**眞人**出』。言午、許字。兩日、昌字。漢當以許亡、魏當以許昌。今際會之期在許、是其大效也。易運期又曰『鬼在山、禾女連、王天下』」。同卷一　魏書　武帝紀「桓帝時有黃星見于楚・宋之分、遼東殷馗善天文、言後五十歲當有**眞人**起于梁・沛之閒、其鋒不可當。至是凡五十年、而公破紹、天下莫敵矣」。

(25) **火運告終、土德承曆**＝同前「辛酉、給事中博士蘇林・董巴上表曰、……舜以**土德**承堯之**火**、今魏亦以**土德**承漢之**火**、於行運、會于堯舜授受之次」。

(26) **昆丕、魏高祖文皇帝**＝『三國志』卷二　魏書　文帝紀「文皇帝諱**丕**、字子桓、武帝太子也」。同卷三　魏書　明帝紀　景初元年「有司奏、武皇帝撥亂反正、爲魏太祖、樂用武始之舞。**文皇帝**應天受命、爲魏**高祖**、樂用咸熙之舞」。

(27) **五都**＝『三國志』卷二　魏書　文帝紀　黃初二年引『魏略』「改長安・譙・許昌・鄴・洛陽爲**五都**」。

(28) **負扆**＝『禮記』明堂位「昔者周公朝諸侯于明堂之位、天子**負**斧**依**南鄉而立」。『史記』平津侯主父列傳「處尊安之實、揚名廣譽於當世、親天下而服四夷、餘恩遺德爲數世隆、南面**負扆**攝袂而揖王公、此陛下之所服也」。

(29) **允文允武**＝『毛詩』魯頌　泮水「穆穆魯侯、敬明其德。敬愼威儀、維民之則。**允文允武**、昭假烈祖。靡有不孝、自求伊祜」。

(30) **庶績咸熙**＝『尙書』虞書　堯典「允釐百工、**庶績咸熙**」。

(31) **昇平**＝『漢書』卷六七　梅福傳「使孝武皇帝聽用其計、**升平**可致」。張晏注「民有三年之儲曰升平。」

(32) **寧晏**＝『宋書』卷五　文帝紀「今氛祲祛蕩、宇內**寧晏**、旌賢弘化、於是乎始」。

(33) **黃龍表瑞**＝『三國志』卷二　魏書　文帝紀　延康元年「初、漢熹平五年、**黃龍**見譙、光祿大夫橋玄問太史令單颺、『此何祥也』。颺曰、『其國後當有王者興、不及五十年、亦當復見。天事恆象、此其應也』。內黃殷登默而記之。至四十五年、登尙在。三月、**黃龍**見譙、登聞之曰、『單颺之言、其驗茲乎』」。

(34) **玉虎金雞**＝不詳。漢魏交代時に現れた何らかの瑞祥を言うか。

(35) **宇縣**＝『史記』卷六　秦始皇本紀　始皇二十九年「登之罘、刻石。其辭曰、……大矣哉、**宇縣**之中、承順聖意」。裴駰集解「宇、宇宙。縣、赤縣」。

(36) **黃內通理**＝『周易』坤　文言傳「君子**黃中通理**、正位居體、美在其中、而暢於四支、發於事業、美之至也」。隋文帝楊堅の父の諱忠と同音の中を避ける。陳垣『史諱舉例』

卷二　避諱之種類　第十二避諱改常語例「隋開皇十三年東阿王廟碑、『黃中』作『黃內』、避隋諱」。

(37) **唅英**＝班固「西都賦」（『文選』卷一）「翡翠火齊、流耀**含英**」。同卷二九「古詩一十九首」之八「傷彼蕙蘭花、**含英**揚光輝」。

(38) **叡哲稟於自然**

・**叡哲**＝［後漢］張衡「東京賦」（『文選』卷三）「**睿哲**玄覽、都茲洛宮」。

・**稟於自然**＝『梁書』卷四八　儒林傳　范縝引「神滅論」「若陶甄**稟於自然**、森羅均於獨化、忽焉自有、怳爾而無、來也不禦、去也不追、乘夫天理、各安其性」。

(39) **博愍由於天縱**

・**博愍**＝『漢書』卷一一　哀帝紀贊「孝哀自爲藩王及充太子之宮、文辭**博敏**、幼有令聞」。顏師古注「博、廣也。敏、疾也。令、善也。聞、名也」。

・**天縱**＝『論語』子罕「子貢曰、夫子聖者與。何其多能也。子貢曰、固**天縱**之將聖、又多能也」。何晏集解「孔曰、言天固縱大聖之德、又使多能也」。

(40) **佩金華以邁四氣**

・**金華**＝曹植「七啓」（『文選』卷三四）「**金華**之舄、動趾遺光」。李善注「言以金華飾舄、故動足而有餘光也」。

・**四氣**＝曹植「朔風詩」（『文選』卷二九）「**四氣**代謝、懸景運周」。

(41) **玉操**＝［西晉］陸機「文賦」（『文選』卷一七）「彼瓊敷與**玉藻**、若中原之有菽」。李善注「瓊敷・**玉藻**、以喩文也」。

(42) **贍藻**＝『宋書』卷一〇〇　自序　沈璞「璞嘗作舊宮賦、久而未畢、（始興王）濬與璞疏曰、『卿常有速藻、舊宮何其淹耶、想行就耳』。璞因事陳答、辭義可觀。濬重教曰、『卿沈思淹日、向聊相敦問、還白斐然、遂兼紙翰。昔曹植有言、下筆成章、良謂逸才**贍藻**、誇其辭說、以今況之、方知其信』」。

(43) **酋什**＝［西晉］左思「吳都賦」（『文選』卷五）「烏滸狼腨、夫南西屠。儋耳黑齒之**酋**、金鄰象郡之渠」。劉淵林注「**酋**・渠、皆豪帥也」。［梁］任昉「奉答敕示七夕詩啓」（『文選』卷三九）「竊惟帝迹多緒、俯同不一。託情風**什**、希世罕工」。李善注「毛詩題曰、關雎之什」。

(44) **尋聲**＝『三國志』卷九　魏書　夏侯玄傳「令發之日、下之應也猶響**尋聲**耳」。

(45) **詞彩照灼**

・**詞彩**＝『宋書』卷七三　顏延之傳「延之與陳郡謝靈運俱以**詞彩**齊名、自潘岳・陸機之後、文士莫及也、江左稱顏謝焉」。

・**照灼**＝『梁書』卷七　皇后傳　太祖張皇后「后嘗於室內、忽見庭前昌蒲生花、光彩**照灼**、非世中所有」。

(46) **子雲遙慙於吐鳳**＝『西京雜記』卷二「雄著太玄經、夢**吐鳳**凰、集玄之上、頃而滅」。

(47) **仲舒遠愧於懷龍**＝同前「董仲舒夢蛟**龍入懷**、乃作春秋繁露詞」。

(48) **誦萬卷於三冬**＝『漢書』卷六五　東方朔傳「朔初來、上書曰、臣朔少失父母、長養兄嫂。年十三學書、**三冬**文史足用。十五學擊劍。十六學詩書、誦二十二萬言」。

(49) **才比山藪、思竝江湖**＝［西晉］潘岳「秋興賦」序（『文選』卷一三）「晉十有四年、余春秋三十有二、始見二毛。以太尉

掾兼虎賁中郎將、寓直于散騎之省。……僕野人也、偃息不過茅屋茂林之下、談話不過農夫田父之客、攝官承乏、猥廁朝列、夙興晏寢、匪遑底寧。譬猶池魚籠鳥、有**江湖山藪**之思、於是染翰操紙、慨然而賦」。

（50）**清辭菀菀若叢葩之蔚鄧林**

・**清辭**＝［後漢］陳琳「答東阿王牋」（『文選』卷四〇）「琳死罪死罪。昨加恩辱命、幷示龜賦、披覽粲然。……音義既遠、**清辭**妙句、焱絶煥炳、譬猶飛兔流星、超山越海、龍驥所不敢追」。

・**叢葩之蔚鄧林**＝［後漢］張衡「西京賦」（『文選』卷二）「嘉卉灌**叢**、**蔚若鄧林**。鬱蓊薆薱、橚爽櫹槮。吐**葩**颺榮、布葉垂陰」。薛綜注「灌叢・蔚若、皆盛貌也」。李善注「山海經曰、夸父與日競走、渴飲河渭、不足、北飲大澤、未至、道渴死、棄其杖、化爲鄧林」。薛綜注「葩、華也」。

（51）**武庫太官之譽**

・**武庫**＝『晉書』卷三四　杜預傳「預在内七年、損益萬機、不可勝數、朝野稱美、號曰杜**武庫**、言其無所不有也」。

・**太官**＝『三國志』卷二三　魏書　裴潛傳裴松之注「司隸鍾繇不好公羊而好左氏、謂左氏爲**太官**、而謂公羊爲賣餠家、故數與（嚴）幹共辯析長短」。

（52）**握促**＝『史記』卷三三　魯周公世家「周公戒伯禽曰、……我一沐三**捉**髮、一飯三吐哺、起以待士、猶恐失天下之賢人」。『韓詩外傳』卷三「成王封伯禽於魯、周公誡之曰、……一沐三**握**髮、一飯三吐哺、猶恐失天下之士」。

（53）**祿由德賞**＝『左傳』昭公年元年傳「底**祿**以**德**、德鈞以年、年同以尊」。

（54）**建安十六年封平原侯、十九年改封臨淄侯**＝『三國志』卷一九　魏書　陳思王植傳「**建安十六年**、**封平原侯**。**十九年**、徙**封臨菑侯**」。

（55）**清雅**＝『三國志』卷二二　魏書　徐宣傳「中領軍桓範薦宣曰、……竊見尚書徐宣、體忠厚之行、秉直亮之性、**清雅**特立、不拘世俗」。

（56）**吐握**＝［前漢］王褒「聖主得賢臣頌」（『文選』卷四七）「昔周公躬**吐握**之勞、故有圄空之隆。齊桓設庭燎之禮、故有匡合之功」。語注（51）も見よ。

（57）**使高據擅名之士侍宴於西園、振藻獨步之才陪遊於東閣**＝曹植「與楊德祖書」（『文選』卷四二）「昔仲宣**獨步**於漢南、孔璋鷹揚於河朔、偉長**擅名**於青土、公幹**振藻**於海隅、德璉發跡於此魏、足下高視於上京」。曹丕「戒盈賦」序（『藝文類聚』卷二三）「避暑**東閣**、延賓高會、酒酣樂作、悵然懷盈滿之戒、乃作斯賦」。「西園」について語注（17）も參照。

（58）**黃初二年、奸臣謗奏、遂貶爵爲安鄉侯**＝『三國志』卷一九　魏書　陳思王植傳「**黃初二年**、監國謁者灌均希指、奏『植醉酒悖慢、劫脅使者』。有司請治罪、帝以太后故、**貶爵安鄉侯**」。

（59）**三年進立爲王**＝同前「**三年**、**立爲**鄄城**王**、邑二千五百戶」。

（60）**□京師面陳濫謗之罪、詔令復國。自以懷正信如見疑、抱利器而無用、每懷怨慨、頻啓頻奏、四年改封東□□、五年以陳前四縣封、復封爲陳王**＝同前「四年、徙封雍丘王。其年、朝京都。上疏曰、『……』。帝嘉其辭義、優詔答勉之。六年、帝東征、還過雍丘、幸植宮、增戶五百。太和元年、

徙封浚儀。二年、復還雍丘。植常自憤怨、抱利器而無所施、上疏求自試曰、『……』。三年、徙封東阿。五年、復上疏求存問親戚、因致其意曰、『……』。……植復上疏陳審擧之義、曰、『……』。帝輒優文答報。其年冬、詔諸王朝六年正月。其二月、**以陳四縣封植爲陳王**、邑三千五百戶」。よって「□京師」は「京師へ行く」というような文意であると思われ、そのように補って譯した。また「□□」には「阿王」が入るはずであり、譯に補った。

(61) **以讒言數構、奸臣內興、十一年裏頻三徙都、汲汲無歡、遂發憤而薨、時年卌□壹**＝同前「植每欲求別見獨談、論及時政、幸冀試用、終不能得。既還、悵然絕望。時法制、待藩國既自峻迫、寮屬皆賈豎下才、兵人給其殘老、大數不過二百人。又植以前過、事事復減半、**十一年中而三徙都**、常**汲汲無歡**、**遂發疾薨**、**時年四十一**」。よって「□」には「有」が入るはずである。

(62) **營墓魚山傍羊茂臺。平生遊陟、有終焉之所**＝同前「初、植登**魚山**、臨東阿、喟然**有終焉之心**。遂營爲墓」。劉玉新「山東省東阿縣曹植墓的發掘」(『華夏考古』一九九九年第一期)によれば、曹植墓より出土した磚に「太和七年三月一日壬戌朔十五日丙午兗州刺史侯昶遣士朱周等二百人作畢陳王陵」云々と記されている。

(63) **兆瑩**＝『宋書』卷八九 袁粲傳「前年改葬、**瑩兆**未修」。

(64) **敬立二王、崇奉三恪**＝『北齊書』卷六 孝昭帝紀 皇建元年八月「甲午、詔曰、『昔武王剋殷、先封兩代、漢魏二晉、無廢茲典。及元氏統歷、不率舊章。朕纂承大業、思弘古典、但**二王三恪**、舊說不同、可議定是非、列名條奏。其禮儀體式亦仰議之』」。同卷三七 魏收傳「於時詔議**二王三恪**、收執王肅・杜預義、以元・司馬氏爲**二王**、通曹備**三恪**。詔諸禮學之官、皆執鄭玄五代之議。孝昭后姓元、議恪不欲廣及、故議從收」。二王三恪の制については『通典』卷七四「二王三恪後」も參照。

(65) **表貢**＝『魏書』卷六五 邢巒傳「巒少而好學、負帙尋師、家貧厲節、遂博覽書傳。……州郡**表貢**、拜中書博士」。

(66) **饋祠蒸嘗**＝『周禮』春官宗伯 大宗伯「以**饋**食享先王、以祠春享先王、以禴夏享先王、以**嘗**秋享先王、以烝冬享先王」。

(67) **虔謁**＝『南齊書』禮志上「永泰元年、有司議應廟見不。尙書令徐孝嗣議、嗣君卽位、竝無廟見之文、蕃支纂業、乃有**虔謁**之禮」。

(68) **昊天**＝『毛詩』小雅 蓼莪「欲報之德、**昊天**罔極」。曹植「責躬詩」(『文選』卷二〇)「**昊天**罔極、生命不圖」。

(69) **卅二相**＝[三國吳] 支謙譯『太子瑞應本起經』「到四月八日夜明星出時、化從右脇生墮地、卽行七步、擧右手住而言、天上天下、唯我爲尊。三界皆苦、何可樂者。是時天地大動、宮中盡明。梵釋神天、皆下於空中侍。四天王接置金机上、以天香湯、浴太子身。身黃金色、有**三十二相**」(大正三・四七三下)。『隋書』卷三五 經籍志四「西域天竺之迦維衞國淨飯王太子釋迦牟尼所說。釋迦當周莊王之九年四月八日、自母右脅而生、姿貌奇異、有**三十二相**、八十二好」。

(70) **七步文宗傳芳猷於萬葉者也**

・**七步文宗**＝『世說新語』文學「文帝嘗令東阿王**七步**中作詩、

不成者行大法。應聲便爲詩曰、煮豆持作羹、漉菽以爲汁。萁在釜下然、豆在釜中泣。本自同根生、相煎何太急」。

・**芳猷**＝沈約「齊故安陸昭王碑文」（『文選』卷五九）「東首塋園、卽宮長夜。逝川無待、黄金難化。鍾石徒刊、芳猷永謝」。

(71) **締緒**＝『晉書』卷六八 紀瞻傳「陛下身當厄運、纂承帝緒、顧望宗室、誰復與讓」。

(72) **溟渤**＝『周書』卷四一 庾信傳論「唯王褒、庾信奇才秀出、牢籠於一代。是時、世宗雅詞雲委、滕趙二王雕章開發。咸築宮虛館、有如布衣之交。由是朝廷之人、閭閻之士、莫不忘味於遺韻、眩精於末光。猶丘陵之仰嵩岱、川流之宗溟渤也」。

(73) **分珪作瑞**＝張衡「應閒」（『後漢書』列傳四九 張衡傳）「申伯・樊仲、實幹周邦、服衮而朝、介圭作瑞」。李賢注「申伯、中國之伯也。樊仲、仲山甫也、爲樊侯。竝周宣王之卿士。詩大雅（崧高）曰、維申及甫、維周之翰。注、翰、幹也。服衮謂申伯爲冢宰、服衮冕之服也。又曰、錫爾介圭、以作爾寶。注云、寶、瑞也。圭長尺二寸謂之介也」。

(74) **蕙樓菌閣**＝『楚辭』王褒「九懷」匡機「芷閭兮葯房、奮搖兮衆芳。菌閣兮蕙樓、觀道兮從橫」。

(75) **靈光**＝『文選』卷一一に［後漢］王延壽「魯靈光殿賦」を收める。

(76) **梳朗**＝『三國志』卷一二 魏書 崔琰傳「琰聲姿高暢、眉目疏朗、鬚長四尺、甚有威重、朝士瞻望、而太祖亦敬憚焉」。

(77) **刮舌**＝「括舌」に通ずるか（王昶の說）。

(78) **靈虵曜掌**＝曹植「與楊德祖書」（『文選』卷四二）「人人自謂握靈蛇之珠、家家自謂抱荊山之玉」。

(79) **東閤晨開、西園夜賞**＝語注(57)を見よ。

(80) **混之不濁**＝張衡「髑髏賦」（『藝文類聚』卷一七）「合體自然、無情無欲。澄之不淸、渾之不濁。不行而至、不疾而速」。

(81) **磨而不磷**＝『論語』陽貨「子曰、不曰堅乎、磨而不磷、不曰白乎、涅而不緇」。

(82) **萎我哲人**＝『禮記』檀弓上「孔子蚤作、負手曳杖、消搖於門、歌曰、『泰山其頹乎。梁木其壞乎。哲人其萎乎』」。

(83) **壹謝人間、長違埏路**＝［西晉］竺法護譯『分別經』「一失人本、難有復時、佛世難値、經法難聞」（大正一七・五四二下）。［後秦］竺佛念譯『菩薩從兜術天降神母胎說廣普經』「人一失命根、億劫復難是。海水深廣大、三百三十六、一針投海中、求之尙可得。一失人身命、難得過於是。奉律持戒人、處世難可値、於億千萬劫、佛如優曇花」（大正一二・一〇四七中）。［北涼］曇無讖譯『大般涅槃經』「諸比丘、佛出世難、人身難得。値佛生信、是事亦難」（大正一二・三七六中）。『廣弘明集』卷二七 ［唐］道宣「統略淨住子淨行法門」（［南齊］蕭子良「淨住子」二十卷の節略本）「佛言、人身難得、一失不返」（大正五二・三一六中）。顏之推『顏氏家訓』歸信「人身難得、勿虛過也」。

(84) **墳穿狐兔**＝［西晉］張載「七哀詩」二首之一李善注引『桓子新論』（『文選』卷二三）「臣竊悲千秋萬歲後、墳墓生荊棘、狐兔穴其中、樵兒牧豎躑躅而歌其上、行人見之悽愴」。

【**訓讀**】王は諱植、字子建、沛國譙の人なり。洪源は九泉と深さを競い、崇□は□□峻(たか)さを比べ、自權輿□□□昌興焉。其の後國を建てて基を開き、□□周室、覇業を東邾に顯し、茅封を譙邑に彰ら

かにす。瓊根寶葉、芳蘭を蒔えて朽つること莫く、軒冕相傳え、縉紳を襲ぎて絶えず。此に乃ち備に典册に頒かたれ、聊か梗槩して言うべし。承相參に逮びて、迺ち王室を成し、道勳隆重にして、位上宰に登り、國を平陽に受く。茲より厥の後、鸞を鳴らし玉を佩び、飛蓋交ごも映ゆ。

祖嵩は、漢の司隷・太尉公。三事を職掌し、従容として道を論じ、美は阿衡の任を著す、亦た宜ならずや。父操は、魏の太祖武皇帝。神を龍虎に資り、剖判して鬱として以て基を開き、名は讖牒に頒かたれ、謠は眞人を敞む。火運終わりを告げ、土德曆を承ぎ、爰に圖錄に據りて、天下を亨有す。驟かに質文を改め、馳せて正朔を遷す。英雄の氣、蓋し餘り有り。昆丕は、魏の高祖文皇帝。紹ぎて四海に卽き、五都を光澤せしめ、扆を明堂に負い、萬國を朝宗せしむ。允に文允に武、庶績咸な熙まる。正に昇平を踐み、時に寧晏を稱せられ、黃龍瑞を表し、兆を漳濱に驗し、玉虎金雞、恆に宇縣を綸むを致す。

王乃ち黃內理に通じ、淑を慍みて英を唅み、叡哲は自然に稟け、博愍は天縱に由る。金華を佩びて以て四氣を邁め、玉操を抱きて風霜を忽せにす。瞻藻を孩年に綴り、啻什を孺歲に攝る。聲に尋ぎて賦を制り、詔を膺けて詩を題し、詞彩は照灼として、子雲も遙かに鳳を吐くに慙じ、文は華やぎ理は富み、仲舒も遠く龍を懷くに愧ず。又能く萬卷を三冬に誦んじ、千言を壹見に觀る。才は山藪に比び、思は江湖に竝ぶ。清辭は菀菀として叢葩の鄧林に蔚たるが若く、綠藻は妍妍として河英の巨海に照るが如し。武庫太官の譽れ、握促の器なり。

但だ祿は德に由り賞せられ、頻りに皇に爵を亨く。建安十六年平原侯に封ぜられ、十九年改めて臨淄侯に封ぜらる。都て貴任を以て懷と爲さず、直だ清雅に置きて自ら得、常に閑かに文籍に歩み、琴書に偃仰し、朝に百篇を覽、夕に吐握を存う。高據擅名の士をして西園に侍宴せしめ、振藻獨步の才をして東閤に陪遊せしむ。黃初二年、奸臣謗奏し、遂に爵を貶して安鄉侯と爲す。三年進みて立てられて王と爲り、□京師濫謗の罪を面陳し、詔して國を復せしむ。自ら以うに正信を懷きて疑われ、利器を抱きて用いらるること無く、毎に怨慨を懷き、頻りに啓し頻りに奏し、四年改めて東□□に封ぜられ、五年陳の前四縣を以て封ぜられ、復た封ぜられて陳王と爲る。讒言數しば搆え、奸臣內に興るを以て、十一年の裏に頻三都を徙され、汲汲として歡ぶこと無く、遂に憤りを發して薨ず、時に年卌□壹。卽ち墓を魚山の傍の羊茂臺に營む。平生遊陟し、終焉有るの所なり。

既にして年代夐遠にして、兆塋崩淪すれども、茂響英聲、遠くして絶えず、十弌世の孫曹永洛等に至る。去る齊朝の皇建二年、前尊孝照皇帝の古典を恢弘し、二王を敬立し、三恪を崇奉するを蒙る。永洛等時に符を膺けて表貢し、照皇に面奉し、親しく聖詔に訓い、經を比べて窮討し、皆實錄に存す。敕して靈廟を興復し、饋嗣蒸嘗し、四時虔謁するを報允し、恭恭たる嗣子をして衷誠の願を展ぶるを得しめ、煢煢たる孝孫をして長く昊天の慕を畢えしむるを蒙り、遂に眞容を雕鏤し、金を鐫りて狀を寫し、卅二相をして永劫を度して泯びず、七步の文宗をして芳猷を萬葉に傳えんことを庶う者なり。

其詞に粤く、惟れ□磐石斯れ固く、締緒の長くする攸。波溟渤に連なり、枝扶桑に帶ぶ。珪を分ちて瑞を作し、國を建てて壃を開く。蕙樓菌閣、遠く靈光に邁ぐ。其の一。器調高奇にして、風革梳朗なり。談人舌を刮し、靈虵掌に曜く。東閤晨に開き、西園夜に賞す。松華やぎ桂茂り、玉閏い金響く。其の二。聲天下に馳せ、道生民に冠たり。才曠古に驚たり、德重きこと千鈞。之を混ずれども濁らず、磨すれども磷ろがず。如何ぞ壹旦にして、我が哲人萎む。

其の三。山舟は失い易く、日車は駐め難し。壹たび人間を謝し、長えに埏路に遵う。風松柏に哀しく、墳狐兎に穿たる。何れの世何れの年に、還た七歩を成す。其の四。迺が考惟れ昆、洪基を廓定す。圖を受け曆に應じ、運紫微に合す。一たび皇闕を辭し、永く象□に背く。□□日轉じ、響きは雲を逐いて飛ぶ。其の五。大隋開皇十三年歳次星紀□。

【現代語譯】王は諱を植、字を子建といい、沛國譙縣の人である。その一族の大いなる源は黄泉と競わんばかりに深く、……高さを比べ……周室……。その後諸侯として國を建てて基礎を築き、……東方の邾において覇業を顯著に示し、譙の地に封建されたことを明らかに示した。玉の根と寶の葉は、かぐわしい香草を盡きることなく芽吹かせ、貴人の乘る車とかぶる冠は傳承されて、官人を絶えることなく輩出した。これらはことごとく典籍に記録されているから、そのあらましだけ言って濟ませてもよかろう。丞相の參は、漢の王室を成立させ、その道德と勳功は立派で、位は宰相に昇り、封國として平陽を賜った。これより以後、一族は馬車の鈴の音を響かせ玉を身につけ、あまたの車蓋が高く照り映えた。

祖父の嵩は、漢の司隸校尉・太尉公である。三公の職務を司り、ゆったりと政道を議論して、その美名を阿衡の任と稱されるほど顯著にしたのは、當然ではないか。父の操は、魏の太祖武皇帝である。龍虎のごとき神威によって、地を分かって盛んに國の礎を築き、その名が讖緯に記され、眞人の到來を豫言する謠言が廣められた。火德の漢朝の命運は盡き、土德の魏朝が繼いで立ち、豫言を記録した圖書に呼應するがごとく、天下を領有した。そしてにわかに風俗の質實と文華を一變させ、たちどころに正朔を變更した。英雄の氣が有り餘っていたのである。兄の丕は、魏の高祖文皇帝である。王業を繼いで全土に君臨し、五都をきらめかせ、明堂にて南面し、萬國の君主から朝見を受けた。文と武を兼ね備え、あまたの治績が立派になしとげられた。まさに太平の道を歩み、いつも安寧を稱揚されたので、黄龍の瑞祥が現れ、漳水に面する鄴で瑞兆が確かめられ、玉虎と金鷄を擁する魏朝の威光はつねに全土を覆った。

王は世界の中央にあって道理に通じ、貞淑と英氣を含みもち、その叡智明哲は自然のうちに受け、博雅さ鋭敏さは天から賦與された。外に金華のごとき英姿を帶びては四季をめぐらせ、内に玉藻のごとき能才を藏しては風霜を無みした。豊かな文藻を幼年より綴り、傑出した詩篇を年少より制作した。響き返してくる音のような速さで賦を作り、詔を受けて詩を詠んでは、その表現の文彩が光り輝いて、『太玄經』を著して夢で鳳凰を吐き出したという揚雄もはるかに及ばず、その文辭が華麗かつ事理が豊富で、『春秋繁露』を作って夢で蛟龍を懷中に入れたという董仲舒も遠く及ばない。さらに三冬にして萬卷を諳んじ、一瞥にして千言の文を讀み取った。その能才は山澤にも比肩し、胸懷は江湖にも等しい。清澄な言辭は鄧林に群れ咲く花のように盛んに連なり、綠なす文藻は大海に照り映える黄河の花ぶさのように美麗である。杜預の注した『左傳』に記されるような譽れがあり、また聖王が洗髮を中斷して迎えるに足る大器である。

ただ俸祿が德にしたがって賞賜され、しばしば皇帝から封爵を受けた。建安十六年に平原侯に封建され、十九年に臨淄侯に改封された。そのいずこにあっても高貴な地位を本懷とせず、清靜高雅の境に身を置いて自ら安んじ、いつも落ち着いて典籍に親しみ、琴や書物を樂しみ、朝に百篇讀んだかと思えば、夕には賢人を出迎えた。

高名の士人を西の庭園での宴に侍従させ、獨歩の才人を東の樓閣での遊びに陪席させた。黃初二年、奸臣による誹謗が上奏され、爵位を安鄉侯に貶された。三年に位を進めて王に立てられ、都に赴いて皇帝の面前で（奸臣の）濫りに誹謗した罪を陳述し、封國を回復する詔敕が出された。自分は正しい信義を持しているのに疑惑を向けられ、利器を抱いているのに用いられていないと考え、しばしば怨みを抱き、頻りに意見を啓上し奏上し、四年に東阿王に改封され、五年に陳の前四縣に封建され、また陳王に封建された。讒言がしばしば行われ、奸臣が宮廷で勢力を伸ばしていたために、十一年間のうちに再三轉封され、心安からず不愉快となり、やがて憤りのうちに薨去したのである、時に四十一歳。そこで墳墓を（東阿郊外の）魚山の傍らの羊茂臺に造營した。かつて遊歷して、終焉の志を得た場所だからである。

そしてあまたの年月が過ぎ、陵墓は崩れたけれども、曹氏のりっぱな名聲は永く絶えることなく、十一世の孫の曹永洛らに至った。前朝北齊の皇建二年（五六一）、さきの孝昭大帝が古の典禮を振興し、前三朝の君主の後裔を封建し崇敬するという光榮に浴した。永洛らはそのとき下令を受けて都へ上り、孝昭帝に謁見して、直接帝の言葉に回答し（彼らが封建されるべき曹氏の後裔である證據を陳述し）、その內容が朝廷の書物を引きくらべて（眞であると）檢證されたのであり、このことはみな曹氏の實錄に保存されている。靈廟を再建し、先王としての祭祀を行い、時節ごとに拜謁することが敕令によって許可され、うやうやしい世繼ぎのまごころを捧げたいという願いが實現され、孤獨に孝を盡くす子孫の天空に對するがごとき敬慕がいつまでも遂げられることになったので、その眞容を彫刻し、金屬を鐫刻して姿を寫しとり、その三十二相が永劫にわたって滅びず、七步詩で知られる文學の宗師がそのかぐわしき德を萬世の後まで傳えるように祈念する。

その詞にいう。……磐石のように固く、帝王の家系は長く續いている。波は大海にまで連なり、枝は扶桑にまで及ぶ。圭を分與して寶とし、國を建て疆域を開いた。かぐわしくりっぱな樓閣は、魯の靈光殿にもはるかに勝った。以上その一。才器と氣質が高邁非凡で、風格は清朗。談議する者は舌を巻き、靈蛇の珠は掌上にきらめく。東閤は朝に宴を張り、西園で夜に遊覽する。松が伸び桂が茂って、玉器が潤い金屬器が鳴り響く。以上その二。名聲は天下にとどろき、道義は人々のなかでも一等優れる。才は古今に超絕し、德には千鈞の重みがある。かき混ぜても濁らず、研磨しても薄くならない。どうして一朝にして、我らが哲人は萎んでしまわれたのか。以上その三。山の舟は失いやすく、往く日輪をとどめおくことはできない。ひとたびこの人間の世を去ったら、墓道に長いあいだ留まるほかはない。松柏に風がもの悲しく吹きつけ、墳墓は狐兎に巣くわれている。いつの時代に、また七步の詩を賦することがあろうか。以上その四。なんじの父と兄は、大いなる基を平らげ定めた。圖籙を受けて天命に應じ、天のめぐりは帝位に相應する紫微垣に合致した。ひとたび皇宮から辭して去り、永遠に……。……響きは雲と同じ高さまで屆く。以上その五。大隋開皇十三年歲次星紀（丑年）……。

【主要著錄跋文】

・王士禛『居易錄』卷二〇（『金石萃編』にも引用）

東阿縣魚山陳思王墓道有隋碑、書法雜用篆隸八分甚古。今畧具可辨、識者載於此。

此碑文不極工、考歐『集古錄』、趙『金石錄』及近代『金薤琳琅』、

『石墨鐫華』、『金石志』俱及載。

・錢大昕『潛研堂金石文跋尾』卷三（『金石萃編』にも引用）

右東阿王廟碑、敍子建封爵與史多同。惟本傳云黄初二年貶爵安鄉侯、其年改封鄄城侯、三年立爲鄄城王、四年徙封雍邱王、太和元年徙封浚儀、二年復還雍邱、三年徙封東阿、六年二月封爲陳王。碑于於黄初三年之下云四年改封東阿王、則誤以太和之四年爲黄初之四年。又中脫封鄄城、浚儀、雍邱諸事耳。傳稱薨時年四十一、碑作三十一。又按傳、建安十九年太祖征孫權、使植留守鄴、戒之曰、我吾昔爲頓邱令、年二十三、思此時所行無悔。於今汝年亦二十三矣。『通鑑考異』引此文云、植今年年二十三、則死時當年四十一矣。本傳云三十一、誤也。今讀此碑、則知隋以前其本已誤、故碑亦承其誤。而今本乃作四十一者、後人因溫公之言追正之耳。碑文云、父操、魏太祖武皇帝、昆丕、魏高祖文皇帝、於父字上空一字、武皇皇字上空一字、丕字上空一字。碑又稱齊孝昭皇帝、皇字上空一字。至皇建二年係年號、不應空格、亦空一字。蓋書碑之人不學無術、故有此失也。文稱齊朝皇建二年、蒙前尊孝昭皇帝恢宏古典、敬立二王、崇奉三恪、據『北齊書』在皇建元年八月、未知孰是。碑書黄書爲黄內、避隋諱。又以博愍爲博敏、既如爲既而、兆瑩爲兆塋、玉閏爲玉潤。又書其詞粵、以粵爲曰、與太公碑正同。銘詞四章、章皆八句、獨首章多惟王二字。王阮亭居易錄載此文、疑惟王之上尙有缺文、乃於其詞下空六格、又不知粵與曰通、而以粵接惟王爲句、皆謬也。

・武億『授堂金石文字續跋』卷二（『金石萃編』にも引用）

碑前序子建封爵、頻三徙都、蓋依魏志爲文。後又稱十一世孫曹永洛等齊朝皇建二年蒙□尊孝昭皇帝恢宏古典、敬立二王、崇奉三恪、永洛等於時膺符表貢、面奉昭皇、親承聖詔、蒙敕報允、興復靈廟、雕鏤眞容。其記子建廟祀所起如此。『北齊書』孝昭紀皇建元年詔、「昔武王克殷、先封兩代、漢魏二晉、不廢茲典。及元氏統歷、不率舊章。朕纂奉大業、思宏古典。其禮儀體式、亦仰議之」。今碑所稱、卽指其事。但以爲皇建二年者、下詔在元年八月、議定施行、當爲二年、各從其實書之也。曹魏系出自虞、故以曹氏備三恪之一。當時光復古制、史文不悉載、賴此以知其槩。古刻流傳、何可沒哉。碑云黄內通理、及懷正信如見疑者、皆避中字、如見疑者、如與而通也。

・嚴可均『全隋文』卷二九

・阮元『山左金石志』卷一〇（『金石萃編』にも引用）

右碑有額無題。字似有畫象、已不能辨。碑文凡二十二行、行四十三字。體兼篆隷。其中增損假借之字、已載錢辛楣少詹金石跋尾。尙有未及者、如茅封作芧封、典册作典冊、丞相作承相、宇縣作宇䌛、蘊淋含英作慍淑唅英、西園作西薗、讒言作[illegible]言、風格疎朗作風革梳朗、皆是也。

・王昶『金石萃編』卷三九　隋二

碑高七尺、廣四八二寸五分。二十二行、行四十三字。隷書。今在東阿縣陳思王墓旁。

按、魚山在東阿縣大清河西岸、東阿縣志稱卽漢武帝所塞決河、歌瓠子者也。史記武帝紀、天子禱萬里沙、過祠泰山、還至瓠子、自臨塞決河。又武帝瓠子歌云、瓠子決兮將奈何、皓皓旰旰兮閭殫爲河。當卽此魚山下之大清河也。志又稱山有東阿王墓、其下有廟、而不言廟

中有碑。蓋志之疎也。碑敍植先世云、祖嵩司隸太尉公、職掌三事、從容論道、美著阿衡之任、不亦宜乎。而不詳嵩之所自出。蓋爲陳思諱也。三國魏書武帝紀亦云、桓帝世曹騰爲中常侍大長秋、封費亭侯。養子嵩嗣、官至太尉。莫能審其生出本末、蓋已先爲武帝諱也。注引續漢書曰、嵩字巨高、靈帝時代崔烈爲太尉。吳人作曹瞞傳及郭班世語竝云、嵩夏侯氏之子、夏侯惇之叔父、太祖於惇爲從父兄弟也。是嵩之本姓爲夏侯氏矣。碑敍嵩事、直接丞相參、略去常侍騰、其爲陳思諱者更分明也。東阿王薨、年實四十一、碑書作卌有一。今搨本卌字右一豎已泐微存、其蹟作卅形。有字全泐。壹字尙存末筆 ㅛ、當諦視始辨之。其詞粵之下、碑只空二字。居易錄云空六格者、必是當時所見衰本、遂誤認以粵惟王三字爲銘詞、上有闕文、因上空六格、以足二句也。如讀爲而、不特既如爲既而、蒔芳蘭如莫朽、抱玉操如忽風霜、懷正信如見疑、如字皆當讀作而也。談人刮舌、疑卽括囊之義、以刮爲括也。攝酓什於孺歲、握促之器者也、酓什、握促二義未詳。

・『(道光）東阿縣志』卷一九　藝文志五

・王頌蔚『寫禮廎讀碑記』（不分卷）

是碑錢潛研攷釋極詳。惟錢云、傳薨時年四十一、碑作三十一。今諦觀視碑文、自作卌、不作卅。錢讀蓋誤。又案、傳植封陳王在太和六年二月、而碑作五年、亦屬違戾。攷明帝紀、太和六年二月有改封諸侯王以郡爲國之詔、據改封彭城、宇改封燕、林改封沛、袞改封中山、峻改封陳留、幹改封趙、彪改封魯陽、皆六年事。足證碑作五年之謬。錢歷糾碑之誤、而此條未舉、亦其疏也。碑改黃中爲黃內、忠信爲正信、皆避隋諱。而衷誠之衷獨不避、殊不可解。其云蒔芳蘭如莫朽、懷正信如見疑、既如年代敻遠、皆以如爲而。如而古通用也。文內庶使世二相度、山左金石志世字闕、二誤一。波連溟渤、山左金石志及萃編溟字竝闕。

・『(宣統）山東通志』卷一四九　藝文志一〇　石一

曹子建碑（魏廣平氏提供）

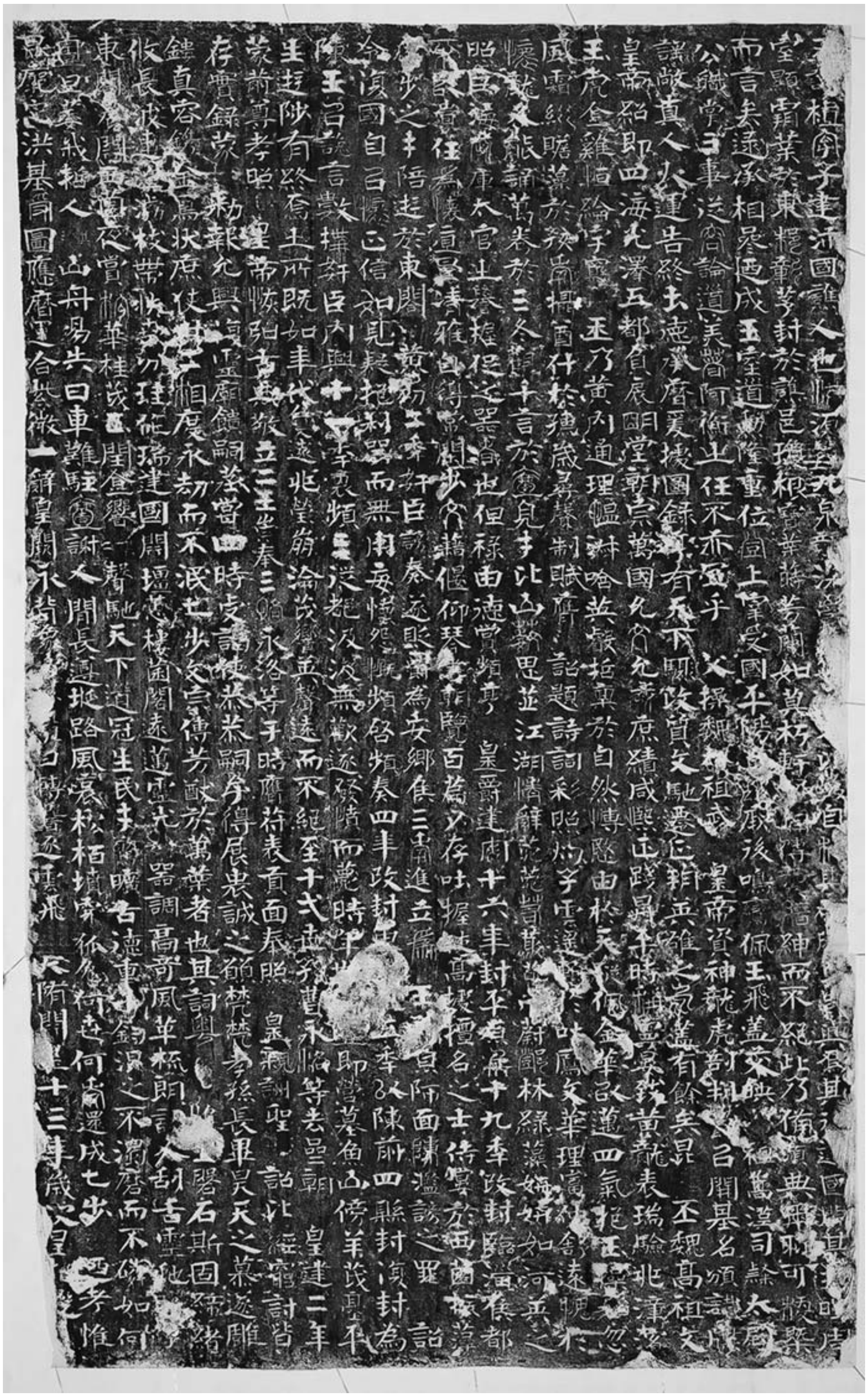
【參考文獻】

小川博章「曹植廟碑考」『書學文化』二、二〇〇〇年。

小川博章「續　曹植廟碑考——北朝刻經書法との關係について」『書學文化』四、二〇〇三年。

劉玉新「山東省東阿縣曹植墓的發掘」（『華夏考古』一九九九年第一期）

曹貞「《隋・曹植碑》釋評」（曲緒宏・董尙峰主編『東阿王曹植』）濟南：山東友誼出版社、二〇〇〇年。



曹子建碑

張弘・靳鶴亭「曹植墓碑的歷史變遷與價値」『濟南職業學院學報』二〇〇六年第一期
顧農「曹植研究二題」『天中學刊』第二七卷第一期、二〇一二年

王婆羅造像記（石刻拓本資料 ZUI0034X　隋銘題記）

擔當　佐野誠子

【立碑時期】開皇一七年（五九七）八月?（↓著錄『金石錄』）
【拓本尺寸】縱一二〇、幅九三糎
【字　　數】二〇行、滿行字數不明（存一五至二八字）
【原石所在地】南響堂山石窟第四窟と第五窟の間の外壁。

【原石寫眞】
響堂山石窟錄　圖版一八洞外開皇十三年碑、紅（kurenai）でダウンロード可能 http://hdl.handle.net/2433/151746

【拓影】
・人文研 ZUI0034X
・南北響堂山佛經摩崖刻石・ハーヴァード大本 0025
・傅斯年圖書館（略稱：傅圖）藏拓登錄號 11100-1・2; 11101-1・2; 03259; 01388
・南響堂山石窟第四洞・隋開皇年間銘記（常盤大定・關野貞著『支那文化史蹟（第五輯）』、法藏館、一九三九年、圖版第一二〇）※寫眞不鮮明。
・張林堂主編『響堂山石刻碑刻題記總錄』外文出版社、二〇〇七年、貳、六七・六八頁。

（釋文篇）

【釋文收錄書　略稱】
・集古：集古求眞續編卷二
・八瓊：八瓊室金石補正卷二六・九下
・魯　：魯迅輯校石刻手稿第二函第五册一一五九頁
・響錄：響堂山石窟錄（水野・長廣）一二九頁
・隋遺：『全隋文補遺』二〇〇四年、卷六　造像記　闕名　四二〇頁※『八瓊室金石補正』からの採錄かつ誤りを含むため、校勘に用いず。
・響總：『響堂山石窟碑刻題記總錄』（前述）貳、六七頁。
・邯鄲：任乃宏・張潤澤・王興（校釋）『邯鄲地區隋唐五代碑刻校釋』中國文史出版社、二〇一八年上三七頁。

【釋文】
01 夫[1]太素之始墳[2]書[3]湮滅既分既立、
02 茹毛[4]食血[5]性靈壹等未有彼是彼非此眞此僞[6]、
03 □[7]心於彼此故理契於不貳並息意於眞僞是、
04 □[8]岐爽[9]路似派[10]分流怡神攝養則稱黃老遺諸、
05 □[11]風屑白玉以成泥[12]變黃金而作水猶是輪廻窟、
06 □[13]無上大聖是号法王自覺覺人[14]知□[15]知物慈、
07 □[16]憑[17]之者終渡苦海此石[18]窟諸像所置之處[19]山、
08 □[20]□[21]眞容彫瑩卅[22]之相實炳靈質儼然八十之種好[23]、
09 □[24]時毀[25]大[26]覺從淪△大隋秉運大總區宇[27]三寶更、
10 平[28]河東桑[29]泉人也以開皇十三年七[30]月剖符此縣、
11 如蘭常[31]馥枝分派別皆稱甲科[32]所[33]在著姓盡居望首、
12 流非□[34]思至王稚之爲溫縣有[35]德未塹[36]史起[37]之臨鄴[38]、

13 誠目覩尊顔嘆未曾有內心起施[39]外[40]口[41]亦宣[42]□[43]捨[44]、
14 □□[45]四[46]虵[47]迭逼兩[48]天未遣五哀[49]乃[50]驗以開皇十七年[51]、
15 㓜[52]承庭[53]訓長習[54]家風悼基堂[55]之末[56]構念析[57]薪之須負[58]、
16 □沒[59]世恨[60]名不立[61]政善必傳功言宣顯縣平[62]正王婆羅[63]□、
17 以民□羊祜之有碑[64]追邵[65]奭[66]之留樹敢因此義用述德音遂命、
18 曰[67]△聖□[68]異端[69]□[70]□[71]干[72]伎[73]符[74]号長生藥稱[75]不死見海[76]成田拔山[77]□[78]、
19 十□□[79]是[80]方燼火災還淪劫水大覺眞智處尊無極[81]遠離[82]五蓋屏除[83]六賊[84]、
20 畏□光[85]十力君[86]實紹之惟[87]從[88]貽則當遊[89]淨土遷神樂國。

【校勘】

1 「天」諸本缺。文脈により補う。
2 「墳」下に石の缺損部を避けた空格あり。
3 「書」下に石の缺損部を避けた空格あり。
4 「茹毛」諸本缺。文脈により補う。
5 「血」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「四」響錄。
6 「僞」諸本缺。文脈により補う。
7 「□」文字の有無は不詳。
8 「□」文字の有無は不詳。／「如」魯。
9 「爽」集古・八瓊・魯・響錄／「夾」響總・邯鄲。
10 「派」集古・八瓊・響錄／「泳」魯／「脈」響總・邯鄲。
11 「□」文字の有無は不詳。
12 「泥」集古・八瓊・響錄／「涅」魯／「漏」響總・邯鄲。
13 「□」文字の有無は不詳。
14 「人」集古・八瓊・魯・響錄／「又」響總・邯鄲。
15 「□」集古・魯・響錄／「身（つくり部分）」八瓊／響總・邯鄲は空格無し。
16 「□」文字の有無は不詳。
17 「憑」集古・響總・邯鄲／八瓊・魯／「瀍」響錄。
18 「石」集古・八瓊・魯・響錄／「方」響總・邯鄲。
19 「處」集古・八瓊・魯・響錄／「靈」響總・邯鄲。
20 「□」文字の有無は不詳。
21 「□」集古・響錄／「如」魯・響總・邯鄲／「紹」八瓊。※拓本ではつくりの口のみ見える。
22 「卅」集古・八瓊・魯／「世」響錄・響總・邯鄲。
23 「種好」文脈により補う。
24 「□」文字の有無は不詳。
25 「毀」集古・八瓊・魯／「默」響錄・響總・邯鄲。
26 「□」集古・魯・響錄／「七」八瓊・響總・邯鄲。
27 「宇」集古・八瓊・魯・響錄・響總／「域」邯鄲。
28 「平」集古・八瓊・響錄・響總・邯鄲／「□」魯。
29 「桑」集古・八瓊・魯・響錄・邯鄲／「樂」響總。
30 「七」八瓊・魯・響總・邯鄲／「二」集古、響錄。
31 「常」八瓊・魯・響錄・響總・邯鄲／「之」集古。
32 「□」／「科」集古／「禾＋升」八瓊・魯・響錄／「樹」響總・邯鄲。※傅圖・Harvard 拓では「升（つくり部分）」が確認可。
33 「所」集古・八瓊・魯・響錄・邯鄲／「爾」響總。
34 「□」八瓊／「闕」集古・魯／「聞」響錄・響總・邯鄲。※拓本では門構えははっきりと判讀可。
35 「有」魯・響錄／「進?」集古／「唯」八瓊／「道」響總・邯鄲。
36 「慙」集古・八瓊・魯・響錄／「懸」響總／「範」邯鄲。
37 「起」集古・魯・響錄・響總・邯鄲／「辶」八瓊。

38 「鄴」八瓊／「业（左上）」魯。／「□」集古・響錄・響總・邯鄲。
※殘畫・文脈により「鄴」と推測。
39 「施」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「旋」響錄。
40 「外」／「外」響錄／「□」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲
41 「口」集古・八瓊・魯・響錄・邯鄲／「曰」響總。
42 「宣」八瓊・響錄・響總・邯鄲／「直」集古・魯。
43 「□」集古・響錄・邯鄲／「顛」八瓊・魯／「類」響總。※
Harvard拓では「頁（つくり部分）」判讀可。
44 「捨」八瓊・魯・邯鄲・集古・響錄／「於」響總。
45 「□」集古・八瓊・響錄／「侵」魯／「慢」響總・邯鄲。
46 「四」集古・八瓊・魯・響錄／「西」響總・邯鄲。
47 「虵」魯／「地」集古・八瓊／「池」響錄。
48 「兩」八瓊・魯／「而」集古、「雨」響錄・響總・邯鄲。
49 「五」集古・八瓊・魯・響錄／「益」響總・邯鄲。
50 「五衰」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「三乘」響錄。
51 「七年」傅圖拓で判讀可。
52 「幼」／「幼」魯／「□」集古・八瓊・響錄・響總・邯鄲。
53 「庭」／「庭」魯／「□」集古・八瓊・響錄・響總・邯鄲。
54 「習」八瓊・魯・響錄・響總・邯鄲／「賢」集古。
55 「堂」八瓊・魯・響錄・響總・邯鄲／「室」集古。
56 「未」集古・八瓊・魯・響錄・響總／「木」邯鄲。
57 「析」集古・魯／「拆」八瓊・響錄・響總・邯鄲。
58 「須」八瓊・魯。／「頌」集古・響錄・響總・邯鄲
59 「沒」集古・八瓊・響總・邯鄲／「後」魯／「沒?」響錄。
60 「世恨」傅圖拓で判讀可。
61 「立」／「□」集古・八瓊・魯・響錄／「無」響總・邯鄲。
62 「平」集古・八瓊・魯・響錄／「乎」響總・邯鄲。
63 「婆羅」集古・魯／「□」八瓊・響錄・響總・邯鄲。※傅圖拓で確認可。
64 「□」集古・魯・響錄／「碑」八瓊／「群」響總・邯鄲。
65 「卲」集古・八瓊・魯・響錄・邯鄲／「卻」響總。
66 「奭」八瓊・魯／「□」集古・響錄・響總・邯鄲。※傅圖拓で確認可。
67 「曰」集古・八瓊・魯／「日」響錄・響總・邯鄲。
68 「□」集古・八瓊・魯・響錄・響總／「乎」邯鄲。
69 「端」／「愧」響總・邯鄲／「□」集古・八瓊・魯・響錄。
70 「□」集古・魯・響總／「術」八瓊／「術?」響錄／「訴」邯鄲。
71 「□」集古・八瓊・魯・響錄／「訴」響總・邯鄲。
72 「干」／「幹」響總／「□」集古・八瓊・魯・響錄・邯鄲。※
Harvard拓で確認可。
73 「□」集古・八瓊・魯・響錄・響總／「枝」邯鄲。
74 「符」集古・八瓊・魯・響錄／「述」響總／「術」邯鄲。
75 「□」魯・響錄・邯鄲／「稱」集古・八瓊・響總。
76 空格あり。
77 「拔」集古・邯鄲／「扶」八瓊・魯・響錄／「褉」響總。
78 「□」集古・魯・響錄・響總・邯鄲／「能□」八瓊。
79 「□」集古・八瓊・響錄・響總・邯鄲／「豈」魯。
80 「是」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「迷」響錄。
81 「極」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「極?」響錄。
82 「離」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「維」響錄。
83 「徐」集古・響總・邯鄲／「除」八瓊・魯／「ネ（偏のみ）」響錄。
84 「六賊」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲／「大財」響錄。

85 「光」集古・八瓊・魯・響録・響總／「少」邯鄲。
86 「君」集古・八瓊・魯・響録・邯鄲／「群」響總。
87 「惟」集古・八瓊・邯鄲／「忻」魯・響録・響總。
88 「從」響録／「□」集古・八瓊・魯・響總・邯鄲。※傅圖拓で確認可。
89 空格あり。「靈」邯鄲。

（譯注篇）

【原文】

天太素之始[1]、墳書[2]湮滅[3]。既分既立。、╱茹毛[4]食血[5]、性靈[6]壹等[7]。未有彼是彼非、此眞此僞、╱□、心於彼此、故理契於不貳[8]、並息意[9]於眞僞。是、

□岐爽路、似派分流。怡神[10]攝養[11]、則稱黄老[12]。遺諸、╱□風。屑白玉[13]以成泥、變黄金而作水[14]。猶是輪廻[15]。窟、╱

無[16]上大聖[17]、是号法王[18]。自覺覺人[19]、知己知物、慈[21]□、╱□憑之者、終渡苦海[20]。此石窟諸像、所置之處、山、╱□□、眞容彫瑩[22]、卅之相[23]、實炳。靈質[24]儼然、八十之種好[25]、╱□時毀[26]、大[27]覺從淪。

△大隋秉運、大總區宇[28]、三寶[29]更、╱平、河東[30]桑泉[31]人也。以開皇十三年七月、剖符[32]此縣。、╱如蘭常馥[33]。枝分[34]派別[35]、皆稱甲科[36]。所在著姓[37]、盡居望首。、╱流非□思。至王稚[38]之爲溫縣[39]、有德未慙。史起[40]之臨鄴[41]、╱誠。目覩[42]尊顏[43]、嘆未曾有[44]。內心[45]起施、外口亦宣。□捨、╱□□。四虵[46]迭逼。兩天未遣、五衰[47]乃驗。以開皇十七年、╱幼承庭訓[48]、長習家風[49]。悼基堂之未構、念析薪[50]之須負、╱□沒世[51]、恨名不立。政善必傳、功言宜顯。縣平正[52]王婆羅□[53]、╱以民。□羊祜[54]之有碑、追邵奭[55]之留樹。敢因此義、用述德音[56]。遂命、╱曰、

△聖□異端[57]、□□干伎。符号長生[58]、藥稱不死。見海成田[59]、拔山[60]□、╱十□□是。方燼火災、還淪劫水[61]。大覺[62]眞智[63]、處尊無極[64]。遠離[65]五蓋[66]、屛徐[67]六賊[68]。、╱畏、□光十力[69]。君實紹之、惟從貽則[70]。當遊淨土[71]、遷神樂國[72]。

【語注】

（1）**太素**＝『列子』天瑞「太素者、質之始也」。［後漢］班固『白虎通』天地「始起先有太初、後有太始、形兆既成、名曰太素」。

（2）**墳書**＝三墳に同じく三皇に關する書を指すか。『春秋左氏傳』昭公十二年「是能讀三墳五典、八索九丘」。［東晉］宗炳「明佛論」（『弘明集』卷二）「夫三皇之書、謂之三墳、言大道也」（大正五二・一二上）。

（3）**湮滅**＝『史記』卷一二四　游俠列傳序「自秦以前、匹夫之俠、湮滅不見、余甚恨之」。『南史』卷七二　文學傳・顏協「其文集二十卷、遇火湮滅」。

（4）**茹毛**＝毛のついたままの生肉を食らう。『禮記』禮運「未有火化、食草木之實、鳥獸之肉、飲其血、茹其毛」。『白虎通』號「飢卽求食、飽卽棄餘、茹毛飲血而衣皮葦」。［南齊］謝鎭之「重書與顧道士」（『弘明集』卷六）「專愚則巢居穴處、飲血茹毛」（大正五二・四二中）。

（5）**食血**＝血を吸う。［前秦］曇摩難提譯『增壹阿含經』「是時尊者二十億耳。所經行處、脚壞血流、盈滿路側、猶如屠牛之處、烏鵲食血、然復不能於欲漏心得解脫」（大正二・六一二上）。『北史』卷七六　李景傳「又有神人長數丈見城下、跡長四尺五寸。景問巫者、巫者曰『此不祥之物、來食血耳』」。

(6) **性靈**＝『晉書』卷二二　樂志上「夫性靈之表、不知所以發於詠歌。感動之端、不知所以關於手足」。

(7) **壹等**＝一等。［東晉］王嘉『拾異記』晉時事「崇常擇美容姿相類者十人、裝飾衣服大小一等、使忽視不相分別、常侍於側」。

(8) **不貳**＝『管子』輕重乙「桓公曰『然則衡數不可調耶』。管子對曰『不可調。調則澄、澄則常、常則高下不貳、高下不貳則萬物不可得而使固』」。［後秦］僧肇『肇論』「答劉遺民書」「服像雖殊、妙期不二。江山雖緬、理契卽隣」（大正四五・一五五中）。

(9) **息意**＝『南齊書』卷二二　豫章王嶷傳「比心欲從俗、啓解今職、但厝辭爲鄙、或貽物誚、所以息意緘嘿、一委時運」。

(10) **怡神**＝［梁］何遜「七召」「今欲道足下以衞生之祕術、怡神之妙道、譬愈我於沈痾、若起尸於仙草、寧願聞乎」。

(11) **攝養**＝攝生。［南朝宋］劉義慶『世說新語』夙惠「陛下晝過冷、夜過熱、恐非攝養術」。

(12) **黃老**＝黃帝と老子。『史記』卷六三　老子韓非列傳「申子之學本於黃老而主刑名」。

(13) **屑白玉**＝［南朝宋］鮑照「白雲」詩「鍊金宿明館、屑玉止瑤淵」。［北魏］陽固「演賾賦」（『魏書』卷七二　陽固傳）「方吞霞而棄粒兮、亦屑玉而鍊丹」。

(14) **變黃金而作水**＝五行相生說では、金が水になる。『歷忌釋』（『藝文類聚』卷五）「立冬水代金、金生水」。

(15) **輪廻**＝［後秦］鳩摩羅什譯『妙法蓮華經』卷一　方便品「以諸欲因緣、墜墮三惡道、輪廻六趣中、備受諸苦毒」（大正九・八中）。

(16) **无上**＝『荀子』君子「尊無上矣」。［西晉］竺法護譯『普曜經』告車匿被馬品「無上大聖、以七覺意寶、訓化十方三界愚冥」（大正三・五〇九中）。

(17) **大聖**＝『荀子』哀公「孔子曰、人有五儀、有庸人、有士、有君子、有賢人、有大聖、……所謂大聖者、知通乎大道、應變而不窮、辨乎萬物之情性者也」。

(18) **法王**＝佛敎の釋迦牟尼に對する尊稱。［後秦］鳩摩羅什譯『妙法蓮華經』卷二　譬喩品「我爲法王、於法自在」（大正九・一五中）。［東晉］佛駄跋陀羅譯『大方廣佛華嚴經』如來名號品「諸佛子。次此東北方有四天下、名曰安寧。彼稱如來、或號法王。或號等起。或號寂靜。或號妙天。或號離欲。或號勝慧。或號等心。或號無壞。或號慧音。或號遠來。如是等稱佛名號其數一萬」（大正九・四一九中）。

(19) **自覺覺人**＝『增壹阿含經』勸請品「自覺覺人者、我無此辯說」（大正二・五九五中）。

(20) **苦海**＝［南朝宋］求那跋陀羅譯『雜阿含經』卷四「汝觀此牟尼、已渡苦海流」（大正二・二七下）。梁武帝「淨業賦」（『廣弘明集』卷二九）「輪廻火宅、沈溺苦海、長夜執固、終不能改」（大正五二・三三六下）。

(21) **眞容**＝［東魏］楊衒之『洛陽伽藍記』卷四　白馬寺「寺上經函、至今猶存、常燒香供養之。經函時放光明、燿於堂宇。是以道俗敬禮之、如仰眞容」（大正五一・一〇一四下）。

(22) **彫瑩**＝［東晉］法顯『高僧法顯傳』卷一「像立車中、二菩薩侍、作諸天侍從、皆以金銀彫瑩、懸於虛空」（大正五一・八五七中）。

(23) **卅之相**＝三十二相。ブッダのもつ三十二種類の凡俗とは違う

顯著な特徴。龍樹造、［後秦］鳩摩羅什譯『大智度論』卷四「王言、『何等三十二相』。相師答言、『一者、足下安平立相。足下一切著地、間無所受、不容一針。二者、足下二輪相。千輻輞轂、三事具足。自然成就、不待人工。諸天工師毘首羯磨、不能化作如是妙相」（大正二五・九〇上中）。

(24) **靈質**＝［南齊〜梁］蕭琛「難神滅論序」（『弘明集』卷九）「如靈質分途、興毀區別、則豫剋敵得俊、能事畢矣」（大正五二・五五上）。

(25) **八十之種好**＝ブッダの持つ八十の細かな特徴。［後秦］佛陀耶舍・竺佛念譯『長阿含經』卷一「三十二相・八十種好莊嚴其身」（大正一・一一中）。

(26) **時毀**＝北周の廢佛を指す。

(27) **大覺**＝佛を指す。［南朝宋］謝靈運「佛贊」（『廣弘明集』卷一五）「惟此大覺、因心則靈」（大正五二・二〇〇上）。［北齊］顏之推『顏氏家訓』歸心「遂使非法之寺、妨民稼穡、無業之僧、空國賦算、非大覺之本旨也」。

(28) **區宇**＝『後漢書』列傳五〇上　馬融傳「廣成頌」「徒觀其坰場區宇、恢胎曠蕩、藐敻勿罔、寥豁鬱泱、騁望千里、天與地莽」。

(29) **三寶**＝「三寶」は佛・法・僧。歸依すべき三つの寶。［三國吳］康僧會「『安般守意經』序」「信佛三寶、衆冥皆明」（大正一五・一六三中）。

(30) **河東**＝郡名。『隋書』卷三〇　地理志中「河東郡」

(31) **桑泉**＝縣名。『隋書』卷三〇　地理志中「河東……桑泉開皇十六年置。有三疑山。／猗氏西魏改曰桑泉、後周復焉」。『舊唐書』卷三九　地理志二「河中府……臨晉　隋分猗氏置桑泉縣」。

(32) **剖符**＝割り符を二つにさいて諸侯・官を任命する。『史記』卷八　高祖本紀「乃論功、與諸列侯剖符行封。徙韓王信太原」。

(33) **如蘭常馥**＝［南齊］王寂「第五兄揖到太傅竟陵王屬奉」詩（『文館詞林』卷一五二）「蘭馥春林、松貞秋阪」。

(34) **枝分**＝［北魏］酈道元『水經注』卷三〇　淮水「淮水於縣枝分、北爲游水」。『南史』卷七六　馬樞傳「於是數家學者、各起問端。樞乃依次剖判、開其宗旨、然後枝分派別、轉變無窮、論者拱默聽受而已、綸甚嘉之」。

(35) **派別**＝［西晉］左思「吳都賦」（『文選』卷二）「百川派別、歸海而會」。［北魏］酈道元『水經注』卷二〇　漾水「雖津流派別、枝渠勢縣、原始要終、潛流或一」。

(36) **甲科**＝『漢書』卷八八　儒林傳序「平帝時王莽秉政……歲課甲科四十人爲郎中、乙科二十人爲太子舍人、丙科四十人補文學掌故云」。

(37) **著姓**＝『後漢書』列傳四九　張衡傳「張衡字平子、南陽西鄂人矣。世爲著姓」。

(38) **王稚之**＝『後漢書』列傳六六　循吏列傳　王渙傳「王渙字稚子、廣漢郪人也。……州舉茂才、除溫令。縣多姦猾、積爲人患。渙以方略討擊、悉誅之。境內清夷、商人露宿於道。其有放牛者、輒云以屬稚子、終無侵犯。……元興元年、病卒。百姓市道莫不咨嗟。男女老壯皆相與賦斂、致奠醊以千數。渙喪西歸、道經弘農、民庶皆設槃桉於路。吏問其故、咸言平常持米到洛、爲卒司所鈔、恆亡其半。

自王君在事、不見侵枉、故來報恩。其政化懷物如此。民思其德、爲立祠安陽亭西、毎食輒弦歌而薦之」。

(39) **溫縣**=『隋書』卷三〇　地理志中「河內郡……**溫**舊廢、開皇十六年置。古溫城」。

(40) **史起**=戰國時代魏の國の人。鄴を治めた。『呂氏春秋』樂成「魏襄王與群臣飮、酒酣、王爲群臣祝、令群臣皆得志。**史起**興而對曰「群臣或賢或不肖、賢者得志則可、不肖者得志則不可」。王曰「皆如西門豹之爲人臣也」。**史起**對曰「魏氏之行田也以百畝、鄴獨二百畝、是田惡也。漳水在其旁而西門豹弗知用、是其愚也。知而弗言、是不忠也。愚與不忠、不可效也」。魏王無以應之。明日、召史起而問焉、曰「漳水猶可以灌鄴田乎」。**史起**對曰「可」。王曰「子何不爲寡人爲之」。史起曰「臣恐王之不能爲也」。王曰「子誠能爲寡人爲之、寡人盡聽子矣」。史起敬諾、言之於王曰「臣爲之、民必大怨臣。大者死、其次乃藉臣。臣雖死藉、願王之使他人遂之也」。王曰「諾」。使之爲鄴令。史起因往爲之。鄴民大怨、欲藉史起。史起不敢出而避之。王乃使他人遂爲之。水已行、民大得其利、相與歌之曰「鄴有聖令、時爲史公、決漳水、灌鄴旁、終古斥鹵、生之稻粱」」。

(41) **鄴**=『隋書』卷三〇　地理志中「魏郡……安陽周大象初、置相州及魏郡、因改名**鄴**。開皇初郡廢、十年復、名安陽、分置相縣、**鄴**還復舊。大業初廢相入焉、置魏郡。有韓陵山」。

(42) **目覩**=『後漢書』列傳七二下　方術　劉根傳「促召之、使太守**目覩**、爾乃爲明」。

(43) **尊顏**=世尊の顏。[後秦] 佛陀耶舍・竺佛念譯『長阿含經』卷二　遊行經「爾時、世尊於靜室出、坐清涼處。阿難見已、速疾往詣、而白佛言、『今觀**尊顏**、疾如有損』」(大正一・一五上)。

(44) **嘆未曾有**=かつてないものだと感心すること。[東晉] 瞿曇僧伽提婆譯『增壹阿含經』卷三六「是時三千大千刹土六變震動。虛空之中、神妙之天、散種種憂鉢蓮華。是時五百童子皆**嘆未曾有**、『甚奇、甚特、如來威神實不可及』」(大正二・七四九中)。[唐] 吉藏『維摩經義疏』「爾時一切大衆、覩佛神力、**嘆未曾有**、合掌禮佛、瞻仰**尊顏**、目不暫捨」(大正三八・九二四下)。

(45) **內心**=[前漢] 劉向『說苑』脩文「是故服不成象、而**內心**不變」。

(46) **四虵**=[北涼] 曇無讖譯『金光明經』卷一　空品「猶如**四蛇**、同處一篋、四大蚖蛇、其性各異　二上二下、諸方亦二、如是蛇大、悉滅無餘、地水二蛇、其性沈下、風火二蛇、性輕上升、　心識二性、躁動不停、隨業受報、人天諸趣、隨所作業、而墮諸有、水火風種、散滅壞時、大小不淨、盈流於外、體生諸蟲、無可愛樂、捐棄塚間、如朽敗木」(大正一六・三四〇中)。北齊武平元年(五七〇)「楊暎香等八十人造像記」(『北朝佛敎石刻拓片百品』№九一)「**四蛇**吐毒、二鼠侵株」。[北齊] 武平年閒「標異鄉義慈惠石柱頌」(『北朝佛敎石刻拓片百品』№七三)「乃厭此躅塵、仍懷至業。伏六賊於心中、拔**四虵**於胷內。吐納淸虛、優遊正道」。

(47) **五衰**=天人が死ぬ前に現れるという五種の衰弱の樣相。[北涼] 曇無讖譯『大般涅槃經』「釋提桓因命將欲終。有五

相現。一者、衣裳垢膩。二者、頭上花萎。三者、身體臭穢。四者、腋下汗出。五者、不樂本座」（大正一二・四七八上）。［隋］闍那崛多譯『佛本行集經』「天壽滿已。自然而有**五衰**相現。何等爲五。一者頭上花萎。二者腋下汗出。三者衣裳垢膩。四者身失威光。五者不樂本座」（大正三・六七六下）。

(48) **庭訓**＝『論語』季氏「陳亢問於伯魚曰。子亦有異聞乎。對曰、未也。嘗獨立。鯉趨而過**庭**。曰、學詩乎。對曰、未也。不學詩。無以言。鯉退而學詩。他日。又獨立。鯉趨而過**庭**。曰、學禮乎。對曰、未也。不學禮。無以立。鯉退而學禮。聞斯二者。陳亢退而喜曰、問一得三。聞詩。聞禮。又聞君子之遠其子也」。［晉］葛洪『抱朴子』外篇序「年十有三、而慈父見背、夙失**庭訓**」。［北宋］贊寧『宋高僧傳』卷一二　唐衡山昂頭峯日照傳「釋日照、姓劉氏、岐下人也。家世豪盛、**幼承庭訓**、博覽經籍」（大正五〇・七七八中）。

(49) **家風**＝［北周］庾信「哀江南賦」序「潘岳之文采、始述**家風**、陸機之辭賦、先陳世德」。

(50) **析薪**＝『春秋左氏傳』昭公七年「子產曰。古人有言曰。其父**析薪**、其子弗克**負**荷」。

(51) **沒世**＝『論語』衛靈公「君子疾**沒世**而**名**不稱焉」。

(52) **平正**＝中正。楊堅の父、楊忠の避諱で平正に作る。『八瓊室金石補正』題跋參照。人材登用の官。

(53) **婆羅□**＝人名。あるいは王婆羅門か。

(54) **羊祜**＝晉の政治家・軍人。『晉書』卷三四　羊祜傳「**羊祜**字叔子、泰山南城人也。世吏二千石、至祜九世、竝以清德聞。……襄陽百姓於峴山祜平生游憩之所建碑立廟、歲時饗祭焉。望其碑者莫不流涕、杜預因名爲墮淚碑」。

(55) **邵奭**＝召公奭。西周の政治家。『史記』卷三四　燕召公世家「**召公奭**與周同姓、姓姬氏。周武王之滅紂、封召公於北燕。……召公之治西方、甚得兆民和。召公巡行鄉邑、有棠樹、決獄政事其下、自侯伯至庶人各得其所、無失職者。召公卒、而民人思召公之政、懷棠樹不敢伐、哥詠之、作甘棠之詩」。

(56) **德音**＝『毛詩』邶風「谷風」「習習谷風。以陰以雨。黽勉同心。不宜有怒。采葑采菲。無以下體。**德音**莫違。及爾同死」。『國語』楚語上「忠信以發之、**德音**以揚之」。

(57) **異端**＝各種の說法、異なる見解。『後漢書』列傳五四　延篤傳「觀夫仁孝之辯、紛然**異端**、互引典文、代取事據、可謂篤論矣」。［三國魏］嵆康「答釋難宅無吉凶攝生論」「廣求**異端**、以明事理」。

(58) **長生**＝『老子』第七章「天地所以能長且久者、以其不自生、故能**長生**」。

(59) **見海成田**＝蒼海桑田に同じか。［晉］葛洪『神仙傳』卷三　王遠傳「麻姑自說『接待以來、已**見東海三爲桑田**、向到蓬萊、水又淺於往昔、會時略半也、豈將復還爲陵陸乎』」。

(60) **拔山**＝『太上三洞神呪』卷四　金眞空洞咒「威兵巨萬、受符**拔山**」。

(61) **方燼火災、還淪劫水**＝終末に起きる火災と水害。［梁］寶唱『經律異相』卷一「天地始終、謂之一劫。劫盡壞時、**火災**將起。一切民人皆背正向邪、競行十惡。天久不雨、所種不生。諸水泉源、乃至四大駛河、皆悉枯竭。久久之後、

風入海底。取日上大城郭、於須彌山邊置本道中。一日出時、百草樹木一時彫落。二日出時、四大海水從百由旬、乃至七百由旬內。水自然枯涸。三日出時、四大海水千由旬、乃至七千由旬內、水展轉消竭。四日出時、四大海水深千由旬。五日出時、四大海水縱餘七百由旬、乃至竭盡。六日出時、此地厚六萬八千由旬、皆悉煙出。從須彌山、乃至三千大千刹土、及八地獄、靡不燒滅、煙燼無餘。人民命終、皆依須彌山。五種諸天・三十三天・炎天乃至他化自在天、皆悉命終。宮殿皆空、一切無常、不得久住。七日出時、大地・須彌山漸漸崩壞、百由旬永無遺餘。金銀銅鐵之類皆悉流鑠、稍就枯竭、山皆洞然。諸寶爆裂、崩阤砰礚、煙炎振動、至于梵天。一切惡道及阿修倫皆悉蕩盡、罪終福至、皆集第十五天上。十四以下盡成炎墨。新生天子未曾見此、普懷恐懼。舊生天子各來慰勞、『勿生恐怖、終不至此』。人民命終、生光音天、以念爲食、光明自照、神足飛行。或生他土。若生地獄。地獄罪畢、亦生天上。若罪未畢、亦生天上。若罪未畢、復移他方。無日月星宿、亦無晝夜。唯有大冥、謂之**火劫火災**。因緣果報致此壞敗。劫欲成時、火乃自滅、更起大雲、漸降大雨、渧如車軸。是時此三千大千刹土、水遍其中、乃至梵天、謂爲**水劫水災**」(大正五三・四下～五上)。

・**劫水**＝大水。(傳)〔三國魏〕康僧鎧譯『無量壽經』卷下「譬如**劫水**彌滿世界、其中萬物沈沒不現、滉瀁浩汗唯見大水」(大正一二・二七八上)。

(62) **大覺**＝(27)に既出。

(63) **眞智**＝〔北魏〕曇鸞『無量壽經優婆提舍願生偈注』卷下「眞實智慧者、實相智慧也。實相無相、故**眞智**無知也」(大正四〇・八四一中)。

(64) **無極**＝『春秋左氏傳』僖公二十四年「女德**無極**、女怨無終」。〔前漢〕枚乘「七發」(『文選』卷三四)「太子方富于年、意者久耽安樂、日夜**無極**」。

(65) **遠離**＝〔三國蜀〕諸葛亮「前出師表」(『三國志』卷三五 諸葛亮傳)「臣不勝受恩感激、今當**遠離**、臨表涕泣、不知所云」。

(66) **五蓋**＝五種の煩惱。〔後秦〕佛陀耶舍・竺佛念譯『長阿含經』卷八 衆集經「復有五法、謂**五蓋**。貪欲蓋、瞋恚蓋、睡眠蓋、掉戲蓋、疑蓋」(大正一・五一中)。〔後秦〕鳩摩羅什譯『大智度論』卷一七「棄是**五蓋**、譬如負債得脫、重病得差」(大正二五・一八五上)。

(67) **屛徐**＝屛除に同じで、排除するの意味か。〔北齊〕顏之推『顏氏家訓』歸心「縣令以牛繫刹柱、**屛除**形象、鋪設牀坐、於堂上接賓」。

(68) **六賊**＝六根に同じ。眼、耳、鼻、舌、身、意の六つの感覺器官。〔北涼〕曇無讖譯『大般涅槃經』卷二三「譬如有人多諸種族宗黨、熾盛則不爲彼**六賊**所劫」(大正一二・五〇一中)。

(69) **十力**＝佛のみが持つ十種の超人的な能力。〔後漢〕安世高譯『長阿含十報法經』「**佛十力**。何謂爲十力。一者、佛爲處處如有知當爾不爾處不處如有知從慧行得自知。是爲一力。二者、佛爲過去未來現在行罪處本種殃如有知。是爲二力。……」(大正一・二四一中)。〔南齊〕謝鎮之「與顧道士書」(『弘明集』卷六)「運**十力**以摧魔、弘四等以濟俗」(大正五二・四二中)。

(70) **貽則**＝後世に残すきまり。『尚書』五子之歌「有典有則、貽厥子孫」。［後漢］班固「幽通賦」（『文選』巻一四）「終保己而**貽則**兮、里上仁之所廬」。李善注「言考能自保己、亦遺我法則也」。

(71) **淨土**＝（傳）康僧鎧譯『無量壽經』巻上「唯願世尊廣爲敷演諸佛如來**淨土**之行」（大正一二・二六七中）。［南朝宋］謝靈運「**淨土**詠」「**淨土**一何妙、來者皆菁英」。

(72) **樂國**＝（傳）康僧鎧譯『無量壽經』巻下「曼佛在世當勤精進、其有至願生**安樂國**者、可得智慧明達、功德殊勝」（大正一二・二七五中）。

【訓讀】

夫れ太素の始め、墳書湮滅す。既に分かれ既に立つ。……／毛を茹らい血を食らうは、性靈壹等たり。未だ彼の是にして彼の非、此れ眞にして此れ僞なるもの有らず。……／□、彼此に心〔せず〕、故に理は不貳に契い、並びに意は眞僞を息む。是れ……／□岐　路を爽うは、派の流れを分かつが似し。神を怡ばしめ養を攝れば、則ち黄老を稱す。遺諸……／□風。白玉を屑きて以て泥と成し、黄金を變じて而して水と作すは、猶お是れ輪廻のごとし。窟……／

無上大聖は、是れ法王と號す。自ら覺り人を覺し、己を知り物を知り、慈□……／□之に憑る者は、終に苦海を渡る。此れ石窟の諸像、置く所の處、山……／□□、眞容の彫瑩は、卅の相、實に炳かなり。靈質の儼然たるは、八十の種好……／□時に毀たれ、大覺從いて淪む。

△大隋　運を乘り、大いに區宇を總べ、三寶更めて……／平、河東桑泉の人なり。開皇十三年七月を以て、符を此の縣に剖く。……／蘭の常に馥たるが如し。枝分かれて派別するも、皆　甲科を稱す。在る所の著姓、盡く望首に居る。……／流非□思。王稚之の溫縣と爲るに至りて、有德未だ慙じず。史起の鄴に臨むに……／誠。尊顏を目覩し、未だ曾て有らずと嘆ず。內心　施を起こし、外口亦た宣ぶ。□捨……／□□。四虵　迭いに逼る。兩天未だ遣わさず、五衰乃ち驗あり。開皇十七年を以て……／幼きより庭訓を承け、長じては家風に習う。基堂の未だ構えざるを悼み、析薪の須く負うべきを念ず。……／□世に沒し、名の立たざるを恨む。政善　必ず傳わり、功言　宜しく顯らかにすべし。縣の平正王婆羅□……／民を以てす。羊祜の碑有るを□し、邵奭の樹に留まるを追う。敢て此の義に因り、用て德音を述べ、遂に命じて……／曰く、

△聖□端を異にし、□□伎を干す。符は長生を號し、藥は不死を稱す。海の田と成るを見、山を拔きて……／十□□是。方に火災に燼かれ、還た劫水に淪めらる。大覺は眞智にして、處尊　極まり無し。五蓋を遠離し、六賊を屛除す。……／畏、□光は十力なり。君實に之を紹ぎ、惟れ貽則に從う。當に淨土に遊び、神を樂國に遷すべし。

【現代語譯】

そもそもすべてのはじまりでは、三皇のことをしるした三墳の書は消え去ってしまっている。分裂し、また成立する。……／毛がついたままの生肉を食らい血を吸うような太古の時代の人々は、精神は一様であった。いまだにあちらを正しいとか間違いとかしたり、こちらを眞實としたりあるいは僞りとするようなことはなかった。……／□。心においてかれがどうとかこれがどうとかとすること〔をやめるので〕、それゆえみな不二の理にかない、眞としたり僞としたりする意識がみな停止するのである。これは……／〔各宗教

の?」えだみちが道を違えているのは、各思想流派の流れを分かちているかのようである。精神を怡ばせて養生を攝取すれば、黄老の道を稱する。遺諸……／□風。白い玉を碎いて泥を作成して、黄金を變化させて水を制作するのは、いまだなお輪廻〔する迷いの世界〕にある。窟……／□

無上大聖とは、法王と號するものである。自ら覺り人を覺らせ、自分自身を知り、衆生を知り、慈……／□これにたよる者は、最後には苦しみの海原を渡って救われるのだ。これらの石窟のもろもろの像が、安置されている處は、山の……／□□、眞のお姿をかたどった彫像は、三十〔二〕の特徴があり、本當に光り輝いている。靈妙なる性質が威嚴を持っているのは、八十の細かな特徵であり、……／□時に破壞されて、佛教はそれにともなって沒落したのだった。

大いなる隋が國家の命運を手にし、大いに天下を統一し、佛法僧の三寶は更めて……した。／平は、河東郡桑泉縣の人である。開皇十三年七月に、この縣の割り符を拜領した（縣令に就任した）。……／蘭の花が常に馥郁たる香りを放っているようであった。枝が分岐し派が別れたが、そのどれも〔家柄が〕一番だと稱えられている。それぞれの地において聲望のある一族であり、みな望族の頂點にあった。……／流非□思。王稚之が溫縣〔の知事〕になって、德行は、歷史に恥じるものではなかった。史起が鄴縣〔の知事〕になって……／誠。〔佛像の〕尊いお顏を拜見し、これまでにないすばらしさであると感嘆した。心の内では布施の心を起こし、口の外ではそのことを發言した。□捨……／□□。四匹の蛇が殺生しあう。二つの天はいまだにやってこないのに、五つの衰亡の豫兆はもう驗があらわれた。そうして開皇十七年に〔亡くなった〕……／〔その息子は〕幼きより父の教えを承け、成長しては家の風習に倣った。礎となる堂がまだできていないことを殘念に思い、たきぎを割ってそれを子が背負うべきであったことを念じる。……／□死んでしまって、名聲があがらないことを恨みに思う。政治がよいことは必ず傳わり、立派な言葉は明らかにする必要がある。縣の平正である王婆羅□は……／民を使う。羊祜に碑があるのに□し、邵公奭が樹に名前を留めるのを眞似する。あえてこの意味によって、德のあることばを述べ、そして命じて……／曰く、

聖なる□は見解を異にし、□□は技を行う。わりふは長生をとなえ、藥は不死を稱える。海が變化して畑となるのを見、山を拔いて……とする。／十□□是。ちょうど火災で燒かれ、また大水にしずめられるのである。佛は眞實の智慧であり、尊くして窮まりがない。五つの煩惱を遠ざけ、六つの惡しき器官を制御する。／畏、□光は十種の力である。君は本當にこれを受け繼いでいて、これは殘された規則にしたがう。きっと淨土に遊び、精神を樂國にうつすに違いない。

【主要著錄跋文】

・趙明誠（一〇八一〜一一二九）『金石錄』卷三
第五百三。隋王明府造像碑。開皇十七年八月。

・『集古求眞續編』卷一　題跋
以上就可見之字釋之。不可見者不計。此本爲恭蔚徒君物。初視之語、淨佛老。似造像記或塔銘。詳讀文句、乃知爲縣令德政碑。其人爲桑泉縣人、而不見其姓名。文雖駁雜、乃六朝遺習。而書法精銳遒健。在褚河南之右。隋人書法、上受三魏、而化除其擴悍、下啓三唐而導

引方嚴。如此碑者、眞妙品也。

・『八瓊室金石補正』卷二六　題跋

右殘碑石泐處空格不書。是摩崖之刻、分行錄之、斷闕不完。據文繹之、石窟舊有佛像。周季被毀。開皇十三年、縣令發願鐫脩。至其後、人踵成之、乃立碑、以紀功德銘辭。故云、「君實紹之、惟位貽則」也。縣令何人、但見其籍、「河東桒泉」、莫攷姓氏、亦不知爲何縣之令。攷『金石錄』目有「隋王明府造象碑以開皇十七年八月立」。此碑疑卽是也。顧無確證。碑有縣平正王婆羅名。仍據所見標題之。「平正」、卽「中正」。隋代避「中」、改「平」耳。漢王稚子闕、舊釋「緄」爲「縣」。「武授堂」獨云緄卽「縕」字。「縕」與「溫」通。此碑云、「王稚之爲溫縣」、與『後漢書』合。又得一金石左證矣。「瘞」、卽「湮」之異文。今字書所無。「泥」作「渥」、「望」作「朢」。

王婆羅造像記（倉本尚德撮影）

王婆羅造像記拓影